別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾒｲｼﾞｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　名城大学	
フリガナ 大学の名称	ﾒｲｼﾞｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 名城大学　(Meijo University)	
大学本部の位置	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	
大学の目的	本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、学術の中心として、深く専門の教育研究を行い、合わせて広汎な教養を培い、創造的な知性と豊かな人間性を備えた有能な人材を養成するとともに学術・文化の進展に寄与することを目的とする。	
新設学部等の目的	情報工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する情報工学の専門知識とその応用力を持ち、情報技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的とする。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
情報工学部 (Faculty of Information Engineering) 情報工学科 (Department of Information Engineering)	4	180	－	720	学士（工学） (Bachelor of Engineering)	令和4年4月 第1年次	愛知県名古屋市 天白区塩釜口 一丁目501番地
計		180	－	720			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）

理工学部	情報工学科（廃止）	〔定員減〕	（△150）	
令和4年4月学生募集停止				
都市情報学部	都市情報学科	〔定員増〕	（　15）	（令和4年4月） （令和3年3月認可申請）
法学研究科	法律学専攻（M）	〔定員減〕	（△9）	（令和4年4月）
	法律学専攻（D）	〔定員減〕	（△6）	（令和4年4月）
経営学研究科	経営学専攻（M）	〔定員減〕	（△10）	（令和4年4月）
経済学研究科	経済学専攻（M）	〔定員減〕	（△7）	（令和4年4月）
	経済学専攻（D）	〔定員減〕	（△1）	（令和4年4月）
農学研究科	農学専攻（D）	〔定員減〕	（△2）	（令和4年4月）
都市情報学研究科	都市情報学専攻（M）	〔定員減〕	（△2）	（令和4年4月）
	都市情報学専攻（D）	〔定員減〕	（△1）	（令和4年4月）
人間学研究科	人間学専攻（M）	〔定員減〕	（△3）	（令和4年4月）

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
情報工学部　情報工学科	102科目	27科目	15科目	144科目	124単位

教員組織の概要

	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
新設分	情報工学部	情報工学科	9 人 (9)	8 人 (8)	0 人 (0)	2 人 (2)	19 人 (19)	0 人 (0)	118 人 (118)
新設分	計		9 (9)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	－ (－)
既設分	法学部	法学科	18 (18)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	32 (32)	0 (0)	110 (110)
既設分	経営学部	経営学科	11 (11)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	103 (103)
既設分		国際経営学科	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	93 (93)
既設分	経済学部	経済学科	8 (9)	6 (6)	0 (0)	2 (2)	16 (17)	0 (0)	97 (97)
既設分		産業社会学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	97 (97)

「既設分」の「計」、及び「合計」には法学部応用実務法学科（平成29年度より学生募集停止）に所属し、授業科目を担当する専任教員を含む。

教員組織の概要	既設分	理工学部	数学科	8 (8)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	18 (18)	0 (0)	66 (66)	
			電気電子工学科	12 (12)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	75 (75)	
			材料機能工学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	76 (76)	
			応用化学科	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	72 (72)	
			機械工学科	9 (9)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	83 (83)	
			交通機械工学科	6 (6)	6 (6)	1 (1)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	68 (68)	
			メカトロニクス工学科	5 (5)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	76 (76)	
			社会基盤デザイン工学科	8 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (13)	0 (0)	80 (80)	
			環境創造工学科	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	83 (83)	
			建築学科	9 (10)	6 (6)	0 (0)	2 (2)	17 (18)	0 (0)	83 (83)	
			教養教育	11 (11)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	
		農学部	生物資源学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	67 (67)	
			応用生物化学科	7 (7)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	66 (66)	
			生物環境科学科	6 (6)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	69 (69)	
			教養教育	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
			附属農場	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		薬学部	薬学科	31 (31)	20 (20)	0 (0)	16 (16)	67 (67)	0 (0)	108 (108)	
			教養教育	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
			分析センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	
		都市情報学部	都市情報学科	23 (23)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	28 (28)	0 (0)	29 (29)	
		人間学部	人間学科	16 (16)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	70 (70)	
		外国語学部	国際英語学科	11 (11)	7 (7)	7 (8)	2 (2)	27 (28)	0 (0)	48 (48)	
		名城大学		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		教職センター		4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	48 (48)	
		国際化推進センター		0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	
		計		260 (263)	146 (146)	11 (13)	45 (45)	462 (467)	1 (1)	ー (ー)	
	合計			269 (272)	154 (154)	11 (13)	47 (47)	481 (486)	1 (1)	ー (ー)	

	職種	専任	兼任	計
教員以外の職員の概要	事務職員	233人 (235人)	142人 (140人)	375人 (375人)
	技術職員	8人 (8人)	2人 (2人)	10人 (10人)
	図書館専門職員	5人 (5人)	4人 (4人)	9人 (9人)
	その他の職員	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)
	計	246人 (248人)	148人 (146人)	394人 (394人)

	区　　分	専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	
校地等	校舎敷地	186,687㎡	0㎡	0㎡	186,687㎡	
	運動場用地	167,348㎡	0㎡	0㎡	167,348㎡	
	小　　計	354,035㎡	0㎡	0㎡	354,035㎡	
	そ の 他	129,184㎡	0㎡	0㎡	129,184㎡	
	合　　計	483,219㎡	0㎡	0㎡	483,219㎡	

校舎	専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	
	242,002㎡ (249,188 ㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	242,002㎡ (249,188 ㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	151室	152室	430室	24室 （補助職員13人）	5室 （補助職員4人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室　　数	
	情報工学部　情報工学科	19　　室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	情報工学部　情報工学科	103,501〔29,543〕 (101,148〔29,183〕)	8,923〔8,826〕 (8,923〔8,826〕)	8,761〔8,755〕 (8,761〔8,755〕)	29,057 (29,057)	311 (278)	1 (1)	視聴覚資料は学部単位での特定不能なため、大学全体の数。 大学全体での共用分 機械・器具 [735]
	計	103,501〔29,543〕 (101,148〔29,183〕)	8,923〔8,826〕 (8,923〔8,826〕)	8,761〔8,755〕 (8,761〔8,755〕)	29,057 (29,057)	311 (278)	1 (1)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	15,504.27㎡	1,712	1,575,305	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	8,345.18㎡	プール	テニスコート

経費の見積り及び維持方法の概要	区　分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
経費の見積り	教員１人当り研究費等		477千円	477千円	477千円	477千円	－ 千円	－ 千円
	共同研究費等		3,990千円	3,990千円	3,990千円	3,780千円	－ 千円	－ 千円
	図書購入費	4,960千円	4,960千円	4,960千円	4,960千円	4,960千円	－ 千円	－ 千円
	設備購入費	47,460千円	47,460千円	47,460千円	47,460千円	47,460千円	－ 千円	－ 千円

学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	1,445千円	1,245千円	1,245千円	1,245千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	補助金収入、手数料収入、資産運用収入、雑収入

既設大学等の状況	大学の名称	名城大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	法学部						1.02		愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	
	法学科	4	400	－	1,600	学士（法学）	1.02	平成11年度		
	応用実務法学科	4	－	－	－	学士（法学）	－	平成11年度		※平成28年度より学生募集停止
	経営学部						1.02			
	経営学科	4	215	－	860	学士（経営学）	1.01	平成12年度		
	国際経営学科	4	95	－	380	学士（経営学）	1.06	平成12年度		
	経済学部						1.03			
	経済学科	4	210	－	840	学士（経済学）	1.00	平成12年度		
	産業社会学科	4	100	－	400	学士（経済学）	1.10	平成12年度		

既設大学等の状況	理工学部						0.99		愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	
	数学科	4	90	－	360	学士（理学）	0.98	平成12年度		
	情報工学科	4	150	－	600	学士（工学）	0.98	平成16年度		※令和4年度より学生募集停止
	電気電子工学科	4	150	－	600	学士（工学）	1.01	平成12年度		
	材料機能工学科	4	80	－	320	学士（工学）	0.96	平成12年度		
	応用化学科	4	70	－	280	学士（工学）	0.96	平成25年度		
	機械工学科	4	125	－	500	学士（工学）	0.95	平成12年度		
	交通機械工学科	4	125	－	500	学士（工学）	1.01	平成12年度		
	メカトロニクス工学科	4	80	－	320	学士（工学）	1.06	平成25年度		
	社会基盤デザイン工学科	4	90	－	360	学士（工学）	0.96	平成12年度		
	環境創造学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成12年度		※令和2年度より学生募集停止
	環境創造工学科	4	80	－	160	学士（工学）	0.99	令和2年度		
	建築学科	4	145	－	580	学士（工学）	1.02	平成12年度		
	農学部						0.99			
	生物資源学科	4	110	－	440	学士（農学）	1.01	平成11年度		
	応用生物化学科	4	110	－	440	学士（農学）	0.98	平成11年度		
	生物環境科学科	4	110	－	440	学士（農学）	0.99	平成17年度		
	薬学部						1.04		愛知県名古屋市天白区八事山150番地	
	薬学科（6年制）	6	265	－	1,575	学士（薬学）	1.04	平成18年度		
	都市情報学部						1.01		愛知県名古屋市東区矢田南四丁目102番9	
	都市情報学科	4	220	－	880	学士（都市情報学）	1.01	平成7年度		※令和4年度入学定員増（15人）
	人間学部						1.04			
	人間学科	4	220	－	880	学士（人間学）	1.04	平成15年度		
	外国語学部						1.01			
	国際英語学科	4	130	－	520	学士（外国語学）	1.01	平成28年度		
	大学の名称	名城大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	法学研究科									
	法律学専攻									
	修士課程	2	15	－	30	修士（法学）	0.26	昭和42年度		※令和4年度入学定員減（△9人）
	博士後期課程	3	8	－	24	博士（法学）	0.16	昭和44年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	※令和4年度入学定員減（△6人）
	経営学研究科									
	経営学専攻									
	修士課程	2	20	－	40	修士（経営学）	0.20	平成13年度		※令和4年度入学定員減（△10人）
	博士後期課程	3	3	－	9	博士（経営学）	0.11	平成13年度		

既設大学等の状況	経済学研究科 経済学専攻									
	修士課程	2	10	－	20	修士（経済学）	0.05	平成12年度		※令和4年度入学定員減（△7人）
	博士後期課程	3	3	－	9	博士（経済学）	0.22	平成14年度		※令和4年度入学定員減（△1人）
	理工学研究科 数学専攻									
	博士前期課程	2	8	－	16	修士（理学）	0.43	平成14年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士（理学）	0.16	平成7年度		
	情報工学専攻									
	修士課程	2	30	－	60	修士（工学）	0.74	平成14年度		
	電気電子工学専攻									
	博士前期課程	2	25	－	50	修士（工学）	1.16	平成14年度		
	材料機能工学専攻									
	修士課程	2	35	－	70	修士（工学）	1.05	平成14年度		
	応用化学専攻									
	修士課程	2	24	－	48	修士（工学）	0.35	平成29年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	
	機械工学専攻									
	修士課程	2	30	－	60	修士（工学）	0.98	平成14年度		
	博士後期課程	3	5	－	15	博士（工学）	0.06	平成4年度		
	交通機械工学専攻									
	修士課程	2	25	－	50	修士（工学）	0.60	平成14年度		
	メカトロニクス工学専攻									
	修士課程	2	24	－	48	修士（工学）	0.89	平成29年度		
	社会基盤デザイン工学専攻									
	修士課程	2	18	－	36	修士（工学）	0.41	平成14年度		
	環境創造学専攻									
	修士課程	2	8	－	16	修士（工学）	0.50	平成14年度		
	建築学専攻									
	修士課程	2	16	－	32	修士（工学）	0.74	平成14年度		
	電気・情報・材料・物質工学専攻									
	博士後期課程	3	10	－	30	博士（工学）	0.13	平成5年度		
	社会環境デザイン工学専攻									
	博士課程	3	5	－	15	博士（工学）	0.46	平成4年度		

既設大学等の状況	農学研究科 農学専攻 修士課程 博士後期課程	2 3	20 5	－ －	40 15	修士（農学） 博士（農学）	1.57 0.13	昭和48年度 昭和51年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	※令和4年度入学定員減（△2人）
	薬学研究科 薬学専攻 博士課程（4年制）	4	4	－	16	博士（薬学）	1.00	平成24年度	愛知県名古屋市天白区八事山150番地	
	都市情報学研究科 都市情報学専攻 修士課程 博士後期課程	2 3	8 4	－ －	16 12	修士（都市情報学） 博士（都市情報学）	0.31 0.25	平成11年度 平成13年度	愛知県名古屋市東区矢田南四丁目102番9	※令和4年度入学定員減（△2人） ※令和4年度入学定員減（△1人）
	人間学研究科 人間学専攻 修士課程	2	8	－	16	修士（人間学）	0.12	平成23年度		※令和4年度入学定員減（△3人）
	総合学術研究科 総合学術専攻 博士前期課程 博士後期課程	2 3	8 4	－ －	16 12	修士（学術） 博士（学術）	0.00 0.08	平成14年度 平成14年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	
附属施設の概要	該当なし									

（注）
1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報工学部情報工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1前		1		○								兼5
	英語コミュニケーションⅡ	1後		1		○								兼5
	英語コミュニケーションⅢ	2前		1		○								兼4
	英語コミュニケーションⅣ	2後		1		○								兼4
	プラクティカル･イングリッシュⅠ	3前		1		○								兼2
	プラクティカル･イングリッシュⅡ	3後		1		○								兼2
	ドイツ語Ⅰ	1前		1		○								兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1		○								兼1
	ドイツ語Ⅲ	2前		1		○								兼1
	ドイツ語Ⅳ	2後		1		○								兼1
	フランス語Ⅰ	1前		1		○								兼1
	フランス語Ⅱ	1後		1		○								兼1
	フランス語Ⅲ	2前		1		○								兼1
	フランス語Ⅳ	2後		1		○								兼1
	中国語Ⅰ	1前		1		○								兼2
	中国語Ⅱ	1後		1		○								兼2
	中国語Ⅲ	2前		1		○								兼2
	中国語Ⅳ	2後		1		○								兼2
	体育科学Ⅰ	1前		1				○						兼6
	体育科学Ⅱ	1後		1				○						兼6
	体育科学Ⅲ	2前		1				○						兼5
	体育科学Ⅳ	2後		1				○						兼5
	人文科学基礎Ⅰ	1前		2		○								兼2
	人文科学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2
	社会科学基礎Ⅰ	1前		2		○								兼2
	社会科学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2
	アジア文化論Ⅰ	2前		2		○								兼2
	アジア文化論Ⅱ	2後		2		○								兼2
	欧米文化論Ⅰ	2前		2		○								兼2
	欧米文化論Ⅱ	2後		2		○								兼2
	国際関係論	3後		2		○								兼1
	文学	3後		2		○								兼1
	日本国憲法	3後		2		○								兼2
	国際経済論	3前		2		○								兼1
	心理学	3前		2		○								兼2
	基礎ゼミナールⅠ	1前		1			○		1					兼17
	基礎ゼミナールⅡ	1後		1			○		1					兼16
	職業指導論	3前		2		○								兼1
	日本語Ⅰ	1通		2		○								兼1
	日本語Ⅱ	1通		2		○								兼1
	日本語Ⅲ	1通		2		○								兼1
	日本語Ⅳ	1通		2		○								兼1
	日本語Ⅴ	1通		2		○								兼1
	小計（４３科目）	－	0	62	0	－			1	0	0	0	0	兼61

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報工学部情報工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育部門	理工学基礎科目	微分積分Ⅰ	1前		2		○								兼6	
		微分積分Ⅱ	1後		2		○								兼6	
		線形代数Ⅰ	1前		2		○								兼6	
		線形代数Ⅱ	1後		2		○								兼6	
		物理学Ⅰ	1前		2		○								兼6	
		物理学Ⅱ	1後		2		○								兼6	
		物理学演習	1後		1			○							兼2	
		物理学実験Ⅰ	1前		1				○						兼5	
		物理学実験Ⅱ	1後		1				○						兼5	
		化学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		化学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		化学実験Ⅰ	1前		1				○						兼2	
		化学実験Ⅱ	1後		1				○						兼2	
		地学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		地学Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		地学実験Ⅰ	3前		1				○						兼2	
		地学実験Ⅱ	3後		1				○						兼2	
		生物学	1後		2		○								兼1	
		生物学実験	2前		1				○						兼1	集中
		理工学概論	1前		2		○			3	1				兼11	オムニバス
		技術者倫理	2後		2		○								兼1	
		コンピューターリテラシー	1前		2			○							兼1	
		数学基礎演習Ⅰ	1前			1		○							兼8	
		数学基礎演習Ⅱ	1後			1		○							兼8	
		物理学基礎演習Ⅰ	1前			1		○							兼1	
		物理学基礎演習Ⅱ	1後			1		○							兼1	
		化学基礎演習Ⅰ	1前			1		○							兼1	
		化学基礎演習Ⅱ	1後			1		○							兼1	
		英語基礎演習Ⅰ	1前			1		○							兼2	
		英語基礎演習Ⅱ	1後			1		○							兼2	
		小計（３０科目）	－	0	36	8	－			3	1	0	0	0	兼48	－
	情報工学基礎科目	情報工学の世界	1前		2		○			9	8		2			オムニバス
		情報工学基礎演習	1前		1			○			1					
		テクニカルリテラシー	1後		2		○				1					
		プラクティカルICT	1後		1			○			1					
		小計（４科目）	－	0	6	0	－			9	8	0	2	0	兼0	－
	情報工学専門科目	情報通信ネットワーク	1後		2		○				1					
		情報理論	2後		2		○				1					
		情報セキュリティ	3前		2		○						1			
		情報通信システム	3後		2		○				1					
		信号伝送論	3後		2		○				1					
		符号理論	4前		2		○				1					
		ワイヤレス通信	4前		2		○				1					
		コンピュータアーキテクチャⅠ	1後		2		○			1						
		コンピュータアーキテクチャⅡ	3前		2		○			1						
		ディジタル回路Ⅰ	2前		2		○			1						
		ディジタル回路Ⅱ	2後		2		○			1						
		電気電子回路Ⅰ	2前		2		○			1						

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報工学部情報工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育部門	情報工学専門科目	電気電子回路Ⅱ	3前		2		○			1						
		ディジタル信号処理Ⅰ	2前		2		○			1						
		ディジタル信号処理Ⅱ	2後		2		○				1					
		システム制御	3前		2		○			1						
		フィジカルコンピューティング	3後		2		○			1						
		ハードウェア記述言語	3後		2		○						1			
		センサ工学	4前		2		○			1						
		集積回路設計	4前		2		○			1						
		アルゴリズム・データ構造	2前		2		○			1						
		オペレーティングシステム	2前		2		○				1					
		データベース	2前		2		○				1					
		ソフトウェア工学	2後		2		○				1					
		言語・オートマトン	2後		2		○				1					
		人工知能	3前		2		○			1						
		数値解析	3前		2		○			1						
		コンパイラ	3前		2		○			1						
		プログラミング言語論	3後		2		○			1						
		パターン認識	3後		2		○			1						
		応用アルゴリズム	4前		2		○			1						
		数理計画法	4前		2		○						1			
		マルチメディア基礎	1前		2		○			1						
		画像処理	2後		2		○			1						
		コンピュータグラフィックス	3前		2		○			1						
		コンピュータビジョン	3後		2		○			1						
		感性情報処理	3後		2		○				1					
		音声・音響信号処理	3後		2		○				1					
		バーチャルリアリティ	4前		2		○			1						
		言語情報処理	4前		2		○			1						
		離散数学	1前		2		○			1						
		確率・統計	1後		2		○						1			
		データサイエンス基礎	2前	2			○				1					
		応用解析	2後		2		○				1					
		電磁気学	2前		2		○			1						
		プログラミング演習Ⅰ	1前	1				○			1				兼1	
		プログラミング演習Ⅱ	1後	1				○			1				兼1	
		プログラミング演習Ⅲ	2前		1			○					1			
		プログラミング演習Ⅳ	2後		1			○					1			
		情報工学実験Ⅰ	2前	2					○		3		1		兼2	オムニバス・共同
		情報工学実験Ⅱ	2後		2				○	2	2				兼2	オムニバス・共同
		インターンシップ	3後		1			○		1						集中
		グローバルゼミナール	1後		1			○			1					集中
		モバイルアプリ開発A	2後			1		○							兼1	集中
		モバイルアプリ開発B	2後			1		○							兼1	集中
		キャリアゼミナール	3後		1			○		9	8		2			オムニバス
		研究ゼミナール	3後		1			○		9	8		2			
		情報工学総合ゼミナール	3前		1(総)			○		9	8		2			オムニバス
		情報技術の応用と職業	3後		2(総)		○			2	1				兼7	オムニバス
		創造的思考法	1後	2(先)	2(総)		○				1					

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報工学部情報工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育部門	情報工学専門科目	研究開発リテラシー	2前	2(先)	2(総)		○				1					
		アプリケーション開発	2後	2(先)	2(総)		○			1						
		PBL概論	2後	2(先)	2(総)		○				1					
		先進プロジェクト実験Ⅰ	3前	2(先)	2(総)				○	1	2		2			オムニバス・共同
		先進プロジェクト実験Ⅱ	3後		2(先)				○	2	3					オムニバス・共同・集中
		先進プロジェクトゼミナール	3前	1(先)				○		1						
		卒業研究	4通	4				○		9	8		2			
		小計（６７科目）	－	10(総) 21(先)	109(総) 98(先)	2	－			9	8	0	2	0	兼13	－
合計（１４４科目）			－	10(総) 21(先)	213(総) 202(先)	10	－			9	8	0	2	0	兼118	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【総合コース】 （１）総合基礎部門　選択科目　２０単位以上 計　２０単位以上 （２）専門教育部門　必修科目　１０単位 選択科目　９４単位以上 計　１０４単位以上 合計　１２４単位以上 【先進プロジェクトコース】 （１）総合基礎部門　選択科目　２０単位以上 計　２０単位以上 （２）専門教育部門　必修科目　２１単位 選択科目　８３単位以上 計　１０４単位以上 合計　１２４単位以上 履修科目の登録の上限（両コース共通）：４９単位（年間） なお、選択科目のうち、総合コースでは、理工学基礎科目から１２単位、情報工学基礎科目及び情報工学専門科目から３６単位を選択必修とする。先進プロジェクトコースでは、理工学基礎科目から１２単位、情報工学基礎科目及び情報工学専門科目から２９単位を選択必修とする。	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

5　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（１）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

（２）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（３）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

（名城大学注）

1　「単位数」のうち、”（総）”は「総合コース」、”（先）”は「先進プロジェクトコース」における単位設定を示す。

別記様式第２号（その２の１）

基礎となる学部

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部情報工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1前		1		○								兼5
	英語コミュニケーションⅡ	1後		1		○								兼5
	英語コミュニケーションⅢ	2前		1		○								兼6
	英語コミュニケーションⅣ	2後		1		○								兼6
	プラクティカル･イングリッシュⅠ	3前		1		○								兼2
	プラクティカル･イングリッシュⅡ	3後		1		○								兼2
	ドイツ語Ⅰ	1前		1		○								兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1		○								兼1
	ドイツ語Ⅲ	2前		1		○								兼1
	ドイツ語Ⅳ	2後		1		○								兼1
	フランス語Ⅰ	1前		1		○								兼1
	フランス語Ⅱ	1後		1		○								兼1
	フランス語Ⅲ	2前		1		○								兼1
	フランス語Ⅳ	2後		1		○								兼1
	中国語Ⅰ	1前		1		○								兼2
	中国語Ⅱ	1後		1		○								兼2
	中国語Ⅲ	2前		1		○								兼2
	中国語Ⅳ	2後		1		○								兼2
	体育科学Ⅰ	1前		1				○						兼5
	体育科学Ⅱ	1後		1				○						兼5
	体育科学Ⅲ	2前		1				○						兼4
	体育科学Ⅳ	2後		1				○						兼4
	人文科学基礎Ⅰ	1前		2		○								兼2
	人文科学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2
	社会科学基礎Ⅰ	1前		2		○								兼3
	社会科学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼3
	アジア文化論Ⅰ	2前		2		○								兼2
	アジア文化論Ⅱ	2後		2		○								兼2
	欧米文化論Ⅰ	2前		2		○								兼2
	欧米文化論Ⅱ	2後		2		○								兼2
	国際関係論	3後		2		○								兼1
	文学	3後		2		○								兼1
	日本国憲法	3後		2		○								兼2
	国際経済論	3前		2		○								兼1
	心理学	3前		2		○								兼2
	基礎ゼミナールⅠ	1前		1			○							兼19
	基礎ゼミナールⅡ	1後		1			○							兼19
	職業指導論	3前		2		○								兼1
	日本語Ⅰ	1通		2		○								兼1
	日本語Ⅱ	1通		2		○								兼1
	日本語Ⅲ	1通		2		○								兼1
	日本語Ⅳ	1通		2		○								兼1
	日本語Ⅴ	1通		2		○								兼1
	小計（４３科目）	－	0	62	0	－			0	0	0	0	0	兼68 －

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部情報工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育部門	微分積分Ⅰ	1前		2		○								兼5	
	微分積分Ⅱ	1後		2		○								兼5	
	線形代数Ⅰ	1前		2		○								兼5	
	線形代数Ⅱ	1後		2		○								兼5	
	物理学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	物理学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	物理学演習	1後		1			○							兼2	
	物理学実験Ⅰ	1前		1				○						兼5	
	物理学実験Ⅱ	1後		1				○						兼4	
	化学Ⅰ	1前		2		○								兼2	
	化学Ⅱ	1後		2		○								兼2	
	化学実験Ⅰ	1前		1				○						兼2	
	化学実験Ⅱ	1後		1				○						兼2	
	地学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
	地学Ⅱ	2後		2		○								兼1	
	地学実験Ⅰ	3前		1				○						兼1	
	地学実験Ⅱ	3後		1				○						兼2	
	生物学	1後		2		○								兼1	
	生物学実験	2前		1				○						兼1	集中
	理工学概論	1前		2		○				1				兼14	オムニバス
	技術者倫理	2後		2		○								兼2	
	コンピューターリテラシー	1前		2			○							兼2	
	数学基礎演習Ⅰ	1前			1		○							兼6	
	数学基礎演習Ⅱ	1後			1		○							兼6	
	物理学基礎演習Ⅰ	1前			1		○							兼1	
	物理学基礎演習Ⅱ	1後			1		○							兼1	
	化学基礎演習Ⅰ	1前			1		○							兼1	
	化学基礎演習Ⅱ	1後			1		○							兼1	
	英語基礎演習Ⅰ	1前			1		○							兼3	
	英語基礎演習Ⅱ	1後			1		○							兼3	
	情報通信ネットワーク	1後		2		○				1					
	情報理論	2後		2		○				1					
	情報セキュリティ	3前		2		○						1			
	情報通信システム	3後		2		○				1					
	信号伝送論	3後		2		○				1					
	符号理論	4前		2		○				1					
	ワイヤレス通信	4後		2		○				1					
	コンピュータアーキテクチャⅠ	1後		2		○			1						
	コンピュータアーキテクチャⅡ	3前		2		○			1						
	ディジタル回路Ⅰ	2前		2		○			1						
	ディジタル回路Ⅱ	2後		2		○			1						
	電気電子回路Ⅰ	2前		2		○			1						
	電気電子回路Ⅱ	3前		2		○			1						
	ディジタル信号処理Ⅰ	2後		2		○			1						
	ディジタル信号処理Ⅱ	3前		2		○				1					
	組込システム	3前		2		○			1						
	システム制御Ⅰ	3前		2		○				1					
	システム制御Ⅱ	3後		2		○			1						
	ハードウェア記述言語	3後		2		○				1					

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部情報工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育部門	センサ工学	4前		2		○			1						
	ロボットシステム	4前		2		○				1					
	アルゴリズム・データ構造Ⅰ	2前		2		○			1						
	アルゴリズム・データ構造Ⅱ	3前		2		○				1					
	オペレーティングシステム	2前		2		○				1					
	データベース	2前		2		○				1					
	ソフトウェア工学	2後		2		○			1	1					
	言語・オートマトン	2後		2		○			1	1					
	人工知能	3前		2		○			1						
	数値解析	3後		2		○			1						
	コンパイラ	3前		2		○			1						
	プログラミング言語論	3後		2		○			1						
	パターン認識	3後		2		○			1						
	アドバンストアルゴリズム	4前		2		○			1						
	数理計画法	4前		2		○						1			
	マルチメディア基礎	1後		2		○			1						
	画像処理	2後		2		○			1						
	コンピュータグラフィックス	3前		2		○			1						
	コンピュータビジョン	3後		2		○			1						
	感性情報処理	3後		2		○				1					
	音声・音響信号処理	3後		2		○				1					
	バーチャルリアリティ	4前		2		○			1						
	言語情報処理	4前		2		○			1						
	情報工学の世界	1前	2			○			9	8		2			オムニバス
	情報工学基礎演習	1前	1				○			1					
	テクニカルリテラシー	1後	2			○				1					
	離散数学	1前		2		○			1						
	確率論	1後		2		○						1			
	統計解析	2前		2		○						1			
	情報数学基礎	2前	2			○				1					
	応用解析	2後		2		○				1					
	電磁気学Ⅰ	2前		2		○			1						
	電磁気学Ⅱ	2後		2		○			1						
	プログラミング演習Ⅰ	1前	1				○			1				兼1	
	プログラミング演習Ⅱ	1後	1				○			1				兼1	
	プログラミング演習Ⅲ	2前		1			○			1					
	プログラミング演習Ⅳ	2後		1			○					1			
	情報工学実験Ⅰ	2前	2					○		3		1		兼2	オムニバス
	情報工学実験Ⅱ	2後		2				○	2	2				兼2	オムニバス
	情報工学実験Ⅲ	3前		2				○	2	1		1			オムニバス
	インターンシップ	3後		1			○		1						集中
	ゼミナール	3後	2				○		9	8		2			オムニバス
	情報技術の応用と職業	3後		2		○			2	1				兼7	オムニバス
	卒業研究	4通	4				○		9	8		2			
	小計（９３科目）	－	17	141	8	－			9	8	0	2	0	兼56	－
合計（１３６科目）		－	17	203	8	－			9	8	0	2	0	兼105	－

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部情報工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
（１）必修科目　１７単位 （２）選択科目　総合基礎部門　２０単位以上 専門教育部門　８７単位以上 計　１０７単位以上 合計　１２４単位以上 履修科目の登録の上限：４９単位（年間） 選択科目のうち、専門教育部門から４６単位を選択必修とする。	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

5　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（１）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

（２）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（３）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報工学部情報工学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅠの学修目標は、基礎的な英語運用に関する様々な事項を確認しつつ、語彙、基本構造を徹底して理解することである。広範な文献読解、基本的な表現法、リスニングの実体験を通じて積極的に英語に親しんでいく。本授業を通じて、英語を単文単位で運用できる基礎能力の獲得を目指す。	
	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅡの学修目標は、英語コミュニケーションⅠに準じ、そこで修得された英語運用能力を発展させ、複雑な文章構造にも対応できる理解力を養成することである。英検、TOEIC などの検定試験にも対応できるよう、英語表現のさらなる発展的な学修を目指す。この授業科目を通じて、複文、重文単位で運用できる英語能力の獲得を目指す。	
	英語コミュニケーションⅢ	英語コミュニケーションⅢは、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを受け、情報工学部生が専門英語を読み解く際、役に立つ英語の基本的な構文や構造を意識的に学修していく。さらには語彙の広範囲化や、複雑な文構造の分析能力の獲得を目指す。	
	英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅣは、英語コミュニケーションⅠ～Ⅲを通じて学んできた学修内容を総合的に理解し、リーディング･スピーキング･リスニングの各場面において実際的な場面を想定しつつ、科学に関する英語表現をマスターして、国際レベルで活躍するために求められる英語を活用できる能力の向上を目指す。	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ	会話・プレゼンテーション・（プレゼンテーションの内容に基づく）エッセイライティングを通じ、spoken English、written English 双方の能力をのばす。授業最初の１５分をプレゼンテーションにあて、残りの時間に会話練習を行う。プレゼンテーションについては、クラスを３～４人のグループに分け、グループごとにプレゼンテーションに取り組む。発表の後、発表内容に基づくエッセイを提出し、教員からの指導を受ける。本授業を通じて、国際的場面で運用可能な英語能力の獲得を目指す。	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ	プラクティカル・イングリッシュⅠで学修した内容及び技能を、自発的に発信できる程度までさらに発展させることを目指す。授業の形式は、プラクティカル・イングリッシュⅠと同様である。本授業では、特に、会話の練習と、プレゼンテーション・エッセイライティングに取り組むこととする。プレゼンテーションの題目は、日本・日本文化、科学・環境問題等、受講生が最も興味のあることを英語で表現することを試みる。	
	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語Ⅰは、初めてドイツ語を学ぶ学生のための入門コースである。まず簡単な導入授業（ヨーロッパ言語の中のドイツ語について）を行い、発音の規則を概説した後、基礎的な文法事項を学修する。初級文法の２本の柱は動詞と名詞であり、動詞領域では人称変化、名詞領域においては名詞の性・数・格、冠詞等の格変化、前置詞などを重点的に扱うことになる。その過程で基本語彙や表現を修得させ、併せてドイツ語の文の構造に対する感覚を養う。	
	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅱは、ドイツ語Ⅰにおいて扱った文法事項を踏まえつつ、さらに基礎的知識の理解を深めさせる。まずドイツ語特有の動詞（分離動詞・非分離動詞）、助動詞、動詞の時制・法について学び、さらに関係代名詞、受動態等、より高度な内容を扱うことにより、初級文法を完成させる。Ⅱを修了した段階で、易しい文章であれば、辞書を片手に読めるような学力の養成を目指す。	
	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語Ⅰ・Ⅱを踏まえた上で、一定の内容のあるドイツ語を読みこなしていく。その過程で、これまでに獲得した、ドイツ語に関する多量の知識を整理・統合し、応用していくことになる。平行して初級文法の重点的な復習を行い、またⅠ・Ⅱでは扱いきれなかった文法事項などを学修しつつ、文章の文法的構成を把握させ、ドイツ文の読解能力の向上を目指す。	
	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅲを引き継いで、中級ドイツ語への橋渡しの学修を行う。基本文法の復習を継続し、総合的な運用能力のさらなる向上を図りつつ、中級ドイツ語のテキストを読解する力を涵養する。ドイツ語はヨーロッパ言語の特性をかなり明瞭な形で保持しており、その理解を深めることによって、学修者の言語能力一般の向上をも目指す。	

総合基礎部門	フランス語Ⅰ	初めてフランス語を学ぶ学生のための入門コース。フランス語の学習は、外国語を身につけるという実践的な効用のみならず、フランス語を母国語とする人々の生き方、考え方、感受性等を理解することにも繋がる。発音から始め、初級文法を学びながら、基本表現の修得を通じてフランス語に親しむことを目的とする。単に文法の知識を詰め込むのではなく、ごく身近な日常表現を覚えるなど、「使えるフランス語」を体得させる。	
	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰに引き続いて初級文法の基礎知識を学びながら、簡単な日常会話に慣れるだけでなく、平易な文が読めるような学力を養う。文法に関しては、動詞の様々な時制、法、中性代名詞、関係代名詞の他、受動態など、フランス語固有の表現形式にも触れる。新たにⅡで獲得した知識を、Ⅰで獲得したものと整理・統合し、初級文法を完成させる。学生の希望により、仏語検定の問題にも取り組む。	
	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅰ・Ⅱで学修した文法の知識を補足しながら、平易なテキストを読み、フランス語の運用能力を身につける。文法に関してはフランス語の時制を中心に復習し、フランス語特有の論理を学ぶ。テキストの読解を中心に授業を進めるが、併せてできるだけ多くのフランス語に触れて、聞き取り、発音の訓練を行う。言語能力の向上とともに、広く社会、歴史、科学、文化に関する教養を養う。	
	フランス語Ⅳ	フランス語Ⅲで始めたテキストの読解を継続し、読解力を深める。文法的には、時制の一致、完了など、様々な動詞の形を中心に学ぶ。まとまったテキストを正確に読むためには、一般的な文法の知識のみならず、社会、歴史、科学、文化に関する知識が不可欠となる。このような総合的観点から、テキストの読解を訓練し、深く読み、深く考える訓練を行う。	
	中国語Ⅰ	本授業では、中国語の特徴や入門レベルでの表現形式を学んでいくが、その際、日本語、あるいは英語と比較しながら、中国語について学修していく。さらに外国語を学修することは、当該言語を使用している民族や地域の文化、ものの考え方、認識の仕方を学び、異文化を理解することでもある。したがって、本授業では、中国語について学ぶだけでなく、同時に、中国語話者のものの見方や考え方についても理解を深めていくことを目的とする。	
	中国語Ⅱ	中国語Ⅰに引き続いて初級文法の基礎知識を学びながら、個々の文法規則が相互に関連し合って、ひとつの体系を形作る様を実感できるようにする。その過程で、簡単な日常会話に慣れるだけでなく、平易な文が読めるような学力を養う。	
	中国語Ⅲ	中級レベルの文章表現を教材として用いて中国語の表現の特徴を解説し、構文を把握するなど、総合的な運用能力の向上を図ることを、講義の柱の一つとする。加えて、本文の内容を理解することにより、中国という地域の歴史の長さ、中華民族の自己の文化に対する自尊心の高さ、改革・解放後の急速な経済発展による現代社会の危うさなど、中国社会や文化について理解を深めることをもう一つの柱とする。	
	中国語Ⅳ	中国語Ⅲで始めたテキストの読解を継続し読解力を深める。まとまったテキストを正確に読むためには、一般的な文法の知識のみならず、社会、歴史、科学、文化に関する知識が不可欠となる。このような総合的観点から、テキストの読解を訓練し、深く読み、深く考える訓練を行い、総合的な運用能力のさらなる涵養を目指す。	
	体育科学Ⅰ	運動・スポーツに積極的に参加し体力の保持増進に努めるとともに、自ら運動処方を作成する能力を養う。また運動・スポーツによって得られるチームワークを深め、社会に必要な人間性、協調性を涵養する。開講コースから１コースを選択する。なお、開講実技種目は曜日・時限によって異なるが、バスケットボール、バレーボール、卓球、フィットネス、サッカー、ソフトボール、テニスを予定している。	
	体育科学Ⅱ	運動・スポーツを通じて体力を向上させ、かつ自らの体力を把握し、運動処方を作成する能力を養う。また運動・スポーツによって得られるチームワークを深めるとともに、社会に必要な人間性、協調性を養う。開講コースから１コースを選択する。原則として体育科学Ⅰとは異なる種目を選択する。なお、開講実技種目は曜日・時限によって異なるが、バスケットボール、バレーボール、卓球、フィットネス、サッカー、ソフトボール、テニスを予定している。	
	体育科学Ⅲ	健康の保持増進を目的として、運動・スポーツによって体力の向上に努めるとともに、個人の実状に応じた運動処方を作成する能力を養う。また、運動・スポーツを通じて社会性、協調性、そして豊かな人間性を涵養する。開講コースから１コースを選択する。なお、開講実技種目は曜日・時限によって異なるが、バレーボール、卓球、サッカー、ソフトボール、テニス、バドミントン、フットサルを予定している。	

総合基礎部門	体育科学Ⅳ	前期開講の体育科学Ⅲに引き続き、健康の保持増進を目的として、運動・スポーツによって体力の向上に努めるとともに、個人の実状に応じた運動処方を作成する能力を養う。また、運動・スポーツを通じて社会性、協調性、そして豊かな人間性を涵養する。開講コースから１コースを選択する。原則として体育科学Ⅲとは異なる種目を選択する。なお、開講実技種目は曜日・時限によって異なるが、バレーボール、卓球、サッカー、ソフトボール、テニス、バドミントン、フットサルを予定している。	
	人文科学基礎Ⅰ	人間の存在の意味を問う授業として、哲学、心理学、倫理学の基礎的体系を学ぶ。それと同時にこれらの学問の枠にとらわれることなく、文学や美学などの様々な学問体系を援用し、且つ具体的事例の分析を通し、できる限り実証的方法によって人間の持つ精神面の理解を深めるようにし、基礎教養の獲得を目指す。	
	人文科学基礎Ⅱ	人文科学基礎Ⅰを引継ぎ、無機質的な理工学系学問の修得から生じる「物質的現実世界」だけにとらわれずに、「精神的現実世界」をも深く探求するための新しい価値観を学ぶ。また、高度に組織化された産業社会の人間疎外の起こりやすい環境の中での人間関係のあり方を具体的事例の分析を通し実証的に追求し、総合的な判断力、思考力、教養力の向上を目指す。	
	社会科学基礎Ⅰ	社会科学とは、社会環境と人間との相互関係を科学的に明らかにする学問体系のことである。本授業では先ず、我々が存在する社会が、歴史的にも空間的にも相対的条件の産物であることを、具体的事例を通して学ぶ。これらを総合的に学ぶことにより、社会・歴史・文化的事象に関する基礎教養の獲得を目指す。	
	社会科学基礎Ⅱ	社会科学基礎Ⅰを承け、社会環境を相対化することにより、幅広い社会観を修得し、特に国際的感性を高める。ここでは主に、従来の学問分野では歴史学、社会学、民族学などの基礎を学ぶとともに、学際的分野の授業として設定されている。本授業を通じて、人類の歴史・文化の特徴的な在り方を多方面から学ぶことで、国際レベルで活躍するに相応しい判断力・思考力・教養力の向上を目指す。	
	アジア文化論Ⅰ	アジア文化論Ⅰで扱う学問領域は、主に当該地域に関連する文学と歴史学である。ここではアジアという地域を媒体として、それぞれの文化・国民性・歴史的背景などを学ぶことにより、具体的なイメージとして地域文化を理解する。国際理解の出発点として、アジア地域の異文化を歴史・文学など多角的側面から解明することにより、国際的な地域社会理解の基礎と背景を修得し、人文社会理解と国際理解を深めることを主眼とする。	
	アジア文化論Ⅱ	アジア文化論Ⅱで扱う学問領域は、主に当該地域に関連する経済学・社会学・文化人類学など多岐にわたる。ここではアジア文化論Ⅰでの修得を基礎とし、的確に現実社会を理解するため、当該地域の産業・環境といったより具体的、現実的諸問題を社会的な意識へと発展させる。こうした多面的な理解を踏まえたうえで、世界の中でのアジアとしての役割、位置づけなど、幅広い認識のうえに国際的視野を修得する。	
	欧米文化論Ⅰ	欧米文化論Ⅰで扱う学問領域は、主に当該地域に関連する文学と歴史学である。ここでは欧米という地域を媒体として、それぞれの文化・国民性・歴史的背景などを学ぶことにより、具体的なイメージとして地域文化を理解する。国際理解の出発点として、欧米地域の異文化を歴史・文学など多角的側面から解明することにより、国際的な地域社会理解の基礎と背景を修得し、人文社会理解と国際理解を深めることを主眼とする。	
	欧米文化論Ⅱ	欧米文化論Ⅱで扱う学問領域は、主に当該地域に関連する経済学・社会学・文化人類学など多岐にわたる。ここでは欧米文化論Ⅰでの修得を基礎とし、的確に現実社会を理解するため、当該地域の産業・環境といったより具体的、現実的諸問題を社会的な意識へと発展させる。こうした多面的な理解を踏まえたうえで、世界の中での欧米としての役割、位置づけなど、幅広い認識のうえに国際的視野を修得する。	
	国際関係論	地球上のどの国も「世界」というネットワーク・システムの各結節点である以上、孤立した存在ではありえない。「国内」政治と「国際」政治が直接、間接にリンクする実情からして、国家間関係というシステムの構造や特徴を理解することは、世界市民でもある私たちにとって必要不可欠な課題と言える。本講義を通じて、国際関係に特有のシステムを理解した受講生が、社会に出た後も自ら思考力と想像力を働かせ、例えば国際社会における秩序形成と関連して、日本の社会政策や安全保障について内省する契機を得られるよう配慮したい。	
	文学	本授業では、様々な作品の読解を通じて、人間の内部世界に展開される文学的現象を読み解くことで、感情世界の豊かな育成及び、人間社会の論理を超えた想像力の不思議に対する視座の獲得に努める。	

総合基礎部門	日本国憲法	「憲法を学ぶ」ためには、憲法になにが書かれているかを知ることだけでなく、なぜ憲法がそのように書かれているのかを知る必要がある。憲法は国家としての日本の「かたち」を定めるが、そこにはそれを理念的に支える「憲法の原理」がある。本授業では現在の日本が抱える憲法問題を題材にしながら、国家と社会のあるべき関わり方、人権を保障する意義、国民主権の実現方法などを「憲法の原理」から再考する。	
	国際経済論	日常的に触れながら、なかなか体系的な理解の進まないのが経済という主題である。ますますグローバル化の進む世界の一員たる私たちは、グローバリゼーションが今や、まず「経済の」グローバル化として認識される以上、経済のイロハを知らずに済ますことは難しくなっている。本講義では、やがて社会人として自立する学生に必須の知識となりうる、国際経済に関する基礎的な専門用語や概念を学ぶことを通して、国際経済の基本的構造、ひいては「経済」とは何かを理解する契機を提供する。	
	心理学	私たちは心の成り立ちと独自の働きに強い関心を抱いているものの、それらを心理学的な観点から正しく理解しているわけでは、必ずしもない。人間の意識内で生起するさまざまな現象に関する学問的知見を体系的に学ぶことは、私たちが生きるうえで必要不可欠な知的営為である。本講義では、そうした心理学の概要を学ぶ。人間存在を深い次元で決定づける精神性や心理構造に対する分析力、理解力の獲得を目指す。	
	基礎ゼミナールⅠ	基礎ゼミナールⅠでは、理工学部との学部間の壁を越え、演習形式による授業を行う。担当する教員の専門領域に応じて、様々なテーマを取り上げる中で、①大学における学びのコツと工夫、②レポート等文章課題の作成の仕方、③情報収集・整理の方法、④プレゼンテーション技法などの修得を適宜織り込み、大学における学びへの円滑な接続を図る。	
	基礎ゼミナールⅡ	基礎ゼミナールⅡではⅠと同様、担当教員の専門領域に応じて異なるテーマを取り上げつつ、演習形式による授業を行う。課題に基づく発表やディスカッションを通して、受講者にⅠで学んだことを実践させつつ深化させ、もって知的世界への探求に必須の基礎力とモチベーションを養う。	
	職業指導論	本科目は工業科の教員免許状取得に必要な科目であるが、「職業指導」を行うためには、自らのキャリア形成の理解が必要だと考える。職業指導論では、キャリア・カウンセリングの理論、技法を中心に学び、多様化が進む現代社会（近代産業社会）における職業人としてのキャリア形成との関連を生涯発達（Life Career Developing）の視点から考える。また、技法では、学校現場のみならず若年者が抱える課題を中心に実践的な指導のありかたについて学修する。	
	日本語Ⅰ	特定のテーマ（日常生活・比較文化・時事問題など）についてディスカッションを行い、論点を明らかにしたうえで小論文を執筆する。次に、執筆した内容を発表し、受講生全員で日本語の適切性を検討する。これを繰り返すことにより、論文（レポート）や発表（プレゼンテーション）などで用いられる「アカデミック・ジャパニーズ」を修得することができる。また、最後に「研究発表会」を実施する。	
	日本語Ⅱ	留学生は日常生活や大学生活で、様々な人と日本語でコミュニケーションし、日本語で専門の授業を受けなくてはならない。日本語が聴き取れなければ、意思の疎通をすることや、タスクをこなすことが困難であるため、留学生活に役立つ聴解力を高める。相手による話し言葉の違い、聴き取りにくい音調や縮約形、ニュースや講義などにおける談話展開などをさまざまな場面を通して学ぶ。また、聴くことがアウトプットに繋がるように、いくつかのトピックを取り出し、ディスカッションや発表も行う。	
	日本語Ⅲ	日本語が流暢に話せる留学生も「日本語能力試験Ｎ１」レベルの高度な表現に対応できないことがある。本科目では、高度な表現が実際に使えるようになるまで演習形式で授業を進めていく。	
	日本語Ⅳ	ある程度まとまった内容をもつ読み物の内容を正確に把握し、まとめ、発表できる日本語運用力の修得を目的とする。具体的には次の３つの内容を予定している。①新聞記事を用い、情報を収集し、知識・関心を広げる練習、②テキスト・論文を用い、論理的な文章を読む練習、③読解により獲得した内容をハンドアウトにまとめ、発表する練習。	
	日本語Ⅴ	初級レベルで学んだ文法項目の理解を深めるとともに、それに加えて新しい文法を学ぶことによって、自然な日本語運用能力を身につけることを目的とする。	

専門教育部門	理工学基礎科目	微分積分Ⅰ	微積分の予備的な事柄として、実数の性質と連続関数の基本的な定理を学ぶ。次に微分法の規則を学ぶ。ここでは合成関数の微分法と平均値の定理が重要である。指数関数、対数関数、三角関数、逆三角関数について必要とされる事柄を学修する。多変数の微分法については主に微分の計算を学ぶ。計算技術の修得を重視し、適宜練習問題を用いて講義を行う。①２変数までの微分の計算が出来ること、②関数のグラフの概形がかける知識・能力の修得を目指す。	
		微分積分Ⅱ	微分と積分は逆演算である。微分法の計算から積分法の公式が得られることを確認し、それらを使って、初等関数である指数関数、三角関数、有理関数についての不定積分の計算法を修得する。多変数の積分は２変数を主に取り扱う。累次積分、変数変換などの計算を通して計算力の向上を図る。最後に１変数の微分積分学の基本定理に相当する、偏微分と重積分を使ってのグリーンの公式を理解する。計算技術の修得を重視し、適宜演習を交えて講義を行う。①２変数までの積分の計算が自由自在に出来ること、②計算力の向上を図るための知識・能力の修得を目指す。	
		線形代数Ⅰ	線形代数学は微分積分学とならんで、大学初年の数学の２本の大きな柱である。それは線形数学の理論が自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野でも応用されているからである。m 行n列からなる実数を成分とする行列の計算や様々な性質を学修する。次いで、n 次の行列式を定義し、行列式の基本的性質や様々な行列式の具体的な計算を取り扱い、①行列の四則計算、行列式の計算ができ、②その応用として、連立１次方程式を解くための知識・能力の修得を目指す。	
		線形代数Ⅱ	線形代数Ⅰに続いて、平面と空間のベクトルを考察したのち、平面や空間の直接の一般化である数ベクトル空間及び一般の線形写像の基礎的理論を展開する。その後、行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化などについて詳しく学修する。全体を通じて、適宜練習問題を用いて講義を行い、①線形写像が行列を使って表せること、②行列の固有値及び固有ベクトルが求められること、③行列の対角化等を理解し、具体的な計算ができるようになることを目指す。	
		物理学Ⅰ	物理学のなかでも力学は最も古くから体系化され、物理学全体の発展の基礎となった分野である。力学で導入される力、運動量、エネルギー等の概念は自然科学全体をつらぬく基本概念であり、これらの概念は自然科学の様々な分野に普遍的に現れる。物理学Ⅰでは、力学のうち質点の運動を扱う。まず、運動の法則を学び、次に質点の運動の例として、空気抵抗が働く場合の放物体の運動や振動などを学修する。講義を通じて、等加速度運動、円運動、放物体の運動、単振動、減衰振動などの運動を数理的に取り扱う能力の修得を目指す。	
		物理学Ⅱ	物理学Ⅰに引き続き、物理学Ⅱでは、力学のうち積分定理と剛体の運動を扱う。まず、積分定理でエネルギーや角運動量などの保存則を学び、次に剛体の静力学と動力学を学修する。講義を通じて、質点における保存力や角運動量などの概念とその保存則、また、重心、力のモーメント、慣性モーメントなどの剛体における概念を理解し、剛体の並進運動や固定軸まわりの回転運動などの運動を数理的に取り扱う能力の修得を目指す。	
		物理学演習	物理学は講義だけでは身に付かないため、物理学演習において毎時間演習問題を解くことにより、力学の基礎的問題はすべて解けるようにする。特に計算力の向上を目指す。具体的には、物理学Ⅰ、Ⅱの範囲のうち、等加速度運動、円運動、放物体の運動、単振動、保存力、エネルギー保存則、角運動量、重心、力のモーメント、慣性モーメント、剛体のつりあい、剛体の固定軸まわりの回転運動などの問題を解く能力の修得を目指す。	
		物理学実験Ⅰ	各班ごとに提示された実験テーマを、実験指導書を参考にしながら１日に１テーマずつ遂行していく。物理学実験Ⅰでは、金属の電気抵抗、荷電粒子の運動、仕事当量、光の屈折・回折・干渉、振動のコンピュータ・シミュレーションの５つの実験を行う。理工学分野の実験を修得する上で必要な基礎技術、実験装置や各種測定装置の基本的な使い方を実際の測定を通じて体得する。また、日常生活で見る一般の事象に対する理化学的な考察法、得られた結果をまとめて分析する能力、理工学分野で必要な実験レポートの作成に関する共通概念を修得することを目指す。	
		物理学実験Ⅱ	物理学実験Ⅰに引き続き、物理学実験Ⅱでは、熱起電力、分光計、ヤング率、気圧による高度差測定、波形の合成のコンピュータ・シミュレーションの５つの実験を行う。理工学分野の実験を修得する上で必要な技術の向上、実験装置や各種測定装置のより優れた使い方を実際の測定を通じて体得する。また、得られた結果をまとめて分析する能力、理工学分野で必要な実験レポートの作成に関する共通概念を修得することを目指す。	

専門教育部門	理工学基礎科目	化学Ⅰ	化学は１００あまりの元素の組み換え方の“好み”を学び取っていく分野であるといえ、その性質上社会とのつながりが密接である。学生が将来どの分野で活躍するにせよ化学に関する正しい認識を身につけることが必須である。化学Ⅰでは、i）原子・分子の構造、ii）化学結合論、iii）化学反応論、iv）酸・塩基、v）酸化還元反応について、原理を理解することを目的とし、①原子軌道と混成軌道の観点から化学結合及び分子のかたちを説明できる能力の修得、②化学反応の機構を理解し、自在に記述できる能力の獲得を目指す。	
		化学Ⅱ	化学Ⅱでは、化学Ⅰに続いて熱化学や有機化学を学ぶことで、化学反応の原理や物質の構成の理解を深めるとともに、i）化石燃料や原子力などのエネルギー、ii）地球環境問題、iii）生体物質、iv）化学物質の材料利用について、日常生活とのかかわりあいを強調して理解することを目的とする。全体を通して、①化学反応に伴うエネルギー収支を理解し、熱化学方程式を記述できること、②地球に存在するエネルギーや環境問題を化学的に説明できること、③日常利用している物質の構造と反応機構を説明できる能力の向上を目指す。	
		化学実験Ⅰ	種々の化学現象を理解するためには、実際に物質に触れ、現象を観察する実験を体験することが重要である。化学実験Ⅰでは、定性分析及び容量分析における知識・技術を体験的に学修する。レポート形式の実験ノートに、定性分析によって得られた結果、及び容量分析によって得られたデータを計算処理することで求められた値をまとめ、考察することで、実験の目的及び手法の理解を深める。技術者・研究者として必要不可欠な実験の計画・実行及びデータ解析の能力を養う。	
		化学実験Ⅱ	化学実験Ⅱでは、有機化学実験及び生化学実験を通じて有機化合物の合成、化学反応速度論、及び酵素反応における知識・技術を体験的に学修し、理解を深める。本実験では、各操作の意味や目的、あるいは原理を十分考えることにより、化学の本質に迫ることが可能である。得られた結果をまとめ、分析・考察を行い、レポート形式の実験ノートを作成する。実験とレポート作成を通じて、正確に実験を遂行し、データを解析する能力、及び論理的な思考力を養う。	
		地学Ⅰ	地学は宇宙・惑星・地球に関する種々の現象を扱う分野で、原子の世界から宇宙空間、時間でも秒単位から百億年に及ぶ。本講義では、このように幅広い自然現象を理解・解明してゆくための科学的態度を学び、人類は、ほかの生物と同様に４６億年という地球進化の歴史のなかから生まれ出た、という自然観を養う。地学Ⅰでは、地球の構造と構成を概観した後、水圏、気圏について講義し、まとめとして宇宙の中の地球の位置づけを取り扱う。	
		地学Ⅱ	地球上の水は、液体や水蒸気、そして氷に姿を変えながら循環しており、気候変動に大きな影響を及ぼす。本講義では地球に入ってくる太陽エネルギーが水によってどのように分配されているのか、水の性質を理解し、地球における水循環の各素過程を理解することで、気候変動にどう関わっていくか理解することを目的とする。	
		地学実験Ⅰ	本科目では、主に固体地球の表層部で起こっている、あるいは起こった諸現象を理解し、解明するための、もっとも基礎的な手法の修得を目指す。主に地形図及び数値地図を用いた地形解析を行い、地形断面図、水系図、接峰面図の作成を行う。また、名古屋市域の地形野外調査を行うことによって、実際の地形の構成を体感する。さらに、地表をつくる岩石の肉眼・偏光顕微鏡観察も行う。地形図の判読能力の修得、岩石の肉眼及び顕微鏡下での特徴の理解、偏光顕微鏡の基礎的な操作方法の修得を目的とする。	
		地学実験Ⅱ	地学実験Ⅰの発展的内容として、地質図の読み方と書き方、地層の野外観察、ボーリングデータにもとづく地質断面図の作成などを行い、次の５つの能力の修得を目指す。①地層の走向傾斜と地形との関係を理解できる、②ルートマップから地質図を作成することができる、③地質図から地質断面図を作成することができる、④ボーリングデータから地質構造を読みとり、地質断面図を作成できる、⑤野外において走向傾斜の測定や鍵層の追跡ができる。	
		生物学	本授業の前半では、生物学の基礎的な内容について、高等学校で学んだ内容の復習も兼ねて丁寧に解説する。後半では、教員もしくは生物に関わる職業に就いた際に必要とされる知識や考え方を提供することを念頭において、外来生物や絶滅危惧種といった人間活動と密接に関わる諸問題、ビオトープ創出や基礎的な生物調査法について取り上げる。	
		生物学実験	本実験の前半では、実体顕微鏡や生物顕微鏡等の生物実験に関わる器具の正しい使い方を身に付ける。また後半では、原形質分離の観察とそのメカニズムの理解、体細胞分裂の観察と間期及び分裂期の出現割合に関する考察、動植物プランクトンなどの観察による特徴や役割の理解など、生物学に対する理解を深めるとともに、観察力を養う。	集中

専門教育部門	理工学基礎科目	理工学概論	本講義では、工学系の各分野及び物理・化学の分野において、現在どのようなことが行われ、どのように社会に役立っているか、また課題は何か、将来にはどのような展望が開けているかについて学ぶ。専攻分野の情報だけではなく幅広い知識・素養を身につけ、将来の工業教育に携わる者としての総合力の養成を目指す。 （オムニバス方式／全15回） （57 加鳥裕明／1回） 本講義を受講するにあたって、心掛けておかなければならない事項を述べ、毎回の授業におけるレポート提出や、成績評価の方法を説明する。また，本講義では，理工学部・情報工学部における「理工学の学び」を俯瞰することを目的とする。その中で、社会において大きな役割を果たしている「工学」とはいかなる学問かを考え、その社会における工学の位置付けを明確にする。 （9 吉川雅弥／1回） 情報セキュリティの要は暗号化技術であり、我々の身の回りには様々な暗号技術が用いられている。本講義では、暗号を用いた技術を紹介すると共に、世界中で共通に用いられている標準暗号について、その理論や実装方法について概説する。また、代表的な暗号に対する攻撃手法とその対策手法についても解説する。 （58 平松美根男／1回） 電気電子工学は、情報や材料の分野と大きく関わり、今日の生活を支えるキーテクノロジーとなっている。エネルギーを生み出すこと、動くものをコントロールすることはいうまでもなく、家電・情報通信・カーエレクトロニクス等、様々な分野で活躍する電気電子技術の現状と将来について概説する。 （59 竹内哲也／1回） 19世紀以降の経済発展を支えている「鉄鋼」、20世紀のコンピュータ革命・IT革命における「半導体」や21世紀に入って注目が集まっている「ナノテクノロジー材料」など、産業が発展していく上で”材料技術”の発展と”新材料”の開発は必要不可欠である。本講義では、理工学における材料の役割について、様々な例を取り上げて説明する。 （60 田中正剛／1回） 化学反応や分子の構造変化から成り立っている諸現象と緻密にデザインされた物質の設計やその性質を原子・分子レベルで解明することにより、社会や産業の発展に役立つ付加価値の高い物質を開発できることを概説する。 （8 山本修身／1回） 計算機になんらかの計算を行わせるためには、行わせたい計算を表現する何らかの情報を計算機に与える必要がある。通常これを「プログラム」と呼ぶ。本講義ではPythonなど現在一般に使われている命令型プログラミング言語を中心としていくつかの形式のプログラミング言語のしくみについて概観する。 （61 清水憲一／1回） 機械工学は、ものやシステムを設計し、造り、安全に使用するためのハードとソフトの手段を与える。あらゆる産業は機械の助けを得て成立っていることと、問題解決の手段としての機械工学の役割について事例をあげながら解説する。 （33 中島公平／1回） 自動車や航空機など、いわゆる「交通機械」は、運動することによって人や物を目的地へ運ぶ。本講義では自動車やエンジンの運動を例題に、その運動の原理について解説する。 （62 井上真澄／1回） 電気、機械、制御技術をコンピュータ技術で統合する技術分野は、一般にメカトロニクス技術と言われている。本講義では、情報・オフィスビジネス機械、自動車・産業機械などの分野でメカトロニクス技術の応用について解説する。 （63 渡辺孝一／1回） 社会基盤デザイン工学は、土木工学(Civil Engineering)を源流とした学問分野である。人々の生活に欠かすことのできない社会基盤デザイン工学の内容の中から、特に我が国で頻発している自然災害における地盤災害リスクとそれらの災害に対する防災科学技術について、概説する。 （7 山田宗男／1回） ディジタル信号処理は、マルチメディアやインターネットあるいは移動通信など高度情報処理社会において極めて重要かつ不可欠な基本技術となっている。本講義では、ディジタル家電などの身近に存在するディジタル技術を題材として、その基本的な内容と最新の動向についてわかりやすく解説する。 （64 武藤昌也／1回） 環境創造工学と密接に関連するエネルギー問題についてその根本から考えるとともに、環境に影響を及ぼす化学物質について深く学ぶ。	オムニバス方式

専門教育部門	理工学基礎科目		（65 高井宏之／1回） 建築の設計にはデザイン性や工学性、また社会性なども求められる。本講義では建築が成立する上で設計者や施工者が考慮している点、都市生活環境と建築との関わり合い、再生可能エネルギーを最大限に活用するための技術などについて概説する。 （30 景山伯春／1回） 物理学および化学は物質や自然現象を研究する学問であり、古くから互いに影響し合って発展してきた。あらゆる科学技術の基礎をなしており、理工学を学ぶ上で必須な分野である。本講義では、現代の科学について、化学分野を中心に日常社会生活との関わりも含めて概説する。 （17 米澤弘毅／1回） 最近、ビジネスやスポーツ、さらにはゲームに至るまで、様々な局面でデータ解析が行われ、着実に結果を出している。 本講義では、様々な分野においてデータ解析がもたらした事例、及び今後の展望について紹介する。	
		技術者倫理	技術的な分野において、問題を技術者の立場とともにユーザーの立場から見ること、また問題の中に解決のために必要ないくつかの条件を見抜くこと、そしてその条件に従って考えることによって、表現能力や議論能力の基礎を身につける。日常を問題解決の実践の場と考え、安全性と責任に関する倫理問題、情報管理と倫理問題、組織における倫理問題などの日常的な倫理問題にフォーカスし、技術者が出会う倫理問題を考える練習を行う。	
		コンピューターリテラシー	コンピュータやインターネットを用いる際に、注意すべき諸問題（情報倫理）について学び、安全にコンピュータを用いる技術を身に付ける。文書作成、表計算、プレゼンテーションなどにおいて、大学の講義や卒業研究において必要とされるフォーマットや決まりを知り、自らインターネット等を利用してその実現方法を調査し、必要に応じて作成する能力を身に付ける。	
		数学基礎演習Ⅰ	日常、道具として使っているレベルの数学なら、具体例の計算を十分やれば無理なく会得できる、という信念に達するよう微分を主体として授業を行う。「順序良く、そして充分な量の具体例を計算すれば、理屈は自然に身につく」ということを、易しい例で実感し、「要は自分のやる気だ」と確信が持てたところで、自発的学習のきっかけとして、毎回練習問題を提示する。	
		数学基礎演習Ⅱ	高等学校までの学習内容を整理したうえ、次の内容を演習中心に行う。簡単な積分の計算が出来るようになること、線形代数については、線形空間の基礎を確認して、行列の対角化までを学び、線形空間のイメージがつかめること、を到達目標とする。	
		物理学基礎演習Ⅰ	大学で学ぶ「物理学Ⅰ・Ⅱ」の授業は高校での物理学履修を前提として進められる。高校で物理を履修しなかった学生や工業高校出身者にとっては、「物理学Ⅰ・Ⅱ」の講義は難解であり、不安を感じる学生も少なくない。物理学基礎演習Ⅰでは、物理学Ⅰに対応して、等加速度直線運動、ニュートンの運動の法則、運動方程式のたて方、放物運動、等速円運動、弾力とフックの法則、単振動などを学習する。物体の運動を微分積分を用いて数理的に取り扱う能力の習得を目指す。	
		物理学基礎演習Ⅱ	物理学基礎演習Ⅰに引き続いて、物理学基礎演習Ⅱでは物理学Ⅱに対応した授業を行う。具体的には、仕事、位置エネルギー、運動エネルギー、運動量、力積、運動量保存の法則、重心、力のつり合い条件、回転運動、慣性モーメント、角運動量などを学習する。保存則の理解と剛体の運動を微分積分を用いて数理的に取り扱う能力の習得を目指す。	
		化学基礎演習Ⅰ	化学基礎演習Ⅰでは、化学Ⅰの理解を助けることを目的とする。i)原子・分子の構造、ii）化学結合論、iii）物質の状態、iv）化学反応論、v）酸・塩基、vi）酸化還元反応について、基本知識を習得する。授業では、演習問題を解いていくことで理解を深め、①モル計算、②原子と分子の構造、③化学結合の種類と原理、④基本的な化学反応式の理解と記述能力を養う。	
		化学基礎演習Ⅱ	化学基礎演習Ⅱでは、化学基礎演習Ⅰに続いて、高校までの化学の内容にも立ち戻って化学の基礎をしっかり身につけ、化学Ⅱの理解を助けることを目的とする。i）エネルギー、ii）有機化学、iii）環境、iv)高分子化合物、v）色とにおいの化学、vi）生体物質、vii）合成化学品などの材料化学について、基本知識を習得する。授業では、演習問題を解いていくことで理解を深め、①ヘスの法則、②有機化合物や環境汚染物質の構造と反応機構、③生体物質や合成化学品の構造や性質の理解と記述能力を養う。	

専門教育部門	理工学基礎科目	英語基礎演習Ⅰ	英語運用能力は、２１世紀を生きる技術者にとって決定的に重要である。英語力に不安を感じる学生に対して、ごく基礎からはじめて、大学での授業に必要な基礎学力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、学士レベルの英語運用能力の修得を目指す。	
		英語基礎演習Ⅱ	英語基礎演習Ⅱでは、英語基礎演習Ⅰで学習した語彙・文法に対する知識をさらに発展させる。特に高校卒業までに学習した語彙・文法の再確認と徹底理解に努める。情報伝達手段として、単文構造の理解に加えて、重文・複文構造などの複雑な内容にも対応できる総合的な英語力の養成を目指す。	
	情報工学基礎科目	情報工学の世界	１年次に情報工学という学問分野への導入を図ることを目的として、情報工学科のプログラム制を構成するフィジカルコンピューティング、データエンジニアリング、ヒューマンメディア、ネットワークシステムの４分野にわたって具体例を引用しながら情報工学における重要な項目の解説を行う。 （オムニバス方式・全15回） なお、第13～15回は各回の開講授業のうち1つを受講する。 【第1～12回】 （4 向井利春／3回） フィジカルコンピューティング分野について学ぶ。 （6 山田啓一／2回） データエンジニアリング分野（AI）について学ぶ。 （19 水沼洋人／1回） データエンジニアリング分野（数理情報）について学ぶ。 （5 柳田康幸／3回） ヒューマンメディア分野について学ぶ。 （10 旭健作／3回） ネットワークシステム分野について学ぶ。 【第13～15回】 （1 中野倫明／1回） ヒューマンインターフェースについて扱う。 （2 佐川雄二／1回） 自然言語処理について扱う。 （3 田中敏光／1回） コンピュータグラフィックスについて扱う。 （4 向井利春／1回） ハードウェアセンシングについて扱う。 （5 柳田康幸／1回） バーチャルリアリティについて扱う。 （6 山田啓一／1回） パターン認識について扱う。 （7 山田宗男／1回） 画像工学について扱う。 （8 山本修身／1回） 組み合わせアルゴリズムについて扱う。 （9 吉川雅弥／1回） ハードウェアセキュリティについて扱う。 （10 旭健作／1回） 情報通信工学について扱う。 （11 宇佐見庄五／1回） 誤り訂正符号について扱う。 （12 亀谷由隆／1回） データマイニングについて扱う。 （13 川澄未来子／1回） 感性情報工学について扱う。 （14 小中英嗣／1回） 制御工学について扱う。 （15 鈴木秀和／1回） ユビキタスコンピューティングについて扱う。 （16 坂野秀樹／1回） 音声情報処理について扱う。 （17 米澤弘毅／1回） 医療情報処理について扱う。 （18 野崎佑典／1回） ネットワークセキュリティについて扱う。 （19 水沼洋人／1回） ソフトコンピューティングについて扱う。	オムニバス方式

専門教育部門	情報工学基礎科目	情報工学基礎演習	情報工学科で取り扱うほかの科目を履修する基礎レベルを身に付けることで、情報工学科を卒業するために必要となる知識や技術を習得することと、卒業後の進路を考えることを目的とする。具体的には、レポートのまとめ方、技術文書の構成法、電子メールリテラシー、SNSなどの情報倫理、クラウドを用いた学習法、ライフプランニング、キャリアプランニング、履修計画について学ぶ。	
		テクニカルリテラシー	コンピュータを利用した、読み書き計算の方法と知識を学ぶ。工学の基礎としての資料の収集及び整理・加工、論理的な思考及び資料に基づいた技術レポートの作成法を通して情報技術者としての対外表現方法を身に付けることを目標とする。	
		プラクティカルICT	ICT技術により生産性を高めるために、様々なオンラインサービスが提供されている。本講義では、これらの仕組みの基盤となっているWeb技術(HTML/CSS/REST)の基礎や仕組み、さらに異なるサービス間を相互連携するWebHookやREST APIなどの仕組みについて学ぶ。併せて、チャットツール、分散型バージョン管理システム、軽量テキストマークアップなど、先進的なIT開発分野で標準的に用いられるツールについて実践し、様々な場面で利活用できるスキルを身につけることを目標とする。	
	情報工学専門科目	情報通信ネットワーク	今やインターネットは生活になくてはならない情報基盤となっており、情報を取得・閲覧、発信、交換する仕組みを理解する必要がある。本講義では、インターネットの標準となっているTCP/IPプロトコルについて、位置づけ、基礎技術、応用技術を学修し、TCP/IPで通信する仕組みを理解することを目的とする。	
		情報理論	情報量の概念から応用分野としてのセキュリティまで、幅広く情報理論の諸概念について学ぶ。情報工学の他の分野を専門とする場合でも、情報と通信の土台となる諸概念を取り扱う。特に、情報を効率よく、かつ高い信頼度で伝送するための狭義の情報理論は深く学ぶ。情報量とエントロピー、情報源符号化、通信路符号化について学ぶ。	
		情報セキュリティ	今やインターネットは生活になくてはならない情報基盤となっており、安全に利用するためには正しい情報セキュリティ対策を講じる必要がある。本講義では、インターネットに潜む脅威とそのセキュリティ対策について、暗号技術や認証技術の理論だけでなく、セキュリティプロトコル、ネットワーク、コンピュータ、ネットワークサービス、運用・管理など様々な観点から学修し、情報セキュリティ技術が実際のネットワークシステム等でどのように利用されているか理解することを目的とする。	
		情報通信システム	今やインターネットは生活になくてはならない情報基盤となっており、情報を効率よくかつ安全に取得・閲覧、発信、交換する仕組みを理解する必要がある。本講義では、IPv6やセンサネットワーク、IoT（Internet/Intelligence of Things）やクラウドなど、最新の情報通信システムについて取り上げ、それらの要素技術や仕組みを理解することを目的とする。なお、本講義ではアクティブ・ラーニングの取り組みとして、Society 5.0におけるコンピュータネットワークシステムが果たすべき役割についてディスカッションを実施する。	
		信号伝送論	本講義では、情報理論などの講義を通じて学んだ、情報通信の概念や理論をベースにして、ディジタル通信における信号伝送の具体例について学ぶ。特に、無線通信の変復調と多重化に焦点を当てて進める。	
		符号理論	線形符号を中心とした符号理論を、例を用いて基礎から学ぶ。また、実用的な符号について、符号化・復号アルゴリズムについて学ぶ。関連して、情報源符号化、暗号化についても概説する。通信路符号化の目的と手段が理解でき、検査行列とタナーグラフが相互に導ける。また、ハフマン符号、LZ符号の圧縮展開プログラム及びハミング符号の符号化復号プログラム、LDPC符号の重み分布算出プログラムが理解できることを目標とする。	
		ワイヤレス通信	情報通信ネットワークや信号伝送論で学修した無線通信に関する基礎知識をベースとして、無線LAN、携帯電話システム（4G/5G）、Bluetooth、センサネットワーク、RFIDなど、日常で利用されている無線通信システムに加えて、移動通信を支援する技術やモバイル端末の位置推定に関わる技術などを包括的に学修する。無線通信システムの仕組み及び最新の応用例を理解することを目標とする。	

専門教育部門	情報工学専門科目	コンピュータアーキテクチャⅠ	情報関連の様々な学問を学ぶ上で基礎となるコンピュータの基本的な動作原理の理解を目的とする。まず、コンピュータの基礎を学ぶ。ここでは、どのようにプログラムが実行されるのかについて概観する。次にコンピュータで使用される数値データと基本的な算術・論理演算について学ぶ。そして、コンピュータを構成する基本的な記憶装置と演算装置について説明する。	
		コンピュータアーキテクチャⅡ	コンピュータアーキテクチャⅡは、コンピュータアーキテクチャⅠに続くもので、引き続き、コンピュータの基本的な動作原理の理解を目的とする。まず、コンピュータアーキテクチャの概論について学び、次に、演算器と演算方法について学ぶ。そして、アセンブラ言語について、CASL IIを例に学修する。さらに、制御について、データパスとの関係も含めて学ぶ。	
		ディジタル回路Ⅰ	電子情報システムを効率的に活用したり、将来のシステムの研究開発・設計に携わるには、電子回路の働きを理解することが不可欠である。本講義では、デジタル回路の基本的な知識の修得を目指し、その基礎となる基本論理回路、組合せ論理回路、順序論理回路の考え方と動作などについて説明する。	
		ディジタル回路Ⅱ	順序回路、中でも特に工学的に重要な同期式順序回路の原理と設計法を中心に学ぶ。小規模な同期式順序回路の設計と解析が行えるようになることを目的とする。	
		電気電子回路Ⅰ	電気・電子に関する基礎的な用語や電気電子回路の基本的な考え方を学ぶ。電気電子回路Ⅰでは、定常状態で電源と受動素子からなる線形回路を扱う。前半の直流回路では、電源と受動素子の働き、回路網に関する基本定理を説明する。後半の交流回路では、正弦波交流の表わし方、回路素子の働き、インピーダンスとアドミタンスの考え方、複素数表示による回路の解き方を説明する。また、共振現象や非正弦波交流を学び、信号解析・信号処理の基礎にも触れる。	
		電気電子回路Ⅱ	現代はコンピュータを含むディジタル機器が全盛であるが、物理世界はアナログで動いていおり、ディジタル信号も物理現象として見ればアナログである。ディジタルシステムと物理世界を仲介するアナログ電子回路の基本的な知識の修得と理解を目指し、半導体素子、増幅回路をはじめとする各種アナログ電子回路の考え方と動作について説明する。	
		ディジタル信号処理Ⅰ	多くの情報機器やシステムは、物理世界から信号を入力し、処理を行った後で信号を出力している。物理世界では時間的・量的に連続なアナログ信号を、時間離散的なディジタル信号として扱い、コンピュータにより演算処理する方法の基礎を学修する。	
		ディジタル信号処理Ⅱ	ディジタル信号処理Ⅱでは、ディジタル信号処理Ⅰで学んだ知識を生かし、ディジタル信号を分析する際に必要となる技術や、ディジタル信号を加工する方法などについて学修する。実際の信号に対し、適切な方法で分析を行ったり、適切なディジタルフィルタを設計したりする能力を身に付けることを目標とする。	
		システム制御	本講義では、思い通りに物事を操る「制御」の考え方について学ぶ。基本となるのは、動きのある現象をどのように数学で表すのか(定式化)であり、「応用解析」で学んだ事柄である。これまでは定式化した現象については「見ているだけ(=与えられた条件で式を解くだけ)」で分析や制御は入っていなかったが、本授業では一歩踏み込み、「定式化した現象がどのような特性を持っているのかを知る方法」や、「思い通りに操るための方法」を学ぶ。	
		フィジカルコンピューティング	物理的な世界と、コンピュータ上の仮想的な世界を、様々なインタフェースやデバイス・センサを通して結びつけるシステムや手法について学ぶとともに、それらに必要となる要素技術について学ぶ。	
		ハードウェア記述言語	各種の論理回路を設計するのに、現在ではハードウェア記述言語（HDL：Hardware Description Language）によって論理回路を記述したソフトウェアを作り、これをASICやFPGAに適用する。このため、HDLを修得することは、電子装置や情報処理装置などのものづくりにとって重要なことで、本授業ではHDLで各種電子装置を設計できる能力を身につけることを目的とする。	
		センサ工学	センサは、日常生活、産業、社会のあらゆる場面の大小すべての機器やシステムに必ず用いられている。本講義ではこれら各種センサの仕組みや動作原理、特性について説明する。	

専門教育部門	情報工学専門科目	集積回路設計	組込システムは、携帯電話・自動車・ディジタル家電など、様々なディジタルシステムに用いられており、今後の高度情報化社会を支える基盤情報技術である。本講義では、組込システムを構成するハードウェアを中心に、その概要と設計するための設計技術を理解することを目的とする。	
		アルゴリズム・データ構造	本講義では、アルゴリズムの効率を測る計算量の概念を理解させるために、計算量の解析、性能の実験的な測定及び漸化式を用いた再帰的アルゴリズムの解析など、アルゴリズムの解析の基礎について学修する。また、線形探索法、二分探索法などの基礎的な探索法をはじめ、深さ優先探索、幅優先探索、バックトラック法などの一般探索法についても学修する。	
		オペレーティングシステム	オペレーティングシステムはコンピュータシステム（スパコン、Webサイトから携帯電話、ウェアラブルデバイスまで）の基盤ソフトウェアであり、私達が利用・提供するソフトウェアとハードウェアを仲立ちする存在である。本講義では、デバイス管理・記憶管理・実行管理といったオペレーティングシステムの基本機能、及びファイルシステム・ネットワークといった現在のオペレーティングシステムが提供するサービスについて学ぶ。	
		データベース	データベース及びその管理ソフトウェアは実用的なコンピュータシステムで利用される基盤要素であり、身の回りの情報サービスで必要とする情報は多くの場合データベースに格納されている。本講義では、データベースの基本的な概念や関連技術（問い合わせ言語、データの格納方式、トランザクション処理等）を一通り学ぶ。	
		ソフトウェア工学	情報システムの基盤となるソフトウェアについて、誤りのないソフトウェアを開発するための技術の研究や実践例について学修する。ソフトウェア工学の概念、特にモデル化の考え方と方法を理解することを目的とする。	
		言語・オートマトン	本講義では、コンピュータの学問的基盤として最も重要な項目の１つであるオートマトンと言語理論について学修する。具体的には、オートマトンと形式言語の概要を理解し、各種オートマトンの動作や形式文法、チューリング機械などについて理解することが目的になる。	
		人工知能	これまでの人工知能研究の歴史の中で出されてきた代表的なアイデアを学ぶ。それらは、知的な情報処理をコンピュータで実現するための基礎となるものである。	
		数値解析	数値計算の基本的な手法について学ぶ。数値計算はコンピュータが開発された当初から現実の問題を解くために利用されてきた長い歴史をもっている。本講義では、数値解析の基本について理解することを目的に、この長い歴史の中で培われた手法の基礎的な部分について、重要な話題をピックアップして学ぶ。	
		コンパイラ	コンパイラはオペレーティングシステムと並ぶ重要なシステムソフトウエアである。本授業ではコンパイラの処理を入力である高級プログラミング言語のプログラムから出力である機械語に変換される過程に沿って概観する。それぞれの処理には言語を処理する様々なメカニズムが埋め込まれており、形式言語理論が現実の問題にどのように活かされているかを見て取ることができる。本授業では、授業内容が研究開発にどのように応用されるかについて、実務経験を基に授業を実施する。	
		プログラミング言語論	本講義では関数型言語 Scheme をとりあげ、様々なプログラミング言語で利用されている概念やしくみについて学ぶ。これらには、末尾再帰、クロージャ、遅延評価、マクロなどが含まれる。また、最後の回では論理型プログラミング言語 Prolog について簡単に触れる。全体を通してプロセスやデータをいかに抽象化して扱うかについて学ぶ。本講義を通じて色々なプログラミング言語に共通の概念や仕組みを理解し、かつSchemeを用いて抽象的なプログラミングがある程度自由に書けるようになることを目的とする。	
		パターン認識	パターン認識は、機械（コンピュータ）に外界からの情報を理解し解釈させるための基本的技術であり、多くの情報処理に共通する基礎技術である。本講義の目的は、その基本的アイデアを学ぶことである。	
		応用アルゴリズム	アルゴリズム・データ構造に続き、情報工学分野でよく用いられるアルゴリズム・データ構造を学ぶ。様々なアルゴリズム・データ構造の振る舞いや利点・欠点を学び、直面する問題に適切に応用できるようになることを目的とする。	

専門教育部門	情報工学専門科目	数理計画法	本講義では、数理計画法の基礎を修得させることをねらいとする。数理計画法は、オペレーションズ・リサーチの分野を中心に最もよく利用される手法であるが、その応用範囲は広く、計算機科学、情報工学、システム工学、政策科学、経営学、経済学などにも及んでいる。本講義では、数理計画法の中でも最もポピュラーな線形計画法とその周辺分野を扱う。	
		マルチメディア基礎	マルチメディア技術の概要を紹介する。情報のデジタル化について解説した後、音声・画像・動画像・文書などのメディアをコンピュータで扱うための方法を紹介する。また、実際に使われている各種の画像・動画像フォーマットについても解説する。音声処理や画像処理などマルチメディアを加工するための技術、コンピュータアニメーション、CGなどコンテンツの作成に使われる技術、マルチメディアの応用に関する技術についても解説する。授業内容が研究開発にどのように応用されるかについて、実務経験を基に授業を実施する。CGシステムの開発経験、及び、同一職場での文字認識技術やビジョンシステムの開発に間接的にかかわった経験をもとに、各種技術を紹介する。	
		画像処理	画像情報処理システムを有効に活用することや、将来のシステムの研究開発や設計に携わるには、画像処理を含む画像技術の理解は不可欠である。本講義では、画像のフィルタリングや認識技術等、画像処理システムの設計・開発に必要とされる基本的な技術について説明する。授業内容が研究開発にどのように応用されるかについて、実務経験を基に授業を実施する。	
		コンピュータグラフィックス	コンピュータグラフィックス(CG)の基礎技術であるモデリングとレンダリングから主要な要素技術を選んで解説する。モデリングとは画像を生成するために必要な数値データを作成することで、物体の三次元形状のデザイン、物体表面の色の定義などが含まれる。レンダリングはそのデータを画像に変換する技術で、カメラのシミュレーションを行うことである。隠れ面消去や反射モデル、付影処理、マッピングなどが含まれる。授業内容が研究開発にどのように応用されるかについて、実務経験を基に授業を実施する。モデリング／レンダリングシステムやグラフィックハードの開発に関わった経験を踏まえてCG手法を解説する。	
		コンピュータビジョン	コンピュータビジョンとは、コンピュータで人間の目の機能を実現する技術である。カメラなどのセンサから得られた情報により、物体の三次元的な形状や位置・姿勢あるいは動きを認識するセンシング技術と画像認識技術が主な内容である。本講義では、人間の視覚の仕組みと働き、人間の視覚機能を模擬したコンピュータビジョンの基本的な考え方、及びコンピュータビジョンがどのような応用に結びついているかを説明する。	
		感性情報処理	感性情報処理とは、従来のコンピュータが取り扱ってきた信号や知識といった論理的な情報ではなく、人間の感覚やイメージのような曖昧で主観的な情報を取り扱う分野である。感性情報の表現、定量化、評価、モデル化などの基礎的な技術について、工学的な応用事例を交えながら概説する。授業内容が研究開発にどのように応用されるかについて、実務経験を基に授業を実施する。	
		音声・音響信号処理	音声の基本的性質、音声の生成、音声の生成モデル、音声のスペクトル分析、線形予測分析、音声分析合成システム、音声符号化、HMM音声認識システムなど、音声・音響処理の要素技術の基礎を学び、理解する。	
		バーチャルリアリティ	視覚、聴覚、触覚をはじめとする各種感覚刺激を通して、コンピュータや情報世界と直感的なやりとりを行う、バーチャルリアリティ(VR)技術について学修する。VRの背景と概念の説明から始め、VRを実現するためのシステムとその構成要素のハードウェア、ソフトウェア等について説明する。	
		言語情報処理	自然言語は人間の持つ情報伝達手段の中で最も自然で効率のよい手段であるが、そのメカニズムは十分には解明されておらず、機械的処理の困難な対象である。本授業では、自然言語と形式言語の違いについて学修し、形態素解析や構文解析などの基本的な自然言語処理技術について学ぶ。また、近年急速に需要の高まっている様々な言語アプリケーションについても概観する。本授業では、授業内容が研究開発にどのように応用されるかについて、実務経験を基に授業を実施する。	
		離散数学	本講義では、離散的な対象（コンピュータのデジタル量など）を扱う離散数学の基礎的な用語と概念を理解することを目的とする。これは、コンピュータの論理回路、プログラミング、アルゴリズムとデータ構造、情報理論、人工知能などの幅広い情報工学の基礎となる。本講義では、主として集合と論理、関係と写像、代数系（群・環・体など）、順序集合とブール代数などの基礎を学修する。	

専門教育部門	情報工学専門科目	確率・統計	確率・統計に関する基本的事項を学ぶとともに、工学的にそれらを応用する方法について学ぶ。また、コンピュータ上でR言語などを用い、実際のデータから基本的な統計解析を行う。	
		データサイエンス基礎	データサイエンスに必要となる基本的な統計学・統計解析手法について学ぶとともに、データの可視化や、データサイエンスにおける機械学習の活用方法などについて学ぶ。また、Pythonなどのデータサイエンス・機械学習との親和性の高いプログラミング言語を用いて、実際の大量のデータを対象とした練習問題を通して学ぶ。	
		応用解析	本講義では、①動きのある現象をどのように数学で表すのか(定式化)、②定式化したものをどのように解くのか(解法)を学ぶ。これらの手順はすでに「力学」「電気回路」などの形で、中学以降の理科の授業(特に、高校の「物理」)で扱っているものである。本講義では、物体の運動を定式化する際に微積分が発明されたことから始め、物理現象を微分方程式として表す方法とその解法を学ぶ。	
		電磁気学	電子・通信・情報工学にとって基礎的な科目である電磁気学を学ぶ。本講義では、電磁気学を理論的に学んでいく上で必要となるベクトル解析の基礎についても概説する。	
		プログラミング演習Ⅰ	プログラミングの基礎的知識及び作成技法の修得を目的とする。本授業では、言語固有の事項についてはできる限り触れず、プログラミング一般に共通の概念について学ぶ。プログラミングに必要な基礎的知識を身につけ、簡単なプログラムを作成できるようになることを目的とする。	
		プログラミング演習Ⅱ	プログラミング演習Ⅰにて学修した基礎的知識に加えて、アルゴリズムの実現で必要となる、基本データ構造及び、それを用いた処理、構造化プログラミングなどについて学び、一定の規模の実用的なプログラムを作成できる能力を身につけることを目標とする。	
		プログラミング演習Ⅲ	プログラミング演習Ⅰ及びⅡの復習を行うとともに、比較的高度な要素を解説と演習を通して身に付ける。実践的なプログラムの作成に必要な知識と経験を身に付けることを目的とする。	
		プログラミング演習Ⅳ	近年、モバイル端末向けアプリケーションやWebシステムの開発にオブジェクト指向プログラミング言語が多用されており、複数のプログラミング言語でアプリケーションを開発できる能力が求められている。本講義では、Java言語を用いてオブジェクト指向プログラミングの概念や、イベントドリブンなどを利用したGUIアプリケーション開発及びAndroidアプリケーション開発に必要なプログラミング能力の基礎を身につけることを目的とする。	
		情報工学実験Ⅰ	コンピュータの多様な技術のうち、(1)コンピュータの仕組み、(2)数値計算、(3)音・音声処理、(4)ネットワークに関する実験を行う。各テーマはそれぞれ3回の実験からなり、テーマごとの目標に従って実験し、その結果をまとめながらテーマに関連した基礎的な考え方や技術の定着を計る。 (オムニバス方式・全15回(各回2グループ制・テーマ入替)) (13 川澄未来子・14 小中英嗣・15 鈴木秀和・19 水沼洋人／1回×2グループ) (共同) 実験ガイダンスとして、実験の準備、手引きの読み方、レポートのまとめ方について学ぶ。 (13 川澄未来子・73 藤井俊明／3回×2グループ) (共同) コンピュータの仕組み(ハードウェアコンポーネントの組み立て、オペレーティングシステムのインストールと設定、ドライバ及びアプリケーションのインストールと設定)を扱う。 (14 小中英嗣・72 山口拓真／3回×2グループ) (共同) 数値計算(数値積分、誤差と次数、モンテカルロ法)を扱う。 (19 水沼洋人・72 山口拓真／3回×2グループ) (共同) 音・音声処理(音声の入出力、音声の分析・特徴抽出、音声の加工及び音声の圧縮)を扱う。 (15 鈴木秀和・73 藤井俊明／3回×2グループ) (共同) ネットワーク(ネットワークの基礎と設定、ファイアウォールによる通信の制御、ネットワークの構築)を扱う。 (13 川澄未来子・14 小中英嗣・15 鈴木秀和・19 水沼洋人／2回×2グループ) (共同) レポート指導及び講評、まとめを行う。	オムニバス方式 共同

専門教育部門	情報工学専門科目	情報工学実験Ⅱ	情報工学実験Ⅰで体得したコンピュータに関する基礎的な知識と技術をベースとして、基本的なコンピュータシステムを構築することを目的とする。実験課題を通して、問題の分析・考察、その解決に必要な情報処理技術の検討、プログラミングのデザイン・実装及び評価について学ぶとともに、実験結果の発表やレポート課題を通して、論理的な記述力、口頭発表力、討議等の能力を身につける。実験課題は、１.コンピュータの基礎、２.情報メディアの基礎、３.通信・ネットワークの基礎、４.コンピュータと通信の応用 の４分野で構成されている。 （オムニバス方式・全15回（各回2グループ制・テーマ入替）） （12 亀谷由隆・73 藤井俊明／3回×2グループ）（共同） Linuxサーバ（Linux のインストール、サーバ系ソフトウェアのインストール）を扱う。 （7 山田宗男・74 神道圭造／4回×2グループ）（共同） ロボット（実験装置の概要と動作確認、プログラミングとロボット制御、プレゼンテーションによる実験結果の発表と討論）を扱う。 （3 田中敏光・73 藤井俊明／3回×2グループ）（共同） 画像処理（GIMPを使った対話的な画像処理、OpenCVによる基礎的な画像処理、OpenCVを使った形状認識）を扱う。 （10 旭健作・74 神道圭造／4回×2グループ）（共同） 論理回路（実験装置の概要と動作確認、組合せ回路の設計・製作・評価、順序回路の設計・製作・評価、プレゼンテーションによる実験結果の発表と討論）を扱う。 （3 田中敏光・7 山田宗男・10 旭健作・12 亀谷由隆・73 藤井俊明・74 神道圭造／1回×2グループ）（共同） レポート指導、講評及びまとめを行う。	オムニバス方式 共同
		インターンシップ	インターンシップは、実社会での就業体験を通して社会人・技術者としての資質を養うことを主たる目的とする。企業等において職業体験を行い、社会人として要求される能力や技術者としての基本的な心構え、ならびに社会人としてのマナーなどを体得する。	集中
		グローバルゼミナール	次のような経験や研修を通じて、国際的に活躍するグローバルエンジニアに必要な知識や身につけることを目的とする。 ・海外の学生・研究者との学術交流により、将来の協同作業に必要となる多様な習慣・価値観・考え方を実体験する。 ・スタートアップ企業を含む情報産業系企業の現場を視察し、グローバリズムの重要性を学び、将来の就業に向けて視野を広げる。	集中
		モバイルアプリ開発A	スマートフォンやタブレットなどのモバイルデバイスの急速な普及に伴い、通話やウェブページを閲覧する手段から、画像、音声、位置、動作や生体などの多種多様な情報をセンシングして活用するデバイスへと進化している。このようなモバイルデバイスで使用されるアプリケーションの重要性は日に日に高まっており、産業界においてもモバイルアプリ開発技術者のニーズが非常に高い。本講義では、Android向けモバイルアプリの開発手法を学修する。基本的なAndroidアプリケーションを開発できることを目標とする。	集中
		モバイルアプリ開発B	スマートフォンやタブレットなどのモバイルデバイスの急速な普及に伴い、通話やウェブページを閲覧する手段から、画像、音声、位置、動作や生体などの多種多様な情報をセンシングして活用するデバイスへと進化している。このようなモバイルデバイスで使用されるアプリケーションの重要性は日に日に高まっており、産業界においてもモバイルアプリ開発技術者のニーズが非常に高い。本講義では、iOS向けモバイルアプリの開発手法を学修する。基本的なiOSアプリケーションを開発できることを目標とする。	集中
			卒業研究・就職活動・大学院進学を控えた学生に対し、卒業後の進路を考える上で必要となる情報の提供及び心構えの啓蒙を行う。自己分析法、就職支援サイトの利用法、求人票の見方、インターンシップに対する心構え、エントリーシートの相互レビュー、Web面接の対処法などについて学ぶ。 （オムニバス方式・全15回） （9 吉川雅弥／1回） キャリアガイダンス。授業の構成と受け方について解説する。 （1 中野倫明／1回） フィジカルコンピューティング／ヒューマンインタフェースとキャリアについて解説する。 （4 向井利春／1回） フィジカルコンピューティング／ロボットとキャリアについて解説する。 （6 山田啓一／1回） データエンジニア／AIとキャリアについて解説する。 （8 山本修身／1回） データエンジニア／アルゴリズムとキャリアについて解説する。	

専門教育部門	情報工学専門科目	キャリアゼミナール	（3 田中敏光／1回） ヒューマンメディア／CGとキャリアについて解説する。 （2 佐川雄二／1回） ヒューマンメディア／自然言語処理とキャリアについて解説する。 （11 宇佐見庄五／1回） ネットワークシステム／通信システムとキャリアについて解説する。 （15 鈴木秀和／1回） ネットワークシステム／セキュリティとキャリアについて解説する。 （5 柳田康幸／1回） インターンシップの利用法について解説する。 （12 亀谷由隆／1回） 求人票の見方、学内求人システムの利用法について解説する。 （16 坂野秀樹／1回） 就職支援サイトの利用法について解説する。 （7 山田宗男／1回） 就職試験におけるCBTについて解説する。 （14 小中英嗣／1回） 就職活動とSNSについて解説する。 （13 川澄未来子・10 旭健作・17 米澤弘毅・18 野崎佑典・19 水沼洋人／1回） エントリーシートの相互レビューを行う。	オムニバス方式
		研究ゼミナール	研究を進める上で実践的な内容を学ぶゼミナール。配属研究室において、少人数で教員の指導のもと、配属先の研究室のテーマの基礎及び準備を行う。特に、研究に関連する情報の収集・整理、選考研究の調査、分野に特化したツール・機材の使用方法について学ぶ。	
		情報工学総合ゼミナール	情報工学分野の最先端の研究課題の概要について学ぶとともに、各研究室でどのようにその課題に取り組まれているか見学を行う。各教員によるオムニバス形式での最先端の研究課題の概要の紹介や、研究室の見学を通して、研究がどのように進められているか学ぶ。 （オムニバス方式・全15回） なお、各回の開講授業のうち1つを受講する。 （1 中野倫明／1回） ヒューマンインタフェース・ITS研究の概要を学ぶ。 （2 佐川雄二／1回） 自然言語処理研究の概要を学ぶ。 （3 田中敏光／1回） コンピュータグラフィックス研究の概要を学ぶ。 （4 向井利春／1回） 触覚情報処理を中心とした健康介護機器研究の概要を学ぶ。 （5 柳田康幸／1回） バーチャルリアリティ・五感インタフェース研究の概要を学ぶ。 （6 山田啓一／1回） パターン認識とその応用に関する研究の概要を学ぶ。 （7 山田宗男／1回） 画像センシング研究の概要を学ぶ。 （8 山本修身／1回） アルゴリズム研究の概要を学ぶ。現実の問題に応用可能なグラフアルゴリズムや木探索アルゴリズム等から一つの話題を取り上げ解説する。 （9 吉川雅弥／1回） 集積回路研究の概要を学ぶ。 （10 旭健作／1回） 情報通信工学・信号処理研究の概要を学ぶ。 （11 宇佐見庄五／1回） 情報理論・符号理論研究の概要を学ぶ。 （12 亀谷由隆／1回） 機械学習・データマイニング研究の概要を学ぶ。 （13 川澄未来子／1回） 感性工学・情報デザイン研究の概要を学ぶ。 （14 小中英嗣／1回） システム制御研究について、最近の研究事例に基づき、これまでの授業内容と関連づけて学ぶ。 （15 鈴木秀和／1回） ユビキタスコンピューティングに関する研究の概要を学ぶ。 （16 坂野秀樹／1回） 音声・音響信号処理研究の概要を学ぶ。 （17 米澤弘毅／1回） 医療情報処理の研究を学ぶ。 （18 野崎佑典／1回） ネットワークセキュリティの研究を学ぶ。 （19 水沼洋人／1回） ソフトコンピューティングとその応用について学ぶ。	オムニバス方式

専門教育部門	情報工学専門科目	情報技術の応用と職業	情報技術が実社会でどのように応用されているか、また情報技術に関する職業がどのようなもので、その職業に携わる人がどのように仕事を行っているかを理解することは、自分の将来の仕事を考える上で大変重要である。本授業では、情報技術に関わる複数の教員が、職業や仕事をキーワードとして授業計画に示す内容を分かりやすく解説し、学生の今後の就職にも役立つ情報を提供する。 （オムニバス方式・全15回） （1 中野倫明／2回） 画像・映像技術が活用されている職業を説明し、それらに携わる研究者や技術者の姿を紹介しする。また、我々の生活、社会やビジネスをどのように変えてきたのか、身近な事例を通して紹介する。 （3 田中敏光／2回） 映像メディア・エンタテイメント分野におけるコンピュータグラフィックス(CG)の利用例を示し、CG技術が社会生活にどのように役立っているかを解説する。 （78 古橋洋／2回） ものづくりにおける情報技術導入の目的と課題、さらにその進化がものづくりの姿をどのように変えてきたのかを事例を交えて紹介する。 （11 宇佐見庄五／1回） 通信技術がどのように変遷してきたか、IT革命の本質は何か、今後の情報通信の鍵を握るセキュリティについて学ぶ。 （83 平野智裕／1回） ベンチャー設立と運営、理念、ビジネスモデルの大切さについて学ぶ。 （77 北野克典／2回） 戦略・ミッションの策定を通じて事業化のポイントを分析し、未来設計を考える。また、事業企画・資金調達の方法等、事業化に必要な手法を紹介する。 （79 塩谷尚人／2回） 知的財産権の基本・特許調査及び調査システムについて学ぶ （80 石原嘉市／1回） 製造業の技術者になる就職活動をする前に必要なスキルと考え方を講義する。 （81 伊藤将人／1回） IT技術職として、技術を活用しての社会貢献、業務系のキャリア形成、IT業界の「ものづくり」の起承転結やイメージについて学ぶ。 （82 佐々木裕之／1回） 「仕事」の捉え方、職業人生の構築法について、現在の人事のトレンドを踏まえて学ぶ。	オムニバス方式
		創造的思考法	世界的にグローバル化やIT化が進む中において、新たな価値を生み出すイノベーションの重要性が高まっている。本講義では、イノベーションに不可欠な創造性を養うために、情報や知識を整理、分類、関係付けなど視覚化について、ブレインストーミング、ブレインライティングやマインドマップ等の創造技法をグループワークで実践することにより、新たな発想や知見を生み出すための手法及びプロジェクトの進め方について学ぶ。	
		研究開発リテラシー	各種開発環境や開発補助ツールを各自のPCで使用できる状態にし、基本的な使い方を学ぶ。PBL実験で用いるエディタや統合開発環境のインストールを行い、その基本操作を学ぶとともに、近年のチームによる開発において欠かせないクラウド上の開発チームコミュニケーションシステムや分散型バージョン管理システムについても基本的な使用方法を学ぶ。	
		アプリケーション開発	開発環境や開発補助ツールのより高度な使い方を学ぶとともに、実際にアプリケーション開発を行う。本講義では、PBL実験で用いるプログラミング言語を用いてのアプリケーション開発を主に学ぶが、ここまでに学んだプログラミング言語との違いに焦点を当てて、効率良くその言語の基礎を学び、その言語で簡単なアプリケーションの開発を行えるようにする。また、UI/UXについても学ぶ。	
		PBL概論	プロジェクトの進め方の全体像を知ることで、以降のPBL科目で実施するPBLの取り組み方や効率的に物事を学ぶための方法を意識させる。実装までは行わない一人型のソフトウェア開発を行い、要求定義・設計の各フェーズで振り返りと他の学生との議論を行う。最後は口頭かポスターで発表を行う。	

専門教育部門	情報工学専門科目	先進プロジェクト実験Ⅰ	どのようなシステムを構築するかをディスカッションにより決めた上で役割分担を決定し、実験２テーマを実施する。 （オムニバス方式・全15回） （11 宇佐見庄五・17 米澤弘毅・19 水沼洋人／7回×2グループ）（共同） IoT：センサデバイス等を利用して、機器の状態把握や環境情報のセンシングが可能なIoTシステムの構築と、これらに必要となる情報の提供・管理を行うWebシステムの構築も併せて行い、全体として一定規模となるシステムの構築を行う。 （3 田中敏光・18 野崎佑典／7回×2グループ）（共同） ゲーム：ゲームエンジンを用いたVRゲームの開発を行う。開発にあたっては、3Dモデリング部、音声処理部、VR部、UI/UX部などの担当に分かれた上で、担当間で協調しながら一定規模のゲームの開発を行う。 （3 田中敏光・11 宇佐見庄五・17 米澤弘毅・18 野崎佑典・19 水沼洋人／1回×2グループ）（共同） レポート指導、実験の講評、まとめを行う。	オムニバス方式 共同
		先進プロジェクト実験Ⅱ	企業や自治体等から招聘する講師から提示された実社会に存在する様々な課題を解決するために、ミニハッカソンを実施する。本実験ではこれまでに修得した様々な知識とスキルを複合して応用することにより、課題の分析、課題を解決するアイデアの創造、プログラミングによるアイデアの具現化及び検証・評価のプロセスを体験させる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等のアクティブラーニングを多く取り入れることにより、PBLの実践と定着を図る。学生は講師陣から提示されるテーマの中から２テーマを選択して実践する。 （オムニバス方式・全15回） （4 向井利春・6 山田啓一・12 亀谷由隆・14 小中英嗣・15 鈴木秀和／1回×2グループ）（共同） 全体ガイダンス、講師陣からのテーマ発表、学生によるテーマ選択及びチームビルディングを行う。 （4 向井利春・6 山田啓一／7回×2グループ）（共同） 選択した1つ目のテーマについてミニハッカソンを実施し、チームの成果に対して講師陣が講評を行う。 （12 亀谷由隆・14 小中英嗣・15 鈴木秀和／7回×2グループ）（共同） 選択した2つ目のテーマについてミニハッカソンを実施し、チームの成果に対して講師陣が講評を行う。	オムニバス方式 共同 集中
		先進プロジェクトゼミナール	研究を進める上での基礎的な内容を学ぶとともに、実際に研究室でどのように研究を進めるかを学ぶ。研究のサイクル(調査・テーマ選定→実験など→口頭発表→論文出版、など)、論文の基本的な構成、資料の種類及び研究成果出版までのシステム(査読や学術団体など)、研究室活動の体験を主な内容とする。	
		卒業研究	卒業研究は、それまで授業、演習、実験などで培った能力や知識をベースにし、各人でテーマを設定し、そのテーマについて１年間行うもので、工学教育の真髄である。卒業研究に力の限り取り組むことによって自分のその後の人生が決まるといっても過言ではない。各自、配属先研究室において、テーマを決め、研究を通じて、課題発見、調査・資料収集、課題解決、実装、資料作成、議論、発表の能力を身につける。	

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人名城大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
名城大学				名城大学				
法学部				法学部				
法学科	400	－	1,600	法学科	400	－	1,600	
応用実務法学科	0	－	0	応用実務法学科	0	－	0	
経営学部				経営学部				
経営学科	215	－	860	経営学科	215	－	860	
国際経営学科	95	－	380	国際経営学科	95	－	380	
経済学部				経済学部				
経済学科	210	－	840	経済学科	210	－	840	
産業社会学科	100	－	400	産業社会学科	100	－	400	
理工学部				理工学部				
数学科	90	－	360	数学科	90	－	360	
情報工学科	150	－	600	情報工学科	0	－	0	令和4年4月学生募集停止
電気電子工学科	150	－	600	電気電子工学科	150	－	600	
材料機能工学科	80	－	320	材料機能工学科	80	－	320	
応用化学科	70	－	280	応用化学科	70	－	280	
機械工学科	125	－	500	機械工学科	125	－	500	
交通機械工学科	125	－	500	交通機械工学科	125	－	500	
メカトロニクス工学科	80	－	320	メカトロニクス工学科	80	－	320	
社会基盤デザイン工学科	90	－	360	社会基盤デザイン工学科	90	－	360	
環境創造学科	0	－	0	環境創造学科	0	－	0	
環境創造工学科	80	－	320	環境創造工学科	80	－	320	
建築学科	145	－	580	建築学科	145	－	580	
農学部				農学部				
生物資源学科	110	－	440	生物資源学科	110	－	440	
応用生物化学科	110	－	440	応用生物化学科	110	－	440	
生物環境科学科	110	－	440	生物環境科学科	110	－	440	
薬学部				薬学部				
薬学科（6年制）	265	－	1,590	薬学科（6年制）	265	－	1,590	
都市情報学部				都市情報学部				
都市情報学科	220	－	880	都市情報学科	235	－	940	定員変更（15）
人間学部				人間学部				
人間学科	220	－	880	人間学科	220	－	880	
外国語学部				外国語学部				
国際英語学科	130	－	520	国際英語学科	130	－	520	
				情報工学部				学部の設置（届出）
				情報工学科	180	－	720	
計	3,370	－	14,010	計	3,415	－	14,190	

学校法人名城大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
名城大学大学院				名城大学大学院				
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻(M)	15	—	30	法律学専攻(M)	6	—	12	定員変更（△9）
法律学専攻(D)	8	—	24	法律学専攻(D)	2	—	6	定員変更（△6）
経営学研究科				経営学研究科				
経営学専攻(M)	20	—	40	経営学専攻(M)	10	—	20	定員変更（△10）
経営学専攻(D)	3	—	9	経営学専攻(D)	3	—	9	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	—	20	経済学専攻(M)	3	—	6	定員変更（△7）
経済学専攻(D)	3	—	9	経済学専攻(D)	2	—	6	定員変更（△1）
理工学研究科				理工学研究科				
数学専攻(M)	8	—	16	数学専攻(M)	8	—	16	
数学専攻(D)	2	—	6	数学専攻(D)	2	—	6	
情報工学専攻(M)	30	—	60	情報工学専攻(M)	30	—	60	
電気電子工学専攻(M)	25	—	50	電気電子工学専攻(M)	25	—	50	
材料機能工学専攻(M)	35	—	70	材料機能工学専攻(M)	35	—	70	
応用化学専攻(M)	24	—	48	応用化学専攻(M)	24	—	48	
機械工学専攻(M)	30	—	60	機械工学専攻(M)	30	—	60	
機械工学専攻(D)	5	—	15	機械工学専攻(D)	5	—	15	
交通機械工学専攻(M)	25	—	50	交通機械工学専攻(M)	25	—	50	
メカトロニクス工学専攻(M)	24	—	48	メカトロニクス工学専攻(M)	24	—	48	
社会基盤デザイン工学専攻(M)	18	—	36	社会基盤デザイン工学専攻(M)	18	—	36	
環境創造学専攻(M)	8	—	16	環境創造学専攻(M)	8	—	16	
建築学専攻(M)	16	—	32	建築学専攻(M)	16	—	32	
電気・情報・材料・物質工学専攻(D)	10	—	30	電気・情報・材料・物質工学専攻(D)	10	—	30	
社会環境デザイン工学専攻(D)	5	—	15	社会環境デザイン工学専攻(D)	5	—	15	
農学研究科				農学研究科				
農学専攻(M)	20	—	40	農学専攻(M)	20	—	40	
農学専攻(D)	5	—	15	農学専攻(D)	3	—	9	定員変更（△2）
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(D)(4年制)	4	—	16	薬学専攻(D)(4年制)	4	—	16	
都市情報学研究科				都市情報学研究科				
都市情報学専攻(M)	8	—	16	都市情報学専攻(M)	6	—	12	定員変更（△2）
都市情報学専攻(D)	4	—	12	都市情報学専攻(D)	3	—	9	定員変更（△1）
人間学研究科				人間学研究科				
人間学専攻(M)	8	—	16	人間学専攻(M)	5	—	10	定員変更（△3）
総合学術研究科				総合学術研究科				
総合学術専攻(M)	8	—	16	総合学術専攻(M)	8	—	16	
総合学術専攻(D)	4	—	12	総合学術専攻(D)	4	—	12	
計	385	—	827	計	344	—	735	

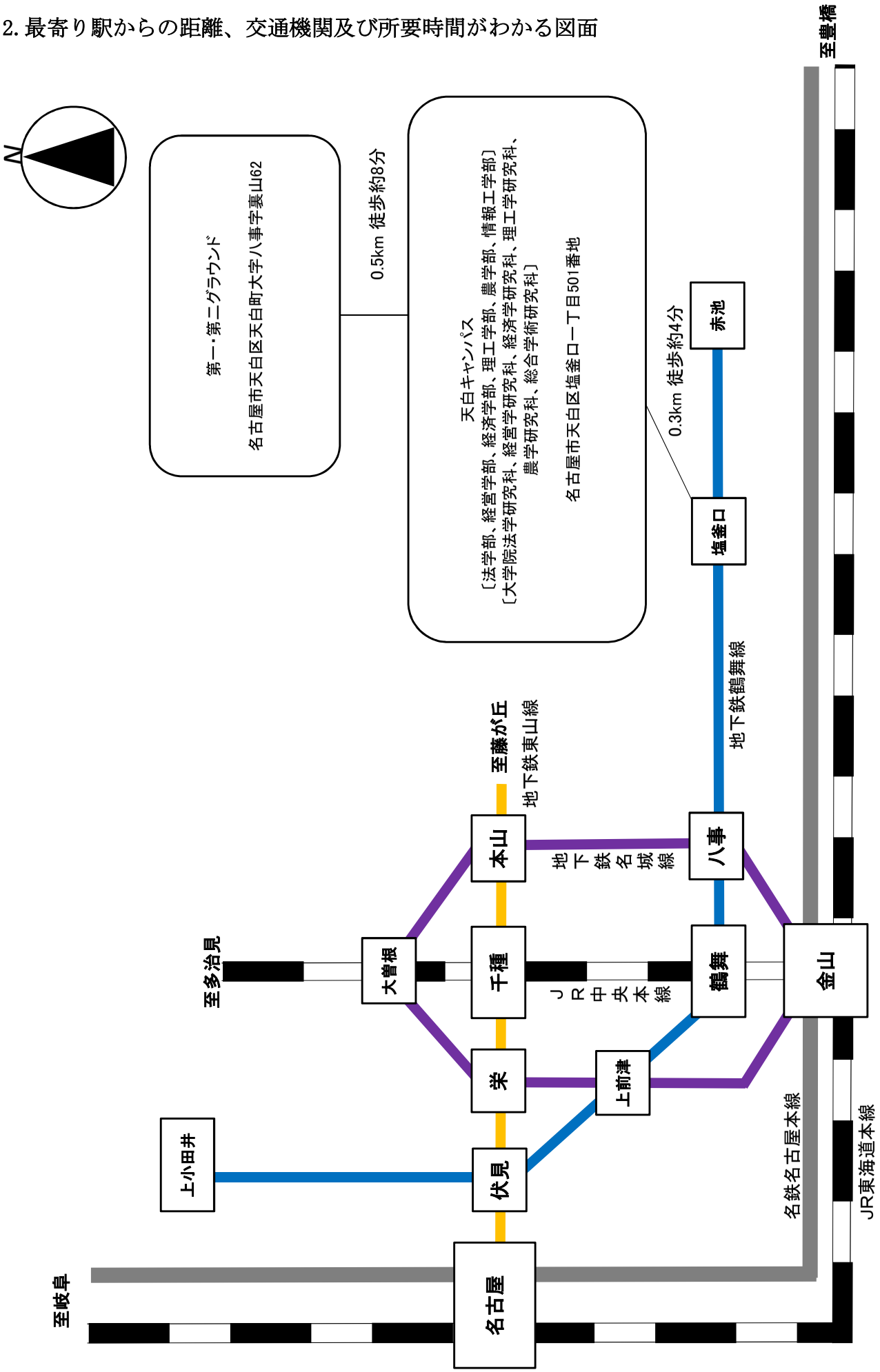
1. 都道府県内における位置関係の図面

※出典：Yahoo! JAPAN「Yahoo!地図」

本学の施設の位置関係を示すため、本学にて地図上にキャンパス名を記入した。

図面ー1

2. 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



図面ー2

名城大学天白キャンパス全体配置図　1：3000

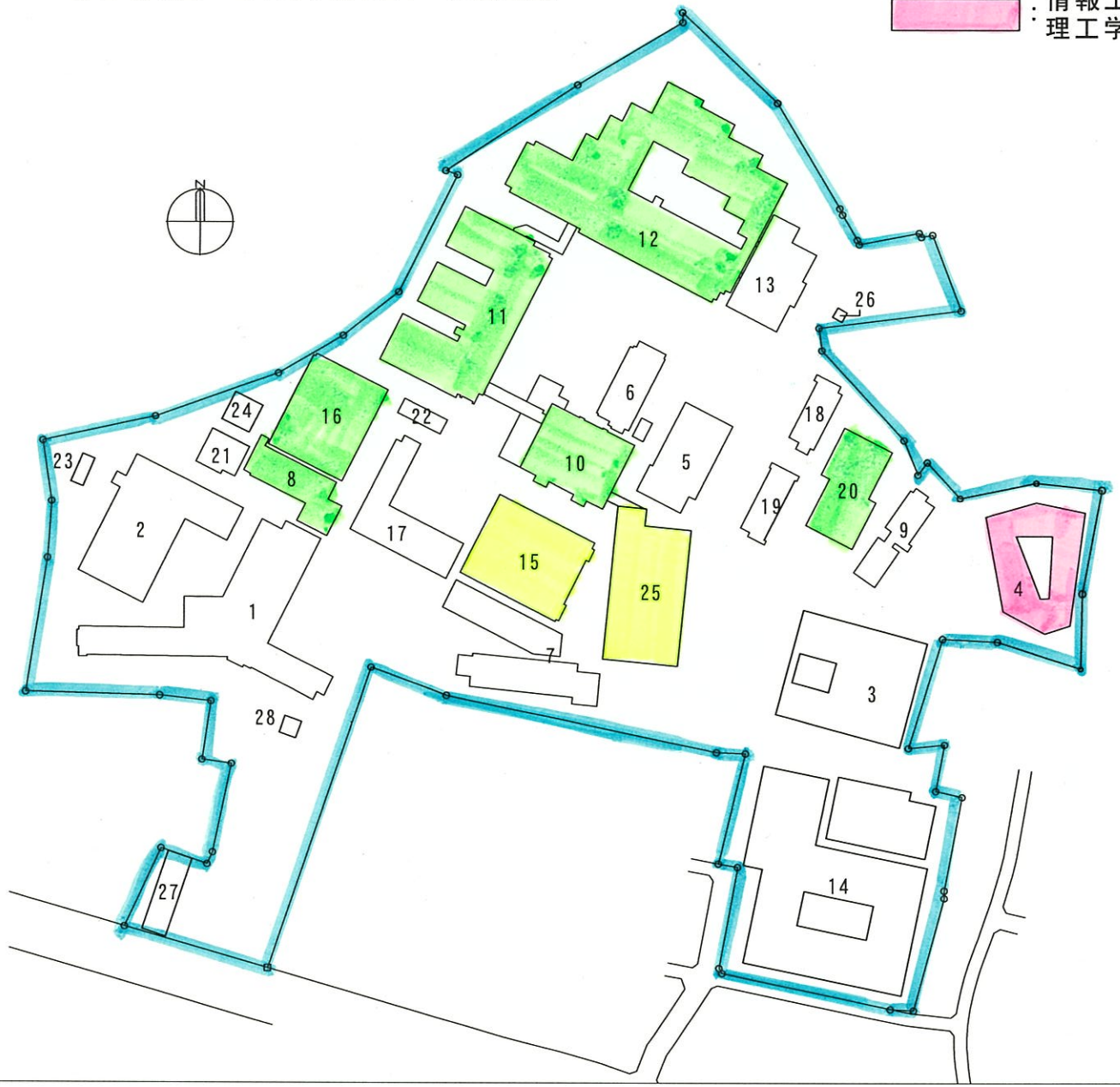
A

：大学所有の校地

情報工学部
：法・経営・経済・理工・農・薬・都市情報・人間・外国語学部
法学・経営学・経済学・理工学・農学・薬学
都市情報学・人間学研究科　共用部分

情報工学部
：法・経営・経済・理工・農学部
法学・経営学・経済学・理工学・農学研究科　共用部分

情報工学部
：理工学部・理工学研究科　共用部分



NO	名　　称
1	2号館
2	3号館
3	研究実験棟Ⅳ
4	研究実験棟Ⅲ
5	9号館
6	10号館
7	11号館
8	12号館
9	13号館
10	タワー７５
11	共通講義棟南
12	共通講義棟北
13	研究実験棟Ⅰ
14	研究実験棟Ⅱ
15	附属図書館
16	体育館
17	本部棟
18	7号館
19	8号館
20	6号館
21	14号館
22	車庫
23	理工機械科倉庫
24	本部附属施設
25	共通講義棟東
26	温室倉庫
27	校友会館
28	守衛棟

天白校舎

校舎敷地	121,955㎡	校舎面積	187,555㎡
その他校地	1,710㎡		
校地面積	123,665㎡		

※申請時に着工の承認がない新築工事、解体工事にかかる建築物については、図面に反映していません。

名城大学第一グラウンド全体配置図　1：1000

C

：大学所有の校地

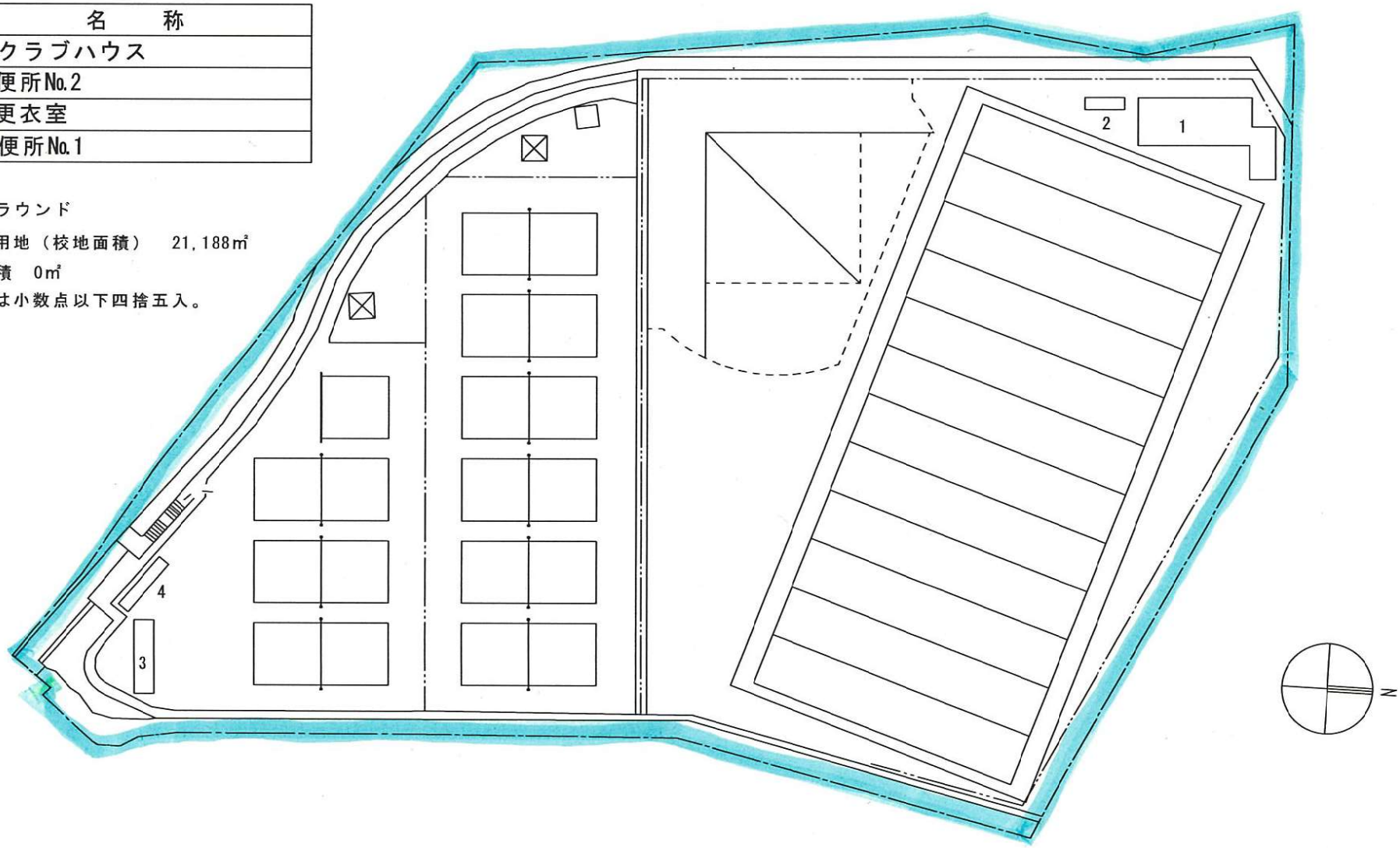
No.	名　　称
1	クラブハウス
2	便所No.2
3	更衣室
4	便所No.1

・第一グラウンド

運動場用地（校地面積）　21,188㎡

校舎面積　0㎡

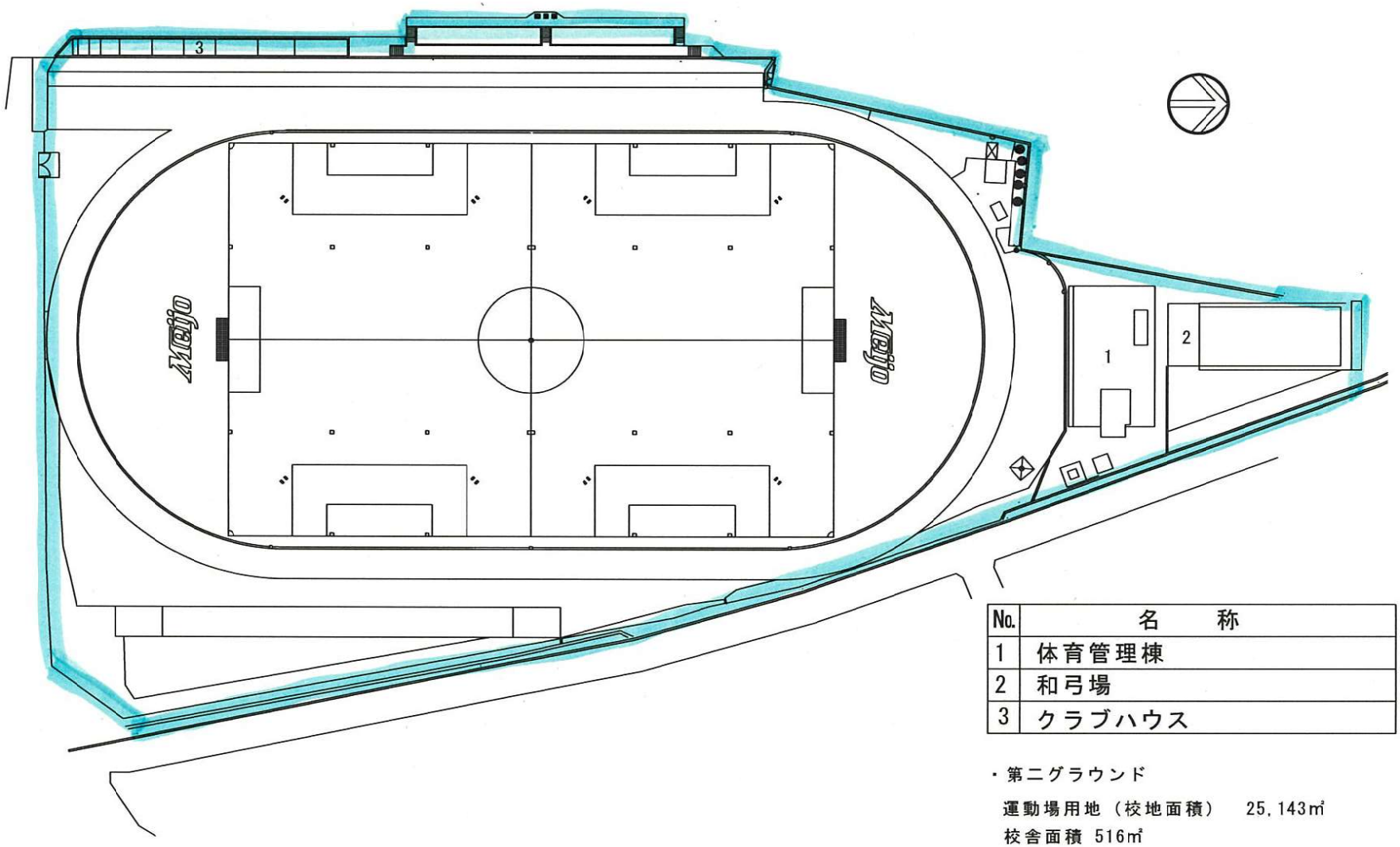
※面積は小数点以下四捨五入。



名城大学第二グラウンド全体配置図 1：1000

C

：大学所有の校地



No.	名　　称
1	体育管理棟
2	和弓場
3	クラブハウス

・第二グラウンド

運動場用地（校地面積）　25,143㎡

校舎面積 516㎡

※面積は小数点以下四捨五入。

（案）

令和４年４月１日改正

名 城 大 学 学 則

名 城 大 学 学 則

第１章　総則

（目的）

第１条　本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、学術の中心として、深く専門の教育研究を行い、合わせて広汎な教養を培い、創造的な知性と豊かな人間性を備えた有能な人材を養成するとともに学術･文化の進展に寄与することを目的とする。

（自己評価等）

第２条　本大学は、その教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

②　前項の点検、評価等に関することは、別に定める。

③　第１項の点検及び評価の結果については、本大学の職員以外の者による検証を行う。

（情報の積極的な提供）

第２条の２　本大学における教育研究活動等の状況については、刊行物への掲載等によって、積極的に情報の提供を行う。

第２章　組織

（学部）

第３条　本大学に、次の学部及び学科を置く。

法学部	法学科
経営学部	経営学科、国際経営学科
経済学部	経済学科、産業社会学科
理工学部	数学科、電気電子工学科、材料機能工学科、応用化学科、機械工学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、環境創造工学科、建築学科
農学部	生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科
薬学部	薬学科
都市情報学部	都市情報学科
人間学部	人間学科
外国語学部	国際英語学科
情報工学部	情報工学科

②　前項の各学部及び学科の収容定員は、別表第１のとおりとする。

（学部の人材の養成に関する目的）

第３条の２　前条に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に関しては、以下のように定める。

（１）　法学部は、法的思考及び法的素養を修得させることにより、社会のみならず自己に対する客観的な視点を持ち、正義感と倫理観を兼ね備えて、自分で考え判断することのできる人材の養成を目的とする。

（２）　経営学部は、国際感覚に富み、幅広い教養に支えられた経営諸科学の理論的・実践的能力を社会の多様な領域で発揮する人材の養成を目的とする。

（３）　経済学部は、経済という一つの窓を通じて社会を見つめ、多様化・複雑化する社会に柔軟に対応できる自立的人間の養成を目的とする。

（４）　理工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する専門知識とその応用力を持ち、科学技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的とする。

（５） 農学部は、生命科学、食料・健康科学、環境科学を基盤とした幅広い専門的学識を有し、洞察力、創造力および実践力を備え、社会に貢献できる人材の養成を目的とする。
（６） 薬学部は、薬学の確かな知識、技能とともに、生命の尊さを知り、豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材の養成を目的とする。
（７） 都市情報学部は、サービスサイエンスの観点から、都市に関する総合的知識とバランス感覚を併せ持ち、まちづくりや組織経営に関する様々な課題を分析し、解決する人材の養成を目的とする。
（８） 人間学部は、人間性への洞察を中核にすえた広い視野と深い教養を持ち、豊かな人間性に裏打ちされ、国際的な舞台でも活躍できるコミュニケーション能力と行動力を備えた人材の養成を目的とする。
（９） 外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。
① グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材
② アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材
③ 日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材
（１０） 情報工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する情報工学の専門知識とその応用力を持ち、情報技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的とする。

（大学院）
第４条 本大学に、大学院を置く。
② 大学院に関することは、別に定める。

（専攻科）
第５条 本大学に、専攻科を置く。
② 専攻科に関することは、別に定める。

（附属施設等）
第６条 本大学に、次の教育研究の施設等を置く。
（１） 研究所
（２） 農学部附属農場
（３） その他附属施設等
② 教育研究の施設等に関することは、別に定める。

（附属図書館）
第７条 本大学に、附属図書館を置く。
② 附属図書館に関することは、別に定める。

（事務組織）
第８条 本大学に、総合企画部、総務部、渉外部、財務部、施設部、東京オフィス、開学 100 周年事業室、社会連携センター、入学センター、学務センター、障がい学生支援センター、大学教育開発センター、学術研究支援センター、キャリアセンター、国際化推進センター、情報センター、附属図書館、学部事務室、ナゴヤドーム前キャンパス事務室及び教職センター事務室を置く。
② 事務組織に関することは、別に定める。

（職員）
第９条 本大学に、学長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員を置く。
② 本大学に、副学長、学部長、講師及びその他必要な職員を置くことができる。

（教授会）
第１０条 各学部に、教授会を置く。
② 教授会は、各学部の教授をもって構成する。ただし、必要に応じ、准教授等専任の教

育職員を参加させ、その他の職員を出席させることができる。
③　教授会は、次の場合に学部長が招集し、その議長となる。
（１）　学部長が必要と認めたとき
（２）　教授会構成員の３分の１以上の要請があったとき
（３）　学長が教授会の招集を要請したとき
④　教授会は、次の事項を審議する。
（１）　教育課程及び成績評価に関する事項
（２）　学生の資格認定及びその身分に関する事項
（３）　教授、准教授、助教、講師、助手等の専任教育職員の教育研究業績の審査及び専任教育職員の進退に関する事項
（４）　教育研究に係る学則の変更に関する事項
（５）　その他教育研究に関する重要な事項
⑤　教授会は､学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
（１）　学生の入学及び卒業に関する事項
（２）　学位の授与に関する事項
（３）　その他教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
⑥　教授会に関することは、別に定める。
（大学協議会）
第１１条　本大学に、大学協議会を置く。
②　大学協議会に関することは、別に定める。
（学部長会）
第１１条の２　本大学に、学部長会を置く。
②　学部長会に関することは、別に定める。

第３章　学年・学期及び休業日

（学年）
第１２条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。
（学期）
第１３条　学年を次の２学期に分ける。
前期　４月１日から９月１３日まで
後期　９月１４日から翌年３月３１日まで
（休業日）
第１４条　休業日は、次のとおりとする。
（１）　日曜日
（２）　国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に定める休日
（３）　夏季休業日　８月上旬から９月１３日まで
（４）　冬季休業日　１２月下旬から翌年１月上旬まで
（５）　春季休業日　２月上旬から３月３１日まで
②　必要がある場合、前項に定めるもののほか、休業日を定め、又は変更することができる。

第４章　修業年限及び在学年限

（修業年限）
第１５条　学部の修業年限は、４年とする。ただし、薬学部においては、６年とする。
（在学年限）
第１６条　学生は、８年を超えて在学することはできない。ただし、第２２条又は第２３

条の規定により入学又は転学部等が許可された者の在学年限は、別に定める。
② 前項の規定にかかわらず、薬学部の在学年限は、１２年とする。

第５章 入学

（入学の時期）
第１７条 本大学の入学の時期は、毎年４月とする。ただし、第１０章及び第１１章に定めるものについては、学期の始めとすることができる。
（入学資格）
第１８条 本大学に、入学できる者は、次の各号の１に該当する者とする。
（１） 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
（２） 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者
（３） 外国において学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定したもの
（４） 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
（５） 専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
（６） 文部科学大臣の指定した者（昭和２３年文部省告示第４７号）
（７） 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
（８） 高等学校に２年以上在学した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したものであって、本大学において、数学の分野における特に優れた資質を有し、かつ、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
（９） 学校教育法第９０条第２項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
（１０） 本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、１８歳に達した者
（入学の出願）
第１９条 本大学に入学を志願する者は、所定の書類を添えて願い出なければならない。
（入学者の選考）
第２０条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。
（入学手続及び入学許可）
第２１条 前条の選考結果に基づき、合格通知を受けた者は、指定する期日までに、所定の入学手続きをしなければならない。
② 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。
（編入学・転入学及び再入学）
第２２条 次の各号の１に該当する者で、編入学、転入学又は再入学（以下「編入学等」という。）を志願する者については、選考のうえ、相当年次に編入学等を許可する。
（１） 大学を卒業した者又は退学した者
（２） 短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者
（３） 専修学校の専門課程（修業年限が２年以上、総授業時数が１,７００時間以上であるものに限る。）を修了した者（ただし、学校教育法第９０条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
（４） 学校教育法施行規則附則第７条に定める従前の規定による高等学校、専門学校若しくは教員養成諸学校等の課程を修了、又は卒業した者
（５） 高等学校の専攻科の課程（修業年限が２年以上であることその他の文部科学大臣

の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（ただし、学校教育法第９０条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

（転学部等）

第２３条　転学部・転学科・コース変更（以下「転学部等」という。）を志願する者については、選考のうえ、当該の学部、学科、コースの相当年次に転学部等を許可する。

第６章　教育課程・履修方法等

（教育課程）

第２４条　教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目とし、選択科目については、学修方法により選択必修科目又は選択科目に区分する。

②　前項に定める教育課程は、各年次に配当して編成するものとする。

③　授業科目、単位数及び卒業要件は、別表第２及び各学部履修要項のとおりとする。

④　第４３条及び第４４条で定める外国人留学生及び帰国子女として入学した者については、前項別表第２に規定する授業科目のほか、別表第３に定める授業科目を置く。

⑤　第４４条の２に定める交換留学生として入学した者については、別表第２に規定する授業科目のほか、別表第３の２に定める授業科目を置く。

⑥　履修方法に関することは、別に定める。

（教育内容等の改善）

第２４条の２　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う。

②　前項の研修及び研究に関することは、別に定める。

（単位）

第２５条　授業科目の単位は、次の各号の基準によるものとする。

（１）　講義及び演習については、１５時間から３０時間までの授業時間をもって１単位とする。

（２）　実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間までの授業時間をもって１単位とする。

②　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることができる。

（単位の授与）

第２６条　授業科目を履修し、試験に合格した者には、所定の単位を与える。

（入学前の既修得単位等の認定）

第２７条　教育上有益と認めるときは、本大学の第１年次に入学した者が、入学前に、次の教育施設等（外国の大学を含む。）において行った学修及び修得した単位を、大学設置基準に定めるところにより、本大学が定める授業科目を履修して修得したものとみなし、６０単位を超えない範囲で認定することができる。

（１）　大学又は短期大学

（２）　短期大学又は高等専門学校の専攻科

（３）　文部科学大臣の定めるもの

（本大学以外における修得単位等の認定）

第２８条　学生が、本大学以外の教育施設等で行った学修及び修得した単位の認定は、前条の規定を準用する。

②　前項の修得したものとみなす単位数は、第２７条により修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えない範囲で認定することができる。

（編入学等及び転学部等の単位等の認定）

第２９条　編入学等及び転学部等をした学生の既に履修した授業科目及び修得した単位は、各学部において認定する。

（多様なメディアを高度に利用して行う授業）

第２９条の２　本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用し

て行う授業を教室等以外の場所で履修させることができる。

（成績）

第３０条　履修科目の成績は、優(A)、良(B)、可(C)及び不可(F)の４種の評語をもって表わし、優(A)、良(B)及び可(C)を合格とする。

第７章　休学・転学・留学・退学等

（休学）

第３１条　疾病その他やむを得ない理由により、３月以上修学することができない者は、学部教授会の議を経て、学部長の許可を得て休学することができる。

②　休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

③　休学期間は、通算して４年を超えることができない。

④　休学期間は、在学年限に算入しない。

（復学）

第３２条　休学期間中にその理由が消滅したときは、学部教授会の議を経て、学部長の許可を得て復学することができる。

（転学）

第３３条　他の大学に入学又は転入学を志願する者は、学部長に願い出て、あらかじめその許可を得なければならない。

（留学）

第３４条　外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学部長の許可を得て留学することができる。

②　留学期間は、第３８条に定める在学期間に含めることができる。

（退学）

第３５条　疾病その他やむを得ない理由により、退学しようとする者は、学部教授会の議を経て、学長の許可を得て退学することができる。

（除籍）

第３６条　次の各号の１に該当する者は、学部教授会の議を経て、学長が除籍する。

（1）　第１６条に定める在学年限を超えた者

（2）　第３１条に定める休学期間を超えてなお修学できない者

（3）　学費を納入しない者

（4）　その他成業の見込みがないと認められる者

（復籍）

第３７条　前条により除籍された者で復籍しようとするものは、学部教授会の議を経て、学長の許可を得て復籍することができる。ただし、前条第１号により除籍された者は除く。

第８章　卒業及び学位の授与

（卒業及び学位の授与）

第３８条　次の各号の１に該当する者には、学部教授会の議を経て、学部長が卒業を認定し、学長は、学士の学位を授与する。

（1）　本大学に４年以上在学し、第２４条に定める１２４以上の単位を修得した者

（2）　本大学に３年以上在学し、別に定める要件を満たした者

第９章　教職課程及び学芸員課程

（教育職員免許状の取得）

第３９条　教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同施行規則に定

める単位を修得しなければならない。
② 教職課程に関する授業科目、単位数、履修方法等は、別表第４のとおりとする。
（教育職員免許状の種類）
第４０条 本大学において、所定の単位を修得した者は、別表第５の教育職員免許状を取得することができる。
(学芸員資格の取得)
第４０条の２ 学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び同施行規則に定める単位を修得しなければならない。
② 学芸員課程に関する授業科目及び単位数は、別表第６のとおりとする。
(教員免許状更新講習)
第４０条の３ 本大学において、教育職員免許法に基づく教員免許状更新講習を開設することができる。
② 教員免許状更新講習に関することは別に定める。

第１０章 科目等履修生及び研究生

（科目等履修生）
第４１条 本大学において、授業科目につき履修することを志願する者については、教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可する。
② 授業科目を履修し、試験に合格した者には、所定の単位を与える。
（研究生）
第４２条 本大学において、専門事項につき研究することを志願する者については、教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究生として入学を許可する。

第１１章 外国人留学生、帰国子女及び交換留学生

（外国人留学生）
第４３条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本大学に入学を志願する者については、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可する。
（帰国子女）
第４４条 帰国子女で、本大学に入学を志願する者については、選考のうえ、帰国子女として入学を許可する。
（交換留学生）
第４４条の２ 本大学との交流協定及び加盟校間の交換留学を推進する団体との協定に基づき海外の大学から本大学へ派遣された者は、選考のうえ、交換留学生として入学を許可する。

第１２章 賞罰

（表彰）
第４５条 学生として表彰に価する行為があった者は、学部教授会及び協議会の議を経て、学長が表彰する。
（懲戒）
第４６条 本大学の規則に違反又は学生としての本分に反する行為をした者は、学部教授会及び大学協議会の議を経て、学長が懲戒する。懲戒の手続き等については、別に定める。
② 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
③ 前項の退学は、次の各号の１に該当する場合に行う。
（１） 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（２） 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第１３章　厚生施設

（学生寮等）
第４７条　本大学に、学生寮等を置く。
②　学生寮等に関することは、別に定める。

第１４章　公開講座

（公開講座）
第４８条　市民及び地域社会の教育文化の発展に貢献するため、本大学に公開講座を開設することができる。
②　公開講座に関することは、別に定める。

第１５章　学費等

（学費等）
第４９条　学費等の種類及びその額は、学校法人名城大学の設置する学校の学費等に関する規則に定めるところによる。

附　則
この学則は、昭和４２年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和４６年４月１日から施行する。ただし、第３０条、第３１条、第３２条、第３７条、第３８条及び第３８条の２は、昭和４６年度入学者から適用する。

附　則
この学則は、昭和４７年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和４８年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和４９年４月１日から施行する。ただし、第２５条及び第２５条の２は、昭和４９年度入学者から適用する。

附　則
この学則は、昭和５０年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和５０年９月１９日から施行する。

附　則
この学則は、昭和５１年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和５２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和５５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和５５年４月１日から施行する。ただし、第３４条第４号は、昭和５５年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、昭和５６年４月１日から施行する。ただし、第２８条第４号及び第２８条の２第４号は、昭和５６年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、昭和５７年４月１日から施行する。ただし、第２５条の３、第３０条及び第３１条は、昭和５７年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、昭和５８年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和５８年４月１日から施行し、昭和５８年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、昭和５９年４月１日から施行する。ただし、第３０条の２及び第３１条の２は、昭和５９年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、昭和６０年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和６０年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和６０年５月３０日から施行する。ただし、第３８条の２は、昭和６０年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、昭和６１年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和６１年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和６１年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和６２年４月１日から施行する。ただし、第２条第２項の規定にかかわらず、昭和６２年度から平成７年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	４５０名	１，８００名
法学部二部	法学科	２００名	８００名

商学部一部	商学科	２５０名	１，０００名
	経済学科	２５０名	１，０００名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	８０名	３２０名
	電気電子工学科	１２０名	４８０名
	機械工学科	１２０名	４８０名
	交通機械学科	１２０名	４８０名
	土木工学科	１２０名	４８０名
	建築学科	１２０名	４８０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１２０名	４８０名
薬学部	薬学科	１６０名	６４０名
	製薬学科	８０名	３２０名
合計		２，９００名	１１，６００名

附　則

① この学則は、昭和６２年４月１日から施行する。ただし、第２８条及び第２８条の３は、昭和６２年４月１日から適用する。

② 第２５条第１号及び第２５条の４第１号に規定する「情報処理概論Ａ・Ｂ」は、昭和６３年４月１日から適用する。

附　則

この学則は、昭和６３年４月１日から施行する。ただし、第２８条の２第１号、同条第４号及び第２８条の４第１号並びに同条第４号は、昭和６３年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、平成元年４月１日から施行する。ただし、第２８条の５は、平成元年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、平成２年４月１日から施行し、平成２年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、平成２年４月１日から施行する。

附　則

① この学則は、平成３年４月１日から施行し、平成２年４月１日以後に入学する者から適用する。

② 平成２年３月３１日に在学している者は、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

① 第２条第２項及び附則（昭和６２年４月１日施行）の学生定員にかかわらず、平成３年度から平成１１年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

（1） 平成３年度から平成７年度まで

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	４５０名	１，８００名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	２５０名	１，０００名
	経済学科	２５０名	１，０００名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	８０名	３２０名
	電気電子工学科	１４０名	５６０名
	機械工学科	１４０名	５６０名
	交通機械学科	１４０名	５６０名
	土木工学科	１４０名	５６０名
	建築学科	１４０名	５６０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１２０名	４８０名
薬学部	薬学科	１６０名	６４０名
	製薬学科	８０名	３２０名
合計		３，０００名	１２，０００名

（2） 平成８年度から平成１１年度まで

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	４００名	１，６００名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	２００名	８００名
	経済学科	２００名	８００名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	８０名	３２０名
	電気電子工学科	１４０名	５６０名
	機械工学科	１４０名	５６０名
	交通機械学科	１４０名	５６０名
	土木工学科	１４０名	５６０名
	建築学科	１４０名	５６０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１２０名	４８０名
薬学部	薬学科	１６０名	６４０名
	製薬学科	８０名	３２０名
合計		２，８５０名	１１，４００名

② この学則は、平成３年４月１日から施行する。

附　則

① この学則は、平成３年４月１日から施行し、第３０条第４号(1)及び第３１条第１項第４号のうち、数学科に係る規定は、平成３年４月１日以後に入学する者から適用し、第４４条第２項は、平成２年４月１日以後に聴講が許可された者から適用する。

② 平成３年３月３１日に在籍している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成３年１０月１日から施行し、平成３年７月１日から適用する。

附　則

① この学則は、平成４年４月１日から施行する。

② 平成４年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、第２４条に定める教育課程の適用に関する経過措置については、別に定める。

附　則

この学則は、平成５年４月１日から施行する。ただし、平成５年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成６年４月１日から施行する。ただし、平成６年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

① この学則は、平成７年４月１日から施行する。ただし、平成７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

② 別表第１（第３条第２項関係）及び附則（平成３年４月１日施行）の学生定員にかかわらず、平成７年度から平成１１年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

(1) 平成７年度

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	４３０名	１，７２０名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	２３５名	９４０名
	経済学科	２３５名	９４０名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	７０名	２８０名
	電気電子工学科	１４０名	５６０名
	機械工学科	１３０名	５２０名
	交通機械学科	１４０名	５６０名
	土木工学科	１４０名	５６０名
	建築学科	１３０名	５２０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１１０名	４４０名

薬学部	薬学科	１５０名	６００名
	製薬学科	８０名	３２０名
都市情報学部	都市情報学科	２００名	８００名

（２） 平成８年度から１１年度まで

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	３８０名	１，５２０名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	１８５名	７４０名
	経済学科	１８５名	７４０名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	７０名	２８０名
	電気電子工学科	１４０名	５６０名
	機械工学科	１３０名	５２０名
	交通機械学科	１４０名	５６０名
	土木工学科	１４０名	５６０名
	建築学科	１３０名	５２０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１１０名	４４０名
薬学部	薬学科	１５０名	６００名
	製薬学科	８０名	３２０名
都市情報学部	都市情報学科	２００名	８００名

附　則

① この学則は、平成８年４月１日から施行する。

② 従前の薬学部薬学科及び製薬学科は、改正後の規定にかかわらず、平成８年３月３１日に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

③ 別表第１（第３条第２項関係）及び附則（平成７年４月１日施行）の学生定員にかかわらず、平成８年度から平成１１年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部一部	法学科	４３０名	１，７２０名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	２３５名	９４０名
	経済学科	２３５名	９４０名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	７０名	２８０名
	電気電子工学科	１４０名	５６０名
	機械工学科	１３０名	５２０名
	交通機械学科	１４０名	５６０名
	土木工学科	１４０名	５６０名
	建築学科	１３０名	５２０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名

	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１１０名	４４０名
薬学部	医療薬学科	１１５名	４６０名
	薬学科	１１５名	４６０名
都市情報学部	都市情報学科	２００名	８００名

附　則

この学則は、平成９年４月１日から施行する。

附　則

① この学則は、平成１１年４月１日から施行する。

② 従前の法学部一部法学科、法学部二部法学科、商学部一部商学科、経済学科、商学部二部商学科、理工学部一部数学科、電気電子工学科、機械工学科、交通機械学科、土木工学科、建築学科、理工学部二部数学科、電気電子工学科、機械工学科、交通機械学科、土木工学科、建築学科、農学部農学科、農芸化学科は、改正後の規定にかかわらず、平成１１年３月３１日に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

③ 別表第１（第３条第２項関係）及び附則（平成８年４月１日施行）の学生定員にかかわらず、平成１１年度の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員		収容定員	
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース
法学部	法学科	３８０名	５０名	１，５２０名	２００名
	応用実務法学科	５０名	１５０名	２００名	６００名
商学部	商学科	２３５名	２００名	９４０名	８００名
	経済学科	２３５名		９４０名	
理工学部	数学科	７０名	５０名	２８０名	２００名
	電気電子工学科	１４０名	８０名	５６０名	３２０名
	機械工学科	１３０名	８０名	５２０名	３２０名
	交通機械学科	１４０名	５０名	５６０名	２００名
	土木工学科	１４０名	５０名	５６０名	２００名
	建築学科	１３０名	８０名	５２０名	３２０名
農学部	生物資源学科	１１５名		４６０名	
	応用生物化学科	１１５名		４６０名	
薬学部	医療薬学科	１１５名		４６０名	
	薬学科	１１５名		４６０名	
都市情報学部	都市情報学科	２００名		８００名	

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

附　則

この学則は、平成１１年４月１日から施行する。

附　則

① この学則は、平成１２年４月１日から施行する。

② 従前の商学部商学科、経済学科、理工学部機械工学科、交通機械学科、土木工学科は、改正後の規定にかかわらず、平成１２年３月３１日に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

③ 別表第１（第３条第２項関係）の学生定員にかかわらず、平成１２年度から平成１６年度までの学生定員は、次のとおりとする。

（１） 平成１２年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	375 名	50 名	1，500 名	200 名	1，700 名
	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名
経営学部	経営学科	160 名	60 名	640 名	240 名	880 名
	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名
経済学部	経済学科	120 名	40 名	480 名	160 名	640 名
	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名
理工学部	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	電気電子工学科	108 名	45 名	432 名	180 名	612 名
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	機械システム工学科	108 名	45 名	432 名	180 名	612 名
	交通科学科	98 名	45 名	392 名	180 名	572 名
	建設システム工学科	98 名	45 名	392 名	180 名	572 名
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	建築学科	98 名	50 名	392 名	200 名	592 名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合　　計		2，285 名	790 名	9，140 名	3，160 名	12，300 名

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

（２） 平成１３年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	370 名	50 名	1，480 名	200 名	1，680 名
	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名
経営学部	経営学科	155 名	60 名	620 名	240 名	860 名
	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名
経済学部	経済学科	115 名	40 名	460 名	160 名	620 名
	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名
理工学部	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	電気電子工学科	106 名	45 名	424 名	180 名	604 名
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	機械システム工学科	106 名	45 名	424 名	180 名	604 名
	交通科学科	96 名	45 名	384 名	180 名	564 名
	建設システム工学科	96 名	45 名	384 名	180 名	564 名
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	建築学科	96 名	50 名	384 名	200 名	584 名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合　　計		2，260名	790 名	9，040名	3，160 名	12，200名

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

（３） 平成１４年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	365 名	50 名	1，460 名	200 名	1，660 名
	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名
経営学部	経営学科	150 名	60 名	600 名	240 名	840 名
	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名
経済学部	経済学科	110 名	40 名	440 名	160 名	600 名
	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名
理工学部	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	電気電子工学科	104 名	45 名	416 名	180 名	596 名
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	機械システム工学科	104 名	45 名	416 名	180 名	596 名
	交通科学科	94 名	45 名	376 名	180 名	556 名
	建設システム工学科	94 名	45 名	376 名	180 名	556 名
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	建築学科	94 名	50 名	376 名	200 名	576 名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合	計	2，235 名	790 名	8，940 名	3，160 名	12，100 名

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

（４） 平成１５年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	360名	50名	1，440名	200名	1，640名
	応用実務法学科	50名	150名	200名	600名	800名
経営学部	経営学科	145名	60名	580名	240名	820名
	国際経営学科	70名	40名	280名	160名	440名
経済学部	経済学科	105名	40名	420名	160名	580名
	産業社会学科	110名	60名	440名	240名	680名
理工学部	数学科	50名	40名	200名	160名	360名
	情報科学科	60名	40名	240名	160名	400名
	電気電子工学科	102名	45名	408名	180名	588名
	材料機能工学科	60名	40名	240名	160名	400名
	機械システム工学科	102名	45名	408名	180名	588名
	交通科学科	92名	45名	368名	180名	548名
	建設システム工学科	92名	45名	368名	180名	548名
	環境創造学科	60名	40名	240名	160名	400名
	建築学科	92名	50名	368名	200名	568名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合	計	2，210 名	790 名	8，840 名	3，160 名	12，000 名

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

（５） 平成１６年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	355 名	50 名	1，420 名	200 名	1，620 名
	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名
経営学部	経営学科	140 名	60 名	560 名	240 名	800 名
	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名
経済学部	経済学科	100 名	40 名	400 名	160 名	560 名
	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名
理工学部	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	電気電子工学科	100 名	45 名	400 名	180 名	580 名
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	機械システム工学科	100 名	45 名	400 名	180 名	580 名
	交通科学科	90 名	45 名	360 名	180 名	540 名
	建設システム工学科	90 名	45 名	360 名	180 名	540 名
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	建築学科	90 名	50 名	360 名	200 名	560 名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合	計	2，185 名	790 名	8，740 名	3，160 名	11，900 名

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

附　則

この学則は、平成１２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１２年４月１日から施行する。ただし、平成１２年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成１２年６月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１２年１２月６日から施行する。

附　則

この学則は、平成１３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１４年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１８年１月２６日から施行する。

附　則
この学則は、平成１８年４月１日から施行する。ただし、平成１８年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附　則
この学則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則
①　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。
②　第９条第２項に規定するその他必要な職員として、当分の間、助教授を置くことができるものとする。

附　則
この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２０年８月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２１年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２３年４月１日から施行し、平成２３年度入学者から適用する。ただし、平成２３年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２３年４月１日から施行する。ただし、平成２３年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、平成２４年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、平成２４年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、平成２４年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２４年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２５年４月１日から施行し、平成２５年度入学者から適用する。ただし、平成２５年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２５年４月１日から施行し、平成２５年度入学者から適用する。ただし、平成２５年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２５年４月１日から施行する。ただし、平成２５年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２７年４月１日から施行し、平成２７年度入学者から適用する。ただし、平成２７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

① この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

② 法学部法学科及び応用実務法学科については、平成２８年４月１日から適用する。ただし、平成２８年３月３１日に在学している者については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２８年４月１日から施行する。

附　則

① この学則は、平成２８年４月１日から施行する。ただし、平成２８年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

② 法学部応用実務法学科は、平成２８年４月から募集を停止し、当該学科に在学している者がいなくなった時に廃止する。

附　則

この学則は、平成２８年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２８年４月１日から施行する。ただし、平成２８年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２８年９月１４日から施行する。

附　則

この学則は、平成２９年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、平成２９年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２９年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成３１年４月１日から施行し、平成３１年度入学者から適用する。ただし、平成３１年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成３１年４月１日から施行する。ただし、平成３１年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成３１年４月１日から施行する。ただし、平成３１年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成３２年４月１日から施行し、平成 32 年度入学者から適用する。ただし、平成３２年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成３２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、令和２年４月１日から施行する。ただし、令和２年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、令和２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、令和２年６月１日から施行する。

附　則

この学則は、令和３年４月１日から施行する。ただし、令和３年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、令和３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、令和４年４月１日から施行し、令和４年度入学者から適用する。ただし、令和４年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第１（第３条第２項関係）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法学科	４００名	１，６００名
経営学部	経営学科	２１５名	８６０名
	国際経営学科	９５名	３８０名
経済学部	経済学科	２１０名	８４０名
	産業社会学科	１００名	４００名
理工学部	数学科	９０名	３６０名
	電気電子工学科	１５０名	６００名
	材料機能工学科	８０名	３２０名
	応用化学科	７０名	２８０名
	機械工学科	１２５名	５００名
	交通機械工学科	１２５名	５００名
	メカトロニクス工学科	８０名	３２０名
	社会基盤デザイン工学科	９０名	３６０名
	環境創造工学科	８０名	３２０名
	建築学科	１４５名	５８０名
農学部	生物資源学科	１１０名	４４０名
	応用生物化学科	１１０名	４４０名
	生物環境科学科	１１０名	４４０名
薬学部	薬学科	２６５名	１，５９０名
都市情報学部	都市情報学科	２２０名	８８０名
人間学部	人間学科	２２０名	８８０名
外国語学部	国際英語学科	１３０名	５２０名
情報工学部	情報工学科	１８０名	７２０名
合　　計		３，４００名	１４，１３０名

別表第２（第２４条第３項関係）

１（法学部法学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	哲学Ⅰ		2	
	哲学Ⅱ		2	
	倫理学Ⅰ		2	
	倫理学Ⅱ		2	
	国文学Ⅰ		2	
	国文学Ⅱ		2	
	外国文学Ⅰ		2	
	外国文学Ⅱ		2	
	日本史		2	
	外国史		2	
	地理学		2	
	地誌学		2	
	自然地理学		2	
	社会学Ⅰ		2	
	社会学Ⅱ		2	
	心理学Ⅰ		2	
	心理学Ⅱ		2	
	経済学Ⅰ		2	
	経済学Ⅱ		2	
	会計学Ⅰ		2	
	会計学Ⅱ		2	
	論理的思考法		2	
	社会科学のための数学Ⅰ		2	
	社会科学のための数学Ⅱ		2	
	情報リテラシーⅠ		2	
	情報リテラシーⅡ		2	
	ボランティア入門		2	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	教養特設科目Ａ		4	
	教養特設科目Ｂ		2	
	実践英語Ⅰ		1	
	実践英語Ⅱ		1	
	実践英語Ⅲ		1	
	実践英語Ⅳ		1	
	英語講読Ⅰ		1	
	英語講読Ⅱ		1	
	英語講読Ⅲ		1	
	英語講読Ⅳ		1	
	英会話Ⅰ		1	

	英会話Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	ドイツ語Ⅴ		1	
	ドイツ語Ⅵ		1	
	応用ドイツ語		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅴ		1	
	フランス語Ⅵ		1	
	応用フランス語		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	中国語Ⅴ		1	
	中国語Ⅵ		1	
	応用中国語		1	
	生涯体育		2	
	健康スポーツと実践		2	
	生涯スポーツと実践		2	
共通部門	法学入門		4	
	政治学入門		4	
	外国語文献講読		2	
	特設科目Ａ		4	
	特設科目Ｂ		2	
演習部門	基礎演習Ⅰ		2	
	基礎演習Ⅱ		2	
	応用演習Ⅰ		2	
	応用演習Ⅱ		2	
	専門演習Ⅰ		4	
	専門演習Ⅱ		4	
基礎法学部門	法哲学		4	
	法社会学		4	
	日本法制史		4	
	日本近代法史		4	
	西洋法制史		4	
	東洋法史論		4	
	比較法		2	
	外国法Ⅰ		2	
	外国法Ⅱ		2	

公法部門	憲法Ⅰ		4	
	憲法Ⅱ		4	
	行政法Ⅰ		4	
	行政法Ⅱ		4	
	行政法Ⅲ		2	
	環境法		2	
	地方自治法		4	
	租税法		4	
刑事法部門	刑法Ⅰ		4	
	刑法Ⅱ		4	
	刑事訴訟法		4	
	刑事政策		4	
民事法部門	民法Ⅰ		4	
	民法Ⅱ		4	
	民法Ⅲ		4	
	民法Ⅳ		4	
	民法Ⅴ		4	
	民事訴訟法		4	
	民事執行法		4	
	倒産法		4	
	消費者法		2	
企業・社会法部門	企業法Ⅰ		4	
	企業法Ⅱ		4	
	企業法Ⅲ		4	
	企業法Ⅳ		4	
	労働法		4	
	経済法		4	
	社会保障法		4	
	知的財産法		4	
政治学部門	政治史		4	
	政治思想史		4	
	政治過程論		4	
	現代日本政治		4	
	国際政治学		4	
	行政学		4	
	国際政治史		4	
国際法部門	国際法		4	
	国際私法		4	
	国際組織法		2	
	国際人権法		2	
	国際取引法		2	

② 卒業に必要な要件

選択科目　　124単位以上

２の１（経営学部経営学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	歴史と文化		2	
	文学と人間		2	
	欧米文化論		2	
	アジア文化論		2	
	哲学		2	
	心の科学		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	政治と社会		2	
	社会学		2	
	ジェンダーと社会		2	
	物質の成り立ち		2	
	生命の多様性		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
	英語（リーディング）Ⅰ	1		
	英語（リーディング）Ⅱ	1		
	英語（コミュニケーション）Ⅰ	1		
	英語（コミュニケーション）Ⅱ	1		
	英語（リーディング）Ⅲ		1	
	英語（リーディング）Ⅳ		1	
	英語（コミュニケーション）中級Ⅰ		1	
	英語（コミュニケーション）中級Ⅱ		1	
	英語特別演習Ⅰ		1	
	英語特別演習Ⅱ		1	
	英語実践演習Ⅰ		2	
	英語実践演習Ⅱ		2	
	英語実践演習Ⅲ		2	
	英語実践演習Ⅳ		2	
	フランス語入門Ⅰ		1	
	フランス語入門Ⅱ		1	
	フランス語初級Ⅰ		1	
	フランス語初級Ⅱ		1	
	フランス語応用Ⅰ		1	
	フランス語応用Ⅱ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	ドイツ語入門Ⅰ		1	

	ドイツ語入門Ⅱ		1	
	ドイツ語初級Ⅰ		1	
	ドイツ語初級Ⅱ		1	
	ドイツ語応用Ⅰ		1	
	ドイツ語応用Ⅱ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	中国語入門Ⅰ		1	
	中国語入門Ⅱ		1	
	中国語初級Ⅰ		1	
	中国語初級Ⅱ		1	
	中国語応用Ⅰ		1	
	中国語応用Ⅱ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	ハングル入門Ⅰ		1	
	ハングル入門Ⅱ		1	
	ハングル初級Ⅰ		1	
	ハングル初級Ⅱ		1	
	ハングル応用Ⅰ		1	
	ハングル応用Ⅱ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	フランス語特別演習Ⅰ		1	
	フランス語特別演習Ⅱ		1	
	中国語特別演習Ⅰ		1	
	中国語特別演習Ⅱ		1	
	情報処理実習		1	
	プログラミング実習		1	
	情報社会と倫理		2	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		2	
	健康科学論		2	
	基本簿記	4		
	現代経済入門		2	

専門基礎部門	会計学入門		2	
	ファイナンス入門		2	
	経営学入門		2	
	流通入門		2	
	マーケティング入門		2	
	統計学入門		2	
	経営分析入門		2	
	キャリア・デザイン論		2	
マネジメント部門	経営史		2	
	国際比較経営史		2	
	現代企業論		2	
	経営管理史		2	
	現代経営管理論		2	
	国際経営論		2	
	ワーク・ライフ・バランス論		2	
	人的資源管理論		2	
	経営組織論		2	
	コーポレート・ガバナンス論		2	
	ベンチャービジネス論		2	
	中小企業論		2	
	経営戦略論		2	
	生産管理論		2	
	ネットワーク組織論		2	
	環境経営論		2	
	労働衛生論		2	
マーケティング部門	マーケティング論		2	
	マーケティング戦略論		2	
	消費者行動論		2	
	マーケティング・コミュニケーション論		2	
	国際流通論		2	
	国際マーケティング論		2	
	マーケティング・リサーチ論		2	
	サービス･マーケティング論		2	
	グリーン･マーケティング論		2	
	マーケティング情報システム論		2	
	小売企業経営論		2	
	卸売企業経営論		2	
	プロダクト･デザイン論		2	
	プロダクト･デザイン実習		2	
	ロジスティクス論		2	
	ソーシャル･マーケティング論		2	
	上級簿記Ⅰ		2	
	上級簿記Ⅱ		2	
	中級簿記		2	

会計・ファイナンス部門	工業簿記		2	
	原価計算論		2	
	経営分析論		2	
	金融論		2	
	金融政策論		2	
	金融商品取引論		2	
	企業財務論		2	
	財務会計論Ⅰ		2	
	財務会計論Ⅱ		2	
	財務会計論Ⅲ		2	
	原価管理論		2	
	管理会計論Ⅰ		2	
	管理会計論Ⅱ		2	
	会計監査論		2	
	税務会計論		2	
	キャッシュフロー会計論		2	
	国際会計論		2	
	非営利組織体会計論		2	
	社会環境会計論		2	
	財務戦略論		2	
	国際金融システム論		2	
	国際金融機関論		2	
経営科学・情報システム部門	経営数学		2	
	情報システム論		2	
	統計学Ⅰ		2	
	統計学Ⅱ		2	
	経営科学Ⅰ		2	
	経営科学Ⅱ		2	
	システム設計Ⅰ		2	
	システム設計Ⅱ		2	
	経営シミュレーションⅠ		2	
	経営シミュレーションⅡ		2	
	経済データ実習		2	
	経営データ実習		2	
	意思決定の科学		2	
経済学・法学部門	ミクロ経済学入門		2	
	マクロ経済学入門		2	
	現代産業組織論		2	
	情報産業組織論		2	
	会社法入門		2	
	産業集積論		2	
	社会思想史		2	

実務・実習部門	インターンシップ		2	
	海外語学実習		2	
	国際フィールドワーク		4	
	職業指導論		2	
ゼミナール部門	基礎ゼミナール		4	
	専門ゼミナールⅠ		4	
	専門ゼミナールⅡ		4	
	専門ゼミナールⅢ		4	
	特殊講義		1	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　10単位

(2) 選択科目　114単位以上

合計　124単位以上

２の２（経営学部国際経営学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
	歴史と文化		2	
	文学と人間		2	
	欧米文化論		2	
	アジア文化論		2	
	哲学		2	
	心の科学		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	政治と社会		2	
	社会学		2	
	ジェンダーと社会		2	
	物質の成り立ち		2	
	生命の多様性		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
	英語（リーディング） Ⅰ	1		
	英語（リーディング） Ⅱ	1		
	英語（コミュニケーション） Ⅰ	1		
	英語（コミュニケーション） Ⅱ	1		
	英語（リーディング）Ⅲ		1	
	英語（リーディング）Ⅳ		1	
	英語（コミュニケーション）中級Ⅰ		1	
	英語（コミュニケーション）中級Ⅱ		1	
	英語特別演習Ⅰ		1	

教養教育部門	英語特別演習Ⅱ		1	
	英語実践演習Ⅰ		2	
	英語実践演習Ⅱ		2	
	英語実践演習Ⅲ		2	
	英語実践演習Ⅳ		2	
	フランス語入門Ⅰ		1	
	フランス語入門Ⅱ		1	
	フランス語初級Ⅰ		1	
	フランス語初級Ⅱ		1	
	フランス語応用Ⅰ		1	
	フランス語応用Ⅱ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	ドイツ語入門Ⅰ		1	
	ドイツ語入門Ⅱ		1	
	ドイツ語初級Ⅰ		1	
	ドイツ語初級Ⅱ		1	
	ドイツ語応用Ⅰ		1	
	ドイツ語応用Ⅱ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	中国語入門Ⅰ		1	
	中国語入門Ⅱ		1	
	中国語初級Ⅰ		1	
	中国語初級Ⅱ		1	
	中国語応用Ⅰ		1	
	中国語応用Ⅱ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	ハングル入門Ⅰ		1	
	ハングル入門Ⅱ		1	
	ハングル初級Ⅰ		1	
	ハングル初級Ⅱ		1	
	ハングル応用Ⅰ		1	
	ハングル応用Ⅱ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	

	フランス語特別演習Ⅰ		1	
	フランス語特別演習Ⅱ		1	
	中国語特別演習Ⅰ		1	
	中国語特別演習Ⅱ		1	
	情報処理実習		1	
	プログラミング実習		1	
	情報社会と倫理		2	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		2	
	健康科学論		2	
専門基礎部門	基本簿記	4		
	現代経済入門		2	
	会計学入門		2	
	ファイナンス入門		2	
	経営学入門		2	
	流通入門		2	
	マーケティング入門		2	
	統計学入門		2	
	経営分析入門		2	
	キャリア・デザイン論		2	
国際経営・経済学部門	国際経営論		2	
	国際マーケティング論		2	
	国際流通論		2	
	国際貿易論		2	
	国際経済論		2	
	アメリカ経済論		2	
	アメリカ企業論		2	
	ＥＵ経済論		2	
	ＥＵ企業論		2	
	中国経済論		2	
	中国企業論		2	
	アジア企業論		2	
	アジア経済論		2	
	国際比較経営史		2	
	国際経営戦略論		2	
	国際金融システム論		2	
	国際金融機関論		2	
国際地域部門	国際関係論		2	
	海外ＮＧＯ論		2	
	国際地域文化研究（英語圏）		2	
	国際地域文化研究（フランス）		2	

	国際地域文化研究（中国）		2	
	国際コミュニケーション論		2	
経営学部門	経営組織論		2	
	経営史		2	
	現代企業論		2	
	経営管理史		2	
	現代経営管理論		2	
	マーケティング論		2	
	人的資源管理論		2	
	経営戦略論		2	
	生産管理論		2	
	ワーク・ライフ・バランス論		2	
会計・ファイナンス部門	上級簿記Ⅰ		2	
	上級簿記Ⅱ		2	
	中級簿記		2	
	工業簿記		2	
	原価計算論		2	
	経営分析論		2	
	企業財務論		2	
	金融論		2	
	金融商品取引論		2	
	財務会計論Ⅰ		2	
	財務会計論Ⅱ		2	
	財務戦略論		2	
	国際会計論		2	
	非営利組織体会計論		2	
	キャッシュフロー会計論		2	
	社会環境会計論		2	
	管理会計論Ⅰ		2	
	管理会計論Ⅱ		2	
経営科学・情報システム部門	経営数学		2	
	情報システム論		2	
	統計学Ⅰ		2	
	統計学Ⅱ		2	
	経営科学Ⅰ		2	
	経営科学Ⅱ		2	
	経済データ実習		2	
	経営データ実習		2	
	システム設計Ⅰ		2	
	システム設計Ⅱ		2	
	経営シミュレーションⅠ		2	
	経営シミュレーションⅡ		2	
	意思決定の科学		2	

経済学・法学部門	ミクロ経済学入門		2	
	マクロ経済学入門		2	
	現代産業組織論		2	
	情報産業組織論		2	
	環境経済論		2	
	社会思想史		2	
	会社法入門		2	
実務・実習部門	インターンシップ		2	
	海外語学実習		2	
	国際フィールドワーク		4	
	職業指導論		2	
ゼミナール部門	基礎ゼミナール		4	
	専門ゼミナールⅠ		4	
	専門ゼミナールⅡ		4	
	専門ゼミナールⅢ		4	
	特殊講義		1	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　10単位

(2) 選択科目　114単位以上

合計　124単位以上

３の１（経済学部経済学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	現代社会に生きる		2	
	文学と人間		2	
	芸術文化論		2	
	文化人類学の世界		2	
	哲学		2	
	倫理学		2	
	心の科学		2	
	宗教の世界		2	
	日本史		2	
	外国史		2	
	地理学		2	
	地誌学		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	経営と社会		2	
	政治と社会		2	
	社会学		2	
	ジェンダーと社会		2	
	地球と宇宙		2	
	物質の成り立ち		2	
	生命の多様性		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
	自然地理学		2	
	コンピュータリテラシー		2	
	情報活用リテラシー		2	
	情報処理入門		2	
	情報社会と倫理		2	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		2	
	健康科学論Ⅰ		2	
	健康科学論Ⅱ		2	
	キャリア形成論		2	
	職業指導論		2	
	教養演習Ⅰ（日本語表現）		2	
	英語Ⅰ		1	
	英語Ⅱ		1	
	英語Ⅲ（コミュニケーション）		1	
	英語Ⅳ（コミュニケーション）		1	
	英語Ⅴ		1	
	英語Ⅵ		1	
	英語Ⅶ		1	

	英語Ⅷ		1	
	上級英語Ⅰ		1	
	上級英語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	ハングルⅠ		1	
	ハングルⅡ		1	
	ハングルⅢ		1	
	ハングルⅣ		1	
	スペイン語初級Ⅰ		1	
	スペイン語初級Ⅱ		1	
専門基礎部門	マクロ経済学入門	2		
	ミクロ経済学入門	2		
	経済理論入門	2		
	現代資本主義入門	2		
	経済史総論Ⅰ		2	
	経済史総論Ⅱ		2	
	基本簿記		4	
	経済数学Ⅰ		2	
	経済数学Ⅱ		2	
	統計学Ⅰ		2	
	統計学Ⅱ		2	
	社会思想史		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
ゼミナール部門	基礎ゼミナール		4	
	専門ゼミナールⅠ		4	
	専門ゼミナールⅡ		4	
	専門ゼミナールⅢ（卒業研究）		4	
	外国書講読ゼミナールⅠ		2	
	外国書講読ゼミナールⅡ		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
フィールドワーク・実習部門	社会フィールドワークⅠ		4	
	社会フィールドワークⅡ		4	
	経済データ分析Ⅰ		2	
	経済データ分析Ⅱ		2	
	経営データ分析Ⅰ		2	
	経営データ分析Ⅱ		2	
	ビジネスプラン		2	

	ビジネス英語Ⅰ		2	
	ビジネス英語Ⅱ		2	
	インターンシップ		2	
	海外語学実習		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
理論経済部門	マクロ経済学Ⅰ		2	
	マクロ経済学Ⅱ		2	
	ミクロ経済学Ⅰ		2	
	ミクロ経済学Ⅱ		2	
	情報の経済学Ⅰ		2	
	情報の経済学Ⅱ		2	
	経済思想史		2	
	経済理論Ⅰ		2	
	経済理論Ⅱ		2	
	現代資本主義論Ⅰ		2	
	現代資本主義論Ⅱ		2	
	応用経済理論Ⅰ		2	
	応用経済理論Ⅱ		2	
	公共経済学Ⅰ		2	
	公共経済学Ⅱ		2	
	計量経済学Ⅰ		2	
	計量経済学Ⅱ		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
歴史・政策・金融部門	日本経済史Ⅰ		2	
	日本経済史Ⅱ		2	
	西洋経済史Ⅰ		2	
	西洋経済史Ⅱ		2	
	イギリス近代思潮		2	
	経済政策論Ⅰ		2	
	経済政策論Ⅱ		2	
	労働経済論Ⅰ		2	
	労働経済論Ⅱ		2	
	財政学Ⅰ		2	
	財政学Ⅱ		2	
	地方財政論Ⅰ		2	
	地方財政論Ⅱ		2	
	商法入門Ⅰ		2	
	商法入門Ⅱ		2	
	金融論		2	
	金融政策論		2	
	国際金融論		2	
	国際通貨論		2	
	証券市場論Ⅰ		2	
	証券市場論Ⅱ		2	
	国際経済論Ⅰ		2	
	国際経済論Ⅱ		2	
	開発経済論		2	

	アジア経済論		2	
	アメリカ経済論		2	
	ＥＵ経済論		2	
	中国経済論Ⅰ		2	
	中国経済論Ⅱ		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　10単位

(2) 選択科目　114単位以上

合計　124単位以上

3の2（経済学部産業社会学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	現代社会に生きる		2	
	文学と人間		2	
	芸術文化論		2	
	文化人類学の世界		2	
	哲学		2	
	倫理学		2	
	心の科学		2	
	宗教の世界		2	
	日本史		2	
	外国史		2	
	地理学		2	
	地誌学		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	経営と社会		2	
	政治と社会		2	
	社会学		2	
	ジェンダーと社会		2	
	地球と宇宙		2	
	物質の成り立ち		2	
	生命の多様性		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
	自然地理学		2	
	コンピュータリテラシー		2	
	情報活用リテラシー		2	
	情報処理入門		2	
	情報社会と倫理		2	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		2	
	健康科学論Ⅰ		2	
	健康科学論Ⅱ		2	

	キャリア形成論		2	
	職業指導論		2	
	教養演習Ⅰ（日本語表現）		2	
	英語Ⅰ		1	
	英語Ⅱ		1	
	英語Ⅲ（コミュニケーション）		1	
	英語Ⅳ（コミュニケーション）		1	
	英語Ⅴ		1	
	英語Ⅵ		1	
	英語Ⅶ		1	
	英語Ⅷ		1	
	上級英語Ⅰ		1	
	上級英語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	ハングルⅠ		1	
	ハングルⅡ		1	
	ハングルⅢ		1	
	ハングルⅣ		1	
	スペイン語初級Ⅰ		1	
	スペイン語初級Ⅱ		1	
専門基礎部門	マクロ経済学入門	2		
	ミクロ経済学入門	2		
	経済理論入門	2		
	現代資本主義入門	2		
	経済史総論Ⅰ		2	
	経済史総論Ⅱ		2	
	基本簿記		4	
	経済数学Ⅰ		2	
	経済数学Ⅱ		2	
	統計学Ⅰ		2	
	統計学Ⅱ		2	
	社会思想史		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
ゼミナール部門	基礎ゼミナール		4	
	専門ゼミナールⅠ		4	
	専門ゼミナールⅡ		4	
	専門ゼミナールⅢ（卒業研究）		4	
	外国書講読ゼミナールⅠ		2	
	外国書講読ゼミナールⅡ		2	

	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
フィールドワーク・実習部門	社会フィールドワークⅠ		4	
	社会フィールドワークⅡ		4	
	経済データ分析Ⅰ		2	
	経済データ分析Ⅱ		2	
	経営データ分析Ⅰ		2	
	経営データ分析Ⅱ		2	
	ビジネスプラン		2	
	ビジネス英語Ⅰ		2	
	ビジネス英語Ⅱ		2	
	インターンシップ		2	
	海外語学実習		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
理論経済部門	マクロ経済学Ⅰ		2	
	マクロ経済学Ⅱ		2	
	ミクロ経済学Ⅰ		2	
	ミクロ経済学Ⅱ		2	
	経済思想史		2	
	情報の経済学Ⅰ		2	
	情報の経済学Ⅱ		2	
	経済理論Ⅰ		2	
	経済理論Ⅱ		2	
	現代資本主義論Ⅰ		2	
	現代資本主義論Ⅱ		2	
	応用経済理論Ⅰ		2	
	応用経済理論Ⅱ		2	
	公共経済学Ⅰ		2	
	公共経済学Ⅱ		2	
	計量経済学Ⅰ		2	
	計量経済学Ⅱ		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
現代社会部門	農業経済論		2	
	食料経済論		2	
	工業経済論		2	
	産業技術論		2	
	商業経済論		2	
	中小企業論		2	
	中小企業政策論		2	
	交通論		2	
	産業集積論		2	
	経営戦略論		2	
	サービス経済論		2	
	起業経営論		2	
	物流論		2	
	経済地理学		2	
	地域福祉論		2	
	地域政策論		2	
	地域経済論		2	
	社会保障論		2	

	環境ビジネス論		2	
	環境経済論		2	
	公共政策論		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　10単位

(2) 選択科目　114単位以上

合計　124単位以上

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	微分積分Ⅰ	2		
	微分積分Ⅱ	2		
	線形代数Ⅰ	2		
	線形代数Ⅱ	2		
	微分積分Ⅰ演習	1		
	微分積分Ⅱ演習	1		

専門教育部門	線形代数Ⅰ演習	1		
	線形代数Ⅱ演習	1		
	数学序論Ⅰ	2		
	数学序論Ⅱ	2		
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	総合数理基礎演習Ⅰ			1
	総合数理基礎演習Ⅱ			1
	総合数理基礎演習Ⅲ			1
	総合数理基礎演習Ⅳ			1
	サイエンス・ボランティア入門Ⅰ			1
	サイエンス・ボランティア入門Ⅱ			1
	探究活動入門Ⅰ			2
	探究活動入門Ⅱ			2
	数理科学Ⅰ		2	
	数理科学Ⅱ		2	
	数理物理学Ⅰ		2	
	数理物理学Ⅱ		2	
	コンピューターサイエンス		2	
	情報科学Ⅰ		2	
	情報科学Ⅱ		2	
	情報科学Ⅲ		2	
	情報科学Ⅳ		2	
	情報社会と情報倫理		2	
	情報技術の応用と職業		2	
	アルゴリズム･データ構造論		2	
	経営情報論		2	
	情報ネットワーク論		2	
	パターン情報処理論		2	
	人間情報処理論		2	
	微分積分Ⅲ		2	
	微分積分Ⅳ		2	
	線形代数Ⅲ		2	
	線形代数Ⅳ		2	

数学通論Ⅰ		2	
数学通論Ⅱ		2	
解析学Ⅰ		2	
解析学Ⅱ		2	
解析学Ⅲ		2	
解析学Ⅳ		2	
解析学Ⅴ		2	
解析学Ⅵ		2	
解析学Ⅶ		2	
解析学Ⅷ		2	
代数学Ⅰ		2	
代数学Ⅱ		2	
代数学Ⅲ		2	
代数学Ⅳ		2	
代数学Ⅴ		2	
代数学Ⅵ		2	
代数学Ⅶ		2	
代数学Ⅷ		2	
幾何学Ⅰ		2	
幾何学Ⅱ		2	
幾何学Ⅲ		2	
幾何学Ⅳ		2	
幾何学Ⅴ		2	
幾何学Ⅵ		2	
幾何学Ⅶ		2	
幾何学Ⅷ		2	
数理情報Ⅰ		2	
数理情報Ⅱ		2	
数理情報Ⅲ		2	
数理情報Ⅳ		2	
数理情報Ⅴ		2	
数理情報Ⅵ		2	
数理情報Ⅶ		2	
数理情報Ⅷ		2	
計算機科学Ⅰ		4	
計算機科学Ⅱ		4	
計算機科学Ⅲ		2	
計算機科学Ⅳ		2	
計算機科学Ⅴ		2	
計算機科学Ⅵ		2	
計算機科学Ⅶ		2	
計算機科学Ⅷ		2	
教職研究Ⅰ			1
教職研究Ⅱ			1
数学研究		4	
数学講究	8		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　　24単位
(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上
専門教育部門　80単位以上
計　100単位以上
合計　124単位以上

4の2（理工学部電気電子工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	

	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
専門教育部門	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	電気磁気学Ⅰおよび演習	3		
	電気磁気学Ⅱおよび演習	3		
	電気磁気学Ⅲ		2	
	電気回路Ⅰおよび演習	3		
	電気回路Ⅱおよび演習	3		
	電気回路Ⅲ		2	
	電子回路Ａ	2		
	電子回路Ｂ	2		
	電子回路Ｃ		2	
	デジタル回路Ⅰ	2		
	デジタル回路Ⅱ		2	
	デジタル信号処理Ⅰ		2	
	デジタル信号処理Ⅱ		2	
	コンピューターサイエンス	2		
	プログラミングⅠおよび演習	3		
	プログラミングⅡおよび演習	3		
	組み込みシステムⅠおよび演習		3	
	組み込みシステムⅡおよび演習		3	
	電気計測	2		

電気基礎理論Ⅰ		2	
電気基礎理論Ⅱ		2	
電気基礎理論Ⅲ		2	
電気基礎理論Ⅳ		2	
電気電子工学概論		2	
エネルギー変換・発生工学		2	
エネルギー伝送工学		2	
電気機器工学		2	
高電圧工学		2	
電力系統工学		2	
電気設計・製図		2	
電気法規・施設管理		2	
制御工学Ⅰ		2	
制御工学Ⅱ		2	
パワーエレクトロニクス		2	
電気電子物性論Ⅰ		2	
電気電子物性論Ⅱ		2	
電気電子物性論Ⅲ		2	
半導体工学Ⅰ		2	
半導体工学Ⅱ		2	
電気化学		2	
電子計測		2	
センサ・センシング		2	
基礎通信工学		2	
情報理論		2	
通信システム		2	
電磁波工学		2	
ネットワーク		2	
データベース		2	
電気電子工学基礎実験	1		
電気電子工学実験Ⅰ	2		
電気電子工学実験Ⅱ	2		
電気電子工学実験Ⅲ	2		
電気電子ゼミナールⅠ		1	
電気電子ゼミナールⅡ	1		
卒業研究	4		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　40単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　64単位以上

計　84単位以上

合計　124単位以上

4の3（理工学部材料機能工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目	単位数		
	必修科目	選択科目	自由科目
英語コミュニケーションⅠ	1		
英語コミュニケーションⅡ	1		
英語コミュニケーションⅢ	1		

総合基礎部門	英語コミュニケーションⅣ	1		
	プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	
	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	

専門教育部門	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理	2		
	コンピューターリテラシー	2		
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	応用数学Ⅰ		2	
	応用数学Ⅱ		2	
	応用数学Ⅲ		2	
	電磁気学Ⅰおよび演習		3	
	電磁気学Ⅱおよび演習		3	
	工業力学		2	
	材料力学Ⅰおよび演習		3	
	材料力学Ⅱおよび演習		3	
	量子力学Ⅰおよび演習		3	
	量子力学Ⅱおよび演習		3	
	物性論Ⅰおよび演習		3	
	物性論Ⅱおよび演習		3	
	熱力学		2	
	統計力学		2	
	製図基礎		2	
	真空工学		2	
	表面工学		2	
	電気回路および演習		3	
	電子回路設計・製作		2	
	アナログ電子回路		2	
	デジタル電子回路		2	
	半導体デバイス		2	
	量子エレクトロニクス		2	
	半導体基礎論		2	
	半導体工学		2	
	結晶材料		2	
	結晶成長		2	
	磁性材料		2	

光・誘電工学		2	
鉄鋼材料		2	
合金材料		2	
焼結材料		2	
高分子材料		2	
複合材料		2	
材料強度学		2	
結晶塑性学		2	
機械加工		2	
溶融加工		2	
機械要素		2	
機械設計・製図		2	
エレクトロニクス材料分析・評価法		2	
機械材料分析・評価法		2	
分析化学		2	
材料機能工学概論	2		
科学技術リテラシー	2		
材料機能工学実験Ⅰ	2		
材料機能工学実験Ⅱ	2		
材料機能工学実験Ⅲ	2		
材料機能ゼミナール	2		
先端技術管理		2	
卒業研究	4		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　24単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　16単位以上

専門教育部門　84単位以上

計　100単位以上

合計　124単位以上

4の4（理工学部応用化学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目	単位数		
	必修科目	選択科目	自由科目
英語コミュニケーションⅠ	1		
英語コミュニケーションⅡ	1		
英語コミュニケーションⅢ		1	
英語コミュニケーションⅣ		1	
プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	
プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
ドイツ語Ⅰ		1	
ドイツ語Ⅱ		1	
ドイツ語Ⅲ		1	
ドイツ語Ⅳ		1	
フランス語Ⅰ		1	
フランス語Ⅱ		1	
フランス語Ⅲ		1	
フランス語Ⅳ		1	

総合基礎部門	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ			1
	基礎ゼミナールⅡ			1
	職業指導論		2	
	微分積分Ⅰ	2		
	微分積分Ⅱ	2		
	線形代数Ⅰ	2		
	線形代数Ⅱ	2		
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理	2		
	コンピューターリテラシー	2		
	数学基礎演習Ⅰ			1

専門教育部門	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	有機化学基礎	2		
	有機化学Ⅰ		2	
	有機化学Ⅱ		2	
	有機化学演習		1	
	錯体化学		2	
	高分子化学Ⅰ		2	
	高分子化学Ⅱ		2	
	コロイド化学		2	
	高分子材料		2	
	生化学		2	
	生活支援化学		2	
	物理化学基礎	2		
	物理化学Ⅰ		2	
	物理化学Ⅱ		2	
	物理化学演習		1	
	量子化学Ⅰ		2	
	量子化学Ⅱ		2	
	量子化学演習		1	
	化学結晶学		2	
	物質構造学		2	
	物性化学		2	
	真空工学		2	
	表面工学		2	
	無機化学基礎	2		
	無機化学Ⅰ		2	
	無機化学Ⅱ		2	
	無機化学演習		1	
	電気化学		2	
	触媒化学		2	
	電子材料		2	
	固体物性		2	
	エネルギー化学		2	
	金属材料		2	
	環境材料		2	
	先端化学	2		
	応用化学数学		2	
	安全工学	2		
	実験基礎論	2		
	分析化学		2	
	機器分析		2	

	分光化学		2	
	化学工学		2	
	分離精製工学		2	
	流動現象学		2	
	製図基礎		2	
	科学表現論		2	
	先端技術管理		2	
	応用化学実験Ⅰ	2		
	応用化学実験Ⅱ	2		
	応用化学実験Ⅲ	3		
	応用化学実験Ⅳ	2		
	応用化学ゼミナール	2		
	卒業研究	4		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　41単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　18単位以上

専門教育部門　65単位以上

計　83単位以上

合計　124単位以上

4の5（理工学部機械工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	

	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	
専門教育部門	微分積分Ⅰ	2		
	微分積分Ⅱ	2		
	線形代数Ⅰ	2		
	線形代数Ⅱ	2		
	物理学Ⅰ	2		
	物理学Ⅱ	2		
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	熱力学Ⅰ	2		
	熱力学Ⅱ		2	
	伝熱工学		2	
	熱機関工学		2	

流体力学Ⅰ	2		
流体力学Ⅱ		2	
流体機械		2	
応用流体力学		2	
材料力学Ⅰ	2		
材料力学Ⅱ		2	
材料強度学Ⅰ		2	
材料強度学Ⅱ		2	
機械材料		2	
機械設計基礎	2		
機械設計Ⅰ	2		
機械設計Ⅱ	2		
機械要素	2		
機械加工学		2	
塑性加工学		2	
生産加工学		2	
生産管理		2	
機構学		2	
機械力学Ⅰ	2		
機械力学Ⅱ		2	
機械振動学		2	
制御工学Ⅰ		2	
制御工学Ⅱ		2	
コンピュータープログラミング	2		
コンピューターシミュレーション		2	
機械技術者倫理		2	
基礎電気工学		2	
基礎電子工学		2	
機械設計・製作		4	
機械工学実習	2		
機械工学実験	2		
機械工学概論	2		
応用数学Ⅰ	2		
応用数学Ⅱ		2	
応用力学		2	
電磁気学		2	
データ解析工学		2	
ＣＡＥ		2	
計測工学		2	
新技術概論		2	
技術英語		2	
インターンシップ		1	
ラボラトリー・セミナー		1	
卒業研究	4		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目		42単位
(2) 選択科目	総合基礎部門	20単位以上
	専門教育部門	62単位以上
	計	82単位以上
	合計	124単位以上

４の６（理工学部交通機械工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1		
	英語コミュニケーションⅡ	1		
	英語コミュニケーションⅢ	1		
	英語コミュニケーションⅣ	1		
	プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	

専門教育部門	微分積分Ⅰ	2		
	微分積分Ⅱ	2		
	線形代数Ⅰ	2		
	線形代数Ⅱ	2		
	物理学Ⅰ	2		
	物理学Ⅱ	2		
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理	2		
	コンピューターリテラシー	2		
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	交通機械工学概論	2		
	数値計算法Ⅰ		2	
	数値計算法Ⅱ		2	
	ＣＡＥ		1	
	応用数学Ⅰ	2		
	応用数学Ⅱ		2	
	工業力学Ⅰ	2		
	工業力学Ⅱ		2	
	工業力学演習		1	
	振動学		2	
	材料力学Ⅰ	2		
	材料力学Ⅱ		2	
	材料力学演習		1	
	構造力学		2	
	流体力学Ⅰ	2		
	流体力学Ⅱ		2	
	流体力学演習		1	

流れ学		2	
熱力学Ⅰ	2		
熱力学Ⅱ		2	
熱力学演習		1	
伝熱工学		2	
材料科学Ⅰ	2		
材料科学Ⅱ		2	
交通機工作法	2		
機構学		2	
機械要素Ⅰ		2	
機械要素Ⅱ		2	
製図Ⅰ	2		
製図Ⅱ		2	
設計・ＣＡＤ		1	
交通機設計		1	
制御工学Ⅰ		2	
制御工学Ⅱ		2	
知的制御システム		2	
エンジンⅠ		2	
エンジンⅡ		2	
自動車工学Ⅰ		2	
自動車工学Ⅱ		2	
自動車工学Ⅲ		2	
航空宇宙工学Ⅰ		2	
航空宇宙工学Ⅱ		2	
航空宇宙工学Ⅲ		2	
鉄道車両工学Ⅰ		2	
鉄道車両工学Ⅱ		2	
管理科学		2	
エレクトロニクスⅠ		2	
エレクトロニクスⅡ		2	
計測工学		2	
ハンドエンジニアリング		1	
交通システム実習Ⅰ	1		
交通システム実習Ⅱ		1	
交通システム実験Ⅰ	1		
交通システム実験Ⅱ		1	
ゼミナール	2		
卒業研究	4		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　46単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　16単位以上

専門教育部門　62単位以上

計　78単位以上

合計　124単位以上

4の7（理工学部メカトロニクス工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	
	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	

専門教育部門	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	メカトロニクス概論		2	
	コンピューターアーキテクチャ		2	
	電気回路基礎	2		
	機械部品と材料	2		
	図学	2		
	アナログ電子回路	2		
	コンピュータープログラミング	2		
	メカトロニクス基礎演習Ⅰ	2		
	メカトロニクス基礎演習Ⅱ	2		
	電子回路と部品		2	
	技術日本語	2		
	材料力学Ⅰ	2		
	機械力学Ⅰ	2		
	電磁気学Ⅰ	2		
	電気設計・製図	2		
	応用数学Ⅰ		2	
	機械製図	2		
	メカトロニクス要素設計	2		
	メカトロニクス実験Ⅰ	2		
	メカトロニクス実験Ⅱ	2		
	制御工学Ⅰ	2		
	制御工学Ⅱ	2		
	制御工学Ⅲ	2		
	集中演習Ⅰ	2		

集中演習Ⅱ	2		
集中演習Ⅲ	2		
組み込みソフトウェア	2		
信号処理工学	2		
機能再現演習	2		
卒業研究	4		
機構学		2	
デジタル電子回路		2	
コンピューターシミュレーション		2	
流体力学		2	
熱力学		2	
材料力学Ⅱ		2	
機械力学Ⅱ		2	
電磁気学Ⅱ		2	
バイオメカニクス		2	
機械技術者倫理	2		
応用数学Ⅱ		2	
ソフトウェア工学		2	
伝熱工学		2	
機械加工学		2	
医療機械工学		2	
電気機器工学		2	
ネットワーク		2	
自動車工学		2	
ベクトルとキネマティクス		2	
生産管理		2	
生体信号処理		2	
パワーエレクトロニクス		2	
センサ・センシング		2	
技術英語		2	
振動学		2	
ＣＡＥ		2	
電気法規・施設管理		2	
計測工学		2	
制御工学Ⅳ		2	
インターンシップ		1	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　56単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　48単位以上

計　68単位以上

合計　124単位以上

４の８（理工学部社会基盤デザイン工学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	
	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	

専門教育部門	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理	2		
	コンピューターリテラシー		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	応用数学Ⅰ	2		
	応用数学Ⅱ		2	
	数理統計学		2	
	力学基礎	2		
	材料力学	2		
	プログラミング基礎演習		1	
	構造力学Ⅰ	2		
	構造力学Ⅱ	2		
	構造力学Ⅲ		2	
	水理学Ⅰ	2		
	水理学Ⅱ	2		
	水理学Ⅲ		2	
	土質力学Ⅰ	2		
	土質力学Ⅱ	2		
	土質力学Ⅲ		2	
	都市デザイン学		2	
	都市・国土制度論	2		
	社会基盤計画学Ⅰ	2		
	社会基盤計画学Ⅱ		2	
	建設材料学	2		
	測量学	2		
	測量学実習Ⅰ	1		

測量学実習Ⅱ		1	
ＧＩＳ・ＣＩＭ実習		2	
デザイン学入門	2		
デザイン技法		2	
図学・ＣＡＤ演習		1	
社会基盤デザインセミナーⅠ	2		
社会プロジェクト特別講義		2	
科学技術英語		2	
交通デザイン学		2	
都市解析学		2	
まちづくり実習		1	
都市経済学		2	
プロジェクトマネジメント		2	
土質・材料試験法		2	
構造・水理実験演習		2	
鋼構造学		2	
コンクリート構造学		2	
建設施工法		2	
施設維持管理論		2	
都市安全学		2	
水文・水資源工学		2	
河川工学		2	
地盤防災工学		2	
地圏環境工学		2	
海域工学		2	
水域環境工学		2	
耐震工学		2	
社会基盤デザインセミナーⅡ	2		
キャリアデザイン		2	
グローバルインターンシップ		1	
社会基盤デザイン総合演習Ⅰ		1	
社会基盤デザイン総合演習Ⅱ		1	
卒業研究	4		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　39単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　65単位以上

計　85単位以上

合計　124単位以上

4の9（理工学部環境創造工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目	単位数		
	必修科目	選択科目	自由科目
英語コミュニケーションⅠ		1	
英語コミュニケーションⅡ		1	
英語コミュニケーションⅢ		1	
英語コミュニケーションⅣ		1	
プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	

総合基礎部門	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	
	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	

専門教育部門	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	環境創造工学概論Ⅰ	2		
	環境創造工学概論Ⅱ	2		
	コミュニケーションスキル		2	
	応用数学		2	
	確率統計学		2	
	情報処理Ⅰ		2	
	情報処理Ⅱ		2	
	環境計測学		2	
	測量学		2	
	測量学実習		2	
	地域環境調査実習Ⅰ		1	
	地域環境調査実習Ⅱ		1	
	環境創造工学実験Ⅰ		2	
	環境創造工学実験Ⅱ		2	
	エネルギー環境論		2	
	省エネルギー学		2	
	エネルギー管理工学		2	
	環境エネルギー変換工学		2	
	エネルギープロセスシステム設計		2	
	再生可能エネルギー工学		2	
	化学工学		2	
	有機材料工学		2	
	無機材料合成工学		2	
	分離精製工学		2	
	環境材料学		2	
	材料リサイクル		2	
	資源循環学		2	
	環境配慮創造設計学		2	
	環境保全学		2	
	環境分析学		2	
	水環境工学		2	
	水処理学		2	

基礎生態学		2	
環境生態工学		2	
環境アセスメント		2	
環境共生創造論		2	
流れ工学		2	
環境気象学		2	
環境リモートセンシング		2	
土壌地下水汚染学		2	
デザイン図法		2	
住環境創造設計学		2	
居住環境創造設計学Ⅰ		2	
居住環境創造設計学Ⅱ		2	
空間創造学		2	
環境文化論		2	
アーバンデザイン		3	
環境マネジメント		2	
快適性創造学Ⅰ		2	
快適性創造学Ⅱ		2	
環境創造設備学Ⅰ		2	
環境創造設備学Ⅱ		2	
材料力学		2	
構造力学Ⅰ		2	
構造力学Ⅱ		2	
環境構造設計法		3	
建設施工学		2	
建設法規		2	
環境倫理		2	
環境法		2	
インターンシップ		1	
ゼミナール	2		
卒業研究・卒業制作	4		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　10単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　94単位以上

計　114単位以上

合計　124単位以上

4の10（理工学部建築学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目	単位数		
	必修科目	選択科目	自由科目
英語コミュニケーションⅠ		1	
英語コミュニケーションⅡ		1	
英語コミュニケーションⅢ		1	
英語コミュニケーションⅣ		1	
プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	
プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
ドイツ語Ⅰ		1	
ドイツ語Ⅱ		1	

総合基礎部門	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	
	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	

専門教育部門	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	建築計画概論	2		
	建築計画Ⅰ		2	
	建築計画Ⅱ		2	
	建築計画Ⅲ		2	
	インテリアデザイン		2	
	都市計画		2	
	住宅計画論		2	
	建築法規行政	2		
	地域計画		2	
	デザイン基礎Ⅰ		2	
	デザイン基礎Ⅱ		2	
	ＣＡＤデザイン		2	
	基本空間デザインⅠ		2	
	基本空間デザインⅡ		2	
	建築デザインⅠ		2	
	建築デザインⅡ		2	
	建築史概論	2		
	西洋建築史		2	
	日本建築史		2	
	近代建築史		2	
	アジア建築史		2	
	建築環境概論	2		
	建築環境工学		2	
	建築環境物理		2	
	建築環境計画		2	
	建築環境実験		2	
	建築設備概論	2		
	建築設備工学Ⅰ		2	
	建築設備工学Ⅱ		2	
	都市環境デザイン		2	
	構造力学概論	2		
	構造力学Ⅰ	2		
	構造力学Ⅱ		2	
	構造力学Ⅲ		2	
	建築構造概論	2		
	建築構造計画	2		
	建築構造設計		2	
	建築各種構造Ⅰ		2	

	建築各種構造Ⅱ		2	
	建築構造デザインⅠ		2	
	建築構造デザインⅡ		2	
	建築構造実験		2	
	耐震工学		2	
	都市防災		2	
	建築材料概論	2		
	建築材料		2	
	建築材料実験		2	
	建築生産概論	2		
	建築生産Ⅰ		2	
	建築生産Ⅱ		2	
	建築維持保全		2	
	建築応用数学		2	
	ワークショップ		1	
	設計総合演習		1	
	インターンシップ		1	
	ゼミナールⅠ	1		
	ゼミナールⅡ	1		
	卒業研究・卒業制作	4		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　28単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　76単位以上

計　96単位以上

合計　124単位以上

５の１（農学部生物資源学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	世界の歴史と文化		2	
	日本の歴史と文化		2	
	哲学		2	
	心理学		2	
	日本語学		2	
	日本国憲法		2	
	暮らしの中の法律		2	
	政治学		2	
	社会学		2	
	経済学		2	
	宗教の世界		2	
	メディアリテラシー		2	
	地球と宇宙		2	
	生命・食料・環境		2	
	物質の成り立ち		2	
	英語基礎Ⅰ		1	
	英語初級Ⅰ		1	
	英語中級Ⅰ		1	
	英語上級Ⅰ		1	
	英会話基礎Ⅰ		1	
	英会話初級Ⅰ		1	
	英会話中級Ⅰ		1	
	英会話上級Ⅰ		1	
	英語基礎Ⅱ		1	
	英語初級Ⅱ		1	
	英語中級Ⅱ		1	
	英語上級Ⅱ		1	
	英会話基礎Ⅱ		1	
	英会話初級Ⅱ		1	
	英会話中級Ⅱ		1	
	英会話上級Ⅱ		1	
	英語基礎Ⅲ		1	
	英語初級Ⅲ		1	
	英語中級Ⅲ		1	
	英語上級Ⅲ		1	
	英会話基礎Ⅲ		1	
	英会話初級Ⅲ		1	
	英会話中級Ⅲ		1	
	英会話上級Ⅲ		1	
	英語基礎Ⅳ		1	
	英語初級Ⅳ		1	

	英語中級Ⅳ		1	
	英語上級Ⅳ		1	
	英会話基礎Ⅳ		1	
	英会話初級Ⅳ		1	
	英会話中級Ⅳ		1	
	英会話上級Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	海外語学研修Ⅰ		1	
	海外語学研修Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅰ		1	
	情報機器の操作Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅰ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		2	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		1	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	職業指導論		2	
	キャリアデザイン学		2	
	生物学Ⅰ		2	
	生物学Ⅱ		2	
	生物学実験	1		
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験		1	
	物理学		2	
	物理学実験		1	
	地学		2	
	地学実験		1	
	数学		2	
	情報科学		2	
	科学英語Ⅰ		1	
	科学英語Ⅱ		1	
	生物資源学概説	2		
	作物生産科学	2		
	園芸学	2		
	生物化学Ⅰ	2		
	生物化学Ⅱ		2	

専門教育部門	農場実習Ⅰ	1		
	農場実習Ⅱ	1		
	農場実習Ⅲ		1	
	農場実習Ⅳ		1	
	食用作物学Ⅰ	2		
	食用作物学Ⅱ		2	
	遺伝学	2		
	植物病理学	2		
	基礎昆虫学	2		
	応用昆虫学		2	
	生物生産経営学	2		
	生物資源学実験Ⅰ	1		
	生物資源学実験Ⅱ	3		
	作物学実験		1	
	園芸学実験		1	
	遺伝育種学実験		1	
	生物生産経営学演習		1	
	植物病理学実験		1	
	昆虫学実験		1	
	フィールド生産科学実験		1	
	ゼミナールⅠ	1		
	ゼミナールⅡ	2		
	卒業研究	6		
	植物分類・形態学		2	
	動物分類・形態学		2	
	微生物学		2	
	生物資源経済学		2	
	有機化学		2	
	生物資源統計学		2	
	果樹園芸学		2	
	野菜園芸学		2	
	花き園芸学		2	
	植物生理学		2	
	細胞生物学		2	
	育種学		2	
	青果保蔵学		2	
	施設園芸学		2	
	土壌学		2	
	養分動態学		2	
	資源作物学		2	
	雑草学		2	
	植物細胞工学		2	
	分子生物学		2	
	農業環境微生物学		2	
	植物感染制御学		2	
	農薬学		2	

	食品経済学		2	
	国際農産物市場論		2	
	GAP概論		1	
	GAP実践講座		1	
	食品科学		2	
	動物生産学		2	
	生物資源学特別講義Ⅰ		2	
	生物資源学特別講義Ⅱ		2	
	生物資源学特別講義Ⅲ		2	
	フィールド生産科学		2	
	果樹生産・加工品学		2	
	農学特別講義Ⅰ		2	
	農学特別講義Ⅱ		2	

② 卒業に必要な要件

(1)必修科目　34単位

(2)選択科目　教養教育部門　26単位以上

専門教育部門　64単位以上

計　90単位以上

合　計　124単位以上

５の２（農学部応用生物化学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	世界の歴史と文化		2	
	日本の歴史と文化		2	
	哲学		2	
	心理学		2	
	日本語学		2	
	日本国憲法		2	
	暮らしの中の法律		2	
	政治学		2	
	社会学		2	
	経済学		2	
	宗教の世界		2	
	メディアリテラシー		2	
	地球と宇宙		2	
	生命・食料・環境		2	
	物質の成り立ち		2	
	英語基礎Ⅰ		1	
	英語初級Ⅰ		1	
	英語中級Ⅰ		1	
	英語上級Ⅰ		1	
	英会話基礎Ⅰ		1	
	英会話初級Ⅰ		1	
	英会話中級Ⅰ		1	

英会話上級Ⅰ		1	
英語基礎Ⅱ		1	
英語初級Ⅱ		1	
英語中級Ⅱ		1	
英語上級Ⅱ		1	
英会話基礎Ⅱ		1	
英会話初級Ⅱ		1	
英会話中級Ⅱ		1	
英会話上級Ⅱ		1	
英語基礎Ⅲ		1	
英語初級Ⅲ		1	
英語中級Ⅲ		1	
英語上級Ⅲ		1	
英会話基礎Ⅲ		1	
英会話初級Ⅲ		1	
英会話中級Ⅲ		1	
英会話上級Ⅲ		1	
英語基礎Ⅳ		1	
英語初級Ⅳ		1	
英語中級Ⅳ		1	
英語上級Ⅳ		1	
英会話基礎Ⅳ		1	
英会話初級Ⅳ		1	
英会話中級Ⅳ		1	
英会話上級Ⅳ		1	
中国語Ⅰ		1	
中国語Ⅱ		1	
ドイツ語Ⅰ		1	
ドイツ語Ⅱ		1	
フランス語Ⅰ		1	
フランス語Ⅱ		1	
海外語学研修Ⅰ		1	
海外語学研修Ⅱ		1	
情報機器の操作Ⅰ		1	
情報機器の操作Ⅱ		1	
情報機器の操作Ⅲ		1	
健康・スポーツ科学Ⅰ		1	
健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
健康・スポーツ科学Ⅳ		2	
健康・スポーツ科学Ⅴ		1	
インターンシップⅠ		1	
インターンシップⅡ		1	
職業指導論		2	

	キャリアデザイン学		2	
専門教育部門	生物学Ⅰ		2	
	生物学Ⅱ		2	
	生物学実験		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験		1	
	物理学		2	
	物理学実験		1	
	地学		2	
	地学実験		1	
	数学		2	
	情報科学		2	
	科学英語Ⅰ		1	
	科学英語Ⅱ		1	
	応用生物化学概説	2		
	分析化学	2		
	有機化学Ⅰ	2		
	有機化学Ⅱ	2		
	生物化学Ⅰ	2		
	生物化学Ⅱ	2		
	物理化学Ⅰ	2		
	物理化学Ⅱ	2		
	微生物学Ⅰ	2		
	微生物学Ⅱ	2		
	栄養科学Ⅰ	2		
	栄養科学Ⅱ	2		
	畜産食品製造科学Ⅰ	2		
	畜産食品製造科学Ⅱ	2		
	農薬科学Ⅰ	2		
	農薬科学Ⅱ	2		
	応用生物化学実験Ⅰ	1		
	応用生物化学実験Ⅱ	1		
	応用生物化学実験Ⅲ	1		
	応用生物化学実験Ⅳ	1		
	応用生物化学実験Ⅴ	1		
	応用生物化学実験Ⅵ	1		
	応用生物化学実験Ⅶ	1		
	機器分析化学	2		
	食品安全・衛生学	2		
	ゼミナールⅠ	1		
	ゼミナールⅡ	2		
	卒業研究	6		
	植物生命科学		2	
	無機化学Ⅰ		2	
	無機化学Ⅱ		2	

	食品化学総論		2	
	食物文化論		2	
	細胞生物学		2	
	農場実習		1	
	統計学		2	
	代謝生化学		2	
	バイオテクノロジー		2	
	微生物利用学		2	
	食品原料学		2	
	畜産食品原料学		2	
	食品利用学		2	
	生物有機化学		2	
	天然物有機化学		2	
	生物物理化学		2	
	食品加工実習		1	
	香粧品化学		2	
	食品・環境関連法規		2	
	公衆衛生学		2	
	動物生命科学		2	
	分子生物学		2	
	醸造・発酵科学		2	
	タンパク質・遺伝子工学		2	
	食品機能学Ⅰ		2	
	食品機能学Ⅱ		2	
	食品保蔵学		2	
	生物制御化学		2	
	高分子レオロジー		2	
	化学工学		2	
	応用生物化学特別講義Ⅰ		2	
	応用生物化学特別講義Ⅱ		2	
	フィールド生産科学		2	
	果樹生産・加工品学		2	
	農学特別講義Ⅰ		2	
	農学特別講義Ⅱ		2	

② 卒業に必要な要件

(1)必修科目　52単位

(2)選択科目　教養教育部門　26単位以上

専門教育部門　46単位以上

計　72単位以上

合　計　124単位以上

5の3（農学部生物環境科学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
	世界の歴史と文化		2	
	日本の歴史と文化		2	

教養教育部門	哲学		2	
	心理学		2	
	日本語学		2	
	日本国憲法		2	
	暮らしの中の法律		2	
	政治学		2	
	社会学		2	
	経済学		2	
	宗教の世界		2	
	メディアリテラシー		2	
	地球と宇宙		2	
	生命・食料・環境		2	
	物質の成り立ち		2	
	英語基礎Ⅰ		1	
	英語初級Ⅰ		1	
	英語中級Ⅰ		1	
	英語上級Ⅰ		1	
	英会話基礎Ⅰ		1	
	英会話初級Ⅰ		1	
	英会話中級Ⅰ		1	
	英会話上級Ⅰ		1	
	英語基礎Ⅱ		1	
	英語初級Ⅱ		1	
	英語中級Ⅱ		1	
	英語上級Ⅱ		1	
	英会話基礎Ⅱ		1	
	英会話初級Ⅱ		1	
	英会話中級Ⅱ		1	
	英会話上級Ⅱ		1	
	英語基礎Ⅲ		1	
	英語初級Ⅲ		1	
	英語中級Ⅲ		1	
	英語上級Ⅲ		1	
	英会話基礎Ⅲ		1	
	英会話初級Ⅲ		1	
	英会話中級Ⅲ		1	
	英会話上級Ⅲ		1	
	英語基礎Ⅳ		1	
	英語初級Ⅳ		1	
	英語中級Ⅳ		1	
	英語上級Ⅳ		1	
	英会話基礎Ⅳ		1	
	英会話初級Ⅳ		1	
	英会話中級Ⅳ		1	

	英会話上級Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	海外語学研修Ⅰ		1	
	海外語学研修Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅰ		1	
	情報機器の操作Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅰ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		2	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		1	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	職業指導論		2	
	キャリアデザイン学		2	
	生物学Ⅰ		2	
	生物学Ⅱ		2	
	生物学実験		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験		1	
	物理学		2	
	物理学実験		1	
	地学		2	
	地学実験		1	
	数学		2	
	情報科学		2	
	科学英語Ⅰ		1	
	科学英語Ⅱ		1	
	生物環境科学概説	2		
	生態学	2		
	環境化学基礎	2		
	環境化学基礎演習	1		
	科学論文作成演習	1		
	生物環境科学実習	2		
	生物化学Ⅰ		2	
	生物化学Ⅱ		2	
	有機化学		2	

専門教育部門	分子生物学		2	
	進化生物学		2	
	無機化学		2	
	生物統計学		2	
	生物保全学実験・実習	1		
	緑地創造学実験・実習	1		
	環境化学実験	1		
	生物機能調節科学実験	1		
	生物環境科学実験	1		
	ゼミナールⅠ	1		
	ゼミナールⅡ	2		
	卒業研究	6		
	植物分類学		2	
	農場実習		1	
	保全植物学		2	
	環境動物学		2	
	森林生態学		2	
	ランドスケープ・デザイン学		2	
	緑地環境学		2	
	植物生命化学		2	
	植物栄養学		2	
	物質循環論		2	
	土壌学		2	
	環境分析化学		2	
	水圏環境化学		2	
	微生物学		2	
	環境微生物学		2	
	動物環境生理学		2	
	野生動物管理論		2	
	植物繁殖生態学		2	
	景観保全論		2	
	緑地植物学		2	
	樹木医学		2	
	環境法		2	
	環境アセス論		2	
	植物生理学		2	
	植物機能科学		2	
	環境土壌学		2	
	養分動態学		2	
	機器分析化学		2	
	細胞分子生物学		2	
	植物環境適応論		2	
	生物環境科学特別講義Ⅰ		2	
	生物環境科学特別講義Ⅱ		2	
	生物環境科学特別講義Ⅲ		2	
	フィールド生産科学		2	

	果樹生産・加工品学		2	
	農学特別講義Ⅰ		2	
	農学特別講義Ⅱ		2	

② 卒業に必要な要件

(1)必修科目　24単位

(2)選択科目　教養教育部門　26単位以上

専門教育部門　74単位以上

計　100単位以上

合　計　124単位以上

6（薬学部薬学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目			単位数		
			必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	基軸科目群	人間と環境		2	
	教養教育科目群	心の科学		2	
		経営と社会		2	
		法と社会		2	
		芸術文化論		2	
		ジェンダーと社会		2	
		数と論理		2	
		情報活用リテラシー		2	
		コンピュータリテラシー		2	
		教養演習Ⅰ		2	
		教養演習Ⅱ		2	
	薬学準備教育科目群	基礎物理	1.5		
		基礎化学	1.5		
		基礎生物	1.5		
		薬剤師の使命Ⅰ	1.5		
		薬剤師の使命Ⅱ	1.5		
		薬学概論Ⅰ	1		
		薬学概論Ⅱ	1		
		コミュニケーション基礎	1		
		キャリア形成	1		
		入門実験	1		
	語学科目群	英語初級Ⅰ－Ⅰ（リーディング）		1	
		英語初級Ⅰ－Ⅰ（コミュニケーション）		1	
		英語初級Ⅰ－Ⅱ（リーディング）		1	
		英語初級Ⅰ－Ⅱ（コミュニケーション）		1	
		英語初級Ⅱ－Ⅰ（リーディング）		1	
		英語初級Ⅱ－Ⅰ（コミュニケーション）		1	
		英語初級Ⅱ－Ⅱ（リーディング）		1	
		英語初級Ⅱ－Ⅱ（コミュニケーション）		1	
		英語中級Ⅰ（リーディング）		1	
		英語中級Ⅰ（コミュニケーション）		1	
		英語中級Ⅱ（リーディング）		1	
		英語中級Ⅱ（コミュニケーション）		1	
	健康・スポーツ科学科目群	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
		健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
		健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
		健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
		健康・スポーツ科学理論		2	
		物理化学Ⅰ	1.5		
		物理化学Ⅱ	1.5		

専門薬学教育部門	基幹科目群	基礎有機化学	1.5		
		有機薬化学Ⅰ	1.5		
		有機薬化学Ⅱ	1.5		
		有機薬化学Ⅲ	1.5		
		機能形態学Ⅰ	1.5		
		機能形態学Ⅱ	1.5		
		機能形態学Ⅲ	1.5		
		生化学Ⅰ	1.5		
		生化学Ⅱ	1.5		
		生化学Ⅲ	1.5		
		薬学英語Ⅰ	1.5		
		薬学英語Ⅱ	1.5		
		薬局方試験法	1.5		
		医薬資源化学	1.5		
		微生物学	1.5		
		分子生物学Ⅰ	1.5		
		分子生物学Ⅱ	1.5		
		社会保障と医療経済	1.5		
		薬用植物と生薬	1.5		
		構造解析学	1.5		
		免疫学	1.5		
		薬物動態学Ⅰ	1.5		
		薬物動態学Ⅱ	1.5		
		薬の作用	1.5		
		製剤学Ⅰ	1.5		
		製剤学Ⅱ	1.5		
		分析化学	1.5		
		生物有機化学	1.5		
		感染予防学	1.5		
		公衆衛生学	1.5		
		衛生化学Ⅰ	1.5		
		衛生化学Ⅱ	1.5		
		薬理・病態Ⅰ	1.5		
		薬理・病態Ⅱ	1.5		
		薬理・病態Ⅲ	1.5		
		薬理・病態Ⅳ	1.5		
		薬理・病態Ⅴ	1.5		
		薬理・病態Ⅵ	1.5		
		身体変化のメカニズム	1.5		
		異常値のメカニズム	1.5		
		薬剤学	1.5		
		環境科学	1.5		
		医薬品情報学	1.5		
		製剤設計学	1.5		
		医療法規	1.5		
		和漢医薬学	1.5		

	薬物投与設計	1.5		
	セルフメディケーション・医療統計	1.5		
	化学療法・緩和医療	1.5		
	放射科学	1.5		
	臨床心理・倫理学		1.5	
	栄養学		1.5	
	臨床コミュニケーション		1.5	
実習科目群	分析系基礎実習（分析化学）	0.5		
	分析系基礎実習（生化学）	0.5		
	化学系基礎実習（有機化学１）	0.5		
	化学系基礎実習（有機化学２）	0.5		
	生物系基礎実習（生理学）	0.5		
	生物系基礎実習（微生物学）	0.5		
	化学系応用実習（有機化学３）	0.5		
	化学系応用実習（天然物化学・生薬）	0.5		
	生物系応用実習（薬理１）	0.5		
	生物系応用実習（薬理２）	0.5		
	物理系基礎実習（物理化学）	0.5		
	物理系基礎実習（製剤）	0.5		
	分析系応用実習（環境科学）	0.5		
	分析系応用実習（衛生化学）	0.5		
	物理系応用実習（薬剤）	0.5		
	物理系応用実習（医薬品情報）	0.5		
	病院実務実習	10		
	薬局実務実習	10		
	基礎化学演習		0.5	
	基礎生物演習		0.5	
	基礎物理演習		0.5	
	物理化学Ⅰ演習		0.5	
	物理化学Ⅱ演習		0.5	
	基礎有機化学演習		0.5	
	有機薬化学Ⅰ演習		0.5	
	有機薬化学Ⅱ演習		0.5	
	有機薬化学Ⅲ演習		0.5	
	機能形態学Ⅰ演習		0.5	
	機能形態学Ⅱ演習		0.5	
	機能形態学Ⅲ演習		0.5	
	生化学Ⅰ演習		0.5	
	生化学Ⅱ演習		0.5	
	生化学Ⅲ演習		0.5	
	薬学英語Ⅰ演習		0.5	
	薬学英語Ⅱ演習		0.5	
	薬局方試験法演習		0.5	
	医薬資源化学演習		0.5	
	微生物学演習		0.5	
	分子生物学Ⅰ演習		0.5	

アドバンスト演習科目群	分子生物学Ⅱ演習		0.5	
	社会保障と医療経済演習		0.5	
	薬用植物と生薬演習		0.5	
	構造解析学演習		0.5	
	免疫学演習		0.5	
	薬物動態学Ⅰ演習		0.5	
	薬物動態学Ⅱ演習		0.5	
	薬の作用演習		0.5	
	製剤学Ⅰ演習		0.5	
	製剤学Ⅱ演習		0.5	
	分析化学演習		0.5	
	生物有機化学演習		0.5	
	感染予防学演習		0.5	
	公衆衛生学演習		0.5	
	衛生化学Ⅰ演習		0.5	
	衛生化学Ⅱ演習		0.5	
	薬理・病態Ⅰ演習		0.5	
	薬理・病態Ⅱ演習		0.5	
	薬理・病態Ⅲ演習		0.5	
	薬理・病態Ⅳ演習		0.5	
	薬理・病態Ⅴ演習		0.5	
	薬理・病態Ⅵ演習		0.5	
	身体変化のメカニズム演習		0.5	
	異常値のメカニズム演習		0.5	
	薬剤学演習		0.5	
	環境科学演習		0.5	
	医薬品情報学演習		0.5	
	製剤設計学演習		0.5	
	医療法規演習		0.5	
	応用演習１（機能形態学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
	応用演習２（生化学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
	応用演習３（物理化学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
	応用演習４（分析化学）		0.5	
	応用演習５（医薬資源化学／薬用植物と生薬）		0.5	
	応用演習６（基礎有機化学／有機薬化学Ⅰ）		0.5	
	応用演習７（機能形態学Ⅲ）		0.5	
	応用演習８（生化学Ⅲ）		0.5	
	応用演習９（薬局方試験法／構造解析学）		0.5	
	応用演習１０（分子生物学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
	応用演習１１（微生物学／免疫学）		0.5	
	応用演習１２（異常値／身体変化のメカニズム）		0.5	
	応用演習１３（有機薬化学Ⅱ／Ⅲ）		0.5	
	応用演習１４（環境科学／公衆衛生学）		0.5	
	応用演習１５（薬の作用／薬理・病態Ⅰ）		0.5	
	応用演習１６（薬物動態学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
	応用演習１７（製剤学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	

		応用演習１８（生物有機化学／製剤設計学）		0.5	
		応用演習１９（衛生化学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
		応用演習２０（薬理・病態Ⅳ／感染予防学）		0.5	
		応用演習２１（薬剤学／医薬品情報学）		0.5	
		応用演習２２（薬理・病態Ⅱ／Ⅲ）		0.5	
		応用演習２３（薬理・病態Ⅴ／Ⅵ）		0.5	
統合型薬学教育部門		薬物治療マネジメント	10		
		基礎薬学総論	3		
		実務実習事前講義・演習	4		
		薬学特別講義	3		
		薬学特別演習		3	
薬学アドバンスト教育部門	実践薬学科目群	発展キャリア形成１（物理・分析系）		1	
		発展キャリア形成２（化学系）		1	
		発展キャリア形成３（生物系）		1	
		発展キャリア形成４（衛生系）		1	
		発展キャリア形成５（薬理病態系）		1	
		発展キャリア形成６（薬剤製剤系）		1	
		発展キャリア形成７（プロフェッショナリズム）		1	
		医療の最前線		1	
		薬剤師の専門性		1	
		エクスターンシップ		1	
		多職種連携		0.5	
		医療を知る		1	
		臨床栄養療法学		1	
		医療英語コミュニケーション		1	
		セルフケア・介護		1	
		救命救急・院内感染予防		1	
		運動療法		1	
		医薬品開発論		1	
	薬学研究科目群	薬学卒業研究基礎	3		
		薬学卒業研究Ⅰ	5		
		薬学卒業研究Ⅱ	5		
		薬学卒業演習Ⅰ		1	
		薬学卒業応用演習Ⅰ		1	
		薬学卒業演習Ⅱ		1	
		薬学卒業応用演習Ⅱ		1	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　教養教育部門　14.5単位
専門薬学教育部門
基幹科目群　78単位
実習科目群　28単位
統合型薬学教育部門　20単位
薬学アドバンスト教育部門
薬学研究科目群　13単位
計　153.5単位

(2) 選択科目　教養教育部門　23単位以上

専門薬学教育部門	
基幹科目群	3単位以上
アドバンスト演習科目群	6.5単位以上
薬学アドバンスト教育部門	
実践薬学科目群	8単位以上
薬学研究科目群	2単位以上
計	42.5単位以上
合　　計	196単位以上

7（都市情報学部都市情報学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	歴史と文化		2	
	芸術文化論		2	
	欧米文化論		2	
	アジア文化論		2	
	文化人類学の世界		2	
	哲学		2	
	心の科学		2	
	宗教の世界		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	経済と社会		2	
	経営と社会		2	
	政治と社会		2	
	国際化時代の人間と社会		2	
	社会学		2	
	都市と人間		2	
	ジェンダーと社会		2	
	人間と社会の演習		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
	英語基礎Ⅰ（リーディング）		1	
	英語基礎Ⅰ（コミュニケーション）		1	
	英語基礎Ⅱ（リーディング）		1	
	英語基礎Ⅱ（コミュニケーション）		1	
	英語初級Ⅰ－Ⅰ（リーディング）		1	
	英語初級Ⅰ－Ⅰ（コミュニケーション）		1	
	英語初級Ⅰ－Ⅱ（リーディング）		1	
	英語初級Ⅰ－Ⅱ（コミュニケーション）		1	
	英語初級Ⅱ－Ⅰ（リーディング）		1	
	英語初級Ⅱ－Ⅰ（コミュニケーション）		1	
	英語初級Ⅱ－Ⅱ（リーディング）		1	
	英語初級Ⅱ－Ⅱ（コミュニケーション）		1	
	フランス語入門Ⅰ		1	
	フランス語入門Ⅱ		1	
	フランス語初級Ⅰ		1	
	フランス語初級Ⅱ		1	
	ドイツ語入門Ⅰ		1	
	ドイツ語入門Ⅱ		1	
	ドイツ語初級Ⅰ		1	
	ドイツ語初級Ⅱ		1	
	コンピュータリテラシー		2	

		コンピュータシステム		2	
		プログラミング入門		2	
		情報社会と倫理		2	
		健康・スポーツ科学Ⅰ		1	
		健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
		健康科学論Ⅰ		2	
		健康科学論Ⅱ		2	
		教養演習Ⅰ		2	
専門基礎部門		都市情報学概論Ⅰ	2		
		都市情報学概論Ⅱ	2		
		都市学英語Ⅰ	1		
		都市学英語Ⅱ	1		
		情報管理の基礎	2		
		情報管理の応用	2		
		情報処理の基礎	2		
		情報処理の応用	2		
		コンピュータ演習Ⅰ（リテラシー）	2		
		コンピュータ演習Ⅱ（基礎プログラミング）	2		
		コンピュータ演習Ⅲ（オペレーティングシステム）	2		
		コンピュータ演習Ⅳ（応用プログラミング）	2		
		コンピュータ演習Ⅴ（プレゼンテーション）		2	
		コンピュータ演習Ⅵ（データベース）		2	
		情報とビジネス		2	
		ユビキタスと社会		2	
		都市と文化		2	
		都市の構造		2	
		数学の基礎Ａ－Ⅰ		2	
		数学の基礎Ａ－Ⅱ		2	
		数学の基礎Ｂ－Ⅰ		2	
		数学の基礎Ｂ－Ⅱ		2	
		ディジタルメディア表現入門		2	
	経済・経営	都市の経済		2	
		企業の経営		2	
		事業のマネジメント		2	
		企業の経済		2	
		企業の会計		2	
		経済の政策		2	
		都市と社会		2	
		経済と地理		2	
		貨幣の経済		2	
		都市と金融		2	
	財政・行政	都市と行政		2	
		都市と財政		2	
		地方と財政		2	
		都市と自治		2	
		都市と社会保障		2	

専門部門		都市と福祉		2	
		公共の政策		2	
		都市と公企業		2	
		都市と国際関係		2	
		国際社会と政治		2	
	地域計画	都市の計画		2	
		都市のデザイン		2	
		都市の再生		2	
		防災とまちづくり		2	
		交通の計画		2	
		交通とまちづくり		2	
		水利用の計画		2	
		水環境とまちづくり		2	
		観光と政策		2	
		観光と経営		2	
	開発・環境	都市の環境		2	
		国際化と地域開発		2	
		都市と事業構想		2	
		環境の政策		2	
		環境の評価		2	
		事業の評価		2	
		紛争のマネジメント		2	
		危機のマネジメント		2	
		都市と生態環境		2	
		地域環境の保全		2	
	情報・数理	データ分析と確率		2	
		データ分析と統計		2	
		情報と基礎解析		2	
		情報と応用解析		2	
		計画の数理		2	
		意思決定の数理		2	
		評価のＯＲ		2	
		経営のＯＲ		2	
		数理と情報処理		2	
		知識と情報処理		2	
		画像と情報処理		2	
		図形と情報処理		2	
		視環境と情報処理		2	
		認知と情報処理		2	
		知覚情報と脳の働き		2	
		都市生活とストレス		2	
	総合科目	コンピュータ総合演習Ⅰ		4	
		コンピュータ総合演習Ⅱ		4	
		サービスサイエンス特別講義Ⅰ		2	
		サービスサイエンス特別講義Ⅱ		2	
		キャリアアップ講座Ⅰ		2	

		キャリアアップ講座Ⅱ		2	
		インターンシップ		2	
		異文化コミュニケーション		1	
		ゼミナール	8		

② 卒業に必要な要件

(1)必修科目	専門基礎部門	22単位
	専門部門	8単位
	計	30単位
(2)選択科目	教養教育部門	32単位以上
	専門基礎部門	8単位以上
	専門部門	54単位以上
	計	94単位以上
	合　　計	124単位以上

8（人間学部人間学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目			単位数		
			必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	基軸科目	現代に生きる		2	
	人間と文化	歴史と文化		2	
		文学と人間		2	
		芸術文化論		2	
		欧米文化論		2	
		アジア文化論		2	
		文化人類学の世界		2	
		哲学		2	
		宗教の世界		2	
	人間と社会	日本国憲法		2	
		法と社会		2	
		経済と社会		2	
		政治と社会		2	
		自己と社会		2	
		都市と人間		2	
		ジェンダーと社会		2	
	自然と環境	地球と宇宙		2	
		物質の成り立ち		2	
		生命の多様性		2	
		数と論理		2	
		人間とデザイン		2	
	言語コミュニケーション	英語基礎Ⅰ（リーディング）	1		
		英語基礎Ⅱ（リスニング）	1		
		英語初級Ⅰ－Ⅰ（リーディング）	1		
		英語初級Ⅰ－Ⅱ（リスニング）	1		
		英語初級Ⅱ－Ⅰ（リーディング）	1		
		英語初級Ⅱ－Ⅱ（リスニング）	1		
		英語中級Ⅰ（リーディング）	1		
		英語中級Ⅱ（リスニング）	1		
		フランス語入門		1	
		フランス語応用		1	
		ドイツ語入門		1	
		ドイツ語応用		1	
		中国語入門		1	
		中国語応用		1	
		ハングル入門		1	
		ハングル応用		1	
		スペイン語入門		1	
		スペイン語応用		1	
	情報技術	コンピュータリテラシー		2	
		情報活用リテラシー		2	
		情報処理入門		2	
		情報社会と倫理		2	

	健康とスポーツ科学	健康・スポーツ科学Ⅰ		1	
		健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
	教養演習	教養演習		2	
	キャリア・デザイン	キャリア形成論	2		
	基礎科目	人間学総論	2		
		心理学概論	2		
		社会学概論	2		
		国際コミュニケーション概論	2		
		生命倫理入門		2	
		環境人間学		2	
		データ解析入門		2	
	心理系	発達心理学		2	
		感情・人格心理学		2	
		教育心理学		2	
		生徒・進路指導論		2	
		臨床心理学概論		2	
		社会・集団・家族心理学		2	
		知覚・認知心理学		2	
		学習・言語心理学		2	
		学校教育相談		2	
		教育・学校心理学		2	
		心理学研究法		2	
		心理学統計法		2	
		心理学実験演習		2	
		福祉心理学		2	
		健康・医療心理学		2	
		障害者・障害児心理学		2	
		心理的アセスメント		2	
		心理学的支援法		2	
		産業・組織心理学		2	
		司法・犯罪心理学		2	
		神経・生理心理学		2	
		人体の構造と機能及び疾病		2	
		特別支援教育論		2	
		精神疾患とその治療		2	
		心理演習		2	
		特殊講義Ａ		2	
		公認心理師の職責			2
		関係行政論			2
		心理実習			2
		現代社会論		2	
		家族社会学		2	
		教育学概論		2	

専門教育部門	社会・教育系	地域文化論		2	
		環境社会学		2	
		社会福祉論		2	
		政治学		2	
		学習社会論		2	
		学校教育論		2	
		教育行政論		2	
		教育社会学		2	
		道徳教育論		2	
		日本文化史		2	
		西洋文化史		2	
		ジャーナリズム論		2	
		社会調査法		2	
		人口社会学		2	
		日本社会史		2	
		西洋社会史		2	
		西洋芸術史		2	
		都市文明史		2	
		教育史		2	
		地域教育論		2	
		現代メディア論		2	
		日本史		2	
		外国史		2	
		自然地理学		2	
		地理学		2	
		地誌学		2	
		社会科教材デザイン論		2	
		特殊講義Ｂ		2	
		国際関係論		2	
		国際文化論		2	
		コミュニケーション論		2	
		言語文化論		2	
		イングリッシュ・コミュニケーション		2	
		英語音声学		2	
		英語文学史		2	
		異文化理解		2	
		国際協力論		2	
		英語圏文化研究		2	
		地域研究		2	
		国際コミュニケーション		2	
		ビジネス・コミュニケーション		2	
		プレゼンテーション		2	
		メディア・イングリッシュ		2	
		インテンシィブ・イングリッシュ		2	
		パラグラフ・ライティング		2	
		リスニング・コミュニケーションスキルⅠ		1	
		リーディング・ライティングスキルⅠ		1	

	国際・コミュニケーション系	英語学		2	
		英語史		2	
		英語文学概論		2	
		英語文学講読		2	
		フランス語圏文学論		2	
		異文化コミュニケーション		2	
		国際組織論		2	
		多文化社会論		2	
		比較文化論		2	
		比較言語論		2	
		社会言語学		2	
		エッセイ・ライティング		2	
		リスニング・コミュニケーションスキルⅡ		1	
		リーディング・ライティングスキルⅡ		1	
		英語文化表現		2	
		英語文学研究		2	
		英語科教材デザイン論		2	
		リスニング・コミュニケーションスキルⅢ		1	
		リーディング・ライティングスキルⅢ		1	
		特殊講義C		2	
	体験科目	フィールドワーク入門		2	
		ボランティア入門		2	
		海外体験入門		2	
		語学研修		2	
		フィールドワーク		2	
		ボランティア		2	
		インターンシップ		2	
		海外研修		4	
		海外インターンシップ		4	
	文献講読	文献講読A	2		
		文献講読B		2	
	ゼミナール	基礎ゼミナール	2		
		基幹ゼミナール	2		
		卒業研究ゼミナール	4		

② 卒業に必要な要件

(1)必修科目　教養教育部門　10単位
　専門教育部門　18単位
　計　28単位

(2)選択科目　教養教育部門　20単位以上
　専門教育部門　76単位以上
　計　96単位以上

合　計　124単位以上

9（外国語学部国際英語学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目			単位数		
			必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	基軸科目	現代に生きる		2	
	発展科目	歴史と文化		2	
		芸術と人間		2	
		哲学		2	
		心の科学		2	
		文化人類学		2	
		日本国憲法		2	
		経済学		2	
		市民と社会		2	
		ジェンダーと社会		2	
		科学と技術の歩み		2	
		海外留学入門		2	
		人間と自然		2	
		地球と宇宙		2	
		生命の多様性		2	
		数と論理		2	
	情報教育科目	コンピュータリテラシー		2	
		ウェブデザイン		2	
		情報社会と倫理	2		
	体育科目	健康･スポーツ科学Ⅰ		1	
		健康･スポーツ科学Ⅱ		1	
	キャリア教育科目	キャリア形成論		2	
		インターンシップ		2	
		日本とグローバル人材		2	
		英語コミュニケーションⅠ(基礎1)	2		
		英語コミュニケーションⅡ(基礎2)	2		
		英語コミュニケーションⅢ(応用1)	2		
		英語コミュニケーションⅣ(応用2)	2		
		英語コミュニケーションⅤ(発展)	2		
		英語リーディングⅠ(基礎1)	1		
		英語リーディングⅡ(基礎2)	1		
		英語リーディングⅢ(応用1)	1		
		英語リーディングⅣ(応用2)	1		
		英語リーディングⅤ(発展)	1		
		英語ライティングⅠ(基礎1)	1		
		英語ライティングⅡ(基礎2)	1		
		英語ライティングⅢ(応用1)	1		
		英語ライティングⅣ(応用2)	1		
		英語ライティングⅤ(発展)	1		
		英語ディスカッションⅠ(基礎1)	1		
		英語ディスカッションⅡ(基礎2)	1		

専門教育部門	外国語科目群	英語ディスカッションⅢ(応用1)	1		
		英語ディスカッションⅣ(応用2)	1		
		パブリック・スピーキング	1		
		ディベート	1		
		中国語入門Ⅰ		1	
		中国語入門Ⅱ		1	
		中国語初級Ⅰ		1	
		中国語初級Ⅱ		1	
		中国語中級Ⅰ		1	
		中国語中級Ⅱ		1	
		中国語応用Ⅰ		1	
		中国語応用Ⅱ		1	
		韓国語入門Ⅰ		1	
		韓国語入門Ⅱ		1	
		韓国語初級Ⅰ		1	
		韓国語初級Ⅱ		1	
		韓国語中級Ⅰ		1	
		韓国語中級Ⅱ		1	
		韓国語応用Ⅰ		1	
		韓国語応用Ⅱ		1	
		フランス語入門Ⅰ		1	
		フランス語入門Ⅱ		1	
		フランス語初級Ⅰ		1	
		フランス語初級Ⅱ		1	
		フランス語中級Ⅰ		1	
		フランス語中級Ⅱ		1	
		フランス語応用Ⅰ		1	
		フランス語応用Ⅱ		1	
		スペイン語入門Ⅰ		1	
		スペイン語入門Ⅱ		1	
		スペイン語初級Ⅰ		1	
		スペイン語初級Ⅱ		1	
		スペイン語中級Ⅰ		1	
		スペイン語中級Ⅱ		1	
		スペイン語応用Ⅰ		1	
		スペイン語応用Ⅱ		1	
	専門基礎科目群	英語学概論	2		
		英米文学概論	2		
		異文化理解	2		
		英語音声学		2	
		英語の構造と仕組み		2	
		コミュニケーションのための英文法		2	
		イギリス文学研究		2	
		アメリカ文学研究		2	
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ		2	
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ		2	

	異文化コミュニケーション		2	
	多文化共生論		2	
	日本中世近世史		2	
	日本文学研究		2	
	日本の伝統文化		2	
	日本の先端文化		2	
	アジアを学ぶ	2		
	地域研究論		2	
専門基幹科目群	アカデミック・イングリッシュⅠ		2	
	アカデミック・イングリッシュⅡ		2	
	メディア・イングリッシュⅠ		2	
	メディア・イングリッシュⅡ		2	
	英語の拡がりと多様性		2	
	第二言語習得論		2	
	英語科教育法Ⅰ		2	
	英語科教育法Ⅱ		2	
	アメリカ地域研究		2	
	イギリス地域研究		2	
	中国地域研究		2	
	韓国地域研究		2	
	ベトナムの言語と文化Ⅰ		2	
	ベトナムの言語と文化Ⅱ		2	
	タイの言語と文化Ⅰ		2	
	タイの言語と文化Ⅱ		2	
	インドネシアの言語と文化Ⅰ		2	
	インドネシアの言語と文化Ⅱ		2	
	国際フィールドワークⅠ(英語圏)		4	
	国際フィールドワークⅡ(非英語圏)		4	
	海外研修		4	
	日本近現代史	2		
	日本の宗教		2	
	日本の経済		2	
	日本の政治		2	
	現代の日本社会		2	
	パブリックリレーションズ		2	
	仏教文化論		2	
	キリスト教文化論		2	
	イスラム教文化論		2	
専門展開科目群	英語通訳演習		2	
	ビジネス英語		2	
	英語プレゼンテーション		2	
	英語科指導法Ⅰ		2	
	英語科指導法Ⅱ		2	
	日本のものづくり		2	
	日本のツーリズム		2	
	国際関係論		2	

		国際経済論		2	
		近現代の日中関係		2	
		近現代の日韓関係		2	
		アセアン事情		2	
		南アジア事情		2	
		ヨーロッパの文学と社会		2	
	ゼミナール科目群	基礎演習Ⅰ	2		
		基礎演習Ⅱ	2		
		基礎演習Ⅲ		2	
		基礎演習Ⅳ		2	
		ゼミナールⅠ	2		
		ゼミナールⅡ	2		
		ゼミナールⅢ	2		
		ゼミナールⅣ	2		

② 卒業に必要な要件

(1)必修科目　50単位

(2)選択科目　74単位以上

合計　124単位以上

１０（情報工学部情報工学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	
	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	

専門教育部門	理工学基礎科目	物理学実験Ⅰ		1	
		物理学実験Ⅱ		1	
		化学Ⅰ		2	
		化学Ⅱ		2	
		化学実験Ⅰ		1	
		化学実験Ⅱ		1	
		地学Ⅰ		2	
		地学Ⅱ		2	
		地学実験Ⅰ		1	
		地学実験Ⅱ		1	
		生物学		2	
		生物学実験		1	
		理工学概論		2	
		技術者倫理		2	
		コンピューターリテラシー		2	
		数学基礎演習Ⅰ			1
		数学基礎演習Ⅱ			1
		物理学基礎演習Ⅰ			1
		物理学基礎演習Ⅱ			1
		化学基礎演習Ⅰ			1
		化学基礎演習Ⅱ			1
		英語基礎演習Ⅰ			1
		英語基礎演習Ⅱ			1
	情報工学基礎科目	情報工学の世界		2	
		情報工学基礎演習		1	
		テクニカルリテラシー		2	
		プラクティカルICT		1	
		情報通信ネットワーク		2	
		情報理論		2	
		情報セキュリティ		2	
		情報通信システム		2	
		信号伝送論		2	
		符号理論		2	
		ワイヤレス通信		2	
		コンピュータアーキテクチャⅠ		2	
		コンピュータアーキテクチャⅡ		2	
		ディジタル回路Ⅰ		2	
		ディジタル回路Ⅱ		2	
		電気電子回路Ⅰ		2	
		電気電子回路Ⅱ		2	
		ディジタル信号処理Ⅰ		2	
		ディジタル信号処理Ⅱ		2	
		システム制御		2	
		フィジカルコンピューティング		2	
		ハードウェア記述言語		2	
		センサ工学		2	
		集積回路設計		2	
		アルゴリズム・データ構造		2	

	情報工学専門科目	オペレーティングシステム		2	
		データベース		2	
		ソフトウェア工学		2	
		言語・オートマトン		2	
		人工知能		2	
		数値解析		2	
		コンパイラ		2	
		プログラミング言語論		2	
		パターン認識		2	
		応用アルゴリズム		2	
		数理計画法		2	
		マルチメディア基礎		2	
		画像処理		2	
		コンピュータグラフィックス		2	
		コンピュータビジョン		2	
		感性情報処理		2	
		音声・音響信号処理		2	
		バーチャルリアリティ		2	
		言語情報処理		2	
		離散数学		2	
		確率・統計		2	
		データサイエンス基礎	2		
		応用解析		2	
		電磁気学		2	
		プログラミング演習Ⅰ	1		
		プログラミング演習Ⅱ	1		
		プログラミング演習Ⅲ		1	
		プログラミング演習Ⅳ		1	
		情報工学実験Ⅰ	2		
		情報工学実験Ⅱ		2	
		インターンシップ		1	
		グローバルゼミナール		1	
		モバイルアプリ開発A			1
		モバイルアプリ開発B			1
		キャリアゼミナール		1	
		研究ゼミナール		1	
		情報工学総合ゼミナール		1(総)	
		情報技術の応用と職業		2(総)	
		創造的思考法	2(先)	2(総)	
		研究開発リテラシー	2(先)	2(総)	
		アプリケーション開発	2(先)	2(総)	
		PBL概論	2(先)	2(総)	
		先進プロジェクト実験Ⅰ	2(先)	2(総)	
		先進プロジェクト実験Ⅱ		2(先)	
		先進プロジェクトゼミナール	1(先)		
		卒業研究	4		

備考　(総)は総合コース、(先)は先進プロジェクトコースの単位数

② 卒業に必要な要件

(総合コース)

(1)必修科目	専門教育部門	10単位
(2)選択科目	総合基礎部門	20単位以上
	専門教育部門	94単位以上
	計	114単位以上
	合　　計	124単位以上

(先進プロジェクトコース)

(1)必修科目	専門教育部門	21単位
(2)選択科目	総合基礎部門	20単位以上
	専門教育部門	83単位以上
	計	103単位以上
	合　　計	124単位以上

別表第３（第２４条第３項関係）

① 日本語に関する授業料目及び単位数

授　業　科　目	単位数
日本事情概説Ⅰ	2
日本事情概説Ⅱ	2
日本語Ⅰ	2
日本語Ⅱ	2
日本語Ⅲ	2
日本語Ⅳ	2
日本語Ⅴ	2

② 外国人留学生及び帰国子女として入学した者が、前号に定める授業科目を履修し、単位を修得した場合は，その単位を別表第２に規定する授業科目のうち，全学共通教育部門の選択科目に代えることができる。

③ 全学共通教育を導入しない学部においては、従前の規定に従う。

別表第３の２（第２４条第５項関係）

授業科目及び単位数

授　業　科　目	単位数
国際日本学入門	2
国際日本学Ⅰ	2
国際日本学Ⅱ	2
国際日本学Ⅲ	2
国際日本学Ⅳ	2
国際日本学Ⅴ	2
国際日本学Ⅵ	2
国際日本学Ⅶ	2
国際日本学Ⅷ	2
国際日本学Ⅸ	2
国際日本学Ⅹ	2
国際日本学フィールドワークⅠ	2
国際日本学フィールドワークⅡ	2
初級日本語Ⅰ	2
初級日本語Ⅱ	2
初級日本語Ⅲ	2
初級日本語Ⅳ	2
中級日本語Ⅰ	2
中級日本語Ⅱ	2
中級日本語Ⅲ	2
中級日本語Ⅳ	2
上級日本語Ⅰ	2
上級日本語Ⅱ	2
上級日本語Ⅲ	2
上級日本語Ⅳ	2
上級日本語Ⅴ	2
上級日本語Ⅵ	2
上級日本語Ⅶ	2

上級日本語Ⅷ	2
上級日本語Ⅸ	2
上級日本語Ⅹ	2
上級日本語Ⅺ	2
上級日本語Ⅻ	2

別表第４（第３９条第２項関係）

①　教職に関する授業科目及び単位数

授　業　科　目	単　位　数	
	必修科目	選択科目
教職入門		2
教育原論		2
学習社会論		2
教育心理学		2
発達心理学		2
特別支援教育論		2
教育行政論		2
教育法規		2
教育課程論		2
教育情報論		2
社会・地理歴史科教育法		2
社会・公民科教育法		2
社会・地理歴史科指導法		2
社会・公民科指導法		2
数学科教育法Ａ		2
数学科教育法Ｂ		2
数学科指導法Ａ		2
数学科指導法Ｂ		2
英語科教育法Ａ		2
英語科教育法Ｂ		2
英語科指導法Ａ		2
英語科指導法Ｂ		2
理科教育法Ａ		2
理科教育法Ｂ		2
理科指導法Ａ		2
理科指導法Ｂ		2
商業科教育法		2
商業科指導法		2
工業科教育法		2
工業科指導法		2
農業科教育法		2
農業科指導法		2
情報科教育法		2
情報科指導法		2
道徳教育の理論と指導法		2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法		2

教育方法・技術論		2
生徒・進路指導論		2
学校教育相談		2
教職実践演習(中・高)		2
教育実習Ⅰ		2
教育実習Ⅱ		2
教育実習指導		1
模擬授業演習		2
学校課題演習		2

② 教育職員免許状を取得しようとする者は、免許教科の種類に応じて、前号の授業科目及び別表第２に規定する授業科目のうちから、所定の科目を履修のうえ、必要とする単位を取得しなければならない。

別表第５（第４０条関係）

学　部	学　科	種　別	教　科
法学部	法学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民
経営学部	経営学科	高等学校教諭一種免許状	商業
	国際経営学科	高等学校教諭一種免許状	商業
経済学部	経済学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・商業
	産業社会学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・商業
理工学部	数学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報
	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	材料機能工学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	応用化学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	機械工学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	交通機械工学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	メカトロニクス工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	社会基盤デザイン工学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	環境創造工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	建築学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
農学部	生物資源学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・農業
	応用生物化学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・農業

	生物環境科学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・農業
都市情報学部	都市情報学科	高等学校教諭一種免許状	公民・情報
人間学部	人間学科	中学校教諭一種免許状	社会・英語
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・英語
外国語学部	国際英語学科	中学校教諭一種免許状	英語
		高等学校教諭一種免許状	英語
情報工学部	情報工学科	高等学校教諭一種免許状	情報・工業

別表第６（第４０条の２関係）

①　学芸員に関する授業科目及び単位数

授　業　科　目		単位数
博物館に関する科目	生涯学習論	2
	博物館原論	2
	博物館経営論	2
	博物館資料論Ⅰ	2
	博物館資料論Ⅱ	2
	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2
	博物館実習Ⅰ	2
	博物館実習Ⅱ	1
	博物館実習Ⅲ	1
	博物館情報論	1
	教育メディア環境論	2
	博物館教育論	2
専門分野に関する科目	日本文化の歴史	2
	民俗学	2
	古文書学	2
	考古学	2
	芸術史	2

②　学芸員の資格を取得しようとする者は、前号の授業科目及び別表第２に規定する授業科目のうちから、所定の科目を履修のうえ、必要とする単位を取得しなければならない。

(2) 変更事項を記載した書類

変更の事由及び時期を記載した書類

１．名城大学学則の変更の事由

（１）　第３条第１項、第３条の２、別表第１（第３条第２項関係）、別表第２（第24条第３項関係）、別表第５（第40条関係）の改正

（事由）　理工学部情報工学科の改組による情報工学部の設置に係る学則変更のため。

（２）　附則

（事由）　上記改正の施行日を明確にするため。

２．変更の時期

令和４年４月１日

(3) 変更部分の新旧対照表

新旧比較対照表

改正規定	改正前の規定
（略）	（略）
（学部） 第３条　本大学に、次の学部及び学科を置く。	（学部） 第３条　本大学に、次の学部及び学科を置く。
（略）	（略）
理工学部　数学科、電気電子工学科、材料機能工学科、応用化学科、機械工学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、環境創造学科、建築学科	理工学部　数学科、**情報工学科、**電気電子工学科、材料機能工学科、応用化学科、機械工学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、環境創造学科、建築学科
（略）	（略）
外国語学部　国際英語学科	外国語学部　国際英語学科
情報工学部　情報工学科	
②　前項の各学部及び学科の収容定員は、別表第１のとおりとする。	②　前項の各学部及び学科の収容定員は、別表第１のとおりとする。
（学部の人材の養成に関する目的） 第３条の２　前条に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に関しては、以下のように定める。	（学部の人材の養成に関する目的） 第３条の２　前条に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に関しては、以下のように定める。
（略）	（略）
（９）　外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材	（９）　外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材

の養成を目的とする。

① グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材

② アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材

（10） 情報工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する情報工学の専門知識とその応用力を持ち、情報技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的とする。

（略）

別表第1（第3条第2項関係）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法学科	400名	1,600名
（略）			
理工学部	数学科	90名	360名
	電気電子工学科	150名	600名
（略）			
外国語学部	国際英語学科	130名	520名
情報工学部	**情報工学科**	**180名**	**720名**
合計		**3,400名**	**14,130名**

の養成を目的とする。

① グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材

② アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材

（略）

別表第1（第3条第2項関係）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法学科	400名	1,600名
（略）			
理工学部	数学科	90名	360名
	情報工学科	**150名**	**600名**
	電気電子工学科	150名	600名
（略）			
外国語学部	国際英語学科	130名	520名
合計		**3,370名**	**14,010名**

別表第２（第24条第３項関係）

（略）

別表第２（第24条第３項関係）

（略）

４の２（理工学部情報工学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目	単位数		
	必修科目	選択科目	自由科目
英語コミュニケーションⅠ		1	
英語コミュニケーションⅡ		1	
英語コミュニケーションⅢ		1	
英語コミュニケーションⅣ		1	
プラクティカル・イングリッシュⅠ		1	
プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
ドイツ語Ⅰ		1	
ドイツ語Ⅱ		1	
ドイツ語Ⅲ		1	
ドイツ語Ⅳ		1	
フランス語Ⅰ		1	
フランス語Ⅱ		1	
フランス語Ⅲ		1	
フランス語Ⅳ		1	

総合基礎部門	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	
	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	

物理学Ⅱ		2	
物理学演習		1	
物理学実験Ⅰ		1	
物理学実験Ⅱ		1	
化学Ⅰ		2	
化学Ⅱ		2	
化学実験Ⅰ		1	
化学実験Ⅱ		1	
地学Ⅰ		2	
地学Ⅱ		2	
地学実験Ⅰ		1	
地学実験Ⅱ		1	
生物学		2	
生物学実験		1	
理工学概論		2	
技術者倫理		2	
コンピューターリテラシー		2	
数学基礎演習Ⅰ			1
数学基礎演習Ⅱ			1
物理学基礎演習Ⅰ			1
物理学基礎演習Ⅱ			1
化学基礎演習Ⅰ			1
化学基礎演習Ⅱ			1
英語基礎演習Ⅰ			1
英語基礎演習Ⅱ			1
情報通信ネットワーク		2	

		情報理論		2	
		情報セキュリティ		2	
		情報通信システム		2	
		信号伝送論		2	
		符号理論		2	
		ワイヤレス通信		2	
		コンピューターアーキテクチャⅠ		2	
		コンピューターアーキテクチャⅡ		2	
		ディジタル回路Ⅰ		2	
		ディジタル回路Ⅱ		2	
		電気電子回路Ⅰ		2	
		電気電子回路Ⅱ		2	
		ディジタル信号処理Ⅰ		2	
		ディジタル信号処理Ⅱ		2	
	専門教育部門	組込システム		2	
		システム制御Ⅰ		2	
		システム制御Ⅱ		2	
		ハードウェア記述言語		2	
		センサ工学		2	
		ロボットシステム		2	

アルゴリズム・データ構造Ⅰ		2	
アルゴリズム・データ構造Ⅱ		2	
オペレーティングシステム		2	
データベース		2	
ソフトウェア工学		2	
言語・オートマトン		2	
人工知能		2	
数値解析		2	
コンパイラ		2	
プログラミング言語論		2	
パターン認識		2	
アドバンストアルゴリズム		2	
数理計画法		2	
マルチメディア基礎		2	
画像処理		2	
コンピュータグラフィックス		2	
コンピュータビジョン		2	
感性情報処理		2	
音声・音響信号処理		2	
バーチャル		2	

リアリティ			
言語情報処理		2	
情報工学の世界	2		
情報工学基礎演習	1		
テクニカルリテラシー	2		
離散数学		2	
確率論		2	
統計解析		2	
情報数学基礎	2		
応用解析		2	
電磁気学Ⅰ		2	
電磁気学Ⅱ		2	
プログラミング演習Ⅰ	1		
プログラミング演習Ⅱ	1		
プログラミング演習Ⅲ		1	
プログラミング演習Ⅳ		1	
情報工学実験Ⅰ	2		
情報工学実験Ⅱ		2	
情報工学実験Ⅲ		2	
インターンシップ		1	
ゼミナール	2		
情報技術の応用と職業		2	
卒業研究	4		

② 卒業に必要な要件

（１）必修科目　　１７単位

	（２）選択科目　総合基礎部門 ２０単位以上 専門教育部門 ８７単位以上 計　１０７単位以上 合計　１２４単位以上
（略）	（略）
４の２（理工学部電気電子工学科）	４の３（理工学部電気電子工学科）
（略）	（略）
４の３（理工学部材料機能工学科）	４の４（理工学部材料機能工学科）
（略）	（略）
４の４（理工学部応用化学科）	４の５（理工学部応用化学科）
（略）	（略）
４の５（理工学部機械工学科）	４の６（理工学部機械工学科）
（略）	（略）
４の６（理工学部交通機械工学科）	４の７（理工学部交通機械工学科）
（略）	（略）
４の７（理工学部メカトロニクス工学科）	４の８（理工学部メカトロニクス工学科）
（略）	（略）
４の８（理工学部社会基盤デザイン工学科）	４の９（理工学部社会基盤デザイン工学科）
（略）	（略）
４の９（理工学部環境創造工学科）	４の１０（理工学部環境創造工学科）
（略）	（略）
４の１０（理工学部建築学科）	４の１１（理工学部建築学科）
（略）	（略）
９（外国語学部国際英語学科）	９（外国語学部国際英語学科）
（略）	（略）
１０（情報工学部情報工学科）	
①　授業科目及び単位数	

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎	英語コミュニケーション Ⅰ		１	
総合基礎	英語コミュ		１	

部門	ニケーション Ⅱ			
	英語コミュニケーション Ⅲ		1	
	英語コミュニケーション Ⅳ		1	
	プラクティカル・イングリッシュ Ⅰ		1	
	プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		1	
	ドイツ語 Ⅰ		1	
	ドイツ語 Ⅱ		1	
	ドイツ語 Ⅲ		1	
	ドイツ語 Ⅳ		1	
	フランス語 Ⅰ		1	
	フランス語 Ⅱ		1	
	フランス語 Ⅲ		1	
	フランス語 Ⅳ		1	
	中国語 Ⅰ		1	
	中国語 Ⅱ		1	
	中国語 Ⅲ		1	
	中国語 Ⅳ		1	
	体育科学 Ⅰ		1	
	体育科学 Ⅱ		1	
	体育科学 Ⅲ		1	
	体育科学 Ⅳ		1	
	人文科学基礎 Ⅰ		2	
	人文科学基礎 Ⅱ		2	
	社会科学基		2	

		礎 Ⅰ			
		社会科学基礎 Ⅱ		2	
		アジア文化論 Ⅰ		2	
		アジア文化論 Ⅱ		2	
		欧米文化論 Ⅰ		2	
		欧米文化論 Ⅱ		2	
		国際関係論		2	
		文学		2	
		日本国憲法		2	
		国際経済論		2	
		心理学		2	
		基礎ゼミナール Ⅰ		1	
		基礎ゼミナール Ⅱ		1	
		職業指導論		2	
専門教育	理工学基	微分積分 Ⅰ		2	
		微分積分 Ⅱ		2	
		線形代数 Ⅰ		2	
		線形代数 Ⅱ		2	
		物理学 Ⅰ		2	
		物理学 Ⅱ		2	
		物理学演習		1	
		物理学実験 Ⅰ		1	
		物理学実験 Ⅱ		1	
		化学 Ⅰ		2	
		化学 Ⅱ		2	
		化学実験 Ⅰ		1	
		化学実験 Ⅱ		1	
		地学 Ⅰ		2	
		地学 Ⅱ		2	
		地学実験 Ⅰ		1	

部門	基礎科目	地学実験Ⅱ		1	
		生物学		2	
		生物学実験		1	
		理工学概論		2	
		技術者倫理		2	
		コンピューターリテラシー		2	
		数学基礎演習Ⅰ			1
		数学基礎演習Ⅱ			1
		物理学基礎演習Ⅰ			1
		物理学基礎演習Ⅱ			1
		化学基礎演習Ⅰ			1
		化学基礎演習Ⅱ			1
		英語基礎演習Ⅰ			1
		英語基礎演習Ⅱ			1
	情報工学基礎科目	情報工学の世界		2	
		情報工学基礎演習		1	
		テクニカルリテラシー		2	
		プラクティカルＩＣＴ		1	
	情報工学専門科	情報通信ネットワーク		2	
		情報理論		2	
		情報セキュリティ		2	
		情報通信システム		2	

目	信号伝送論		2	
	符号理論		2	
	ワイヤレス通信		2	
	コンピュータアーキテクチャⅠ		2	
	コンピュータアーキテクチャⅡ		2	
	ディジタル回路Ⅰ		2	
	ディジタル回路Ⅱ		2	
	電気電子回路Ⅰ		2	
	電気電子回路Ⅱ		2	
	ディジタル信号処理Ⅰ		2	
	ディジタル信号処理Ⅱ		2	
	システム制御		2	
	フィジカルコンピューティング		2	
	ハードウェア記述言語		2	
	センサ工学		2	
	集積回路設計		2	
	アルゴリズム・データ構造		2	
	オペレーティングシステム		2	
	データベー		2	

ス			
ソフトウェア工学		2	
言語・オートマトン		2	
人工知能		2	
数値解析		2	
コンパイラ		2	
プログラミング言語論		2	
パターン認識		2	
応用アルゴリズム		2	
数理計画法		2	
マルチメディア基礎		2	
画像処理		2	
コンピュータグラフィックス		2	
コンピュータビジョン		2	
感性情報処理		2	
音声・音響信号処理		2	
バーチャルリアリティ		2	
言語情報処理		2	
離散数学		2	
確率・統計		2	
データサイエンス基礎	2		
応用解析		2	
電磁気学		2	
プログラミング演習Ⅰ	1		

プログラミング演習Ⅱ	1		
プログラミング演習Ⅲ		1	
プログラミング演習Ⅳ		1	
情報工学実験Ⅰ	2		
情報工学実験Ⅱ		2	
インターンシップ		1	
グローバルゼミナール		1	
モバイルアプリ開発A			1
モバイルアプリ開発B			1
キャリアゼミナール		1	
研究ゼミナール		1	
情報工学総合ゼミナール		1（総）	
情報技術の応用と職業		2（総）	
創造的思考法	2（先）	2（総）	
研究開発リテラシー	2（先）	2（総）	
アプリケーション開発	2（先）	2（総）	
PBL概論	2（先）	2（総）	
先進プロジェクト実験Ⅰ	2（先）	2（総）	
先進プロジ		2（	

エクト実験Ⅱ		先）	
先進プロジェクトゼミナール	1（先）		
卒業研究	4		

備考　（総）は総合コース、（先）は先進プロジェクトコースの単位数

②卒業に必要な要件

（総合コース）

（１）必修科目　専門教育部門　10単位

（２）選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　94単位以上

計　114単位以上

合計　124単位以上

（先進プロジェクトコース）

（１）必修科目　専門教育部門　21単位

（２）選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　83単位以上

計　103単位以上

合計　124単位以上

（略）

（略）

別表第５（第40条関係）

学部	学科	種別	教科
法学部	法学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民
（略）			

別表第５（第40条関係）

学部	学科	種別	教科
法学部	法学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民
（略）			

理工学部	数学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報
	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状	理科
（略）			
外国語学部	国際英語学科	中学校教諭一種免許状	英語
		高等学校教諭一種免許状	英語

理工学部	数学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報
	情報工学科	**高等学校教諭一種免許状**	**工業・情報**
	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状	理科
（略）			
外国語学部	国際英語学科	中学校教諭一種免許状	英語
		高等学校教諭一種免許状	英語

情報工学部	**情報工学科**	**高等学校教諭一種免許状**	**情報・工業**

附　則

この学則は、令和４年４月１日から施行し、令和４年度入学者から適用する。ただし、令和４年３月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

名城大学情報工学部教授会要項（案）

（目的）

第１条　この要項は、名城大学学則第１０条の規定に基づき、情報工学部教授会（以下、「教授会」とする。）に関する事項について定め、学部の円滑な運営を図ることを目的とする。

（構成）

第２条　教授会は、教授、准教授、助教、講師をもって構成する。ただし、専任教育職員の教育研究業績の審査及び進退に関する事項並びに教育研究に関する重要な事項については、教授のみをもって構成し、任用における教育研究業績の審査に関する事項については、審議対象となる任用資格以上の職階の者をもって構成する。

（審議事項等）

第３条　教授会は､次の事項を審議する。

（１）教育課程及び成績評価に関する事項

（２）学生の資格認定及びその身分に関する事項

（３）教授、准教授、助教、講師、助手等の専任教育職員の教育研究業績の審査及び進退に関する事項

（４）教育研究に係る学則の変更に関する事項

（５）その他教育研究に関する重要な事項

②　前項第 3 号における事項については、名城大学情報工学部教員資格審査内規に基づくものとする。

③　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

（１）学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

（２）学位の授与に関する事項

（３）その他教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

（会議）

第４条　教授会は、次の場合に学部長が招集し、議長となる。ただし、学部長に支障があるときは、協議員が代行する。

（１）学部長が必要と認めたとき

（２）教授会構成員の３分の１以上の要請があったとき

（３）学長が教授会の招集を要請したとき

（定足数及び議事）

第５条　教授会は、構成員の３分の２以上の出席（委任状による委任者を含む）によって成立する。ただし、休職中、育児・介護休業中、病気・慶事休暇中、在外研究員及び国内研究員は、構成員の数に算入しない。

②　議事の承認は、出席者の過半数の賛成を必要とする。ただし、特に重要な議事と認めた場合は、３分の２以上の賛成を必要とする。

（要項の改正）

第６条　この要項の改正には、出席者の３分の２以上の同意を必要とする。

附　則

この要項は、令和４年４月１日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

１　設置の趣旨及び必要性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 2

２　学部・学科等の特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 5

３　学部・学科等の名称及び学位の名称　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 7

４　教育課程の編成の考え方及び特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 7

５　教育方法、履修指導方法及び卒業要件　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 12

６　編入学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 14

７　実習の具体的計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 15

８　企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研究等の学外実習を実施する
　　場合の具体的計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 18

９　取得可能な資格　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 20

10　入学者選抜の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 20

11　教員組織の編制の考え方及び特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 27

12　施設、設備等の整備計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 28

13　管理運営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 30

14　自己点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 30

15　情報の公表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 31

16　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等　・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 33

17　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 34

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 情報工学部の設置の趣旨及び必要性

①社会的背景

現代社会の高度情報化を背景に、今後更なる発展が見込まれる IT 技術を最大限活用することを通じて、我々の生活や社会の在り方の転換、新たな価値創造に向けた取り組みが国家戦略として加速度的に進められている。

日本政府が提唱している Society5.0 の構築にあたっては、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムが必要となるため、IoT（Internet of Things）やビッグデータ、人工知能（AI）に精通した技術者に対する需要が今後ますます増大することは間違いない。また、分野横断的な連携が不十分で知識や情報が共有されないという Society4.0 の問題点を解決するため、IT 技術者に対しても、分野を超えて様々な人々と協働して経済発展と社会的課題の解決を図っていく必要があることから、IT 技術に関する知識だけでなく、幅広い知識を身につけた技術者が求められるようになる。【資料 1】

しかしながら、IT 人材の不足は深刻であり、独立行政法人情報処理推進機構（以下、「IPA」という。）が令和 2 年 8 月に公開した「IT 人材白書 2020」では、IT 企業の 26.2%が「大幅に不足している」、66.8%が「やや不足している」と回答している。【資料 2】また、IPA が令和元年 5 月に公開した「IT 人材白書 2019」では IT 技術者の慢性的な不足状況を反映して、その確保方法として、「社内の人材を育成して確保する」企業も多いとされ（AI 人材については IT 企業の 90.6%）、社会人の学び直しのニーズが高まっており、AI 人材即戦力育成プログラムを展開する大学も出始めている。【資料 3】

さらに、令和 2 年度から始まった小学校におけるプログラミング教育の必修化に代表される初等中等教育における情報教育の一般化により、大学の情報系学部・学科を志望する学生の情報スキルの高度化及び多様化が予測され、そのような学生にとって魅力ある教育内容にシフトしていかなければならない。

②情報工学部設置の趣旨・必要性

理工学部情報工学科では、平成 16 年の設置以降、最先端の情報通信技術・情報処理技術を中心に、次代の「ものづくり」を支える情報工学の教育・研究を推進するとともに、学び得たテクノロジーを用いて産業界に貢献できるスペシャリストの育成・輩出に努め、本学理工学部における情報教育の先駆的・先端的な役割を果たしてきた。

他方、前述の高度情報社会の急速な進展等を背景に、今後学生たちが送り出される社会は先行きが不透明であり、求められている人材像も大きく変わっていくことが想定される。「超スマート社会」という未来像において、様々な領域・産業分野が IT 技術により枠を超えて繋がり、イノベーションを起こしていくためには、日進月歩の情報通信技術・情報処理技術等に関する専門知識の修得だけでなく、他の専門分野や背景の異なる多様な人々と連携・協働していくための素養を身につけることが必要である。

人文・社会科学、理学、工学、農学、薬学といった多様な学問領域を教育・研究の対象とする本学においても、これまで以上に全学的な学部間相互の連携を深め、社会が求める IT 技術の作り手や使い手、繋ぎ手を養成していくことが必要である。これらのことは、本学の中長期戦略 Meijo Strategy-2026（MS-26）における「学びのコミュニティ」による多様な経験を積むことの重要性や「生涯学びを楽しむ（Enjoy Learning for Life）」といった同戦略プランに掲げる価値観と深く関係するものである。

このような観点から、情報スキルの高度化や多様化に対応する魅力ある教育内容にシフトするため、既存の理工学部情報工学科を発展的に改組し、令和 4 年度から情報工学部情報工学科を新たに設置する

こととした。理工学部から独立し、新たな学部となることによって、今後益々発展が見込まれる IT 分野の動向を踏まえた教育研究に係る迅速かつ柔軟な意思決定を可能にするとともに、他学部等との連携の更なる充実や、豊かな未来社会創造の担い手となる人材養成の機能を更に強化することを目指していく。

なお、人材養成の機能強化のため、情報工学部では、より実践的なテーマを最先端のツールを使って、チームで解決する PBL（Project-Based Learning）を充実する。実践的なテーマとして、企業や自治体等との連携のもと、実際の業務や地域課題とかかわりの強いテーマを設定する。また、実際に IT 企業で開発等の業務に従事する技術者による直接指導を積極的に導入するとともに、チームでの活動を推奨し、他者と協働して問題解決にあたる能力の育成や企業の方々との交流によるキャリア意識の醸成などを図っていく。

(2) 情報工学部情報工学科の人材養成目的

情報工学部情報工学科において、人材養成目的を次のように設定する。

（情報工学部）

情報工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する情報工学の専門知識とその応用力を持ち、情報技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的とする。

（情報工学科）

産業や社会の様々な分野で情報技術者として活躍できるように、情報数学、コンピュータ基礎、プログラミングなどの「情報処理技術の基礎」を修得した上で、以下の4つのプログラムを通して、1つ以上の応用分野に関して体系的に修得し、かつ、自らが解決すべき課題を理解し、解決策を探索し、実践できる能力を身につけた人材を後述の異なる視点で編成された2つのコースで育成する。

①プログラム

1）ネットワークシステムプログラム：情報を交換する分野を扱う。伝送路を介して情報を高速に伝える方法や、ネットワークを介して情報を確実、かつ安全に交換する仕組みが理解できる。

2）フィジカルコンピューティングプログラム：情報を実体化する分野を扱う。情報を取得するためのハードウェアとそれを利用するためのソフトウェアについて、その両方の仕組みが理解できる。

3）データエンジニアリングプログラム：情報を処理する分野を扱う。基本ソフトウェアをはじめとするソフトウェアの原理や、情報管理、アルゴリズム、知識情報処理の方法論が理解できる。

4）ヒューマン・メディアプログラム：情報を表現する分野を扱う。画像・音・言語などのメディアから情報を抽出する仕組みや、それらを加工して利用する方法が理解できる。

②コース

1）総合コース：自らが目指すプログラムを中心として、講義、演習、実験を通じてより深く体系的に情報工学の考え方や技術を学ぶ。

2）先進プロジェクトコース：講義等を通して体系的に学ぶことに加えて、実践的なプロジェクト（課題）を通じて実社会で利用されている情報工学の方法論や技術を体験的に学び、そこから情報工学の考え方や技術を会得する。

(3) 養成する具体的な人材像

前述の人材養成目的に基づき養成する具体的な人材像として、次のような進路を想定する。

①情報サービス業（情報処理システムの設計・開発／運用・保守、パッケージソフトウェア／組込みソ

フトウェアの設計・開発）
②輸送用機械器具製造業（組込みシステム／ソフトウェア／ハードウェアの設計・開発）
③通信業（通信ネットワークの設計・構築／運用・保守）
④電気機械器具製造業（組込みシステム／ソフトウェア／ハードウェアの設計・開発）
⑤メディア産業（映像・音声・言語システムの設計・開発、コンテンツ作成、出版・ネット等のメディアサービス）
⑥高等学校の教員（情報・工業）
⑦大学院進学

(4) 学生にどのような能力を修得させるのか等の教育上の目的

情報工学部情報工学科では、人材養成目的を達成する上で必要となる、以下 6 つの知識・能力を醸成することを教育上の目的とし、後述のディプロマ・ポリシーを策定する要点とした。
①専門分野を超えた幅広い知識と視野
②高い倫理観と主体性
③体系的な専門知識とその応用力
④社会の変化に自在に対応して問題解決する能力
⑤他者との協力関係を構築する能力
⑥生涯にわたって活かすことのできる創造的思考力

(5) 情報工学部情報工学科の卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

情報工学科は、本学立学の精神と情報工学部及び本学科人材養成目的に基づき、以下の要件を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。
①幅広い教養と語学力を身につけ、それに裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって、社会の発展に貢献する意志と能力を有する。
②情報工学の基礎となる知識を修得し、それを活用して種々の問題を解決する能力を有する。多様で幅広い情報技術のうち、ネットワークシステム、フィジカルコンピューティング、データエンジニアリング、ヒューマン・メディアの4分野の少なくとも1つに関する基礎的な知識を修得し、それを社会における諸問題の解決のために活用する能力を持つ。
③生涯にわたり主体的、自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会において課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を有する。

(6) 人材養成目的とディプロマ・ポリシーとの相関

前述の情報工学部情報工学科の人材養成目的とディプロマ・ポリシーとの相関関係を以下の通り示す。なお、本学では平成28年度に「大学全体の3ポリシー検討WG報告書」を取りまとめて学部長会及び大学協議会において全学部等で共有し、これに基づいて3つのポリシーを策定している。【資料4】
①幅広い教養と語学力を身につけ、それに裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって、社会の発展に貢献する意志と能力を有する。
→情報工学部の人材養成目的の「幅広い素養を備え」の部分を詳細に表現している。
②情報工学の基礎となる知識を修得し、それを活用して種々の問題を解決する能力を有する。多様で幅広い情報技術のうち、ネットワークシステム、フィジカルコンピューティング、データエンジニ

アリング、ヒューマン・メディアの4分野の少なくとも1つに関する基礎的な知識を修得し、それを社会における諸問題の解決のために活用する能力を持つ。

→情報工学部の人材養成目的のうち「社会に通用する情報工学の専門知識とその応用力を持ち」の部分に基づいている。また、情報工学科の人材養成目的からは「産業や社会の様々な分野で情報技術者として活躍できるように、情報数学、コンピュータ基礎、プログラミングなどの『情報処理技術の基礎』を修得した上で、以下の4つのプログラムを通して、１つ以上の応用分野に関して体系的に修得し」の部分を反映させている。

③生涯にわたり主体的、自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会において課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を有する。

→情報工学部の人材養成目的のうち「情報技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく」の部分に基づいている。また、情報工学科の人材養成目的からは「自らが解決すべき課題を理解し、解決策を探索し、実践できる能力を身につけた」の部分を反映させている。

(7) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

情報工学部情報工学科では、先端的な学問領域としての「情報工学」を扱うこととし、わが国が目指すSociety5.0の構築に貢献するために、以下の4つの分野を中心的な研究対象とする。

①伝送路を介して情報を高速に伝える方法や、ネットワークを介して情報を確実、かつ安全に交換する仕組みを扱う「ネットワークシステム分野」

②情報を取得するためのハードウェアとそれを利用するためのソフトウェアについて扱う「フィジカルコンピューティング分野」

③ソフトウェアの原理や、情報管理、アルゴリズム、知識情報処理の方法論を扱う「データエンジニアリング分野」

④ 画像・音・言語などのメディアから情報を抽出する仕組みや、それらを加工して利用する方法を扱う「ヒューマン・メディア分野」

2. 学部・学科等の特色

情報工学部の前身となる「理工学部情報工学科」では、平成16年4月の発足以来、モノづくり産業が活発な東海地方において、ソフトウェアだけでなく、ハードウェアに関する知識も持ち合わせた実践的な情報技術者を育成することを目的に教育・研究を行ってきた。

平成25年4月には、急速に進歩し続ける情報工学分野を4つの領域に整理し、学生の関心等に合わせて選択した領域について、深く体系的に学修できる教育プログラムを提供できるよう、カリキュラム改定を行った。

情報工学部情報工学科では、このような実践的で体系的な知識の修得に加え、修得した知識を現実の問題に適用して解決する能力を身につけるための教育を強化する。これは、Society5.0においては、情報技術は単なる工学の一分野ではなく、社会全体の諸問題を解決するためのツールとして不可欠であるためである。したがって、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」に対する本学科の対応としては、「情報工学」を土台とした「③幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことになる。

情報工学部情報工学科の具体的な特色は次の5つである。

(1) 現実的で魅力的なプロジェクトに取り組むことによる、知識をアウトプットする能力の育成
(2) プロジェクトチーム内で様々な役割を体験することによる、他者と協働できる力の涵養
(3) 総合大学の強みをいかした、学部間連携による様々な分野との出会い
(4) 2 つのコースと 4 つのプログラムの組み合わせによる多様な学びの提供
(5) 学生の「やる気」に応じる様々なサポート

(1) 現実的で魅力的なプロジェクトに取り組むことによる、知識をアウトプットする能力の育成

知識を応用して問題を解く能力を身につけるには、実際に問題を解く経験を積むことが重要であり、実社会における現実的な問題であることがより望ましい。そのため、科目「先進プロジェクト実験Ⅰ」、「先進プロジェクト実験Ⅱ」を新たに導入し、PBL の手法を用いた教育に力を入れる。

(2) プロジェクトチーム内で様々な役割を体験することによる、他者と協働できる力の涵養

情報技術が応用される問題がより大規模で複雑なものになるにつれ、単独の技術者でこれを解決することは困難になってきており、チームで問題解決に当たることが一般的である。将来、社会の課題解決の中心的な存在となるためには、リーダーとしてチームを率いる能力ももちろんであるが、チームの中で自分の果たすべき役割を明確に認識し、他のメンバーと協働する能力も求められる。これらは、PBL を通して訓練することも可能であるが、より効果的に身につけるために科目「PBL 概論」、「研究開発リテラシー」を新たに導入する。

(3) 総合大学の強みをいかした、学部間連携による様々な分野との出会い

Society5.0 においては、あらゆる問題の解決に情報技術が関わってくる。そうすると問題解決にあたるチーム内には、その問題領域の専門家など情報技術者以外のメンバーも存在するため、こうしたメンバーと協働するには、従来から行っている教養教育を通して幅広い知識を身につけることに加え、文系分野も含めた様々な領域の専門家や学生とともに問題解決を行うなどして積極的に交流することが効果的である。名城大学は文系 5 学部、理系 3 学部、学際系 1 学部を有するため、他学部との連携を情報工学部の新設に合わせ強化する。

(4) 2 つのコースと 4 つのプログラムの組み合わせによる多様な学びの提供

理工学部情報工学科で導入した 4 領域によるプログラム制は、学生が将来希望する職業などを見通して分野を絞ることにより、専門基礎からその領域の専門まで体系的により深く学ぶことができる点が特徴である。また、複数のプログラムを同時に履修することができるよう配慮されており、実際 4 プログラム全てを修了した学生も毎年存在する。

そこで、情報工学部情報工学科においても、この制度は残しつつ、これに新たにコース制という選択肢を組み合わせる。コースは 2 コースを用意し、「総合コース」では、体系的な学習を中心にその応用として PBL に取り組む「体系的に学ぶ」方法をとるが、「先進プロジェクトコース」では、PBL の比重をより大きくし、実際の問題解決と並行して、又は後から必要な理論的知識を身につけていくという「体験的に学ぶ」方法をとる。学生は自らの資質や将来の進路等を勘案してどちらかのコースを選択する。

コースとプログラムは独立しているため、コースと選択の組み合わせにより、学生の選択肢は、2 コース×4 プログラム＝8 通りあるが、前述のように複数プログラムの履修が可能であり、実際の選択

肢はさらに多い。

なお、コース分けについては、入学定員 180 人のうち、総合コースは 120 人、先進プロジェクトコースは 60 人を目安とし、2 年次進級時に行う。コースの選抜方法は、先ずは学生からの希望調査を行った上で、1 年次までの活動実績等を判断材料にして目安の人数に近づけるように振り分ける。

また、転コースを希望する学生については面接を行い、希望理由の妥当性などにより適否を判断する。

(5) 学生の「やる気」に応じる様々なサポート

理工学部情報工学科で導入し情報工学部情報工学科でも継承するプログラム制では、複数のプログラムを同時に履修することができるよう配慮されており、これまでにも卒業生の半数以上が 2 プログラム以上を修了し、4 プログラム全てを修了した学生も毎年存在する。なお、学修を進める、若しくは将来の進路が具体化する過程で、興味の幅が広がった場合にも対応できるよう、プログラムは事前に選択するのではなく、結果的に条件を満たせば修了認定される仕組みになっている（ただし、計画的な学習を推奨するための履修指導は随時行っている)。また、学生が身につけた IT スキルを試すため、資格取得や各種コンテスト等に挑戦することも推奨し、資格を取得した学生やコンテストで優秀な結果を残した学生への表彰だけでなく、コンテスト参加時に必要な各種開発関連ツールの使用法などを学ぶためのワークショップを現役のエンジニア等を講師に迎えて開催するなどのサポートも行っており、情報工学部情報工学科でもこうした取り組みを継続する。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部・学科の名称

学部名称：情報工学部

英　　訳：Faculty of Information Engineering

学科名称：情報工学科

英　　訳：Department of Information Engineering

(2) 学位の名称

学位名称：学士（工学）

英　　訳：Bachelor of Engineering

Society5.0 の課題解決において重要な役割をもつ「情報」を対象とする学問領域を扱う学部学科であること、また、現実の課題解決を担うために、ものづくりを源流とする「工学」を土台として、アイデアをカタチにする教育研究を行う学部学科であることを明確にすることから、学部の名称を「情報工学部」、学科の名称を「情報工学科」とし、学位の名称を「学士（工学)」とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 情報工学部情報工学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

情報工学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す能力を身につけさせるため、教養教育と専門教育により構成される教育課程を編成する。教養教育課程及び専門教育課程のそれぞれにおいて一定数以

上の単位の修得を義務付け、情報工学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるための幅広い学修を求める。

①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目により編成される。これらの科目を学ぶことにより専門分野を超えた幅広い視野と倫理観を養うと共に、専門教育に進む上で欠くことのできない知識を養うことができるようにする。

②専門教育では、情報工学の専門知識を深めるために基礎から応用への順次性を保ちながら、科目相互を体系的に編成している。情報工学に共通する基礎的科目群と、ネットワークシステム、フィジカルコンピューティング、データエンジニアリング、ヒューマン・メディアの4分野に関する科目群を体系的に用意する。講義科目と、それに関連する演習・実験・実習が有機的に結びついた授業を実施することにより、机上の学修にとどめず幅広く専門知識を学び、社会の変化に自在に対応して問題解決する能力を養うことができるようにする。

③教養教育で能動的学修の要素を取り入れた教育を用意する。さらに、専門教育では動機付けの教育を行うと共に、複数の科目でそれに関連する演習・実験・実習科目を実施して、能動的学修を行うことができるようにする。最終学年の4年次で行う卒業研究では、主体性と他者との協力関係を養い、生涯にわたって活かすことのできる総合的学習と創造的思考力が培われるようにする。

④情報工学科では、シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定を行い、学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して個別指導する体制を整え、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

(2) 教育課程の編成内容

教育課程編成方針を踏まえ、情報工学部情報工学科の教育課程を以下のとおり編成する。

①総合基礎部門（語学科目、体育科目、教養教育科目、キャリア教育科目）

英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ、プラクティカル・イングリッシュⅠ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ～Ⅳ、フランス語Ⅰ～Ⅳ、中国語Ⅰ～Ⅳ、体育科学Ⅰ～Ⅳ、人文科学基礎Ⅰ・Ⅱ、社会科学基礎Ⅰ・Ⅱ、アジア文化論Ⅰ・Ⅱ、欧米文化論Ⅰ・Ⅱ、国際関係論、文学、日本国憲法、国際経済論、心理学、基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、職業指導論、日本語Ⅰ～Ⅴ

②専門教育部門（理工学基礎科目、情報工学基礎科目、情報工学専門科目）

【理工学基礎科目】

微分積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、物理学演習、物理学実験Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、化学実験Ⅰ・Ⅱ、地学Ⅰ・Ⅱ、地学実験Ⅰ・Ⅱ、生物学、生物学実験、理工学概論、技術者倫理、コンピューターリテラシー、数学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、化学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、英語基礎演習Ⅰ・Ⅱ

【情報工学基礎科目】

情報工学の世界、情報工学基礎演習、テクニカルリテラシー、プラクティカル ICT

【情報工学専門科目】

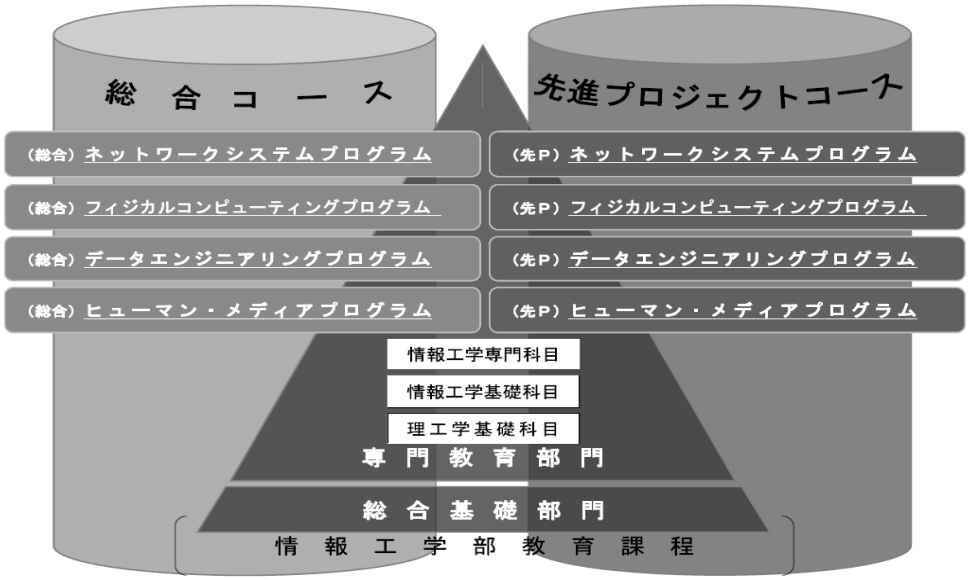
情報通信ネットワーク、情報理論、情報セキュリティ、情報通信システム、信号伝送論、符号理論、ワイヤレス通信、コンピュータアーキテクチャⅠ・Ⅱ、ディジタル回路Ⅰ・Ⅱ、
電気電子回路Ⅰ・Ⅱ、ディジタル信号処理Ⅰ・Ⅱ、システム制御、フィジカルコンピューティング、

ハードウェア記述言語、センサ工学、集積回路設計、アルゴリズム・データ構造、
オペレーティングシステム、データベース、ソフトウェア工学、言語・オートマトン、人工知能、
数値解析、コンパイラ、プログラミング言語論、パターン認識、応用アルゴリズム、数理計画法、
マルチメディア基礎、画像処理、コンピュータグラフィックス、コンピュータビジョン、
感性情報処理、音声・音響信号処理、バーチャルリアリティ、言語情報処理、離散数学、
確率・統計、データサイエンス基礎、応用解析、電磁気学、プログラミング演習Ⅰ～Ⅳ、
情報工学実験Ⅰ・Ⅱ、インターンシップ、グローバルゼミナール、モバイルアプリ開発 A・B、
キャリアゼミナール、研究ゼミナール、情報工学総合ゼミナール、情報技術の応用と職業、
創造的思考法、研究開発リテラシー、アプリケーション開発、PBL 概論、
先進プロジェクト実験Ⅰ・Ⅱ、先進プロジェクトゼミナール、卒業研究

以上の授業科目は、【資料 5】に示す履修系統図（カリキュラムマップ）に則り配置されている。

情報工学科では、プログラム制とコース制という、二つのカリキュラムを編成するという特徴を持っている。【図 1】

図１　　4 つのプログラムと 2 つのコースの組み合わせ



2 年次以上の学生は総合コースと先進プロジェクトコースという 2 つのコースのいずれかに属して教育を受ける。総合コースは、後述の 4 つのプログラムのいずれか 1 つ以上を、より深く学ぶことを目的に設計されている。先進プロジェクトコースは、他科目よりも学生／教員比率を低く設定する PBL 科目により、実社会での問題に即したテーマを情報工学の技術・知見を活かして解決する方法を学ぶとともに、4 つのプログラムの 1 つ以上を学ぶことを目的に設計されている。

情報工学科には、ネットワークシステム、フィジカルコンピューティング、データエンジニアリング、ヒューマン・メディアという 4 つのプログラムを置いている。各プログラムに学生が属するのではなく、プログラムごとに設けられた修了条件を意識しつつ、自身の望むプログラムのための履修計画を学生自身が立案し、修得する。卒業判定時に、自身の属するコースでの各プログラムの修了条件を 1 プログラム以上満たすことが卒業の要件となっている。学生は自身が目標とするプログラムをいつでも変更可能であり、また、その意欲と能力に合わせて、複数のプログラムを修了することが可能な教育体制となっ

ている。

2 つのコースに共通して、3 年次への進級の条件として、62 単位以上の修得及び「情報工学の世界」、「情報工学基礎演習」、「テクニカルリテラシー」、「プラクティカル ICT」の 4 科目からなる情報工学基礎科目のうち、3 科目以上を修得することとなっている。情報工学基礎科目は、情報工学の専門科目を学ぶ上で基礎となる技術・知識を修得することを目的とした科目群であり、卒業要件ではなく 3 年次への進級の条件とすることで、早期に修得することを意識づける配置となっている。情報工学基礎科目の 4 科目は、必修科目ではないものの、3 科目以上を 2 年次終了時までに修得することが進級の条件となっており、情報工学の素養を持つ技術者・研究者の育成という人材養成目的に合致している。【資料 6】

総合コースでは、必修科目 10 単位以外に、理工学基礎科目のうち、「微分積分Ⅰ・Ⅱ」、「線形代数Ⅰ・Ⅱ」を含め 12 単位以上修得させることとしている。また、各プログラムの最重要科目（プログラムごとに指定された各 8 科目 16 単位、後述の「5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件、(2) 卒業要件及び履修指導、①卒業要件」に示す「◎科目」）を全て修得させるとともに、先端的な科目として、「プログラミング演習Ⅲ」、「情報工学実験Ⅱ」、「情報工学総合ゼミナール」、「研究ゼミナール」の 4 科目及び各プログラムの特性にあわせた（プログラムごとに指定された）5 科目の、合わせて 9 科目 15 単位中 9 単位以上を修得させる（同「※科目」）。さらに、共通的な科目として、「ディジタル信号処理Ⅱ」、「確率・統計」、「応用解析」、「プログラミング演習Ⅳ」、「キャリアゼミナール」、「情報技術の応用と職業」、「先進プロジェクト実験Ⅰ」の 7 科目、各プログラムの基礎及び周辺科目に位置づけられる 7 科目、合わせて 14 科目 26 単位から 11 単位以上を修得させる（同「○科目」）。以上の選択必修科目の配置により、各プログラムの専門分野を深く学び、情報工学の技術者・研究者としての素地を養う教育体制となっている。「ディジタル信号処理Ⅰ」、「アルゴリズム・データ構造」、「離散数学」、「創造的思考法」の 4 科目は、4 つのプログラム全てで卒業までの修得が要求される最重要科目となっており、必修科目及び情報工学基礎科目と並び、総合コースで養成する人材像のコアとなる科目といえる。

先進プロジェクトコースでは、総合コースで必修となっている 10 単位に加え、PBL 及びその基礎となる、6 科目 11 単位を必修科目として配置している。総合コースと同様、理工学基礎科目のうち、「微分積分Ⅰ・Ⅱ」、「線形代数Ⅰ・Ⅱ」を含め 12 単位以上修得させることとしている。また、各プログラムの最重要科目（プログラムごとに指定された各 7 科目 14 単位、後述の「5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件、(2) 卒業要件及び履修指導、①卒業要件」に示す「◎科目」）を全て修得させるとともに、「プログラミング演習Ⅲ」、「情報工学実験Ⅱ」、「先進プロジェクト実験Ⅱ」、「研究ゼミナール」の 4 科目及び各プログラムの特性にあわせた（プログラムごとに指定された）5 科目の、合わせて 9 科目 16 単位中 9 単位以上を修得させる（同「※科目」）。さらに、共通的な科目として、「ディジタル信号処理Ⅱ」、「確率・統計」、「応用解析」、「プログラミング演習Ⅳ」、「キャリアゼミナール」の 5 科目、各プログラムの基礎及び周辺科目に位置づけられる 7 科目、合わせて 12 科目 22 単位から 6 単位以上を修得させる（同「○科目」）。以上の選択必修科目の配置により、各プログラムの専門分野について、基礎及び先端を十分に学んだうえ、PBL により、実践的な情報工学の技術者・研究者としての素地を養う教育体制となっている。

(3) 人材養成目的やディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの相関

既述の通り、情報工学科のディプロマ・ポリシーは、情報工学部及び情報工学科の人材養成目的に依拠しており、相関している。ここではディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの相関について説明する。【資料4】

カリキュラム・ポリシーの①では、教養科目（総合基礎部門）と理工学基礎科目（専門教育部門の一部）により編成される教養教育を学ぶことで、専門分野を超えた幅広い視野と倫理観を養い、専門教育に進む上で必要な知識を養うとしている。これにより学生は、ディプロマ・ポリシーの①にある、裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって、社会の発展に貢献する意志と能力を身につける。

カリキュラム・ポリシーの②では、①で培った幅広い視野、倫理観、そして必要な知識を基礎として、情報工学基礎科目と体系的に用意された4分野に関する情報工学専門科目を幅広く学ぶことで、社会の変化に自在に対応して問題解決する能力を養うとしている。これにより学生は、ディプロマ・ポリシーの②にある、情報工学の基礎となる知識を修得し、それを活用して種々の問題を解決する能力を身につける。

カリキュラム・ポリシーの③では、教養教育、専門教育を通じた能動的学修を行うとともに、卒業研究を通して主体性と他者との協力関係を養い、生涯にわたって活かすことのできる総合的学習と創造的思考力を培うとしている。これにより学生は、ディプロマ・ポリシーの③にある、生涯にわたり主体的、自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会において課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を身につける。

カリキュラム・ポリシーの④では、カリキュラム・ポリシーに定めた各方針の下、シラバスに記載した内容に基づき、成績評価、単位認定を行うこととしている。これにより、カリキュラム・ポリシーの①から③を踏まえた教育の展開と、ディプロマ・ポリシーに定める能力の達成度が確認でき、卒業認定や学位授与の適切性を保証する。

以上のように、2つのポリシーは相関しており、よってカリキュラム・ポリシーは人材養成目的につながっている。

（4）教養教育における実施方針や教育課程編成上の具体的工夫

教養教育は、教養科目（総合基礎部門）と理工学基礎科目（専門教育部門の一部）により編成する。前述の通り、幅広い視野、倫理観、そして必要な知識を修得するとともに、他者と協働して課題解決に取り組むことのできる人材を養成する上で、教養教育は重要な役割を担っている。

教養科目は、豊かな教養及び幅広い視野を備えた社会の担い手として生きる力を身につけるために、専門の如何を問わず学士教育の礎として修得することが必要とされる科目を配置する。

「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」は、教養教育の導入として、社会科学、人文科学、自然科学における諸問題を取り上げながら、主体的な学びの基礎を身につけることを目的としている。「人文科学基礎Ⅰ・Ⅱ」、「国際関係論」、「心理学」では、人間や社会の諸現象、こころの在り方に存在する構造・体系や法則を理解すること、「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」、「プラクティカル・イングリッシュⅠ・Ⅱ」では、国際化社会において不可欠である外国語の運用能力を修得すること、「体育科学Ⅰ～Ⅳ」では、生涯にわたる健康の重要性を自覚し、それを維持して行く手がかりを与えることを目的とする。

一方、理工学基礎科目は、情報工学部の専門教育に進む上で必要とされる科目を配置する。

高等学校までに学んだ数学、理科、英語を基礎とした講義、演習、実験科目のほか、「理工学概論」では、専攻分野に留まらない幅広い知識・素養を身につけること、「技術者倫理」では、技術者が出会う様々な倫理問題を考える練習を行うこと、「コンピューターリテラシー」では、パソコンソフトなどにおいて、大学の講義や卒業研究において必要とされるフォーマットや決まりを知り、作成する能力を身につけることを目的とする。

教養教育は1、2年次のうちにその多くの科目を開講する。専門教育、特に情報工学専門科目を学ぶ

前に履修することで、学年進行により基礎的学修から発展的学修へと段階的に学べるようにする。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

教育課程編成方針に基づき、開講時にシラバスを学生に明示し、開講科目の位置づけや目的、到達目標、授業計画、成績評価の方法等について説明し、シラバスに従い15回の授業を行う。授業形式としては、数十人から120人程度の受講者が想定される講義科目、グループ毎に実施される演習科目、実験科目等で主に構成される。特に、1年次前期から2年次後期に配置される「プログラミング演習Ⅰ～Ⅳ」では、受講者数を50人以内に制限し、担当教員のほか授業補助者（TA）を配置する。2年次前期・2年次後期に配置される「情報工学実験Ⅰ・Ⅱ」では、1クラス約100人以内を2グループに分け、約50人以内を1グループとし、各グループに教員及び授業補助者（TA）を配置する。3年次前期・3年次後期集中に配置される「先進プロジェクト実験Ⅰ・Ⅱ」については、1クラスを36人以内とし、クラス内をさらに2グループに分けてそれぞれに2人以上の教員又は授業補助者（TA）を置き、1チーム4人以内のチーム学習を行う。3年次後期に配置される「研究ゼミナール」及び4年次通年に配置される「卒業研究」については、研究室における活動を主体とし、原則として10人以下の少人数教育を行う。

(2) 卒業要件及び履修指導

①卒業要件

情報工学部情報工学科の学位授与方針に沿った人材養成目的の達成につながる履修の系統性を明示するために、卒業に必要な合計単位数（124 単位以上）のみならず、科目区分ごとの所定単位数を設定している。【資料6】

卒業要件はコース別に設定されている。【表1、表2】

【総合コース】

表1　総合コースにおける卒業の要件

<table>
<tr><th>部　門</th><th colspan="3">科　目　区　分</th><th>単　位</th></tr>
<tr><td rowspan="3">総合基礎部門</td><td colspan="3">選択必修科目</td><td>10単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">選択科目</td><td>10単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">計</td><td>20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="7">専門教育部門</td><td colspan="3">必修科目</td><td>10単位</td></tr>
<tr><td rowspan="4">選択必修科目
＊4</td><td colspan="2">理工学基礎科目　＊1</td><td>12単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">プログラム指定科目</td><td>◎科目</td><td>16単位</td></tr>
<tr><td>※科目</td><td>9単位　＊2</td></tr>
<tr><td>○科目</td><td>11単位　＊3</td></tr>
<tr><td colspan="3">選択科目</td><td>46単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">計</td><td>104単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">合　計</td><td>124単位以上</td></tr>
</table>

＊1　理工学基礎科目の選択必修科目については、微分積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱを含み、12単位以上修得すること。

＊2　※科目を9単位を超えて修得した場合、○科目又は専門教育部門の選択科目の単位として算入できる。

＊3　○科目を11単位を超えて修得した場合、専門教育部門の選択科目の単位として算入できる。

＊4　プログラム指定・コース指定（◎、※、○）が無い科目を修得した場合、専門教育部門の選択科目の単位として算入される。

総合コースでは、専門教育部門における必修単位数は10単位となっている。これは、今後、情報工学を修得した技術者・研究者として、どのような分野に進んだとしても必須といえる科目に限定したためである。人材養成の目的は、選択科目によらず、選択必修科目における卒業要件及び情報工学基礎科目の3年次への進級要件を満たすことで十分に達成できるよう設計されている。選択必修科目は4つの制約がある。理工学基礎科目については、その後どのような分野でも基礎となる「微分積分Ⅰ・Ⅱ」及び「線形代数Ⅰ・Ⅱ」の4科目8単位を含めて12単位以上が要件となっている。情報工学専門科目においては、各プログラムで科目の重要度に応じて選択必修科目を定めている。このうち、最重要な「◎科目」は各プログラムで最小限必要とされる8科目16単位が設定されており、すべての科目の修得が要件となっている。8科目中4科目は4つのプログラムで共通しており、現在の情報工学のどの分野を学ぶ上でも必要な科目と言える。分野に密接に関連する基礎科目及び分野の先端的な応用科目9科目15単位を「※科目」とし、このうち9単位の修得が要件となっている。また、分野に関連する基礎科目及び周辺科目14科目26単位を「○科目」とし、このうち11単位以上を要件としている。「○科目」が先進プロジェクトコースに比べ多く要求されており、プログラムに関連する科目を深く学ぶという理念に合致している。

【先進プロジェクトコース】

表2　先進プロジェクトコースにおける卒業の要件

部　門	科目区分			単　位
総合基礎部門	選択必修科目			10単位
	選択科目			10単位以上
	計			20単位以上
専門教育部門	必修科目			21単位
	選択必修科目＊4	理工学基礎科目　＊1		12単位
		プログラム指定科目	◎科目	14単位
			※科目	9単位　＊2
			○科目	6単位　＊3
	選択科目			42単位以上
	計			104単位以上
合　計				124単位以上

＊1　理工学基礎科目の選択必修科目については、微分積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱを含み、12単位以上修得すること。

＊2　※科目を9単位を超えて修得した場合、○科目又は専門教育部門の選択科目の単位として算入できる。

＊3　○科目を6単位を超えて修得した場合、専門教育部門の選択科目の単位として算入できる。

＊4　プログラム指定・コース指定（◎、※、○）が無い科目を修得した場合、専門教育部門の選択科目の単位として算入される。

先進プロジェクトコースでは、専門教育部門における必修単位数は21単位となっている。このうち10単位は総合コースでも必修単位に指定されており、これを除く11単位は先進プロジェクトコースに特化した科目となっている。先進プロジェクトコースでは、PBLにより実践的な技術者・研究者を育成することを目的としており、コース固有の必修11単位は、この目的に欠かせない科目である。選択必修科目には4つの制約がある。理工学基礎科目については、その後どのような分野でも基礎となる「微分積分Ⅰ・Ⅱ」及び「線形代数Ⅰ・Ⅱ」の4科目8単位を含めて12単位以上が要件となっている。情報工学専門科目においては、各プログラムで科目の重要度に応じて選択必修科目を定めている。このうち、最重要な「◎科目」は各プログラムで最小限必要とされる7科目14単位が設定されており、すべての科目の修得が要件となっている。分野に密接に関連する基礎科目及び分野の先端的な応用科目9科目16単位を「※科目」とし、このうち9単位の修得が要件となっている。また、分野に関連する基礎科目及び周辺科目12科目22単位を「○科目」とし、このうち6単位以上を要件としている。

なお、いずれのコースも卒業要件として必修科目となっている「卒業研究」は、大学設置基準第21条を踏まえ、4単位で設定されている。各人がテーマを設定し、そのテーマについて4年次の1年間をかけ、研究を通じて課題発見、調査・資料収集、課題解決、実装、資料作成、議論、発表の能力を身につける。

②履修指導

新入生オリエンテーション及び在学生ガイダンス時に、履修登録ガイドを配付し、教育課程及び科目履修方法の指導を行う。また、その後も事務窓口において、履修に関する対応等の支援を行う。

情報工学部情報工学科における履修モデルは【資料 7】の通りである。

③履修科目の年間上限登録単位数

単位の実質化を図るために、履修科目の年間登録上限を 49 単位とする。年間の履修登録単位数を適切に制限することにより、自学・自習のための準備学修時間を確保するとともに、4 年間を通したバランスの良い学修を可能とする。また、前年度の成績優秀者を対象とする年間上限登録単位数の緩和制度を導入し、より幅広く学べるよう、配慮する。

④他大学における授業科目の履修

愛知県下の大学コンソーシアムである愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」にもとづき、情報工学部の学生が加盟する他大学の授業科目を受講することができる。ただし、情報工学部においては、履修した科目の単位を進級、卒業研究着手条件及び卒業に必要な単位数などへの算入はしない。

6.　編入学

情報工学部では、編入学定員を設定せずに定員の範囲内で編入学を認める。

既修得単位の認定については、まず、受験生に既修得単位事前確認手続きを行わせ、前所属先の修得

済み単位の成績証明と対象科目のシラバスを提出させる。これに基づき、情報工学部教務委員会が単位認定に相当するかを照合し、情報工学部教授会での承認を経て、仮単位認定表を発行する。受験生の入学が決定した後、事前確認手続きの際に履修中であった科目等の修得状況を反映し、情報工学部教務委員会で対象となる科目の単位認定を検討後、情報工学部教授会で既修得単位の認定を審議する。編入学生には、入学後のガイダンス時に正式な単位認定表を発行する。

履修指導については、2 年次・3 年次ガイダンスに出席させ、指導を行うことを基本とするが、場合によっては新入生オリエンテーションに出席させ、本学での履修の基礎から理解させるよう努める等、柔軟に対応する。

また、本学学務センター（教務事務担当）による履修相談の実施や下級履修の機会を設け、コース選択においても本人の希望と適性から総合的な判断で所属コースを決定する等、編入学生が不利になることがないように配慮をする。

7. 実習の具体的計画

(1) 教育実習

ア 実習の目的

本学では、教員養成理念として、「各学部・学科の高度な専門教育を通じて身につけた専門的知識と応用力、教職に関わる深い理解と実践的指導力を備え、さらには、立学の精神に根差す『穏健中正』『実行力』『信頼』を備えた人材として『謙虚で豊かな包容力と力強い実行力を持ち、誰からも信頼される教員』を養成すること」を掲げており、教科専門性と授業力、生徒指導力等を実際の教育現場で体現することが第一の目的である。

一方、情報工学部情報工学科では、既述の卒業認定・学位授与方針をもって教育に取り組む。教育実習は、学位授与方針として設定されている「広い視野と高い倫理観をもって、社会の発展に貢献する」ことを可能とする意志や、「情報工学の基礎となる知識を修得し、それを活用して種々の問題を解決する能力」としてそのまま獲得するものである。併せて「生涯にわたり主体的、自立的に探究する能力」は、近年の教員に求められる「学び続ける教師像」に通じるところである。

イ 実習先の確保の状況

各教育委員会を通じ、教育実習受け入れを依頼する。【資料 8、資料 9】

愛知県教育委員会：高等学校 151 校（令和 2 年度現在）

名古屋市教育委員会：高等学校 14 校（令和 2 年度現在）

ウ 実習先との契約内容

特に契約は交わしていないが、各学校へ教育実習の受け入れを依頼する際に、大学と実習校で必要な協議を行った上で、「学習指導、実習の具体的運営については、実習校の方針を尊重する」こととしている。

愛知県教育委員会については、「大学教育実習担当者説明会」における説明を基に、受入基準、期間、実習時の注意を全面的に受け入れ、教育実習を希望する学生個別に、実習先の諸注意として展開している。

エ　実習水準の確保の方策

①教育実習参加資格

教育実習参加資格要件として、3 年次に開講される「模擬授業演習」を修得し、かつ参加年度に最終学年に在籍する者で、次の各項目に該当することを求めている。

1）3 年次までに開講された「教育の基礎的理解に関する科目等」のすべての必修科目を修得済みであること

2)「教科に関する専門的事項」の 3 年次までに開講されたすべての必修科目と「各教科の指導法」のうち、教育実習予定教科の科目に関するすべての必修科目を修得済みであること

3）授業や介護等体験において、教職センター専任教員から適性を認められていること

4）教員免許状取得に必要な単位を卒業までに修得する見込みがあること

5）教職に就く意志が強固で、教育実習に対する積極性及び熱意があること

6）教育実習に耐えうる健康状態を保持すること

7）ガイダンス及び指導教員による事前指導を受けていること

以上の条件を提示した上で、3 年次の年度末に、教育実習参加希望者を対象に教育実習参加資格審査を実施する。

②教育実習参加資格審査

教育実習参加前年度（3 年次）末に、参加資格の各号の充足について確認した上で、いずれかに該当しない者については、教育実習参加資格面談を実施する。

③模擬授業の実施

「各教科の指導法」において模擬授業を行っているが、3 年次後期に「模擬授業演習（大学が独自に設定する科目)」を必修科目として設定し、全員に模擬授業を課している。1 時間分の学習指導案を作成のうえ、実際に授業を行わせることによって、教科指導の理念と技術の向上を目指す。模擬授業に著しい問題があった場合は、参加資格審査の対象とする。

オ　実習先との連携体制

実習校への受け入れ依頼から実習終了までの全てに対して、「教職センター会議」が運営組織として関わり、連絡調整にあたる。また、学生が所属する各学部・学科とは「教職センター委員会」を組織し、教育実習等教員養成に関わる諸問題の審議、実習の実施に関わる連絡調整、情報の共有を行う。

カ　実習前の準備状況

①感染症予防対策

入学時には、大学として「感染症の流行に備えて」と題して、予防接種の有無、抗体価の測定の必要性について説明している。

教職課程履修学生に対しては、2 年次のガイダンスにおいて、「麻疹ワクチン」接種完了若しくは抗体検査結果の確認について説明し、所定の報告書による確認結果報告を義務づけている。また、4 年次の実習前ガイダンスにおいては、インフルエンザを含めた感染症予防について注意喚起している。

新型コロナウイルス感染拡大の防止措置については、実習施設・機関から実習の実施時期の変更、実習の中止又は延期等の要請がある場合は、その意向を尊重して対応する。実習内容については、基本的

に実習先のプログラムに従う。

②保険等の加入

大学が全学生を対象として加入している「学生教育研究災害傷害保険」に、教育実習実施学生を対象に「付帯賠償責任保険（インターン賠)」を付加している。

③実習中に知り得た情報の取り扱い等に関する指導

3 年次後期に実施する「介護等体験」の事前ガイダンス、新 4 年次教育実習ガイダンス、4 年次授業「教育実習指導（事前)」、それぞれにおいて、以下の点について指導している。

1）個人情報（学校内で知り得た児童生徒に関する様々な情報）の守秘に注意すること

2）実習生も教員の法的義務（教育の政治的中立性、体罰の禁止、守秘義務など）を遵守すること

キ　事前・事後における指導計画

①時期及び時間数

事前指導

4 年次・・・4 月・5 月に 6 時間（4 コマ）若しくは 8 月・9 月に 6 時間（4 コマ）

事後指導

4 年次・・・7 月に 6 時間（4 コマ）若しくは 11 月に 6 時間（4 コマ）

②指導内容

事前指導

1）教育実習の意義と手続等についての指導

2）教育実習実施にあたり、教育実習に参加、終了した 4 年次生の教育実習報告を手がかりに実習の意義について指導

3）教育実習の基礎的事項の内、現代の中・高校生の特性、実態を含め、授業の進め方についての指導

4）教育実習における生徒指導（特に教科以外）についての指導

5）授業実習に不可欠な学習指導案作成の実習

6）教育実習参加にあたり、基本的姿勢について再度の指導

7）指導教員による、直前個別面接指導

事後指導

1）指導教員別に反省報告会を行い、以後の演習テーマを決定

2）教育実習の経験を基に、授業の内容・方法について討論を実施

3）教育実習の経験を基に、生徒指導の具体例について討論を実施。また、教師になるための今後の課題について討論を実施

ク　教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

教職センターの専任教員及び教育実習学生の所属学部のゼミ（若しくは卒業研究）担当の専任教員が、教育実習期間中に実習校の実習計画に基づき、訪問指導を行う。実習学生の授業（研究授業若しくは実習授業）を参観するほか、実習校実習担当教諭とともに実習生への指導、助言を行う。

ケ　実習施設における指導者の配置計画

教育委員会の受け入れ基準により、実習校において学級担任及び教科専門の教諭が配置される。

コ　成績評価体制及び単位認定方法

実習校からの評価表及び実習訪問時の内容を基に、教職センター担当教員が評価を行い、教職センター会議の承認を経て、成績評価を確定している。

サ　その他特記事項

特になし。

8.　企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

令和2年度は新型コロナウイルス感染症による影響で企業実習や海外語学研修の実績が乏しいことから、令和元年度までの実績を掲載する。

（1）企業実習（インターンシップを含む）

ア　実習先の確保の状況

5～10 日間を基本とするインターンシッププログラムを本学ホームページ等で公募している。なお、過去 5 年間のインターンシップ参加者数は以下のとおりであり、毎年実習先を確保することができている。【表 3、表 4】

表 3　インターンシップ参加者数（平成 27 年度～令和元年度）

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
300 人	449 人	326 人	275 人	305 人

表 4　理工学部情報工学科生の主なインターンシップ受入れ先（令和元年度）

施設名等	受入先所在地	受入人数
厚生労働省	東京都千代田区	1 人
女子学生霞が関インターンシップ	東京都千代田区	1 人
パナソニック株式会社	大阪府守口市	1 人
京セラ株式会社	京都府京都市	1 人
株式会社アウトソーシングテクノロジー	東京都千代田区	1 人

イ　実習先との連携体制

本学キャリアセンターにおいて、実習希望学生の取りまとめ及び企業との受け入れのための連携を行っている。実習後には、企業等から「実習評価書」（大学所定様式）を作成・提出して頂いている。

ウ　成績評価体制及び単位認定方法

受け入れ企業等が作成する「実習評価書」、参加学生が作成する「実習日誌」及び「実習報告書」等の内容に基づき、成績評価及び単位認定を行っている。

エ　その他特記事項

特になし。

(2) 海外語学研修

ア　実習先の確保の状況

海外英語研修は原則として年 2 回行っており、令和元年度は夏期、春期いずれも 7 か国 12 大学で研修を実施している。【表 5、表 6】

表 5　夏期海外英語研修（令和元年度）

国名	都市名	研修先大学	渡航日数	募集人数
イギリス	カンタベリー	カンタベリークライストチャーチ大学	29 日	15 人
	チェルトナム	グロスターシャー大学	29 日	15 人
カナダ	ビクトリア	ビクトリア大学	21 日	20 人
	カルガリー	カルガリー大学	28 日	20 人
	トロント	トロント大学	28 日	20 人
ニュージーランド	オークランド	オークランド工科大学	28 日	20 人
オーストラリア	メルボルン	ディーキン大学	31 日	15 人
	ゴールドコースト	ボンド大学	16 日	20 人
マレーシア	クアラルンプール	アジア・パシフィック大学	22 日	20 人
フィリピン	イロイロ	フィリピン中央大学	21 日	20 人
アメリカ	ポートランド	ポートランド州立大学	22 日	15 人
	サンディエゴ	サンディエゴ州立大学	22 日	20 人

表 6　春期海外英語研修（令和元年度）

国名	都市名	研修先大学	渡航日数	募集人数
イギリス	カンタベリー	カンタベリークライストチャーチ大学	29 日	15 人
	ブライトン	サセックス大学	29 日	15 人
カナダ	ビクトリア	ビクトリア大学	29 日	20 人
	カルガリー	カルガリー大学	36 日	15 人
	トロント	トロント大学	29 日	10 人
ニュージーランド	オークランド	オークランド工科大学	29 日	15 人
オーストラリア	メルボルン	ディーキン大学	34 日	15 人
	ゴールドコースト	ボンド大学	17 日	20 人
マレーシア	クアラルンプール	アジア・パシフィック大学	29 日	15 人
フィリピン	イロイロ	フィリピン中央大学	21 日	15 人
アメリカ	ポートランド	ポートランド州立大学	25 日	10 人
	シアトル	ワシントン大学	25 日	15 人

イ　実習先との連携体制

本学国際化推進センターの職員が事前視察を行い、プログラム内容や留学環境の確認と調査を行って

いる。また、専門業者を通じて、現地サポートデスクを活用し学生の安全体制の強化を図っている。また、海外への渡航や滞在に伴うリスクをできるだけ軽減するため、外務省海外安全ページや現地研修先及び現地サポートデスクからの情報に基づき、渡航前オリエンテーションを実施している。留学期間中は現地サポートデスクが 24 時間、学生のサポートを行っており、更にグループリーダーの学生には緊急用携帯電話を持参させ、常に連絡を取れる体制を整えている。

ウ　成績評価体制及び単位認定方法

国際化推進センターが主催する海外語学研修に参加し、単位認定の要件を満たした学生は、単位認定申請手続きのうえ、英語教員による書類審査で「プラクティカル・イングリッシュⅠ・Ⅱ」（3年次開講科目）の到達目標に達していることを確認した上で、同科目の単位が認定される。単位認定されると評価は「N」での認定となり、成績順位及びGPAの計算には含まれない（1・2年次に研修へ参加した場合は、3年次以降に申請する。）。

エ　その他特記事項

国際化推進センターにおいて、情報工学部を含む全学部対応の海外英語研修プログラムを主催する。説明会への参加及び申し込み手続きを経た後、所属学部で面接を行い、参加学生を決定する。参加学生に対しては、研修先の生活環境、ルール等について渡航前オリエンテーションを行う。研修（渡航）期間は、本学の夏期休暇と春期休暇の中で 2～6 週間であり、授業では「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能を中心に総合的に学び、英語運用能力の向上を目指す。また、文化背景や言語の異なる人々との交流や体験を通じ、異文化理解を深め、積極性やコミュニケーション能力を高める。

本学の国際化の中核を担う学生を育成するため、海外英語研修に参加する学生に対して奨学援助を行う給付型の奨学金制度を設けている。海外英語研修への参加意欲に溢れ、帰国後も本学の国際化につながる活動に対し積極的に貢献できる奨学生を募集し、奨学金として 20 万円又は 5 万円を研修終了後に所定の手続きを経た上で、支給する。

9.　取得可能な資格

情報工学部情報工学科の教育課程を履修することで取得できる資格は、下表のとおりである。【表 7】

表 7　情報工学部情報工学科で取得できる資格と要件等

資格名称	区分	卒業により得られる事項	その他
高等学校教諭一種免許状（情報、工業）	法律に規定する資格	取得可能	教職課程の修得が必要
学芸員	国家資格	取得可能	指定科目の修得が必要

10.　入学者選抜の概要

(1) 情報工学部情報工学科の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

情報工学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受入れる。

①一般選抜では、数学、理科及び英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別選抜では、高等

学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科及び英語の基礎学力を有する。総合型選抜では、数学、理科及び英語の基礎学力に加え、特定の分野において特筆できる経験・技能を有する。

②数学、理科及び英語の基礎学力やプログラミング等の技能を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。

③情報工学及び関連する理工系の科学・技術に興味をもち、主体性を持って多様な人々と協力して、情報技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関

情報工学科の人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの相関性については既述の通りである。ここではカリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関について説明する。

アドミッション・ポリシーの①では、どの試験方法においても数学、理科、英語の基礎学力を求めている。これを十分達成できていると認められた者は、カリキュラム・ポリシーの①にある、教養教育を学ぶ上での基礎を有している。

アドミッション・ポリシーの②では、①の基礎学力等を活用した問題発見力と、問題を解決するための論理的思考力等を求めている。これを有すると認められた者は、カリキュラム・ポリシーの②にある、幅広く専門知識を学び、社会の変化に自在に対応して問題解決する能力を有している。

アドミッション・ポリシーの③では、特に学校推薦型選抜や総合型選抜において、科学・技術への興味、主体性や情報技術への意欲を求める。これを有すると認められた者は、カリキュラム・ポリシーの③にある、生涯にわたって活かすことのできる総合的学習と創造的思考力を養う意欲を有する。

以上のように、2つのポリシーは相関しており、よってアドミッション・ポリシーは人材養成目的やディプロマ・ポリシーにもつながっている。

(3) 募集人数・募集区分

情報工学部情報工学科の募集人員は 180 人とする。

募集区分については、1) 総合型選抜、2) 学校推薦型選抜、3) 一般選抜、4) 特別入学試験の 4 種類とする。各試験制度の募集人員は、入学者受け入れ方針に沿った多様な人材の受け入れ、及び情報工学科の人材養成目的の達成を目的に、以下のとおりとしている。【表 8】

表 8　情報工学部情報工学科で行う入学試験区分と募集人員（令和 4 年度）

試験区分		募集人員
総合型選抜	プログラミング実績評価	5 人
	スポーツ	若干名
学校推薦型選抜	指定校推薦	20 人
	附属高等学校特別推薦	15 人
	公募制推薦	25 人
	合計	60 人
一般選抜	A 方式	50 人
	K 方式	15 人
	F 方式	25 人
	B 方式	15 人

	C 方式（前期）	8 人
	C 方式（後期）	2 人
	合計	115 人
特別入学試験	社会人	若干名
	外国人留学生	若干名

なお、募集定員全体に占める試験区分毎の割合は、一般選抜が 63.9%、それ以外が 36.1%となっている。

(4) 出願資格

出願資格については、多様な人材の受け入れを目的として、後述（7）各入学試験の実施方法の「出願資格」にあるとおり、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、特別入学試験の試験区分と様々な試験方式によって、それぞれのバックグラウンドに合わせた出願要件を設定し、入学試験を行う。

(5) 選抜方法

総合型選抜は、プログラミング実績評価入学試験では、情報工学部の学びに関係する各種コンテスト等の参加実績やソフトウェアの開発実績等を重視しつつ、小論文やプレゼンテーションを行い、総合的に評価する。スポーツ入学試験ではその特性から競技実績が重視されるが、クラブ活動と修学上の問題などについて、出願前に大学に相談させるようにしている。

学校推薦型選抜は出願書類と次の選抜方法で総合的に評価し、合否判定を行う。基礎学力調査は数学、理科、英語に関し、高等学校で履修した範囲の理解度を調査する。また、小論文において学科の専門分野に応じた課題について論述させ、思考力と判断力、表現力等を見る。面接は担当者 2 人と受験者 1 人で行い、調査書は全体の学習成績の状況（評定平均値）を点数化して評価、部活動、社会活動、生徒会活動、資格取得、表彰等は面接の材料とし、主体性や社会貢献への意欲等を評価する。

一般選抜は理科（物理基礎・物理又は化学基礎・化学から 1 科目を選択）、外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）、数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学 A、数学 B）の 3 教科を基本に、共通テストを利用した選抜方式も取り入れて基礎学力や思考力等を見る。

特別入学試験は、社会人は小論文による基礎学力調査と面接を行い、外国人留学生はこれらに加えて理科、数学、英語の基礎学力調査を行う。

(6) 受験科目設定の考え方

受験科目は前述のように数学、理科、英語を中心に設定している。アドミッション・ポリシーでは、数学、理科、英語の基礎学力に言及しており、また、ディプロマ・ポリシーでも「幅広い教養と語学力を身につけ、・・・」としていて、数学、理科、英語の学力を有することは情報工学部で学び、情報工学部を卒業する上で基礎的な条件である。

出題は学習指導要領の範囲から行い、次のように出題の意図を受験生に伝える。

①英語：高等学校で修得すべき英語の基礎学力を確実に身につけているかどうかを判定することを目的とした学力試験です。語彙力、読解力を中心に、総合的な英語力を測る問題を出題します。
②数学：高等学校で修得すべき数学の基礎学力を確実に身につけているかどうかを判定することを目的とした学力試験です。一般的な数学教科書内容の基礎的知識に基づく計算力と論理的思考力を問

う問題を出題します。
③物理：高等学校で修得すべき物理の基礎学力を確実に身につけているかどうかを判定することを目的とした学力試験です。物理現象の理解に基づく論理的な思考力を問う問題を出題します。
④化学：高等学校で修得すべき化学の基礎学力を確実に身につけているかどうかを判定することを目的とした学力試験です。教科書の内容に基づく基礎的な知識や化学の論理や体系への理解力を問う問題を出題します。

(7) 各入学試験の実施方法

各入学試験の実施については、対象や選抜方法等を以下の通りとしている。【表 9】

表 9　情報工学部情報工学科で行う各入学試験の実施方法

試験名		募集人員	出願資格	選抜方法
総合型選抜	プログラミング実績評価	5人	次の①～③を満たしている者。 ①次のア～キのいずれかを満たす者。 ア. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び卒業見込みの者。 イ. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）及び修了見込みの者。 ウ. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。 エ. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び修了見込みの者。 オ. 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び修了見込みの者。 カ. 文部科学大臣の指定した者。 キ. 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び合格見込みの者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）。 ②プログラミングを含む情報工学部の学びに関わる各種コンテスト等に参加した実績がある者、又はソフトウェア等を開発して公開する等の実績を有する者。 ③次のア～ウのすべての要件を満たす者。 ア. 高等学校又は中等教育学校後期課程における 3 学年 1 学期又は前期までの「全体の学習成績の状況(評定平均値)」が 3.0 以上の者。 イ.「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学 A」、「数学 B」を履修し、その単位を修得又は修得見込みである者。 ウ.「物理基礎」、「物理」又は「化学基礎」、「化学」を履修し、その単位を修得又は修得見込みである者。	一次試験： 志願理由書、調査書Ⅰ・Ⅱ 二次試験： 基礎学力調査（小論文）、プレゼンテーション

	スポーツ	若干名	募集種目： 男子：硬式野球、ハンドボール、柔道、ラグビー アメリカンフットボール、バレーボール 女子：女子駅伝、柔道 募集種目に該当する者で、次の 1～3 を満たしている者。 1. 高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者。 2. 高等学校又は中等教育学校後期課程における 3 学年 1 学期又は前期までの「全体の学習成績の状況（評定平均値）」が 3.0 以上の者。 3. 競技実績基準のいずれかを満たしている者。	基礎学力調査（小論文）、面接
学校推薦型選抜	指定校推薦	20人	次の 1、2 及び 3 を満たしている者。 1. 高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者。 2. 各学部が定める 3 学年 1 学期又は前期までの学習成績の状況（評定平均値）以上の者。 3. 出身学校長が推薦する者。	面接
	附属高等学校特別推薦	15人	次の 1、2 及び 3 を満たしている者。 1. 附属高等学校を卒業見込みの者。 2. 附属高等学校長が推薦する者。 3. 各学部が定める出願基準を満たす者。	普通科特別進学クラス：基礎学力調査（英・数・理）、上記以外：面接
	公募制推薦	25人	日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みで、出身学校長が学力、人物とも優良な志願者として推薦する者、若しくは卒業した者で自己推薦する者。	基礎学力調査（英・数・理、小論文）、面接、調査書
一般選抜	A 方式	50人	次の1～9のいずれかを満たす者。 1. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び卒業見込みの者。 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）及び修了見込みの者。 3. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。 4. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び修了見込みの者。 5. 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び修了見込みの者。 6. 文部科学大臣の指定した者。 7. 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び合格見込みの者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）。 8. 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学において、大学における	試験
	K 方式	15人		
	F 方式	25人		
	B 方式	15人		
	C 方式（前期）	8人		

	C 方式 （後期）	2 人	教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。 9. 本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者。	
特別入学試験	社会人	若干名	次の［1］①～⑧のいずれか及び［2］各学部の出願資格のいずれかを満たし、かつ出願資格確認を得た者。 ［1］ ①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び卒業見込みの者。 ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）及び修了見込みの者。 ③外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。 ④文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び修了見込みの者。 ⑤専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び修了見込みの者。 ⑥文部科学大臣の指定した者。 ⑦高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び合格見込みの者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）。 ⑧学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。 ［2］（情報工学部における出願資格） ①20歳以上で職歴2年以上の社会人の経験を有し、働きながら修学することを勤務先から認められた者（推薦書を提出すること）。 ②25歳以上で職歴2年以上の社会人の経験を有する者と同等の資格があると認められる自己推薦者（退職者、自営業者など）。	基礎学力調査（小論文）、面接
	外国人留学生	若干名	次の1～4を満たし、出願資格の確認を得た者。 1. 外国において日本の高等学校に相当する学校を卒業した者及び卒業見込みの者。 2. 学校教育における12年の課程を修了した者、又は日本国の文部科学大臣の指定した者で、18歳以上の者。 3. 出入国管理及び難民認定法において、本学入学に支障のない在留資格（留学）を有する者、又は得られる者。 4. 独立行政法人日本学生支援機構が主催する「日本留学試験」を受験していること。また、海外在住者で新たに在留資格（留学）を取得して入国を希望する者については、次のいずれかの試験も取得している者。 ①公益財団法人日本国際教育支援協会及び国際交流基金が実施する日本語能力試験N2（2級）以上 ②独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験の日本語（読解、聴解及び聴読解の合計）200点以上（取得見込み可） ③公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施するBJTビジネス日本語能力テスト・JLRT聴読解テスト（筆記テスト）400点以上	基礎学力調査（英・数・理、小論文）、面接

(8) 留学生の受け入れ

留学生の日本語能力を担保するため、独立行政法人日本学生支援機構が主催する「日本留学試験」を受験していること、また海外在住者で新たに在留資格(留学)を取得して入国を希望する者については、①公益財団法人日本国際教育支援協会及び国際交流基金が実施する日本語能力試験 N2(2 級)以上、②独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験の日本語(読解、聴解及び聴読解の合計)200 点以上(取得見込み可)、③公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施する BJT ビジネス日本語能力テスト・JLRT 聴読解テスト(筆記テスト)400 点以上、のいずれかの試験も取得していることを出願条件として、日本留学試験の受験票のコピー又は成績通知書のコピーを出願前の「出願資格確認手続」で提出させている。

この出願資格確認手続では、経費支弁者の年収を記載する「保証人(学費負担者等)届書」の提出も求めている。保証人(学費負担者等)が親族以外の場合には、貯金証明書など支弁能力を証明する書類の提出も求め、経費支弁能力を確認している。さらに、入学者が海外在住者で新たに在留資格(留学)の取得を希望する場合には、在留資格申請手続きに必要な書類として、経費支弁者の「貯金証明書」「収入証明書」「在職証明書」の提出を求め、経費支弁能力を確認している。

これらの出願資格確認手続は、本学の国際化推進センターにおいて行っている。同センターでは入学した留学生に対し、毎月在籍確認の署名を求めており、留学生が署名のためにセンターを訪問する際には、学習面、生活面の状況を確認している。

(9) 社会人の受け入れ

情報工学部では社会人特別入学試験を実施する。社会人として定義するのは、①20 歳以上で職歴 2 年以上の社会人経験を有し、働きながら修学することを勤務先から認められた者、②25 歳以上で職歴 2 年以上の社会人経験を有する者と同等の資格があると認められる自己推薦者、のいずれかであり、これを出願資格とする。

なお、既修得単位の認定は行わない。

(10) 非正規生の受け入れ

科目等履修生・研究生ともに、情報工学部情報工学科正規学生の履修に支障がない範囲で受け入れを行う。【表 10、表 11】

①科目等履修生

大学の社会への開放の一環として、「科目等履修生制度」を設ける。

表 10　科目等履修生の受入れ要件

志願条件	受入人数	受入科目	履修単位数
制限なし(原則)	若干名	講義・演習科目	年間 30 単位以内

②研究生

特定の専門事項について研究を認めるため、「研究生制度」を設ける。

表 11　研究生の受入れ要件

志願条件	研究期間	受入人数
次の 1、2 のいずれかを満たす者。 1. 修業年限 4 年以上の大学を卒業した者及び卒業見込みの者。	1 年間または半年	若干名

2. 本大学において、入学資格個別審査により、修業年限 4 年以上の大学を卒業した方と同等の学力があると認められた者。		

11. 教員組織の編制の考え方及び特色

(1) 教員組織の編制の考え方及び特色

学生募集を停止する理工学部情報工学科所属教員19人（内訳：教授9人、准教授8人、助教2人）で情報工学部情報工学科教員組織を構成する。情報工学部情報工学科において、中心的な教育研究分野となる4つの分野の教員構成は、ネットワークシステム分野4人、フィジカルコンピューティング分野5人、データエンジニアリング分野5人、ヒューマン・メディア分野5人である。情報工学部情報工学科の教員組織は、工学・情報学分野の博士号取得者で編制されている。なお、19人中10人が民間企業や研究所での勤務経験（主として研究開発）を有する点が特色である。

(2) 情報工学部情報工学科において中心となる研究分野、及びその研究体制

(1) において述べた4つの研究分野は、19人の所属教員のうち17人の専任の教授又は准教授を主要な科目に配置し、以下の研究体制で臨むこととする。

①ネットワークシステム分野

本分野においては、情報を交換する分野を扱う。主に、「符号理論」、「情報通信工学」、「ユビキタスコンピューティング」の3つの研究分野から構成される。符号理論関係分野を宇佐見准教授（担当科目：「情報理論」、「符号理論」）、情報通信工学関連分野を旭准教授（担当科目：「プラクティカルICT」、「信号伝送論」）、ユビキタスコンピューティング関連分野を鈴木准教授（担当科目：「情報通信ネットワーク」、「ワイヤレス通信」）が担当する。

②フィジカルコンピューティング分野

本分野においては、情報を実体化する分野を扱う。主に、「ヒューマンインタフェース」、「画像センシング」、「ロボット制御」、「システムLSI」、「システム制御」の5つの研究分野から構成される。ヒューマンインタフェース分野を中野教授（担当科目：「離散数学」、「コンピュータビジョン」）、画像センシング関連分野を山田宗男教授（担当科目：「ディジタル回路Ⅰ」、「画像処理」）、ロボット制御関連分野を向井教授（担当科目：「電磁気学」、「センサ工学」）、システムLSI関連分野を吉川教授（担当科目：「コンピュータアーキテクチャⅠ・Ⅱ」、「集積回路設計」）、システム制御関連分野を小中准教授（担当科目：「創造的思考法」、「応用解析」）が担当する。

③データエンジニアリング分野

本分野においては、情報を処理する分野を扱う。主に、「アルゴリズム」、「パターン認識」、「機械学習」、「大量情報解析」の4つの研究分野から構成される。アルゴリズム関連分野を山本教授（担当科目：「アルゴリズム・データ構造」、「プログラミング言語論」）、パターン認識関連分野を山田啓一教授（担当科目：「人工知能」、「パターン認識」）、機械学習関連分野を亀谷准教授（担当科目：「データベース」、「PBL概論」）、大量情報解析関連分野を米澤准教授（担当科目：「研究開発リテラシー」、「ソフトウェア工学」）が担当する。

④ヒューマン・メディア分野

本分野においては、情報を表現する分野を扱う。主に「コンピュータグラフィックス」、「自然言語処理」、「バーチャルリアリティ」、「音声・音響信号処理」、「感性工学」の5つの研究分野から構成される。コンピュータグラフィックス関連分野を田中教授（担当科目：「マルチメディア基礎」、「コンピュータグラフィックス」）、自然言語処理関連分野を佐川教授（担当科目：「コンパイラ」、「言語情報処理」）、バーチャルリアリティ関連分野を柳田教授（担当科目：「ディジタル信号処理Ⅰ」、「バーチャルリアリティ」）、音声・音響信号処理関連分野を坂野准教授（担当科目：「データサイエンス基礎」、「音声・音響信号処理」）、感性工学関連分野を川澄准教授（担当科目：「グローバルゼミナール」、「感性情報処理」）が担当する。

(3) 教員組織の年齢構成

情報工学部情報工学科の教員組織は、30 代：1 人、40 代：8 人、50 代：6 人、60 代：4 人の教員により構成されており、そのバランスから教育研究の活性化には支障がないと考える（開設時の年齢）。本法人の定年制度では、平成 7 年 4 月 1 日以前に採用された教育職員の定年は満 72 歳、平成 7 年 4 月 2 日以降に採用された教育職員の定年は満 68 歳、平成 17 年 4 月 2 日以降に採用された教育職員の定年は満 65 歳である。【資料 10】

なお、情報工学部情報工学科においては、学部完成年度までに 1 人（中野教授）が定年を迎えるが、本法人の定年に関する規定には、「当該学部教授会等で特に必要と認めた者で大学協議会等の議を経て満 70 歳を定年とした者は当該年齢とする」と定められているため、これを踏まえ、完成年度までの教員組織を担保するために、本人の同意のもと定年を延長した。【資料 10】また、当該教員の後任者は令和 8 年度の採用を予定しており、令和 6 年度の常勤理事会で審議・承認の後、情報工学部において採用活動を開始する予定である。

さらに、学部完成年度までに新規に専任教員 3 人（うち最低 1 人を教授とする予定）を純増採用する計画であり、学部学科運営並びに教員組織への継続性を確保している。なお、今後これらの新規採用については、4 つの分野のバランスを考慮しながら、大学等において情報分野における PBL を指導した経験、情報分野に係る産学官連携プロジェクトに携わった経験、企業等においてチームでのシステム開発経験があるといった人材を確保していくことを予定している。

12. 施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

本学は、主に天白キャンパス、八事キャンパス、ナゴヤドーム前キャンパスで構成され、情報工学部は、天白キャンパスに設置される。天白キャンパスの校地面積は約 123,665 ㎡で、八事キャンパス（約 17,553 ㎡）とナゴヤドーム前キャンパス（約 17,937 ㎡）とを合わせた校地面積は、約 159,155 ㎡となり、大学設置基準に定める面積を十分満たしている。

学生の休息その他の利用のための空地の整備状況は、天白キャンパスの正門アプローチに、研究や学生活動を表現できる空間や隣接した建物内の食堂と一体利用ができるエリア（約 5,700 ㎡）を整備している。また、キャンパス中央には、芝生広場（約 4,400 ㎡）も整備しており、各所に樹木を植え、テーブル・ベンチなどを設置し、学生の憩いのスペースとなる場を設けている。

運動場については、天白キャンパスに隣接する第一グラウンド（約 21,188 ㎡）・第二グラウンド（約 25,143 ㎡）を使用する。第一グラウンドは、一部人工芝を敷き詰めた運動場で、テニスコート（9 面）

を併設する。第二グラウンドでは、トラックを併設した人工芝運動場を整備し、様々な運動が可能で多くの学生が利用できる環境となっている。

イ　校舎等施設の整備計画

情報工学部では最新の教育・研究施設を設置し、高度な教育研究環境を提供する。情報工学部が主に利用する研究実験棟Ⅲは令和2年度から運用を開始したばかりの最新鋭の施設である。特にinnovation hubと名付けられた広大な実験室は、「多目的創造空間」として学生にとって創造的な取り組みの拠点として利用されており、8枚のスクリーン、移動型のテーブルやホワイトボード、 Wi-Fiなどを整備している。

開設年度は、学生募集を停止する理工学部情報工学科所属教員19人をもって情報工学部教員組織を構成するため、教員の研究室については既存の研究室での対応が可能である。その後、新規で採用予定の教員の研究室についても、天白キャンパスの再開発計画に基づき、既存の校舎に配置する。

講義科目を実施する教室については、天白キャンパス全体で大小合わせて講義室108室（開設年度）を用意している。これには、令和4年度から稼働する研究実験棟Ⅳに入る講義室も含まれる。

実験等を要する学科専門科目については、天白キャンパスにおいて、情報工学分野における実験・演習のための実験室（計15室、準備室1室）、ゼミ室（2室）、設備が既に完備されている。そのため、情報工学部においても既存実験室・ゼミ室への再配置で対応が可能である。また、開設後に採用する教員の研究室や実験室も既存施設で新たに整備を行う。

時間割表は【資料 11】のとおりである。従来の理工学部情報工学科と比して入学定員が増えるものの、授業運営に大きな変更はないため、教室数並びに収容人数ともに既存施設での対応が可能である。

以上のような施設・設備を備えており、情報工学部としての教育課程及び授業運営に対して問題は無いと言える。

ウ　図書等の資料及び図書館の整備計画

名城大学附属図書館は、1 本館 2 分館にて構成している。情報工学部を設置する天白キャンパスには、地下 1 階地上 5 階建ての本館（及び第 2 書庫）を併設しており、館内には自然科学・社会科学・人文科学閲覧室、参考図書閲覧室、学習室、グループ学習室、グループ研究室、自由閲覧室等を配置している。図書の蔵書数は約 1,228,000 冊、雑誌種数は約 22,000 種、総座席数は約 1,700 席、月曜日から土曜日（講義のある祝日を含む）の 9 時から 21 時まで（土曜日のみ 9 時から 18 時まで）開館し、Wi-Fi 環境も整備している。また、電子ジャーナル約 20,000 種を提供、アクセシブルな電子書籍等の充実に努め、アクセシビリティの改善も進めている。【資料 12】

レファレンス専用カウンターには専門のスタッフを常置し、国立情報学研究所が運営する図書館間相互貸借システム「NACSIS－ILL」を通じて、他大学や研究機関と図書の貸借や複写等の相互協力を実施している。利用者本位に即した利便性の高い図書館を実現していることから、本学科で学ぶ学生に対して充分な教育研究環境を提供することが可能である。

図書の選定は学生や教員のニーズを踏まえながら行う。特に、情報工学部情報工学科の学位授与方針や教育課程編成方針に掲げる「ネットワークシステム」、「フィジカルコンピューティング」、「データエンジニアリング」、「ヒューマン・メディア」の 4 分野において、整備充実を図っていく。

13. 管理運営

名城大学学則に基づき、情報工学部全体の管理・運営に係る重要事項を審議するための機関として、情報工学部教授会（以下、「教授会」という。）を設置する。教授会は、本学部専任の教授、准教授、助教、講師を構成員とし、原則1か月に1回以上開催する。学部長が議長となり、構成員の3分の2以上を成立要件とし、出席者の過半数をもって議事を決する。ただし、特に重要な議事と認められる場合は出席者の3分の2以上の賛成をもって議事を決する。なお、教授会の事務は情報工学部事務室が担当する。

教授会の審議事項は、次のとおりである。

(1) 教育課程及び成績評価に関する事項
(2) 学生の資格認定及びその身分に関する事項
(3) 専任教員の資格審査及び進退に関する事項
(4) 教育研究に係る学則の変更に関する事項
(5) その他教育研究に関する重要な事項

教授会の下には、学部運営を円滑にするために、教務委員会、学生委員会、施設整備委員会等の各種委員会を設置し、各委員会の役割に基づき、迅速な意思決定を旨とした管理運営体制を整備する。また、全学組織の委員会として、学務センター委員会、入学センター委員会、キャリアセンター委員会、学術研究審議委員会等の委員会があるが、これらの委員会と学部運営の連携を図りながら、情報工学部の管理運営を進めていく。

14. 自己点検・評価

(1) 実施方法・実施体制

名城大学大学及び名城大学大学院は、教育研究水準の向上を図り、本大学及び大学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行い、その結果を公表する旨を名城大学学則及び名城大学大学院学則に定めている。

これに基づき、大学評価に関する規程を制定するとともに、「大学評価委員会」、「大学評価専門委員会」、「学部等評価委員会」及び「質保証外部評価委員会」を設置している。各委員会の目的・役割等は以下のとおりである。【表12】

表12　名城大学における自己点検・評価制度

委員会名	目的・役割	審議事項	構成員 【◎：委員長】
大学評価委員会	全学的な評価活動を掌ること	(1)組織評価・個人評価の企画・立案・実施に係る方針の策定に関すること (2)全学的組織評価の実施に関すること (3)質保証外部評価委員会による評価に関すること (4)認証評価機関による評価に関すること (5)その他、学長が必要と認める事項に関すること	◎学長、副学長、学部長及び研究科長、センター長、事務局長、学長が必要と認めた者
大学評価	各部署が実	(1)自己点検・評価活動の企画・立案・実施に関するこ	◎学長、副学長、

専門委員会	施する自己点検・評価活動への支援・助言をすること	と (2)教育課程の編成に関する全学的な方針に関すること ※但し、教育課程の編成に関する自己点検・評価活動は「ワーキンググループ」で立案 (3)その他、学長が必要と認める事項に関すること	学部長及び研究科長、事務局長、学長が必要と認めた者
学部等評価委員会	学部・研究科・センター等の教育目的等の達成に資すること	(1)学部等の目的及び計画に基づいた組織評価及び個人評価の実施に関すること (2)各学部等に係る認証評価機関による評価に関すること (3)各学部等に係る質保証外部評価委員会による評価に関すること (4)その他、学部等評価に関すること	◎学部長又は研究科長、学部等からの選出する教職員、学外有識者、学部長等が必要と認めた者
質保証外部評価委員会	本学が行う自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外有識者等による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させること		◎副学長、学外有識者、副学長が必要と認めた者

また、令和元年度からは、各教員による「教育」、「研究」、「社会貢献」、「管理・運営」の4領域における業績の自己評価結果を用いた教員業績評価を実施している。各学部等の実施結果については、大学評価委員会で報告するとともに、次年度以降の実施に向けた同制度の適切性の検証を行っている。

以上のとおり、自己点検・評価体制を構築し、内部質保証の実質化に向けた取り組みを行っている。

(2) 認証評価受審結果の活用・公表

平成26年度に自己点検・評価報告書を取り纏め、平成27年度に、公益財団法人大学基準協会による第二期機関別認証評価を受審し、同協会が定める「大学基準に適合している」との認定を受けた（認定期間：平成28年4月～令和5年3月）。

点検・評価報告書並びに受審結果については、本学ホームページにおいて公表している。また、同評価において「長所」の評価を得た、「学校法人名城大学の基本戦略」（通称：MS-15）に基づく教育の質向上及び学生の修学支援に係る取り組みは、MS-15に続く、本学が開学100周年を迎える令和8（2026）年を目標年とする戦略プラン（通称：MS-26）においても全学的に実施され、学生に多様な学びの場を提供している。一方、「努力課題」の評価を受けた事項については、大学評価委員会において課題を共有した後、当該学部等において対応方法を検討した。令和元年7月には改善状況等を取り纏めた報告書を同協会に提出した。

15. 情報の公表

(1) 実施方法・情報提供項目

本学では、社会への説明責任を果たすこと等を目的に、情報公開の範囲等を「情報公開・開示規程」に定めており、ホームページを中心として一元的且つ体系的な情報公表を行っている。【資料13】

公表内容は、学生数等の基本情報（データ）、教育研究内容に関する情報、財務諸表、戦略プランを含め、本学の営みが網羅できるよう設計されている。また、本学専任教員の教育研究業績等を蓄積する教

員データベースとの連携も行い、本学の教育研究シーズを広く社会に公表している。

学生数・教員数等の統計情報については、IR 業務を所掌する総合企画部学長室を中心にデータベースを構築し、教育活動の改善を目的に関係部署と連携したデータの利活用が進められている。

なお、個別項目の公表状況は以下のとおりである。

ア　大学の教育研究上の目的に関すること

HP アドレス　https://www.meijo-u.ac.jp/academics/

（各学部・学科及び研究科ページに掲載）

イ　教育研究上の基本組織に関すること

HP アドレス　https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/organization.html

ウ　教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

HP アドレス

【教員組織、教員数】https://www.meijo-u.ac.jp/about/data/teacher.html

【各教員が保有する学位及び業績】https://www.meijo-u.ac.jp/research/teacher.html

エ　入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

HP アドレス

【入学者受入れ方針】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html

【入学者数、収容定員、在学生数、卒業・修了者数】https://www.meijo-u.ac.jp/about/data/student/

【進学者数及びその他進学の状況】https://www.meijo-u.ac.jp/career/results/gs.html

【就職者数及びその他就職の状況】https://www.meijo-u.ac.jp/career/results/

オ　授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

HP アドレス　https://gkmsyllabus.meijo-u.ac.jp/camweb/slbssrch.do

カ　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

HP アドレス　https://www.meijo-u.ac.jp/academics/

（各学科及び研究科ページに入り、下部「もっと知る」の「カリキュラム」を選択。「取得可能な学位・卒業要件」（PDF）に卒業要件を記載）

キ　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

HP アドレス　https://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/

ク　授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

HP アドレス　https://www.meijo-u.ac.jp/campus/tuition/

ケ　大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

【修学、進路選択等】HP アドレス　https://www.meijo-u.ac.jp/campus/application/utility.html
【心身の健康等】HP アドレス　https://www.meijo-u.ac.jp/campus/life/
（「学生相談室」「保健センター」に掲載）

コ　その他

（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果　等）

HP アドレス

【教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報】
https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html
（各学科及び研究科の学位授与方針に記載）
【名城大学学則】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/regulations.html
【設置認可申請書等】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/ri_report/
【自己点検・評価報告書及び認証評価結果】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/valuation/
【事業計画書・報告書】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/report.html
【財務情報】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/finance.html

16.　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 全学的な FD 活動の推進

本学では、教育内容等の改善のための全学的な委員会組織として「大学教育開発センター委員会」を設けており、全学的視点から授業内容及び方法の改善を図る活動を展開している。同委員会では大学教育開発センター要項に基づき、教育能力向上を目的に、以下の活動を展開している。

①学生による「授業改善アンケート」の実施

各学期末に一定期間を設けて、全学的に「授業改善アンケート」を実施している。授業内容に対する学生の評価を集計し、各教員には担当授業のアンケート結果に対する分析コメント・授業改善方法等を求め、学生へのメッセージとして報告書にまとめている。

②FD フォーラムの実施

本学の教育研究のあり方等、教育に関する全学的な問題を考える機会として、学内外の教職員を対象に、平成 12 年度から令和 2 年度まで 22 回にわたり、「FD フォーラム」を実施している。近年の具体的な内容として、外部識者を招聘した基調講演のほか、参考となる他大学の事例報告等を通じて、FD 活動の推進を図っている。

③FD 学習会・新任教員 FD 研修の実施

本学が抱える身近な課題をテーマに取り上げ、学内教職員を対象とし、平成 26 年度から令和 2 年度まで 11 回にわたり「FD 学習会」を実施している。近年の具体的な内容の一例として、遠隔授業の効果的な手法について学内の好事例を展開している。また、令和元年度から年 1 回、新任教員を対象として大学の授業設計を学ぶ「新任教員 FD 研修」を実施し、FD 活動の推進を図っている。

④FD ニュースの発刊

文教政策や本学の FD 活動をコンパクトにまとめた「FD ニュース」を年 1～2 回発刊し、本学教職員に配布している。具体的な内容として、内部質保証や教学マネジメント指針を共有し、FD 活動の推進を図っている。

⑤名城大学教育年報

FD 活動の成果を教育実績として積み重ね、本学における教育成果を学内外に示し、「教育力」の更なる向上を図る礎となるよう、平成 18 年度から毎年「名城大学教育年報」を刊行している。教育年報は、本学ホームページでの公開や全国他大学への送付を通じて、教育に関わる研究の相互交流の一翼を担っている。

⑥教育功労賞制度

教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰することにより、教職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、平成 25 年度に「教育功労賞要項」を制定した。教育功労賞受賞者は、同要項に基づき、大学教育開発センター委員会において候補者を選考し、全学的な意思形成機関である定例大学協議会における議を経て、学長が決定する。

また、表彰の対象となった取り組みの成果等は、FD フォーラムや「名城大学教育年報」を通じて発信し、その教育手法を全学的に普及させることで、組織全体の教育の質向上を促進している。

(2) 学部としての取り組み

情報工学部では、教育改善委員会を設置し、FD・SD 活動の強化に取り組む。

教育改善で重要課題となる「学生の学修成果を可視化する取組」として、GPS-Academic（株式会社ベネッセ i-キャリア）による調査を毎年、継続的に行う予定である。

また、基礎学力に自信がない新入学生向けに数学・物理学・化学・英語の基礎演習科目を置くとともに、数学・英語に関しては更に発展的な内容を勉強できるよう基礎演習（アドバンストコース）科目も開講する。数学基礎演習においては、入学時オリエンテーションで、数学習熟度診断テストを実施し、学生が自ら習熟度の判断を行い、これらの科目の活用を促すように指導すると共に、実施した数学習熟度診断テストの結果に基づいて、今後の教育改善・学生指導に役立てるための分析を行う。

学生の基礎学力向上を目的とした取り組みとして、基礎演習科目の履修促進、数学相談室・物理相談室の開設などを実施し、目標とする基礎学力向上、教育改善への取り組みを継続的に進める。

さらに、教員の学生指導能力向上に関する取り組みとして、学部独自の FD フォーラムの開催、他大学での FD フォーラムや高等教育関連企画などへの参加の推進を通じて、教員の学生指導能力向上に努める。

17.　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア　教育課程内の取り組み

社会的・職業的自立を図るため、教育課程に「職業指導論」、「インターンシップ」、「グローバルゼミナール」、「キャリアゼミナール」、「情報技術の応用と職業」を設け、キャリア教育を行っている。【資料 14】

「職業指導論」では、工業高校教員となることを想定し、自分自身の将来も重ね合わせながら、生徒への職業指導を行える能力を養う。キャリア・カウンセリングの理論、技法を中心に学び、多様化が進む現代社会における職業人としてのキャリア形成との関連を生涯発達の視点から考える。

「インターンシップ」では、実社会での就業体験を通して、関連する分野で必要とされる基本的知識や社会人としてのマナー等の資質、技術者としての心構えを理解、体得する。

「グローバルゼミナール」では、海外の学生・研究者との学術交流も行いながら、多様な習慣・価値観・考え方を実体験することで、国際的に活躍するグローバルエンジニアに必要な知識や経験、グローバリズムの重要性を学び、将来の就業に向けて視野を広げる。

「キャリアゼミナール」では、卒業研究、就職活動、そして大学院進学を控えた学生に対し、卒業後の進路を考える上で必要となる情報の提供及び心構えの啓発を行う。綿密な自己分析に基づく、適切なキャリアプランの設定を目指す。

「情報技術の応用と職業」では、職業や仕事をキーワードとして、情報技術が実社会でどのように応用されているか、また情報技術に関する職業がどのようなもので、その職業に携わる人がどのように仕事を行っているかを学ぶ。情報技術の広がりとその応用分野を知り、技術者や研究者の職業観を理解することで、学生が自分の将来の仕事を考え、仕事に対する意識や意欲を高める。

イ　教育課程外の取り組み

社会に貢献できる人材の育成を目指し、キャリアセンターが中心となって、学年や就職活動時期に応じたキャリア支援プログラムを次の通り実施している。【資料 15】

①低学年を対象としたキャリア形成サポート

学生が、入学後の早い段階から自分の特性や適性を理解し、自分の進路について自発的に深く考える場として、1 年次向けキャリアガイダンスや 2 年次向けプレ就職ガイダンス、第一線で活躍する企業人を招いた座談会「人間図鑑」を行い、卒業後の進路を見据えて目標を持って有意義な学生生活を過ごすことができるような体制を整えている。

②3・4 年次及び大学院博士前期（修士）課程の学生を対象とした就職支援

3・4 年次（大学院博士前期（修士）課程は 1・2 年次、以下同様）に対して、就職ガイダンスを通して就職活動における心構え・進め方を理解させ、次のような就職支援を展開している。

1）就職ガイダンス

就職活動において、時期に応じたやるべきことをタイムリーに伝えるために、3 年次を対象に、毎回テーマを設定しガイダンスを開催している。また、地元や地方企業への就職を希望する学生を対象とした UIJ ターンガイダンス、外国人留学生や障がいのある学生を対象としたキャリアガイダンス等を実施し、多様な学生への情報提供も行っている。

2）就職支援講座等

3 年次に、就職活動のスケジュールなどが管理できる就職手帳と就職マニュアルを兼ねた「就職支援ガイド」を配布するとともに、業界研究講座、履歴書･エントリーシートの書き方講座、ビジネスマナー講座、自己 PR 講座、筆記模擬試験、模擬面接講座、模擬グループディスカッションなど、実際の就職活

動に際し必要と思われる様々な支援講座を実施している。

3）就職アドバイザー制度

卒業生及び就職内定者で構成され、就職活動中の在学生を全面的にバックアップしている。最も身近な存在である就職活動を経験した先輩学生から、進路先の選び方や就職活動の効果的な進め方等、ウェブや就職情報サイトからは得られない職場環境など、体験を通じたアドバイスや情報を提供している。これまで 10,000 人以上が登録しており、随時の応対に加えて、2 月にはアドバイザー全員を招いた相談会も実施している。

4）業界研究セミナー（学内企業研究セミナー）

本学学生のみを対象とし、多種多様な業界から大手企業や地元中小企業を招き、企業が求める人材や採用に係る情報等、業界研究や会社理解を深める機会を提供し内定に結びつけている。

③全学年を対象としたキャリア形成支援

1）資格取得支援

各人のキャリア形成を見据えて自分の能力を磨き、可能性を広げようとする学生のために、パソコン、英語から公務員講座や高難度の国家資格など 70 を超える多彩な講座を格安な受講料で開講している。令和元年度は延べ 2,460 人の学生がこれらの講座を受講し、キャリアセンター把握分だけでも公務員試験等に 270 人、司法書士を含む各種資格試験に 480 人が合格している。

2）就職サポーター制度

学生が「就職サポーター」として、キャリアセンターの就職支援業務を補助することにより、就業観の養成及びボランティア精神の向上を図ることを目的としている。「4 年次内定者と 3 年次の交流会（就サポカフェ）」等、キャリアセンターのサポート業務だけでなく、独自の企画を立案し、学生や企業との交流の場や就職準備段階の勉強会など多岐に渡り活動を行っている。

ウ　適切な体制整備

キャリアセンター委員会を設置し、学生の進路・就職支援に関する事項、就職対策及び各種資格取得等の講座に関する事項、インターンシップに関する事項等について検討を行う。同委員会は、キャリアセンター長、同センター事務部長、各学部から選出された委員等から構成され、全学的な学生支援体制が整備されている。

以　上

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

【資料 1】内閣府「Society5.0」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 2

【資料 2】独立行政法人情報処理推進機構「IT 人材白書 2020」概要・・・・・・・・・P. 3

【資料 3】独立行政法人情報処理推進機構「IT 人材白書 2019」概要・・・・・・・・・P. 4

【資料 4】名城大学における人材養成目的、3 つのポリシーの策定・・・・・・・・・・P. 5

【資料 5】履修系統図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 7

【資料 6】教育課程一覧表と各コースの履修登録での留意事項・・・・・・・・・・・P. 9

【資料 7】履修モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 14

【資料 8】実習施設一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 21

【資料 9】学校法人名城大学職員規則（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 26

【資料 10】時間割表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 28

【資料 11】学術雑誌等一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 35

【資料 12】情報公開・開示規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 36

【資料 13】社会的・職業的自立に関する授業科目のシラバス・・・・・・・・・・・・P. 37

【資料 14】キャリアセンターの支援プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 53

Society 5.0で実現する社会

これまでの情報社会（Society 4.0）では知識や情報が共有されず、分野横断的な連携が不十分であるという問題がありました。人が行う能力に限界があるため、あふれる情報から必要な情報を見つけて分析する作業が負担であったり、年齢や障害などによる労働や行動範囲に制約がありました。また、少子高齢化や地方の過疎化などの課題に対して様々な制約があり、十分に対応することが困難でした。

Society 5.0で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります。

内閣府「Society5.0」

Society 5.0 で実現する社会

https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

独立行政法人情報処理推進機構「IT 人材白書 2020」概要　18 ページ

IT 企業における IT 人材の“量”に対する過不足感

https://www.ipa.go.jp/files/000085256.pdf

独立行政法人情報処理推進機構「IT 人材白書 2019」概要　37 ページ

IT 企業における人工知能（AI）に携わる人材（人材の獲得・確保）

https://www.ipa.go.jp/files/000073565.pdf

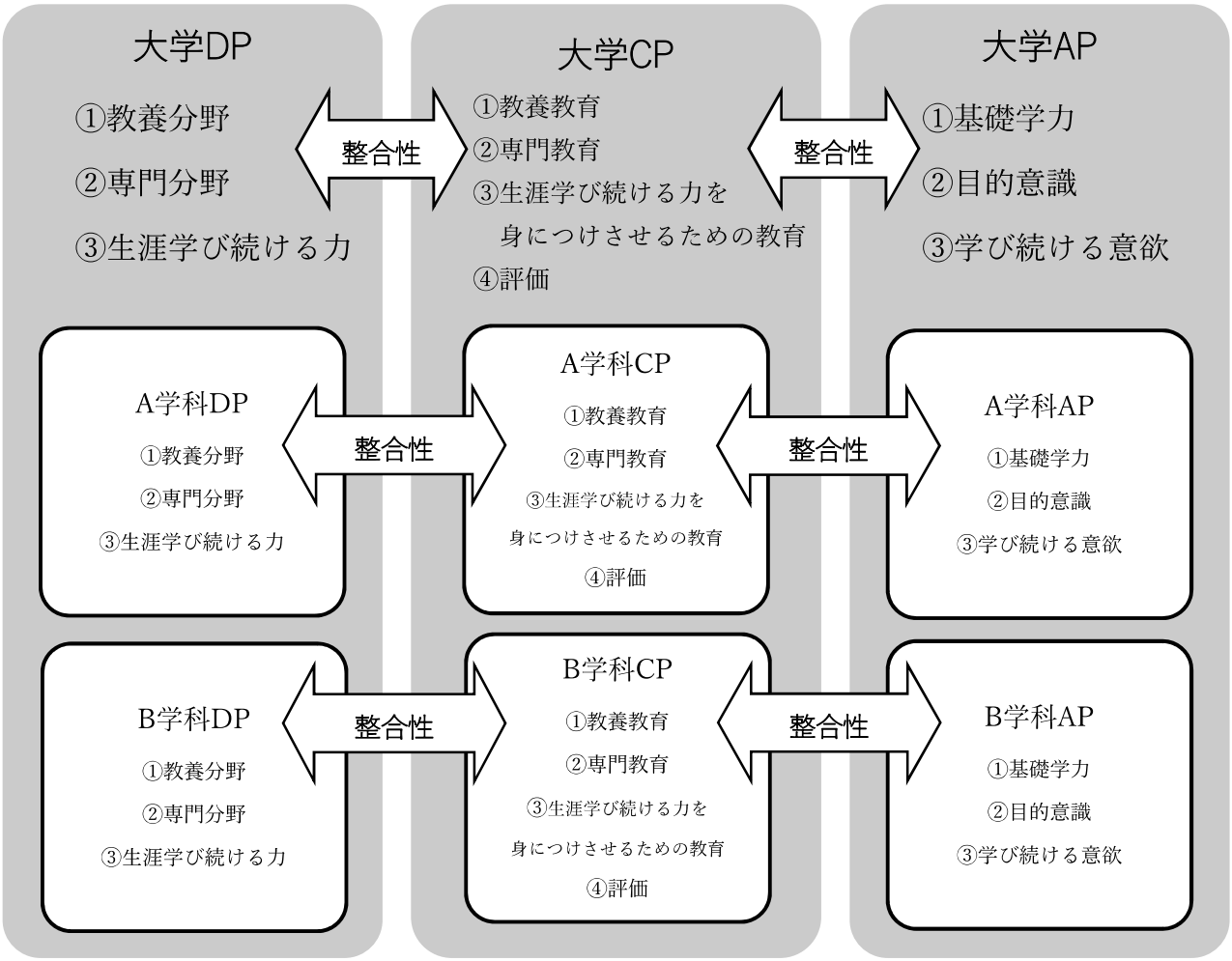
【資料 4】

名城大学における人材養成目的、3 つのポリシーの策定

１．学科版３ポリシー策定ガイドラインについて

（平成 28 年度「大学全体の 3 ポリシー検討 WG 報告書」より（抜粋）

図：大学全体のポリシーと学科単位のポリシーとの関係



＜大学 DP・CP・AP の相互関係について＞

上記①～③の相互関係をまとめると以下の通りとなる。

DP①穏健中正、教養教育と関係→CP①として教養教育→AP①として高等学校における各教科の基本事項の修得を入学者に求める資質・能力として示す。

DP②実行力、専門教育と関係→CP②として専門教育→AP②として志望学科での学修成果を社会で活かすという目的意識を入学者に求める資質・能力として示す。

DP③MS-26 価値観、生涯学び続ける能力と関係→CP③として生涯学び続ける力を身につけさせるための教育→AP③卒業後も学び続ける意欲を入学者に求める資質・能力として示す。

＜大学３ポリシーと学科３ポリシーとの関係について＞

・大学 3 ポリシーと学科 3 ポリシーは概念的に「1 対 1」対応となる。違いは、大学 3 ポリシーが包括的なものであるのに対して、学科 3P は具体的なものとなる。

2.名城大学の立学の精神、MS-26における価値観、3つのポリシー

立学の精神　https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/mind.html

MS-26　https://www.meijo-u.ac.jp/about/ms26/

3つのポリシー　https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/pdf/univ.pdf

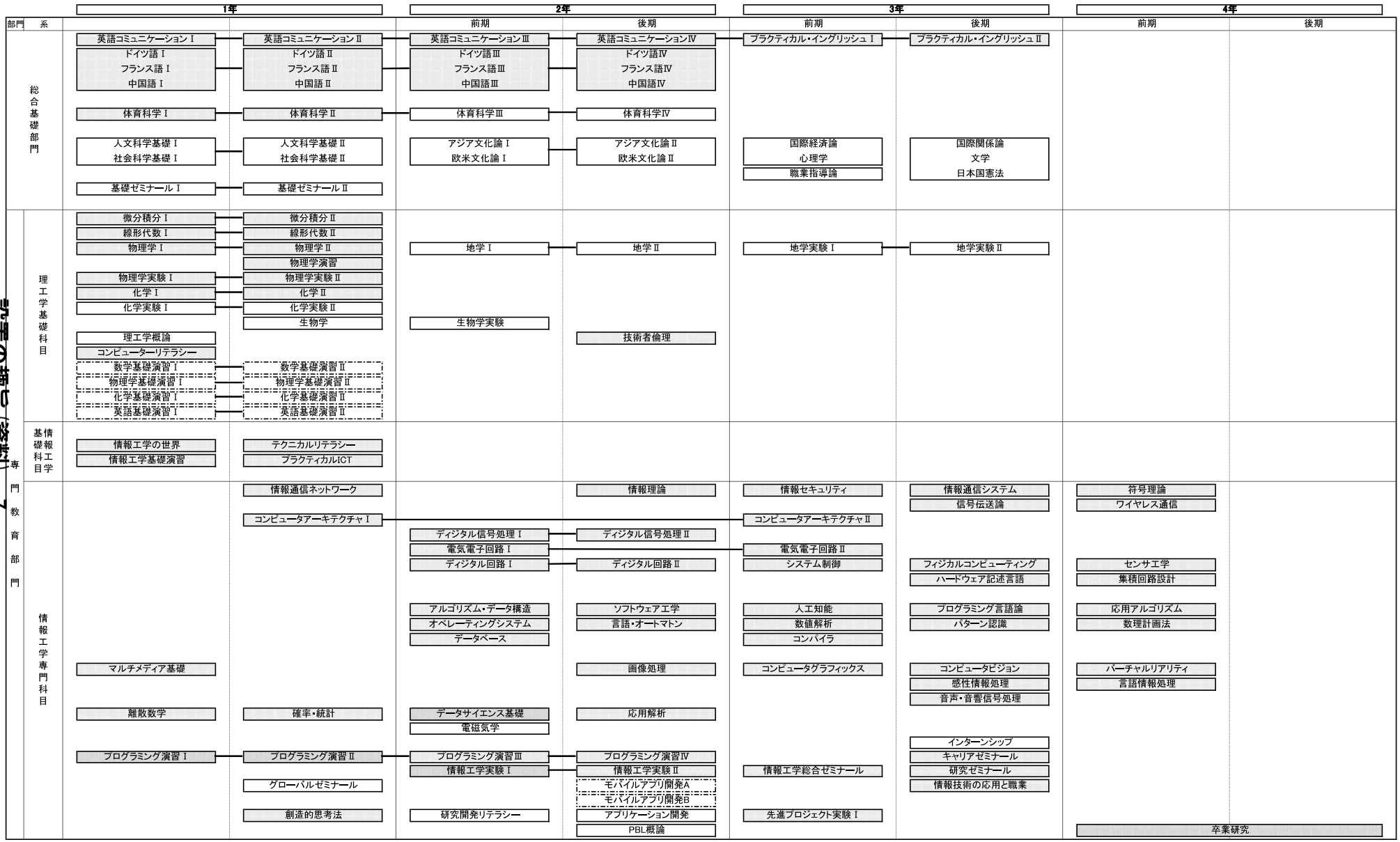
立学の精神	穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する
学校法人名城大学における戦略プラン「Meijo Strategy-2026」（通称「MS-26」）	大学・高校に関わる全ての人達と共有したい価値観 「生涯学びを楽しむ　Enjoy Learning for Life」
ディプロマ・ポリシー	名城大学は、「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」という立学の精神に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。 ①幅広い教養を身につけ、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。 ②専門分野に熟達し、社会における諸問題の解決のためにその知識・能力を活用できる。 ③主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、共に成長することができる。
カリキュラム・ポリシー	名城大学は、各学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、実施します。 ①人文・社会・自然科学、語学、情報技術、体育等からなる教養教育課程を体系的に編成し、様々な価値　観に触れ、物事を正しく理解し表現できるようにする。 ②専門教育課程を体系的に編成し、講義・演習・実験・実習等を適切に組み合わせた授業を実施することにより、専門分野の知識・能力を確実に修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。 ③初年次教育や演習・実験・実習科目を中心に能動的学修の要素を取り入れることにより、生涯にわたって主体的に学び、他者との相互理解や意見交換ができるようにする。 ④学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学修行動調査やGPA、修得単位数に基づく個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。
アドミッション・ポリシー	名城大学は、高等学校等における学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。 ①大学での学修の基礎となる高等学校における各教科の基本事項を修得している。 ②入学を希望する学科での学修成果を社会で活かすという目的意識がある。 ③大学在学中だけでなく、卒業後も学び続ける意欲がある。

情報工学部　情報工学科　総合コース（1～4年）

授業科目履修系統図

（令和4年度入学生から適用）

必修科目　選択必修科目　選択科目　自由科目



情報工学部　情報工学科　先進プロジェクトコース（1～4年）

授業科目履修系統図

（令和4年度入学生から適用）

必修科目　選択必修科目　選択科目　自由科目

部門	系	1年		2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
総合基礎部門		英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ	英語コミュニケーションⅣ	プラクティカル・イングリッシュⅠ	プラクティカル・イングリッシュⅡ		
		ドイツ語Ⅰ フランス語Ⅰ 中国語Ⅰ	ドイツ語Ⅱ フランス語Ⅱ 中国語Ⅱ	ドイツ語Ⅲ フランス語Ⅲ 中国語Ⅲ	ドイツ語Ⅳ フランス語Ⅳ 中国語Ⅳ				
		体育科学Ⅰ	体育科学Ⅱ	体育科学Ⅲ	体育科学Ⅳ				
		人文科学基礎Ⅰ 社会科学基礎Ⅰ	人文科学基礎Ⅱ 社会科学基礎Ⅱ	アジア文化論Ⅰ 欧米文化論Ⅰ	アジア文化論Ⅱ 欧米文化論Ⅱ	国際経済論 心理学 職業指導論	国際関係論 文学 日本国憲法		
		基礎ゼミナールⅠ	基礎ゼミナールⅡ						
専門教育部門	理工学基礎科目	微分積分Ⅰ	微分積分Ⅱ						
		線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ						
		物理学Ⅰ	物理学Ⅱ	地学Ⅰ	地学Ⅱ	地学実験Ⅰ	地学実験Ⅱ		
			物理学演習						
		物理学実験Ⅰ	物理学実験Ⅱ						
		化学Ⅰ	化学Ⅱ						
		化学実験Ⅰ	化学実験Ⅱ						
			生物学	生物学実験					
		理工学概論			技術者倫理				
		コンピューターリテラシー							
		数学基礎演習Ⅰ	数学基礎演習Ⅱ						
		物理学基礎演習Ⅰ	物理学基礎演習Ⅱ						
		化学基礎演習Ⅰ	化学基礎演習Ⅱ						
		英語基礎演習Ⅰ	英語基礎演習Ⅱ						
	情報工学基礎科目	情報工学の世界	テクニカルリテラシー						
		情報工学基礎演習	プラクティカルICT						
	情報工学専門科目		情報通信ネットワーク		情報理論	情報セキュリティ	情報通信システム	符号理論	
							信号伝送論	ワイヤレス通信	
			コンピュータアーキテクチャⅠ			コンピュータアーキテクチャⅡ			
				ディジタル信号処理Ⅰ	ディジタル信号処理Ⅱ				
				電気電子回路Ⅰ		電気電子回路Ⅱ			
				ディジタル回路Ⅰ	ディジタル回路Ⅱ	システム制御	フィジカルコンピューティング	センサ工学	
							ハードウェア記述言語	集積回路設計	
				アルゴリズム・データ構造	ソフトウェア工学	人工知能	プログラミング言語論	応用アルゴリズム	
				オペレーティングシステム	言語・オートマトン	数値解析	パターン認識	数理計画法	
				データベース		コンパイラ			
		マルチメディア基礎			画像処理	コンピュータグラフィックス	コンピュータビジョン	バーチャルリアリティ	
							感性情報処理	言語情報処理	
							音声・音響信号処理		
		離散数学	確率・統計	データサイエンス基礎	応用解析				
				電磁気学					
							インターンシップ		
		プログラミング演習Ⅰ	プログラミング演習Ⅱ	プログラミング演習Ⅲ	プログラミング演習Ⅳ		キャリアゼミナール		
				情報工学実験Ⅰ	情報工学実験Ⅱ		研究ゼミナール		
			グローバルゼミナール		モバイルアプリ開発A モバイルアプリ開発B				
			創造的思考法	研究開発リテラシー	アプリケーション開発	先進プロジェクト実験Ⅰ	先進プロジェクト実験Ⅱ		
					PBL概論	先進プロジェクトゼミナール		卒業研究	

2022年度入学 情報工学科 教育課程一覧表

【資料6-1】

部門	系	授業科目名	単位数 必修科目	単位数 選択必修科目	単位数 選択科目	単位数 自由科目	プログラム指定科目(総合) NS	PC	DE	HM	プログラム指定科目(先進プロジェクト) NS	PC	DE	HM	毎週授業時間数 1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前	4年後	摘要
総合基礎部門		英語コミュニケーションⅠ		1											2								
		英語コミュニケーションⅡ		1												2							
		英語コミュニケーションⅢ		1													2						
		英語コミュニケーションⅣ		1														2					
		プラクティカル・イングリッシュⅠ		1															2				
		プラクティカル・イングリッシュⅡ		1																2			
		ドイツ語Ⅰ		1											2								
		ドイツ語Ⅱ		1												2							
		ドイツ語Ⅲ		1													2						
		ドイツ語Ⅳ		1														2					
		フランス語Ⅰ		1											2								
		フランス語Ⅱ		1												2							
		フランス語Ⅲ		1													2						
		フランス語Ⅳ		1														2					
		中国語Ⅰ		1											2								
		中国語Ⅱ		1												2							
		中国語Ⅲ		1													2						
		中国語Ⅳ		1														2					
		体育科学Ⅰ		1											2								
		体育科学Ⅱ		1												2							
		体育科学Ⅲ			1												2						
		体育科学Ⅳ			1													2					
		人文科学基礎Ⅰ			2										2								
		人文科学基礎Ⅱ			2											2							
		社会科学基礎Ⅰ			2										2								
		社会科学基礎Ⅱ			2											2							
		アジア文化論Ⅰ			2												2						
		アジア文化論Ⅱ			2													2					
		欧米文化論Ⅰ			2												2						
		欧米文化論Ⅱ			2													2					
		国際関係論			2															2			
		文学			2															2			
		日本国憲法			2															2			
		国際経済論			2														2				
		心理学			2														2				
		基礎ゼミナールⅠ			1										2								
		基礎ゼミナールⅡ			1											2							
		職業指導論			2														2				

外国人留学生にかかわる日本語科目

総合基礎部門		日本語Ⅰ			2										2	2							外国人留学生のみ履修が可能
		日本語Ⅱ			2										2	2							
		日本語Ⅲ			2										2	2							
		日本語Ⅳ			2										2	2							
		日本語Ⅴ			2										2	2							

2022年度入学　情報工学科　教育課程一覧表

部門	系	授業科目名	単位数				プログラム指定科目（総合）				プログラム指定科目（先進プロジェクト）				毎週授業時間数								摘要
			必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目	NS	PC	DE	HM	NS	PC	DE	HM	1年		2年		3年		4年		
															前	後	前	後	前	後	前	後	
専門教育	理工学基礎科目	微分積分Ⅰ		2											2								
		微分積分Ⅱ		2												2							
		線形代数Ⅰ		2											2								
		線形代数Ⅱ		2												2							
		物理学Ⅰ		2											2								
		物理学Ⅱ		2												2							
		物理学演習		1												2							
		物理学実験Ⅰ		1											2								
		物理学実験Ⅱ		1												2							
		化学Ⅰ		2											2								
		化学Ⅱ		2												2							
		化学実験Ⅰ			1										2								
		化学実験Ⅱ			1											2							
		地学Ⅰ			2												2						
		地学Ⅱ			2													2					
		地学実験Ⅰ			1														2				
		地学実験Ⅱ			1															2			
		生物学			2											2							
		生物学実験			1												2						
		理工学概論			2										2								
		技術者倫理		2														2					
		コンピューターリテラシー		2											2								
		数学基礎演習Ⅰ				1									2								
		数学基礎演習Ⅱ				1										2							
		物理学基礎演習Ⅰ				1									2								
		物理学基礎演習Ⅱ				1										2							
		化学基礎演習Ⅰ				1									2								
		化学基礎演習Ⅱ				1										2							
		英語基礎演習Ⅰ				1									2								
		英語基礎演習Ⅱ				1										2							
	情報工学基礎科目	情報工学の世界		2											2								×
		情報工学基礎演習		1											2								×
		テクニカルリテラシー		2												2							×
		プラクティカルICT		1												2							×
	情報工学専門科目	情報通信ネットワーク		2			◎	○	○	○	◎	○	○	○		2							
		情報理論		2			◎	○	◎	○	◎	○	◎	○				2					
		情報セキュリティ		2			※				※								2				
		情報通信システム		2			※				※									2			
		信号伝送論		2			※				※									2			×
		符号理論		2			※				※										2		
		ワイヤレス通信		2			※				※										2		
		コンピュータアーキテクチャⅠ		2			◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○		2							
		コンピュータアーキテクチャⅡ		2			○	○			○	○							2				
		ディジタル回路Ⅰ		2			◎	◎	○	○	◎	◎	○	○			2						
		ディジタル回路Ⅱ		2			○	◎			○	◎						2					
		電気電子回路Ⅰ		2			○	◎			○	◎					2						×
		電気電子回路Ⅱ		2			○	○			○	○							2				×
		ディジタル信号処理Ⅰ		2			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			2						
		ディジタル信号処理Ⅱ		2			○	○	○	○	○	○	○	○				2					
		システム制御		2				※				※							2				
		フィジカルコンピューティング		2				※				※								2			
		ハードウェア記述言語		2				※				※								2			×
		センサ工学		2				※				※									2		
		集積回路設計		2				※				※									2		×

2022年度入学　情報工学科　教育課程一覧表

部門	系	授業科目名	単位数				プログラム指定科目（総合）				プログラム指定科目（先進プロジェクト）				毎週授業時間数								摘要
			必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目	NS	PC	DE	HM	NS	PC	DE	HM	1年		2年		3年		4年		
															前	後	前	後	前	後	前	後	
専門教育部門	情報工学専門科目	アルゴリズム・データ構造		2			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			2						×
		オペレーティングシステム		2					○				○				2						
		データベース		2					○				○				2						
		ソフトウェア工学		2			○	○	◎	◎	○	○	◎	◎				2					
		言語・オートマトン		2			○		◎	◎	○		◎	◎				2					
		人工知能		2			○		※	○	○		※	○					2				×
		数値解析		2					○				○						2				
		コンパイラ		2					○	○			○	○					2				
		プログラミング言語論		2					※				※							2			×
		パターン認識		2					※				※							2			×
		応用アルゴリズム		2					※				※								2		
		数理計画法		2					※				※								2		
		マルチメディア基礎		2						◎				◎	2								
		画像処理		2				○		◎		○		◎				2					
		コンピュータグラフィックス		2					○	※			○	※					2				
		コンピュータビジョン		2				○		○		○		○						2			
		感性情報処理		2						※				※						2			
		音声・音響信号処理		2						※				※						2			
		バーチャルリアリティ		2						※				※							2		
		言語情報処理		2						※				※							2		
		離散数学		2			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2								
		確率・統計		2			○	○	○	○	○	○	○	○		2							
		データサイエンス基礎	2				必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修			2						
		応用解析		2			○	○	○	○	○	○	○	○				2					
		電磁気学			2												2						×
		プログラミング演習Ⅰ	1				必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修	2								×
		プログラミング演習Ⅱ	1				必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修		2							×
		プログラミング演習Ⅲ		1			※	※	※	※	※	※	※	※			2						×
		プログラミング演習Ⅳ		1			○	○	○	○	○	○	○	○				2					×
		情報工学実験Ⅰ	2				必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修			4						×
		情報工学実験Ⅱ		2			※	※	※	※	※	※	※	※				4					×
		インターンシップ			1															△			×
		グローバルゼミナール			1											△							×
		モバイルアプリ開発A				1												△					×
		モバイルアプリ開発B				1												△					×
		キャリアゼミナール		1			○	○	○	○	○	○	○	○						2			×
		研究ゼミナール		1			※	※	※	※	※	※	※	※						2			×
		情報工学総合ゼミナール		1(総)			※	※	※	※	×	×	×	×					2				×
		情報技術の応用と職業		2(総)			○	○	○	○	×	×	×	×						2			(P)教職課程履修者は必修
		創造的思考法	2(P)	2(総)			◎	◎	◎	◎	必修	必修	必修	必修		2							×
		研究開発リテラシー	2(P)		2(総)						必修	必修	必修	必修			2						×
		アプリケーション開発	2(P)		2(総)						必修	必修	必修	必修				2					×
		PBL概論	2(P)		2(総)						必修	必修	必修	必修				2					×
		先進プロジェクト実験Ⅰ	2(P)	2(総)			○	○	○	○	必修	必修	必修	必修					4				×
		先進プロジェクト実験Ⅱ		2(P)							※	※	※	※						4			×，夏期集中
		先進プロジェクトゼミナール	1(P)								必修	必修	必修	必修					2				×
		卒業研究	4				必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修							＊	＊	×

(総)：総合コース
(P)：先進プロジェクトコース

NS：ネットワークシステム，PC：フィジカルコンピューティング，DE：データエンジニアリング，HM：ヒューマン・メディア
摘要欄×：他学部・他学科履修不可
＊：卒業研究の毎週授業時間数は，前期4時間，後期4時間を最低条件とする
△：グローバルゼミナールは夏季・春季休暇中に，それ以外は夏季休暇中に実施する

【資料6-2】

総合コース

1. 履修登録での留意事項

「情報工学部教育課程」及び「履修等に関する規定」を熟読のうえ履修登録をしてください。

自由科目，他学部・他学科履修科目及び単位互換に関する包括協定により他大学で履修した科目の修得単位は進級，卒業研究着手条件及び卒業に必要な単位数などに算入されません。

2. 進級の条件

2年次から3年次への進級については，次の条件が必要です。

2年次終了までに62単位以上を修得していること。情報工学基礎科目のうち，3科目以上を修得していること。

3. 卒業研究の着手条件

次の条件を満たすことを原則とします。

4つのプログラムのうち，いずれか1つ以上のプログラムで，残り10科目以内の修得で卒業可能であること。

4. 卒業の要件

卒業に必要な単位数は次のとおりです。

情報工学専門科目の選択必修科目については，4つのプログラムのうちいずれか1つ以上のプログラムで下記のプログラム指定科目要件をすべて満たすものとします。

<table>
<tr><th colspan="2">部　　門</th><th colspan="3">科 目 区 分</th><th>単　　位</th></tr>
<tr><td rowspan="3">総 合 基 礎 部 門</td><td colspan="3">選 択 必 修 科 目</td><td>10単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">選　　択　　科　　目</td><td>10単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">計</td><td>20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="7">専 門 教 育 部 門</td><td colspan="3">必　　修　　科　　目</td><td>10単位</td></tr>
<tr><td rowspan="4">選択必修科目
*4</td><td colspan="2">理工学基礎科目　　＊1</td><td>12単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">プログラム指定科目</td><td>◎科目</td><td>16単位</td></tr>
<tr><td>※科目</td><td>9単位　＊2</td></tr>
<tr><td>○科目</td><td>11単位　＊3</td></tr>
<tr><td colspan="3">選　　択　　科　　目</td><td>46単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">計</td><td>104単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">合　　計</td><td>124単位以上</td></tr>
</table>

＊1 理工学基礎科目の選択必修科目については，微分積分Ⅰ・Ⅱ，線形代数Ⅰ・Ⅱを含み，12単位以上修得すること。

＊2 ※科目を9単位を超えて修得した場合，○科目又は専門教育部門の選択科目の単位として算入できます。

＊3 ○科目を11単位を超えて修得した場合，専門教育部門の選択科目の単位として算入できます。

＊4 プログラム指定・コース指定（◎，※，○）が無い科目を修得した場合，専門教育部門の選択科目の単位として算入されます。

先進プロジェクトコース

1. 履修登録での留意事項

「情報工学部教育課程」及び「履修等に関する規定」を熟読のうえ履修登録をしてください。

自由科目，他学部・他学科履修科目及び単位互換に関する包括協定により他大学で履修した科目の修得単位は進級，卒業研究着手条件及び卒業に必要な単位数などに算入されません。

2. 進級の条件

2年次から3年次への進級については，次の条件が必要です。

2年次終了までに62単位以上を修得していること。情報工学基礎科目のうち，3科目以上を修得していること。

3. 卒業研究の着手条件

次の条件を満たすことを原則とします。

4つのプログラムのうち，いずれか1つ以上のプログラムで，残り10科目以内の修得で卒業可能であること。

4. 卒業の要件

卒業に必要な単位数は次のとおりです。

情報工学専門科目の選択必修科目については，4つのプログラムのうちいずれか1つ以上のプログラムで下記のプログラム指定科目要件をすべて満たすものとします。

<table>
<tr><th colspan="2">部　　門</th><th colspan="3">科 目 区 分</th><th>単　　位</th></tr>
<tr><td rowspan="3">総 合 基 礎 部 門</td><td colspan="3">選 択 必 修 科 目</td><td>10単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">選　　択　　科　　目</td><td>10単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">計</td><td>20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="7">専 門 教 育 部 門</td><td colspan="3">必　　修　　科　　目</td><td>21単位</td></tr>
<tr><td rowspan="4">選択必修科目
*4</td><td colspan="2">理工学基礎科目　　＊1</td><td>12単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">プログラム指定科目</td><td>◎科目</td><td>14単位</td></tr>
<tr><td>※科目</td><td>9単位　＊2</td></tr>
<tr><td>○科目</td><td>6単位　＊3</td></tr>
<tr><td colspan="3">選　　択　　科　　目</td><td>42単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">計</td><td>104単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">合　　計</td><td>124単位以上</td></tr>
</table>

＊1 理工学基礎科目の選択必修科目については，微分積分Ⅰ・Ⅱ，線形代数Ⅰ・Ⅱを含み，12単位以上修得すること。

＊2 ※科目を9単位を超えて修得した場合，○科目又は専門教育部門の選択科目の単位として算入できます。

＊3 ○科目を6単位を超えて修得した場合，専門教育部門の選択科目の単位として算入できます。

＊4 プログラム指定・コース指定（◎，※，○）が無い科目を修得した場合，専門教育部門の選択科目の単位として算入されます。

履修モデル1 総合コース・データエンジニアリングプログラム

想定される進路　情報サービス業（情報処理システムの設計・開発/運用・保守，パッケージソフトウェア/組込みソフトウェアの設計・開発）

	1年次				2年次				3年次				4年次				単位小計
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
部門・系	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1	英語コミュニケーションⅢ	1	英語コミュニケーションⅣ	1	プラクティカル・イングリッシュⅠ	1	プラクティカル・イングリッシュⅡ	1					20
	中国語Ⅰ	1	中国語Ⅱ	1	中国語Ⅲ	1	中国語Ⅳ	1	国際経済論	2	日本国憲法	2					
	社会科学基礎Ⅰ	2	社会科学基礎Ⅱ	2													
	体育科学Ⅰ	1	体育科学Ⅱ	1													
専門教育部門 理工学基礎科目	微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2			技術者倫理	2									19
	線形代数Ⅰ	2	線形代数Ⅱ	2													
	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅱ	2													
	物理学実験Ⅰ	1															
	化学Ⅰ	2															
	コンピューターリテラシー	2															
専門教育部門 情報工学基礎科目	情報工学の世界	2	テクニカルリテラシー	2													6
	情報工学基礎演習	1	プラクティカルICT	1													
専門教育部門 情報工学専門科目	マルチメディア基礎	2	確率・統計	2	データサイエンス基礎	2	情報理論	2	情報工学総合ゼミナール	1	プログラミング言語論	2	卒業研究	*	卒業研究	4	79
	離散数学	2	情報通信ネットワーク	2	情報工学実験Ⅰ	2	ディジタル信号処理Ⅱ	2	数値解析	2	パターン認識	2	応用アルゴリズム	2			
	プログラミング演習Ⅰ	1	創造的思考法	2	ディジタル信号処理Ⅰ	2	ソフトウェア工学	2	コンパイラ	2	キャリアゼミナール	1	数理計画法	2			
			プログラミング演習Ⅱ	1	アルゴリズム・データ構造	2	言語・オートマトン	2	コンピュータグラフィックス	2	情報技術の応用と職業	2					
			コンピュータアーキテクチャⅠ	2	プログラミング演習Ⅲ	1	情報工学実験Ⅱ	2	人工知能	2	研究ゼミナール	1					
					オペレーティングシステム	2	画像処理	2	情報セキュリティ	2	コンピュータビジョン	2					
					データベース	2	応用解析	2	コンピュータアーキテクチャⅡ	2	ハードウェア記述言語	2					
					ディジタル回路Ⅰ	2	プログラミング演習Ⅳ	1	先進プロジェクト実験Ⅰ	2							
単位小計		24		23		17		19		18		15		4		4	
単位合計	124		網掛：必修科目		選択必修科目												

履修モデル2 総合コース・フィジカルコンピューティングプログラム

想定される進路　輸送用機械器具製造業（組込みシステム/ソフトウェア/ハードウェアの設計・開発）

	1年次				2年次				3年次				4年次				単位小計
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
部門・系	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1	英語コミュニケーションⅢ	1	英語コミュニケーションⅣ	1	プラクティカル・イングリッシュⅠ	1	プラクティカル・イングリッシュⅡ	1					20
	ドイツ語Ⅰ	1	ドイツ語Ⅱ	1	ドイツ語Ⅲ	1	ドイツ語Ⅳ	1	心理学	2	文学	2					
	人文科学基礎Ⅰ	2	人文科学基礎Ⅱ	2													
	体育科学Ⅰ	1	体育科学Ⅱ	1													
専門教育部門 理工学基礎科目	微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2			技術者倫理	2									20
	線形代数Ⅰ	2	線形代数Ⅱ	2													
	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅱ	2													
	物理学実験Ⅰ	1	物理学実験Ⅱ	1													
	化学Ⅰ	2															
	コンピューターリテラシー	2															
専門教育部門 情報工学基礎科目	情報工学の世界	2	テクニカルリテラシー	2													6
	情報工学基礎演習	1	プラクティカルICT	1													
専門教育部門 情報工学専門科目	マルチメディア基礎	2	確率・統計	2	データサイエンス基礎	2	ディジタル回路Ⅱ	2	情報工学総合ゼミナール	1	フィジカルコンピューティング	2	卒業研究	*	卒業研究	4	78
	離散数学	2	情報通信ネットワーク	2	情報工学実験Ⅰ	2	情報工学実験Ⅱ	2	システム制御	2	ハードウェア記述言語	2	センサ工学	2			
	プログラミング演習Ⅰ	1	創造的思考法	2	ディジタル信号処理Ⅰ	2	情報理論	2	コンピュータアーキテクチャⅡ	2	キャリアゼミナール	1	集積回路設計	2			
			プログラミング演習Ⅱ	1	アルゴリズム・データ構造	2	ディジタル信号処理Ⅱ	2	電気電子回路Ⅱ	2	情報技術の応用と職業	2					
			コンピュータアーキテクチャⅠ	2	ディジタル回路Ⅰ	2	ソフトウェア工学	2	先進プロジェクト実験Ⅰ	2	研究ゼミナール	1					
					電気電子回路Ⅰ	2	画像処理	2	人工知能	2	コンピュータビジョン	2					
					プログラミング演習Ⅲ	1	応用解析	2	数値解析	2	信号伝送論	2					
					電磁気学	2	プログラミング演習Ⅳ	1			インターンシップ	1					
単位小計		24		24		17		19		16		16		4		4	
単位合計	124		網掛：必修科目		選択必修科目												

履修モデル3 先進プロジェクトコース・ネットワークシステムプログラム

想定される進路　　通信業（通信ネットワークの設計・構築/運用・保守）

	1年次				2年次				3年次				4年次				単位小計
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
部門・系	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1	英語コミュニケーションⅢ	1	英語コミュニケーションⅣ	1	プラクティカル・イングリッシュⅠ	1	プラクティカル・イングリッシュⅡ	1					20
	フランス語Ⅰ	1	フランス語Ⅱ	1	フランス語Ⅲ	1	フランス語Ⅳ	1	心理学	2	文学	2					
	社会科学基礎Ⅰ	2	社会科学基礎Ⅱ	2													
	体育科学Ⅰ	1	体育科学Ⅱ	1													
専門教育部門 理工学基礎科目	微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2			技術者倫理	2									20
	線形代数Ⅰ	2	線形代数Ⅱ	2													
	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅱ	2													
	物理学実験Ⅰ	1	物理学実験Ⅱ	1													
	化学Ⅰ	2															
	コンピューターリテラシー	2															
専門教育部門 情報工学基礎科目	情報工学の世界	2	テクニカルリテラシー	2													6
	情報工学基礎演習	1	プラクティカルICT	1													
専門教育部門 情報工学専門科目	マルチメディア基礎	2	確率・統計	2	データサイエンス基礎	2	アプリケーション開発	2	先進プロジェクト実験Ⅰ	2	研究ゼミナール	1	卒業研究	*	卒業研究	4	78
	離散数学	2	情報通信ネットワーク	2	情報工学実験Ⅰ	2	PBL概論	2	先進プロジェクトゼミナール	1	先進プロジェクト実験Ⅱ	2	符号理論	2			
	プログラミング演習Ⅰ	1	創造的思考法	2	ディジタル信号処理Ⅰ	2	情報工学実験Ⅱ	2	情報セキュリティ	2	キャリアゼミナール	1	ワイヤレス通信	2			
			プログラミング演習Ⅱ	1	アルゴリズム・データ構造	2	情報理論	2	コンピュータアーキテクチャⅡ	2	情報通信システム	2					
			コンピュータアーキテクチャⅠ	2	研究開発リテラシー	2	ディジタル回路Ⅱ	2	電気電子回路Ⅱ	2	信号伝送論	2					
					ディジタル回路Ⅰ	2	ディジタル信号処理Ⅱ	2	人工知能	2	ハードウェア記述言語	2					
					電気電子回路Ⅰ	2	ソフトウェア工学	2	システム制御	2	プログラミング言語論	2					
					プログラミング演習Ⅲ	1	プログラミング演習Ⅳ	1			インターンシップ	1					
単位小計		24		24		17		19		16		16		4		4	
単位合計	124		網掛：必修科目		選択必修科目												

履修モデル4 先進プロジェクトコース・フィジカルコンピューティングプログラム

想定される進路　電気機械器具製造業（組込みシステムソフトウェア ハードウェアの設計・開発）

	1年次				2年次				3年次				4年次				単位小計
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
部門・系	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1	英語コミュニケーションⅢ	1	英語コミュニケーションⅣ	1	プラクティカル・イングリッシュⅠ	1	プラクティカル・イングリッシュⅡ	1					20
	ドイツ語Ⅰ	1	ドイツ語Ⅱ	1	ドイツ語Ⅲ	1	ドイツ語Ⅳ	1	国際経済論	2	国際関係論	2					
	人文科学基礎Ⅰ	2	人文科学基礎Ⅱ	2													
	体育科学Ⅰ	1	体育科学Ⅱ	1													
専門教育部門 理工学基礎科目	微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2			技術者倫理	2									20
	線形代数Ⅰ	2	線形代数Ⅱ	2													
	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅱ	2													
	物理学実験Ⅰ	1	物理学実験Ⅱ	1													
	化学Ⅰ	2															
	コンピューターリテラシー	2															
専門教育部門 情報工学基礎科目	情報工学の世界	2	テクニカルリテラシー	2													6
	情報工学基礎演習	1	プラクティカルICT	1													
専門教育部門 情報工学専門科目	マルチメディア基礎	2	確率・統計	2	データサイエンス基礎	2	アプリケーション開発	2	先進プロジェクト実験Ⅰ	2	研究ゼミナール	1	卒業研究	*	卒業研究	4	78
	離散数学	2	情報通信ネットワーク	2	情報工学実験Ⅰ	2	PBL概論	2	先進プロジェクトゼミナール	1	先進プロジェクト実験Ⅱ	2	センサ工学	2			
	プログラミング演習Ⅰ	1	創造的思考法	2	ディジタル信号処理Ⅰ	2	情報工学実験Ⅱ	2	システム制御	2	キャリアゼミナール	1	集積回路設計	2			
			プログラミング演習Ⅱ	1	アルゴリズム・データ構造	2	情報理論	2	コンピュータアーキテクチャⅡ	2	フィジカルコンピューティング	2					
			コンピュータアーキテクチャⅠ	2	研究開発リテラシー	2	ディジタル回路Ⅱ	2	電気電子回路Ⅱ	2	ハードウェア記述言語	2					
					ディジタル回路Ⅰ	2	ディジタル信号処理Ⅱ	2	人工知能	2	コンピュータビジョン	2					
					電気電子回路Ⅰ	2	ソフトウェア工学	2	数値解析	2	インターンシップ	1					
					プログラミング演習Ⅲ	1	応用解析	2									
							プログラミング演習Ⅳ	1									
単位小計		24		24		17		21		16		14		4		4	
単位合計	124		網掛：必修科目		選択必修科目												

履修モデル5 総合コース・ヒューマン・メディアプログラム

想定される進路　メディア産業（映像・音声・言語システムの設計・開発，コンテンツ作成，出版・ネット等のメディアサービス）

	1年次				2年次				3年次				4年次				単位小計
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
部門・系	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1	英語コミュニケーションⅢ	1	英語コミュニケーションⅣ	1	プラクティカル・イングリッシュⅠ	1	プラクティカル・イングリッシュⅡ	1					20
	フランス語Ⅰ	1	フランス語Ⅱ	1	フランス語Ⅲ	1	フランス語Ⅳ	1	国際経済論	2	国際関係論	2					
	社会科学基礎Ⅰ	2	社会科学基礎Ⅱ	2													
	体育科学Ⅰ	1	体育科学Ⅱ	1													
専門教育部門 理工学基礎科目	微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2			技術者倫理	2									20
	線形代数Ⅰ	2	線形代数Ⅱ	2													
	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅱ	2													
	物理学実験Ⅰ	1	物理学実験Ⅱ	1													
	化学Ⅰ	2															
	コンピューターリテラシー	2															
専門教育部門 情報工学基礎科目	情報工学の世界	2	テクニカルリテラシー	2													6
	情報工学基礎演習	1	プラクティカルICT	1													
専門教育部門 情報工学専門科目	マルチメディア基礎	2	確率・統計	2	データサイエンス基礎	2	情報理論	2	情報工学総合ゼミナール	1	感性情報処理	2	卒業研究	*	卒業研究	4	78
	離散数学	2	情報通信ネットワーク	2	情報工学実験Ⅰ	2	ディジタル信号処理Ⅱ	2	コンピュータグラフィックス	2	音声・音響信号処理	2	バーチャルリアリティ	2			
	プログラミング演習Ⅰ	1	創造的思考法	2	ディジタル信号処理Ⅰ	2	ソフトウェア工学	2	人工知能	2	キャリアゼミナール	1	言語情報処理	2			
			プログラミング演習Ⅱ	1	アルゴリズム・データ構造	2	言語・オートマトン	2	コンパイラ	2	情報技術の応用と職業	2					
			コンピュータアーキテクチャⅠ	2	ディジタル回路Ⅰ	2	情報工学実験Ⅱ	2	先進プロジェクト実験Ⅰ	2	研究ゼミナール	1					
					プログラミング演習Ⅲ	1	画像処理	2	情報セキュリティ	2	コンピュータビジョン	2					
					オペレーティングシステム	2	応用解析	2	システム制御	2	パターン認識	2					
					データベース	2	プログラミング演習Ⅳ	1			インターンシップ	1					
単位小計		24		24		17		19		16		16		4		4	
単位合計	124		網掛：必修科目		選択必修科目												

履修モデル6　総合コース・ネットワークシステムプログラム

想定される進路　　高等学校教員（科目：情報）　*教員免許取得のためにはこのほかに教職課程の履修が必要です.

	1年次				2年次				3年次				4年次				単位小計
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
部門・系	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1	英語コミュニケーションⅢ	1	英語コミュニケーションⅣ	1	プラクティカル・イングリッシュⅠ	1	プラクティカル・イングリッシュⅡ	1					20
	ドイツ語Ⅰ	1	ドイツ語Ⅱ	1	ドイツ語Ⅲ	1	ドイツ語Ⅳ	1	国際経済論	2	国際関係論	2					
	社会科学基礎Ⅰ	2	社会科学基礎Ⅱ	2													
	体育科学Ⅰ	1	体育科学Ⅱ	1													
専門教育部門 理工学基礎科目	微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2			技術者倫理	2									20
	線形代数Ⅰ	2	線形代数Ⅱ	2													
	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅱ	2													
	物理学実験Ⅰ	1	物理学実験Ⅱ	1													
	化学Ⅰ	2															
	コンピューターリテラシー	2															
専門教育部門 情報工学基礎科目	情報工学の世界	2	テクニカルリテラシー	2													6
	情報工学基礎演習	1	プラクティカルICT	1													
専門教育部門 情報工学専門科目	マルチメディア基礎	2	確率・統計	2	データサイエンス基礎	2	情報理論	2	情報工学総合ゼミナール	1	情報通信システム	2	卒業研究	*	卒業研究	4	78
	離散数学	2	情報通信ネットワーク	2	情報工学実験Ⅰ	2	ディジタル回路Ⅱ	2	情報セキュリティ	2	信号伝送論	2	符号理論	2			
	プログラミング演習Ⅰ	1	創造的思考法	2	ディジタル信号処理Ⅰ	2	ディジタル信号処理Ⅱ	2	コンピュータアーキテクチャⅡ	2	キャリアゼミナール	1	ワイヤレス通信	2			
			プログラミング演習Ⅱ	1	アルゴリズム・データ構造	2	ソフトウェア工学	2	電気電子回路Ⅱ	2	情報技術の応用と職業	2					
			コンピュータアーキテクチャⅠ	2	ディジタル回路Ⅰ	2	言語・オートマトン	2	先進プロジェクト実験Ⅰ	2	研究ゼミナール	1					
					電気電子回路Ⅰ	2	情報工学実験Ⅱ	2	人工知能	2	プログラミング言語論	2					
					プログラミング演習Ⅲ	1	応用解析	2	数値解析	2	インターンシップ	1					
					データベース	2	プログラミング演習Ⅳ	1	コンパイラ	2							
単位小計		24		24		17		19		18		14		4		4	
単位合計	124		網掛：必修科目		選択必修科目		教職課程（高等学校一種・情報）必修科目										

履修モデル7 先進プロジェクトコース・データエンジニアリングプログラム

想定される進路　　大学院進学

	1年次				2年次				3年次				4年次				単位小計
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
部門・系	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1	英語コミュニケーションⅢ	1	英語コミュニケーションⅣ	1	プラクティカル・イングリッシュⅠ	1	プラクティカル・イングリッシュⅡ	1					20
	フランス語Ⅰ	1	フランス語Ⅱ	1	フランス語Ⅲ	1	フランス語Ⅳ	1	心理学	2	日本国憲法	2					
	社会科学基礎Ⅰ	2	社会科学基礎Ⅱ	2													
	体育科学Ⅰ	1	体育科学Ⅱ	1													
専門教育部門 理工学基礎科目	微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2			技術者倫理	2									20
	線形代数Ⅰ	2	線形代数Ⅱ	2													
	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅱ	2													
	物理学実験Ⅰ	1	物理学実験Ⅱ	1													
	化学Ⅰ	2															
	コンピューターリテラシー	2															
専門教育部門 情報工学基礎科目	情報工学の世界	2	テクニカルリテラシー	2													6
	情報工学基礎演習	1	プラクティカルICT	1													
専門教育部門 情報工学専門科目	マルチメディア基礎	2	確率・統計	2	データサイエンス基礎	2	アプリケーション開発	2	先進プロジェクト実験Ⅰ	2	研究ゼミナール	1	卒業研究	*	卒業研究	4	78
	離散数学	2	情報通信ネットワーク	2	情報工学実験Ⅰ	2	PBL概論	2	先進プロジェクトゼミナール	1	先進プロジェクト実験Ⅱ	2	応用アルゴリズム	2			
	プログラミング演習Ⅰ	1	創造的思考法	2	ディジタル信号処理Ⅰ	2	情報工学実験Ⅱ	2	コンパイラ	2	キャリアゼミナール	1	数理計画法	2			
			プログラミング演習Ⅱ	1	アルゴリズム・データ構造	2	情報理論	2	コンピュータグラフィックス	2	プログラミング言語論	2					
			コンピュータアーキテクチャⅠ	2	研究開発リテラシー	2	ソフトウェア工学	2	人工知能	2	パターン認識	2					
					オペレーティングシステム	2	言語・オートマトン	2	情報セキュリティ	2	感性情報処理	2					
					データベース	2	ディジタル信号処理Ⅱ	2	数値解析	2	音声・音響信号処理	2					
					プログラミング演習Ⅲ	1	応用解析	2									
単位小計		24		24		17		20		16		15		4		4	
単位合計	124		網掛：必修科目		選択必修科目												

【資料8-1】

実習施設一覧表（高等学校・工業）

●愛知県

整理番号	学校名	学級数	生徒数（計）	郵便番号	所在地	電話番号
1	愛知総合工科	30	1,181	464-0808	名古屋市千種区星が丘山手107	052-788-2020
2	名南工業	21	819	457-0063	名古屋市南区阿原町1	052-822-0242
3	春日井工業	21	815	486-0822	春日井市熊野町五反田1180の1	0568-84-1115
4	小牧工業	18	696	458-0003	小牧市久保一色3737の1	0568-77-6275
5	一宮工業	18	717	491-0804	一宮市千秋町佐野,辻田2112	0586-76-2255
6	起工業	15	595	494-0007	一宮市小信中島,郷南2	0586-61-1188
7	佐織工業	15	587	496-8018	愛西市渕高町蔭島1	0567-37-1288
8	半田工業	18	711	475-0916	半田市柊町3の1	0569-21-2164
9	豊田工業	18	716	473-0913	豊田市竹元町南細畔3	0565-52-4311
10	岡崎工業	21	825	444-8555	岡崎市羽根町陣場47	0564-51-1646
11	碧南工業	18	707	447-0066	碧南市丸山町3の10	0566-42-2500
12	刈谷工業	21	836	448-0035	刈谷市矢場町2の210	0566-21-2227
13	豊橋工業	21	834	441-8141	豊橋市草間町官有地	0532-45-5635
14	豊川工業	18	716	442-8573	豊川市新道町1の3	0533-85-4425

●名古屋市

整理番号	学校名	学級数	生徒数（計）	郵便番号	所在地	電話番号
1	工業	18	710	454-0851	名古屋市中川区北江町3の13	052-361-3116
2	工芸	21	836	461-0027	名古屋市東区芳野二丁目7の51	052-931-7541

実習施設一覧表（愛知県高等学校・情報）

●愛知県

整理番号	学校名	学級数	生徒数（計）	郵便番号	所在地	電話番号
1	旭 丘	27	1,079	461-0032	名古屋市東区出来町3-6-15	052-721-5351
2	瑞 陵	27	1,082	467-0811	名古屋市瑞穂区北原町2-1	052-851-7141
3	明 和	27	1,074	461-0011	名古屋市東区白壁2-32-6	052-961-2551
4	惟 信	24	914	455-0823	名古屋市港区惟信町2-262	052-382-1355
5	松 蔭	27	1,075	453-0855	名古屋市中村区烏森町2-2	052-481-9471
6	昭 和	27	1,075	467-8639	名古屋市瑞穂区玉水町1-18	052-831-6326
7	名古屋西	25	982	451-8561	名古屋市西区天神山町4-7	052-522-2451
8	熱 田	24	948	456-0054	名古屋市熱田区千年1-17-71	052-652-5858
9	中 村	24	950	453-0068	名古屋市中村区菊水町1-2-18	052-411-7760
10	千 種	27	1,074	465-8507	名古屋市名東区社台2-206	052-771-2121
11	南 陽	18	707	455-0861	名古屋市港区大西2-99	052-301-1973
12	守 山	14	391	463-8503	名古屋市守山区中志段味元屋敷1267	052-736-3500
13	鳴 海	24	947	458-0825	名古屋市緑区左京山801	052-623-3001
14	天 白	27	1,068	468-0006	名古屋市天白区植田東1-601	052-801-1145
15	名古屋南	24	957	457-0833	名古屋市南区東又兵ヱ町5-1-11	052-613-0001
16	旭 陵	－	1,253	461-8654	名古屋市東区出来町3-6-23	052-721-5371
17	城北つばさ	14	443	456-0052	名古屋市北区福徳町広瀬島350-4	052-911-4421
18	愛知総合工科	30	1,182	464-0808	名古屋市千種区星が丘山手107	052-788-2020
19	名南工業	19	739	457-0063	名古屋市南区阿原町1	052-822-0242
20	愛知商業	21	834	461-0025	名古屋市東区徳川1-12-1	052-935-3480
21	緑 丘	18	699	463-8511	名古屋市守山区緑ヶ丘1008	052-791-8226
22	中川商業	18	645	454-0912	名古屋市中川区野田3-280	052-361-7457
23	瀬 戸	18	556	489-0988	瀬戸市東山町1-5	0561-82-7710
24	瀬 戸 西	24	950	489-0875	瀬戸市緑町1-140	0561-84-7400
25	瀬戸北総合	18	673	489-0906	瀬戸市本郷町260	0561-48-1500
26	瀬戸窯業	15	533	489-0883	瀬戸市東権現町22-1	0561-82-2003
27	春 日 井	24	951	486-0844	春日井市鳥居松町1-55	0568-81-2251
28	春日井西	21	823	486-0808	春日井市田楽町1320	0568-32-9631
29	春日井東	16	523	487-0031	春日井市廻間町神屋洞703-73	0568-88-4801
30	高 蔵 寺	27	1,068	487-0035	春日井市藤山台1-3-2	0568-92-9000
31	春日井南	27	1,075	486-0918	春日井市如意申町3-5-1	0568-32-7688
32	春日井工業	21	821	486-0822	春日井市熊野町五反田1180-1	0568-84-1115
33	春日井商業	18	633	486-0812	春日井市大泉寺町1059-1	0568-81-1885
34	旭 野	27	1,078	488-0830	尾張旭市東印場町3-4-1	0561-53-5200
35	豊 明	21	815	470-1101	豊明市沓掛町海老池10	0562-93-1166
36	日 進	10	238	470-0111	日進市米野木町三ケ峯4-18	0561-73-6221
37	日 進 西	24	947	470-0124	日進市浅田町上小深田8-4	052-804-2131
38	長 久 手	25	988	480-1103	長久手市岩作高山38	0561-62-0016
39	東 郷	18	696	470-0162	愛知郡東郷町春木狐塚3801-2	0561-39-1515
40	一 宮	27	1,072	491-8533	一宮市北園通6-9	0586-72-0191
41	一 宮 西	24	952	491-0376	一宮市萩原町串作河田1	0586-68-1191
42	一 宮 北	18	683	491-0131	一宮市笹野氏神東1	0586-51-1171
43	一 宮 南	24	951	491-0813	一宮市千秋町町屋平松6-1	0586-76-1400
44	一宮興道	24	945	491-0924	一宮市大和町於保十二1-1	0586-46-0221
45	一宮工業	18	703	491-0804	一宮市千秋町佐野辻田2112	0586-76-2255
46	一宮商業	18	682	491-0041	一宮市文京2-1-7	0586-73-7191
47	木 曽 川	19	749	494-0001	一宮市開明樋西11-1	0586-62-6155
48	尾 西	12	380	494-0014	一宮市上祖父江小稲葉18	0586-69-6161
49	起 工 業	15	585	494-0007	一宮市小信中島郷南2	0586-61-1188
50	津 島	27	1,074	496-0853	津島市宮川町3-80	0567-28-4158

整理番号	学校名	学級数	生徒数（計）	郵便番号	所在地	電話番号
51	津島北	18	609	496-0819	津島市又吉町4-1	0567-28-3414
52	津島東	19	745	496-0004	津島市蛭間町弁日1	0567-24-6001
53	犬山	21	814	484-0081	犬山市犬山北首塚2	0568-61-0236
54	犬山南	17	558	484-0835	犬山市蓮池2-21	0568-67-5211
55	尾北	21	835	483-8157	江南市北山町西4	0587-56-3038
56	江南	24	953	483-8177	江南市北野町川石25-2	0587-56-3511
57	古知野	18	682	483-8331	江南市古知野町高瀬1	0587-56-2508
58	小牧	21	832	485-0041	小牧市小牧1-321	0568-77-1231
59	小牧南	23	865	485-0059	小牧市小木東2-183	0568-73-1911
60	小牧工業	18	669	485-0003	小牧市久保一色3737-1	0568-77-6275
61	稲沢東	13	397	492-8214	稲沢市大塚南6-33	0587-21-2631
62	稲沢	13	452	492-8264	稲沢市平野町加世11	0587-32-3168
63	杏和	18	708	495-8505	稲沢市祖父江町二俣宮西1-1	0587-97-1311
64	岩倉総合	18	712	482-8555	岩倉市北島町川田1	0587-37-4141
65	佐屋	15	541	496-0914	愛西市東條町高田39	0567-31-0579
66	佐織工業	15	542	496-8018	愛西市渕高町蔭島1	0567-37-1288
67	西春	27	1,076	481-0032	北名古屋市弥勒寺西2-1	0568-23-6166
68	新川	24	956	452-0901	清須市阿原北野18	052-400-1108
69	丹羽	24	940	480-0102	丹羽郡扶桑町高雄柳前95	0587-93-7575
70	美和	18	699	490-1295	あま市篠田五ツ藤1	052-443-1700
71	五条	24	955	490-1104	あま市西今宿阿弥陀寺56	052-442-1515
72	海翔	12	316	490-1401	弥富市六條町大崎22	0567-52-3061
73	半田	24	955	475-0903	半田市出口町1-30	0569-21-0272
74	半田東	19	745	475-0016	半田市西生見町30	0569-29-1122
75	半田工業	18	708	475-0916	半田市柊町3-1	0569-21-2164
76	半田農業	15	560	475-0916	半田市柊町1-1	0569-21-0247
77	半田商業	18	683	475-0912	半田市白山町2-30	0569-21-0251
78	常滑	24	847	479-0003	常滑市金山四井池10	0569-43-1151
79	横須賀	24	956	477-0037	東海市高横須賀町広脇1	0562-32-1278
80	東海南	24	955	477-0032	東海市加木屋町社山55	0562-34-3811
81	東海商業	19	743	477-0031	東海市大田町曽根1	0562-32-5158
82	大府	24	949	474-0036	大府市月見町6-180	0562-46-5101
83	大府東	18	687	474-0011	大府市横根町膝折1-4	0562-48-5811
84	桃陵	6	225	474-0025	大府市中央町5-15	0562-46-5351
85	知多翔洋	21	831	478-0001	知多市八幡堂ヶ島50-1	0562-33-2100
86	阿久比	23	911	470-2213	知多郡阿久比町阿久比尾社2-1	0569-48-7111
87	東浦	15	563	470-2104	知多郡東浦町生路冨士塚20	0562-83-0111
88	内海	8	168	470-3321	知多郡南知多町内海奥鈴ヶ谷1-1	0569-62-0139
89	武豊	16	531	470-2366	知多郡武豊町ヲヲガケ8	0569-72-0706
90	岡崎	30	1,198	444-0864	岡崎市明大寺町伝馬1	0564-51-0202
91	岡崎北	28	1,108	444-0079	岡崎市石神町17-1	0564-22-2536
92	岡崎東	18	708	444-3524	岡崎市竜泉寺町後山27	0564-52-8911
93	岡崎西	28	1,113	444-0915	岡崎市日名南町7	0564-25-0751
94	岩津	18	592	444-2146	岡崎市東蔵前町馬場5	0564-45-2005
95	岡崎工業	21	827	444-8555	岡崎市羽根町陣場47	0564-51-1646
96	岡崎商業	22	849	444-0012	岡崎市栄町3-76	0564-21-3599
97	碧南	24	951	447-0871	碧南市向陽町4-12	0566-41-2564
98	碧南工業	18	673	447-0066	碧南市丸山町3-10	0566-42-2500
99	刈谷	30	1,195	448-8504	刈谷市寿町5-101	0566-21-3171
100	刈谷北	29	1,161	448-0846	刈谷市寺横町1-67	0566-21-5107

整理番号	学校名	学級数	生徒数（計）	郵便番号	所在地	電話番号
101	刈 谷 東	19	669	448-8653	刈谷市半城土町三ツ又20	0566-21-3327
102	刈谷工業	21	818	448-0035	刈谷市矢場町2-210	0566-21-2227
103	豊 田 西	27	1,077	471-0035	豊田市小坂町14-65	0565-31-0313
104	豊 田 東	18	716	471-0811	豊田市御立町11-1	0565-80-1177
105	衣 台	18	596	471-0057	豊田市太平町平山5	0565-33-1080
106	豊 田 北	26	1,030	471-0016	豊田市千石町2-100-1	0565-80-5111
107	豊 田 南	26	1,016	473-0915	豊田市若林東町中外根1-1	0565-53-1011
108	豊 田	24	922	470-0374	豊田市伊保町三本松1	0565-45-8622
109	豊 野	24	946	470-1202	豊田市渡刈町3-3-1	0565-28-8800
110	豊田工業	18	717	473-0913	豊田市竹元町南細畔3	0565-52-4311
111	猿投農林	15	582	470-0372	豊田市井上町12-179	0565-45-0621
112	松 平	12	450	444-2204	豊田市鵜ヶ瀬町桐山1	0565-58-1144
113	加 茂 丘	7	196	470-0451	豊田市藤岡飯野町太田代1137-30	0565-76-2241
114	足 助	7	228	444-2451	豊田市岩神町川原5	0565-62-1661
115	安 城	24	939	444-0046	安城市赤松町大北103	0566-76-6218
116	安 城 東	27	1,074	446-0011	安城市北山崎町大土塚10	0566-74-1231
117	安 城 南	24	942	444-1154	安城市桜井町門原1	0566-99-2000
118	安城農林	21	813	446-0066	安城市池浦町茶筅木1	0566-76-6144
119	西 尾	27	1,074	445-0803	西尾市桜町奥新田2-2	0563-57-2270
120	西 尾 東	24	954	445-0006	西尾市小島町大郷1-4	0563-56-1911
121	鶴 城 丘	18	714	445-0847	西尾市亀沢町300	0563-57-5165
122	知 立	20	787	472-8585	知立市弘法2-5-8	0566-81-0319
123	知 立 東	27	1,064	472-8639	知立市長篠町大山18-6	0566-82-0568
124	高 浜	18	662	444-1311	高浜市本郷町1-6-1	0566-52-2100
125	一 色	18	627	444-0427	西尾市一色町赤羽上郷中14	0563-72-8165
126	吉 良	18	661	444-0514	西尾市吉良町白浜新田南切1-4	0563-32-2231
127	幸 田	18	696	444-0111	額田郡幸田町高力神山78	0564-62-1445
128	三 好	21	826	470-0224	みよし市三好町東山110-1	0561-34-4881
129	時 習 館	24	958	441-8064	豊橋市富本町	0532-45-3171
130	豊 橋 東	24	955	440-0864	豊橋市向山町西猿22	0532-61-3146
131	豊 丘	23	911	440-0034	豊橋市豊岡町74	0532-62-3281
132	豊 橋 南	21	837	441-8132	豊橋市南大清水町元町450	0532-25-1476
133	豊 橋 西	15	576	441-8087	豊橋市牟呂町西明治新右前4	0532-31-8800
134	豊橋工業	21	832	441-8141	豊橋市草間町官有地	0532-45-5635
135	豊橋商業	21	828	440-0864	豊橋市向山町官有地	0532-52-2256
136	国 府	23	910	442-8586	豊川市国府町下坊入10-1	0533-87-3141
137	豊川工業	18	683	442-8573	豊川市新道町1-3	0533-85-4425
138	蒲 郡	18	714	443-0058	蒲郡市上本町8-9	0533-68-2074
139	蒲 郡 東	16	550	443-0013	蒲郡市大塚町上千尾12-2	0533-59-8621
140	三谷水産	12	465	443-0021	蒲郡市三谷町水神町通2-1	0533-69-2265
141	新 城 東	3	98	441-1301	新城市矢部広見100	0536-22-2725
142	新城東（作手校舎）	3	78	441-1423	新城市作手高里木戸口1-2	0536-37-2119
143	新 城 有 教 館	12	477	441-1328	新城市桜淵・中野合併地	0536-22-1176
144	新 城	4	148	441-1328	新城市桜淵・中野合併地	0536-22-1176
145	田 口	6	74	441-2302	北設楽郡設楽町清崎林ノ後5-2	0536-62-0575
146	宝 陵	6	193	441-1205	豊川市大木町鑓水445	0533-93-2041
147	小 坂 井	20	792	441-0103	豊川市小坂井町欠田100-1	0533-72-2211
148	御 津	12	336	441-0322	豊川市御津町豊沢松ノ下1	0533-75-4155
149	成 章	17	672	441-3421	田原市田原町池ノ原1	0531-22-0141
150	渥美農業	12	474	441-3427	田原市加治町奥恩中1-1	0531-22-0406
151	福 江	9	278	441-3613	田原市古田町岡ノ越6	0531-32-0671

【資料8-3】

実習施設一覧表（名古屋市高等学校・情報）

●名古屋市

整理番号	学校名	学級数	生徒数（計）	郵便番号	所在地	電話番号
1	向 陽	27	1,080	466-0042	名古屋市昭和区広池町47	052-841-7138
2	菊 里	27	1,067	464-0802	名古屋市千種区星が丘元町13-7	052-781-0445
3	桜 台	27	1,074	457-0033	名古屋市南区霞町21	052-821-0186
4	西 陵	15	594	451-0066	名古屋市西区児玉2-20-65	052-521-5551
5	工 業	18	713	454-0851	名古屋市中川区北江町3-13	052-361-3116
6	工 芸	21	824	461-0027	名古屋市東区芳野2-7-51	052-931-7541
7	名古屋商業	21	830	464-0044	名古屋市千種区自由ヶ丘2-11-48	052-751-6111
8	北	21	838	462-0008	名古屋市北区如来町50	052-901-0338
9	若宮商業	15	586	468-0046	名古屋市天白区古川町76	052-891-2176
10	緑	25	985	458-0031	名古屋市緑区旭出1-1104	052-895-0461
11	中 央	27	724	460-0007	名古屋市中区新栄3-15-45	052-241-6538
12	富 田	21	833	454-0953	名古屋市中川区富田町榎津上鵜垂111	052-301-1975
13	山 田	21	827	452-0817	名古屋市西区二方町19-1	052-501-7800
14	名 東	27	1,082	465-0064	名古屋市名東区大針1-351	052-703-3313

学校法人名城大学職員規則

昭和40年６月１日
規則

第１章　総則

（目的）

第１条　この規則は、学校法人名城大学の職員について適用すべき各般の根本基準を確立することにより、その業務の円滑な運営を保障し、もって事業の健全な発展に資することを目的とする。

（定義）

第２条　この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

（１）　法人　学校法人名城大学をいう。

（２）　大学　法人の設置する名城大学をいう。

（３）　高等学校　法人の設置する名城大学附属高等学校をいう。

（４）　学長　名城大学学長をいう。

（５）　学校長　名城大学附属高等学校校長をいう。

（６）　学長等　名城大学学長及び名城大学附属高等学校校長をいう。

（７）　職員　教育職員（名城大学の教授、准教授、助教、講師、助手、教務技術員及び終身教授並びに名城大学附属高等学校の学校長、教諭、司書教諭、養護教諭、特任教諭及び講師をいう。）、事務職員及び技術職員をいう。

（８）　大学教員　名城大学の教育職員をいう。

（９）　高等学校教員　名城大学附属高等学校の教育職員をいう。

(10)　事務職員等　事務職員及び技術職員をいう。

(11)　専任の職員　専任の教育職員、専任の事務職員及び専任の技術職員をいう。

②　職員に準ずる者等　契約教育職員、契約事務職員、契約技術職員、アルバイト、大学非常勤講師、高等学校非常勤講師および高等学校特任教諭をいう。

（略）

（定年）

第20条　職員が、次の各号のいずれかに該当する場合には、これを定年とし、定年に達した日の属する学年度末をもって退職するものとする。

（１）　大学教員及び教務技術員は、満65歳。ただし、65歳以降の任用については別に定める。

（２）　高等学校教員は、満65歳。ただし、学校長の任期がこれを超える場合については、任期満了の日。

（３）　事務職員等は、満65歳

②　任命権者は､前項の各号のいずれかに定める定年年齢によらない職員を任用をすることができる。なお、この任用の場合は、別に定めるものとする。

（略）

附　則

①　この規則は、昭和40年６月１日から施行する。

②　この規則のうち、第20条の規定は前項の規定にかかわらず、昭和41年４月１日から施行し、これに関する経過規定は別にこれを定める。

（略）

附　則

①　この規則は、昭和59年４月１日から施行する。

② 教務技術員に移行した者（昭和59年３月31日以前の在職者に限る。）の定年は、第20条第１号ただし書の規定にかかわらず、満72歳とする。
③ 昭和59年３月31日以前に技術員の職に発令されている者で、教務技術員に移行しないものの定年は、なお従前の例による。

（略）

附　則
① この規則は、平成７年４月２日から施行する。
② 平成７年４月１日に在職する大学教員等（教務技術員は除く。）の定年は、第20条第１号イの規定にかかわらず、なお従前の例（満72歳）による。
③ 都市情報学部の設置認可時に文部省が認めた教育職員で、平成７年４月２日以降に採用した場合の定年は、第20条第１号イの規定にかかわらず、なお従前の例（満72歳）による。
④ 教務技術員に移行した者（昭和59年３月31日以前の在職者に限る。）の定年は、第20条第１号ロの規定にかかわらず、満72歳とする。

（略）

附　則
① この規則は、平成17年４月２日から施行する。
② 平成17年４月１日に在職する大学教員（教務技術員を除く。以下同じ。）の定年は、第20条第１号の規定にかかわらず、なお従前の例（平成７年４月１日に在職する大学教員は満72歳、都市情報学部の設置認可時に文部省が認めた教育職員で、平成７年４月２日以降に採用した大学教員は満72歳、平成７年４月２日から平成17年４月１日までに採用した大学教員は満68歳又は当該学部教授会等で特に必要と認めた者で大学協議会等の議を経て満70歳を定年とした者は当該年齢）による。

（略）

附　則
この規則は、令和２年６月１日から施行する。

前期（1年）

令和4年度　授業時間割表

情報工学部　情報工学科

学年	クラス	時限	月			火			水			木			金			土		
			科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室
1年次	A	1	離散数学	中野(倫)	N-323	◆人文科学基礎Ⅰ ◆社会科学基礎Ⅰ	(星) (河津) 森口	N-102 H-402 S-203	体育科学Ⅰ	加藤(幸) 鈴木(茂) 内田 (高山) (鈴木(康))	S-504 12-404 N-405 H-701 N-401	化学Ⅰ	景山	H-601	A1:プログラミング演習Ⅰ(隔週) A2:プログラミング演習Ⅰ(隔週)	旭 (中村(寛))	T-703 T-704 T-706 T-707	基礎ゼミナールⅠ 注： 実際の開講曜日時限は別紙「基礎ゼミナール開講一覧表」を参照		
		2	マルチメディア基礎	田中(敏)	N-203	微分積分Ⅰ	鈴木(紀) 土田	4-211 H-401	ドイツ語Ⅰ フランス語Ⅰ 中国語Ⅰ	長澤 (山口(憲)) (龍神)	H-403 H-202 12-403									
		3	情報工学の世界	情報工学科全教員	R3-301	物理学実験Ⅰ(隔週)	田中(崇) 土屋 (片岡(啓)) (神野) (中野(拓))	K-043	英語コミュニケーションⅠ ① ②	 (萩) (寺西)	 N-401 H-401	線形代数Ⅰ	土田 長郷	H-301 H-401						
		4				化学実験Ⅰ(隔週)	景山 (村手)	K-048	物理学Ⅰ	(鈴木(知))	H-204	コンピューターリテラシー	(福間)	T-705	情報工学基礎演習	宇佐見	T-705			
		5	英語基礎演習Ⅰ コンピュータアーキテクチャⅠ(再)	榎本 吉川	H-202 N-203	化学基礎演習Ⅰ 情報通信ネットワーク(再)	(村手) 鈴木(秀)	H-102 R3-301	プログラミング演習Ⅱ(再) 数学基礎演習Ⅰ (初回教室はH-302)	川澄 内村 柴田 (片岡(紀)) (北河)	T-605 H-302 H-401 H-301 H-101	物理学基礎演習Ⅰ	中山	H-702	◆理工学概論 数学基礎演習Ⅰ (初回教室はH-201) 創造的思考法(再) 数学基礎演習Ⅰ (advanced) 英語基礎演習Ⅰ (advanced)	※右表参照 佐藤 小澤(哲) (岡) 小中 土田 (蟹江)	S-402 H-201 H-101 H-301 N-205 H-204 S-406			
		6	人文科学基礎Ⅰ(再) 社会科学基礎Ⅰ(再)	(河津) (早坂)	H-205 H-201															
	B	1	マルチメディア基礎	田中(敏)	N-203	◆人文科学基礎Ⅰ ◆社会科学基礎Ⅰ	(星) (河津) 森口	N-102 H-402 S-203	体育科学Ⅰ	加藤(幸) 鈴木(茂) 内田 (高山) (鈴木(康))	S-504 12-404 N-405 H-701 N-401				B1:プログラミング演習Ⅰ(隔週) B2:プログラミング演習Ⅰ(隔週)	旭 (中村(寛))	T-703 T-704 T-706 T-707	基礎ゼミナールⅠ 注：実際の開講曜日時限は別紙「基礎ゼミナール開講一覧表」を参照		
		2	離散数学	中野(倫)	N-323	微分積分Ⅰ	柴田 三町	H-301 H-201	ドイツ語Ⅰ フランス語Ⅰ 中国語Ⅰ	長澤 (山口(憲)) (武田)	H-403 H-202 H-203	化学Ⅰ	景山	H-601						
		3				物理学実験Ⅰ(隔週)	田中(崇) 土屋 (片岡(啓)) (神野) (中野(拓))	K-043	物理学Ⅰ	(鈴木(知))	H-204	コンピューターリテラシー	(福間)	T-705	情報工学基礎演習	宇佐見	T-705			
		4	情報工学の世界	情報工学科全教員	R3-301	化学実験Ⅰ(隔週)	景山 (村手)	K-048	英語コミュニケーションⅠ ① ②	 (武藤(美)) (岩住)	 S-304 N-202	線形代数Ⅰ	許斐 (片岡(紀))	H-101 H-201						
		5	英語基礎演習Ⅰ コンピュータアーキテクチャⅠ(再)	榎本 吉川	H-202 N-203	化学基礎演習Ⅰ 情報通信ネットワーク(再)	(村手) 鈴木(秀)	H-102 R3-301	プログラミング演習Ⅱ(再) 数学基礎演習Ⅰ (初回教室はH-302)	川澄 内村 柴田 (片岡(紀)) (北河)	T-605 H-302 H-401 H-301 H-101	物理学基礎演習Ⅰ	中山	H-702	◆理工学概論 数学基礎演習Ⅰ (初回教室はH-201) 創造的思考法(再) 数学基礎演習Ⅰ (advanced) 英語基礎演習Ⅰ (advanced)	※右表参照 佐藤 小澤(哲) (岡) 小中 土田 (蟹江)	S-402 H-201 H-101 H-301 N-205 H-204 S-406			
		6	人文科学基礎Ⅰ(再) 社会科学基礎Ⅰ(再)	(河津) (早坂)	H-205 H-201															

◆がついた科目は抽選科目です。

◆理工学概論スケジュール
注：すべての講義に出席すること

授業回数	担当者 ( )は担当者 所属学科
1	加島(T)
2	吉川(J)
3	平松(E)
4	竹内(Z)
5	田中(正)(O)
6	山本(修)(J)
7	清水(M)
8	中島(T)
9	井上(R)
10	渡辺(孝)(C)
11	山田(宗)(J)
12	武藤(K)
13	高井(A)
14	景山(G)
15	米澤(弘)(J)

前期（2年）　　令和4年度　授業時間割表　　情報工学部　情報工学科

学年	クラス	時限	月			火			水			木			金			土		
			科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室
2年次	A	1	データベース	亀谷	N-201	情報工学実験Ⅰ	川澄 小中 鈴木 水沼 (藤井) (山口(拓))	R3-401 R3-403	ディジタル信号処理Ⅰ	柳田	N-404	ドイツ語Ⅲ フランス語Ⅲ 中国語Ⅲ	(村元) (河脇) (熊谷)	11-504 N-403 H-203	電磁気学	向井	N-203			
		2	アルゴリズム・データ構造	山本(修)	T-705				ディジタル回路Ⅰ	山田(宗)	N-205				◆アジア文化論Ⅰ ◆欧米文化論Ⅰ	大知 (齋藤(滋)) 中村(栄) (小野)	H-202 H-302 H-604 N-105			
		3	プログラミング演習Ⅲ(隔週)	野崎	T-705	電気電子回路Ⅰ	中野(倫)	N-324	英語コミュニケーションⅢ ① ②	 松村 中村(栄)	 H-702 S-404				データサイエンス基礎	坂野	N-202			
		4				研究開発リテラシー	米澤(弘)	N-302				◆地学Ⅰ	(塚腰)	H-102	オペレーティングシステム	亀谷	N-103			
		5				英語コミュニケーションⅠ(再) ディジタル回路Ⅱ(再)	(山本(茂)) 山田(啓)	H-402 H-401	画像処理(再)	山田(宗)	N-204	体育科学Ⅲ	鈴木(茂) (門間) (永田) (青山) (塩見)	N-106 N-303 H-401 H-604 H-601						
		6				ソフトウェア工学(再) 物理学Ⅰ(再) (初回教室はH-404)	米澤(弘) 大久保 土屋 小澤(理) 坂東 (片岡(啓))	N-205 H-202 H-203 H-204 H-401 H-403	言語・オートマトン(再) 線形代数Ⅰ(再) (初回教室はH-302)	米澤(弘) (小川) (北河)	N-203 H-302 H-301	体育科学Ⅰ(再)	(内山)	H-202	微分積分Ⅰ(再) (初回教室はH-201) 情報理論(再)	鍛治 (岡) 宇佐見	H-201 H-101 N-102			
	B	1	アルゴリズム・データ構造	山本(修)	T-705	研究開発リテラシー	米澤(弘)	N-302	ディジタル回路Ⅰ	山田(宗)	N-205	ドイツ語Ⅲ フランス語Ⅲ 中国語Ⅲ	(村元) (河脇) (寺澤)	11-504 N-403 12-302	電磁気学	向井	N-203			
		2	データベース	亀谷	N-201	電気電子回路Ⅰ	中野(倫)	N-324	ディジタル信号処理Ⅰ	柳田	N-404				◆アジア文化論Ⅰ ◆欧米文化論Ⅰ	大知 (齋藤(滋)) 中村(栄) (小野)	H-202 H-302 H-604 N-105			
		3	プログラミング演習Ⅲ(隔週)	野崎	T-705	情報工学実験Ⅰ	川澄 小中 鈴木 水沼 (藤井) (山口(拓))	R3-401 R3-403							オペレーティングシステム	亀谷	N-103			
		4							英語コミュニケーションⅢ ① ②	 宮北 (久米)	 N-401 T-603	◆地学Ⅰ	(塚腰)	H-102	データサイエンス基礎	坂野	N-202			
		5				英語コミュニケーションⅠ(再) ディジタル回路Ⅱ(再)	(山本(茂)) 山田(啓)	H-402 H-401	画像処理(再)	山田(宗)	N-204	体育科学Ⅲ	鈴木(茂) (門間) (永田) (青山) (塩見)	N-106 N-303 H-401 H-604 H-601						
		6				ソフトウェア工学(再) 物理学Ⅰ(再) (初回教室はH-404)	米澤(弘) 大久保 土屋 小澤(理) 坂東 (片岡(啓))	N-205 H-202 H-203 H-204 H-401 H-403	言語・オートマトン(再) 線形代数Ⅰ(再) (初回教室はH-302)	米澤(弘) (小川) (北河)	N-203 H-302 H-301	体育科学Ⅰ(再)	(内山)	H-202	微分積分Ⅰ(再) (初回教室はH-201) 情報理論(再)	鍛治 (岡) 宇佐見	H-201 H-101 N-102			

◆がついた科目は抽選科目です。

前期（3・4年）

令和4年度　授業時間割表

情報工学部　情報工学科

学年	クラス	時限	月			火			水			木			金			土		
			科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室
3年次	AB	1	A：電気電子回路Ⅱ B：情報セキュリティ	柳田 野崎	N-302 N-202	◆数値解析	山本(修)	N-105 H-504	A：先進プロジェクト実験Ⅰ	田中(敏) 宇佐見 米澤(弘) 水沼 野崎	R3-401 R3-403									
		2	A：情報セキュリティ B：電気電子回路Ⅱ	野崎 柳田	N-202 N-302	◆国際経済論 ◆心理学	名和 吉本 (岡田(順))	N-106 H-602 H-203	A：先進プロジェクト実験Ⅰ	田中(敏) 宇佐見 米澤(弘) 水沼 野崎	R3-401 R3-403	G：情報工学総合ゼミナール	情報工学科全教員		P：先進プロジェクトゼミナール	山本(修)		職業指導論	(山口)	S-401
		3	システム制御	向井	N-204	A：コンピュータグラフィックス B：コンパイラ	田中(敏) 佐川	H-101 H-102	B：先進プロジェクト実験Ⅰ	田中(敏) 宇佐見 米澤(弘) 水沼 野崎	R3-401 R3-403	プラクティカル・イングリッシュⅠ①	(M.MarShall)	N-221	A：人工知能 B：コンピュータアーキテクチャⅡ	山田(啓) 吉川	T-605 N-104 N-102			
		4				A：コンパイラ B：コンピュータグラフィックス	佐川 田中(敏)	H-102 H-101	B：先進プロジェクト実験Ⅰ	田中(敏) 宇佐見 米澤(弘) 水沼 野崎	R3-401 R3-403	プラクティカル・イングリッシュⅠ②	(G.Van Horn)	N-512	A：コンピュータアーキテクチャⅡ B：人工知能	吉川 山田(啓)	N-102 T-605 N-104			
		5	◆地学実験Ⅰ	齋藤(毅) (塚腰)	K-046															
		6																		
4年次	AB	1	卒業研究			言語情報処理 卒業研究	佐川	N-304	卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究		
		2	数理計画法 卒業研究	水沼	N-104	バーチャルリアリティ 卒業研究	柳田	N-207	卒業研究			卒業研究			ワイヤレス通信 卒業研究	鈴木(秀)	H-101	卒業研究		
		3	卒業研究			卒業研究			符号理論 卒業研究	宇佐見	N-204	卒業研究			センサ工学 卒業研究	向井	N-107	卒業研究		
		4	集積回路設計 卒業研究	吉川	N-202	卒業研究			応用アルゴリズム 卒業研究	山本(修)	N-204	卒業研究			卒業研究			卒業研究		
		5	卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究		
		6	卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究		
		※卒業研究に着手する学生は、必ず「卒業研究」の履修登録をしてください。履修登録は「後期集中」に設定してあります。																		

G：総合コースのみ履修可、P：先進プロジェクトコースのみ履修可

◆がついた科目は抽選科目です。

後期（1年）

令和4年度　授業時間割表

情報工学部　情報工学科

学年	クラス	時限	月			火			水			木			金			土		
			科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室
1年次	A	1	テクニカルリテラシー	坂野	H-503	◆人文科学基礎Ⅱ ◆社会科学基礎Ⅱ	(星) (河津) 森口	N-102 H-402 S-203	体育科学Ⅱ	加藤(幸) 鈴木(茂) 内田 (高山) (鈴木(康))	S-504 12-404 N-405 H-701 N-401	化学Ⅱ	神藤(定)	H-601	A1：プログラミング演習Ⅱ(隔週) A2：プログラミング演習Ⅱ(隔週)	川澄 (中村(寛))	T-705 T-706 T-707	基礎ゼミナールⅡ 注：実際の開講曜日時限は別紙「基礎ゼミナール開講一覧表」を参照		
		2	確率・統計	水沼	N-203	微分積分Ⅱ	鈴木(紀) 土田	4-406 H-401	ドイツ語Ⅱ フランス語Ⅱ 中国語Ⅱ	長澤 (山口(憲)) (龍神)	H-403 H-202 12-403							◆生物学	(寺野)	S-402
		3	情報通信ネットワーク	鈴木(秀)	N-202	物理学実験Ⅱ(隔週)	田中(崇) 土屋 (片岡(啓)) (神野) (中野(拓))	K-043	英語コミュニケーションⅡ ① ②	 (萩) (寺西)	 N-401 H-401	線形代数Ⅱ	土田 長郷	H-301 H-401	創造的思考法	小中	H-401			
		4	コンピュータアーキテクチャⅠ	吉川	N-106	化学実験Ⅱ(隔週)	景山 (村手)	K-048	物理学Ⅱ	(鈴木(知))	H-204	物理学演習	鈴木(智)	H-301	プラクティカルICT	旭	H-601			
		5	英語基礎演習Ⅱ 離散数学(再)	榎本 中野(倫)	H-202 N-202	化学基礎演習Ⅱ	(村手)	H-102	数学基礎演習Ⅱ	内村 柴田 (片岡(紀)) (北河)	H-302 H-401 H-301 H-101	物理学基礎演習Ⅱ	中山	H-702	マルチメディア基礎(再) 数学基礎演習Ⅱ 数学基礎演習Ⅱ (advanced) 英語基礎演習Ⅱ (advanced)	田中(敏) 佐藤 日比野 (岡) 土田 (蟹江)	N-205 H-201 H-101 H-301 H-204 S-406			
		6	人文科学基礎Ⅱ(再) 社会科学基礎Ⅱ(再)	(河津) (早坂)	H-205 H-201	プログラミング演習Ⅰ(再)	旭	T-705												
	B	1	確率・統計	水沼	N-203	◆人文科学基礎Ⅱ ◆社会科学基礎Ⅱ	(星) (河津) 森口	N-102 H-402 S-203	体育科学Ⅱ	加藤(幸) 鈴木(茂) 内田 (高山) (鈴木(康))	S-504 12-404 N-405 H-701 N-401				B1：プログラミング演習Ⅱ(隔週) B2：プログラミング演習Ⅱ(隔週)	川澄 (中村(寛))	T-703 T-704 T-705	基礎ゼミナールⅡ 注：実際の開講曜日時限は別紙「基礎ゼミナール開講一覧表」を参照		
		2	テクニカルリテラシー	坂野	H-503	微分積分Ⅱ	柴田 三町	N-322 N-324	ドイツ語Ⅱ フランス語Ⅱ 中国語Ⅱ	長澤 (山口(憲)) (武田)	H-403 H-202 H-203	化学Ⅱ	神藤(定)	H-601				◆生物学	(寺野)	S-402
		3	コンピュータアーキテクチャⅠ	吉川	N-106	物理学実験Ⅱ(隔週)	田中(崇) 土屋 (片岡(啓)) (神野) (中野(拓))	K-043	物理学Ⅱ	(鈴木(知))	H-204	物理学演習	(石田)	H-201	プラクティカルICT	旭	H-601			
		4	情報通信ネットワーク	鈴木(秀)	N-202	化学実験Ⅱ(隔週)	景山 (村手)	K-048	英語コミュニケーションⅡ ① ②	 (武藤(美)) (岩住)	 S-304 N-202	線形代数Ⅱ	許斐 片岡(紀)	H-101 H-201	創造的思考法	小中	H-401			
		5	英語基礎演習Ⅱ 離散数学(再)	榎本 中野(倫)	H-202 N-202	化学基礎演習Ⅱ	(村手)	H-102	数学基礎演習Ⅱ	内村 柴田 (片岡(紀)) (北河)	H-302 H-401 H-301 H-101	物理学基礎演習Ⅱ	中山	H-702	マルチメディア基礎(再) 数学基礎演習Ⅱ 数学基礎演習Ⅱ (advanced) 英語基礎演習Ⅱ (advanced)	田中(敏) 佐藤 日比野 (岡) 土田 (蟹江)	N-205 H-201 H-101 H-301 H-204 S-406			
		6	人文科学基礎Ⅱ(再) 社会科学基礎Ⅱ(再)	(河津) (早坂)	H-205 H-201	プログラミング演習Ⅰ(再)	旭	T-705												

◆がついた科目は抽選科目です。

後期（2年）

令和4年度　授業時間割表

情報工学部　情報工学科

学年	クラス	時限	月			火			水			木			金			土		
			科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室
2年次	A	1	情報工学実験Ⅱ	田中(敏) 山田(宗) 旭 亀谷 (藤井) (神道(圭))	R3-301 R3-401 R3-403	プログラミング演習Ⅳ（隔週）	野崎	T-705	アプリケーション開発	柳田	N-105	ドイツ語Ⅳ フランス語Ⅳ 中国語Ⅳ	(村元) (河脇) (熊谷)	11-504 N-403 H-203						
		2							画像処理	山田(宗)	N-203	技術者倫理	(吉本)	H-401	◆アジア文化論Ⅱ ◆欧米文化論Ⅱ	(菅沼) (齋藤(滋)) 長澤 (小野)	H-202 H-302 H-604 N-105			
		3	PBL概論	亀谷	S-302	ソフトウェア工学	米澤(弘)	N-206	英語コミュニケーションⅣ ① ②	 松村 中村(栄)	 H-702 S-404				情報理論	宇佐見	N-403			
		4	応用解析	小中	S-202	ディジタル回路Ⅱ	山田(啓)	N-406	言語・オートマトン	米澤(弘)	N-307	◆地学Ⅱ	(塚腰)	H-102	ディジタル信号処理Ⅱ	坂野	N-404			
		5	データサイエンス基礎（再）	水沼	H-601	英語コミュニケーションⅡ（再） 電気電子回路Ⅰ（再）	(山本(茂)) 中野(倫)	H-402 H-302	ディジタル回路Ⅰ（再）	山田(宗)	N-203	体育科学Ⅳ	鈴木(茂) (門間) (永田) (青山) (塩見)	N-106 N-303 H-401 H-604 H-601	アルゴリズム・データ構造（再）	山本(修)	T-705			
		6	ディジタル信号処理Ⅰ（再）	柳田	N-104	物理学Ⅱ（再）	大久保 土屋 小澤(理) 坂東 (片岡(啓))	H-202 H-203 H-204 H-401 H-403	線形代数Ⅱ（再） （初回教室はH-302）	(小川) (北河)	H-302 H-301	体育科学Ⅱ（再）	(内山)	H-202	微分積分Ⅱ（再） （初回教室はH-201）	鍛治 (岡)	H-201 H-101			
	B	1	PBL概論	亀谷	S-302	プログラミング演習Ⅳ（隔週）	野崎	T-705	画像処理	山田(宗)	N-203	ドイツ語Ⅳ フランス語Ⅳ 中国語Ⅳ	(村元) (河脇) (寺澤)	11-504 N-403 12-302						
		2	応用解析	小中	S-202				アプリケーション開発	柳田	N-105	技術者倫理	(吉本)	H-401	◆アジア文化論Ⅱ ◆欧米文化論Ⅱ	(菅沼) (齋藤(滋)) 長澤 (小野)	H-202 H-302 H-604 N-105			
		3	情報工学実験Ⅱ	田中(敏) 山田(宗) 旭 亀谷 (藤井) (神道(圭))	R3-301 R3-401 R3-403	ディジタル回路Ⅱ	山田(啓)	N-406	言語・オートマトン	米澤(弘)	N-307				ディジタル信号処理Ⅱ	坂野	N-404			
		4				ソフトウェア工学	米澤(弘)	N-206	英語コミュニケーションⅣ ① ②	 宮北 (久米)	 N-401 T-606	◆地学Ⅱ	(塚腰)	H-102	情報理論	宇佐見	N-403			
		5	データサイエンス基礎（再）	水沼	H-601	英語コミュニケーションⅡ（再） 電気電子回路Ⅰ（再）	(山本(茂)) 中野(倫)	H-402 H-401 H-302	ディジタル回路Ⅰ（再）	山田(宗)	N-203	体育科学Ⅳ	鈴木(茂) (門間) (永田) (青山) (塩見)	N-106 N-303 H-401 H-604 H-601	アルゴリズム・データ構造（再）	山本(修)	T-705			
		6	ディジタル信号処理Ⅰ（再）	柳田	N-104	物理学Ⅱ（再）	大久保 土屋 小澤(理) 坂東 (片岡(啓))	H-202 H-203 H-204 H-401 H-403	線形代数Ⅱ（再） （初回教室はH-302）	(小川) (北河)	H-302 H-301	体育科学Ⅱ（再）	(内山)	H-202	微分積分Ⅱ（再） （初回教室はH-201）	鍛治 (岡)	H-201 H-101			

◆がついた科目は抽選科目です。

後期（3・4年）　　令和4年度　授業時間割表　　情報工学部　情報工学科

学年	クラス（担任）	時限	月			火			水			木			金			土		
			科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室	科目	担当者	教室
3年次	A B	1				感性情報処理	川澄	H-304	A：情報技術の応用と職業	中野(倫) 宇佐見 田中(敏) (北野) (伊藤) (佐々木) (平野) (古橋) (石原) (塩谷)	N-202	研究ゼミナール	情報工学科全教員							
		2	コンピュータビジョン	中野(倫)	N-106	◆国際関係論 ◆文学 ◆日本国憲法	(賀茂) (松浦) (日比) (川中)	N-203 H-203 H-601 H-302	B：情報技術の応用と職業	中野(倫) 宇佐見 田中(敏) (北野) (伊藤) (佐々木) (平野) (古橋) (石原) (塩谷)	N-202	キャリアゼミナール	情報工学科全教員		情報通信システム	鈴木(秀)	N-305			
		3				◆ハードウェア記述言語	野崎	T-705	◆パターン認識	山田（啓）	H-302 H-504	プラクティカル・イングリッシュⅡ①	(M.Marshall)	N-221	プログラミング言語論	山本(修)	N-206			
		4	音声・音響信号処理	坂野	N-205	フィジカルコンピューティング	向井	N-303	◆信号伝送論	旭	H-504	プラクティカル・イングリッシュⅡ②	(G.Van Horn)	N-512						
		5	◆地学実験Ⅱ（教職）	齊藤(毅)	K-046															
		6																		
4年次	A B （ ）	1	卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究		
		2	卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究		
		3	卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究		
		4	卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究		
		5	卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究		
		6	卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究		
		※卒業研究に着手する学生は、必ず「卒業研究」の履修登録をしてください。履修登録は「後期集中」に設定してあります。																		

◆がついた科目は抽選科目です。

【資料10-7】

令和4年度　集中科目、全教員担当科目

情報工学部　情報工学科

■集中科目

	科目	担当者	集中期間	教室
1年次	グローバルゼミナール	川澄	後期集中 1・2限開講	T-708
2年次	◆生物学実験	（寺野）	前期集中 土3～5時限開講	N-005
	モバイルアプリ開発A	（中村(友)）	前期集中 3限開講	R3-403
	モバイルアプリ開発B	（萩野）	前期集中 4限開講	R3-403
3年次	インターンシップ	田中(敏)	後期集中	-
	心理学	（吉本）	前期集中 3・4時限開講 （日曜日を除く）	N-203
	P：先進プロジェクト実験Ⅱ	向井・山田(啓)・亀谷・小中・鈴木(秀)	前期集中 3・4限開講	R3-401 R3-403

G：総合コースのみ履修可、P：先進プロジェクトコースのみ履修可

◆がついた科目は抽選科目です。

■全教員担当科目

科　目	1年次：　情報工学の世界(Aクラス　前期科目) 1年次：　情報工学の世界(Bクラス　前期科目) 3年次：　情報工学総合ゼミナール(前期科目) 3年次：　研究ゼミナール（後期科目） 3年次：　キャリアゼミナール（後期科目） 4年次：　卒業研究(通年科目)
担当者	旭　健作　　宇佐見　庄五　亀谷　由隆 川澄　未来子　小中　英嗣　佐川　雄二 鈴木　秀和　田中　敏光　中野　倫明 野崎　佑典　坂野　秀樹　水沼　洋人 向井　利春　柳田　康幸　山田　啓一 山田　宗男　山本　修身　吉川　雅弥 米澤　弘毅　（50音順）

【資料11】

学術雑誌等一覧

現在取り扱う学術雑誌等のうち「情報工学部」に関わるもの

N0.	区分	タイトル	出版社	備考
1	電子ジャーナル	電子ジャーナル機関利用料（論文誌A,C,D、E）	電気学会	
2	電子ジャーナル	電子情報通信学会論文誌（英文論文誌）	電子情報通信学会	
3	電子ジャーナル	大学向けサイトライセンス契約	情報処理学会	
4	電子ジャーナル	技法アーカイブ（ESS/NLS）（通ソ）（エレソ）（ISS）（HCG）	電子情報通信学会	
5	電子ジャーナル	論文誌オンライン（E1）	電子情報通信学会	
6	電子ジャーナル	SIAM Journal on Computing	Society for Industrial and Applied Mathematics	
7	電子ジャーナル	SIAM Journal on Numerical Analysis	Society for Industrial and Applied Mathematics	
8	電子ジャーナル	IEEE 電子ジャーナル	IEEE	計11タイトル
9	洋雑誌	ACM Transactions on Graphics (TOG) (includes SIGGRAPH Annual Conference)	ASSN COMPUTING MACHINERY	
10	洋雑誌	Presence: Teleoperators and Virtual Environments	M.I.T. PRESS	
11	電子ジャーナル	ACM Transactions on Graphics (TOG) (includes SIGGRAPH Annual Conference)	ASSN COMPUTING MACHINERY	
12	電子ジャーナル	Presence: Teleoperators and Virtual Environments	M.I.T. PRESS	
13	電子ジャーナル	SpringerLink Legacy Package	SpringerNature	計1600タイトル
14	電子ジャーナル	Wiley Blackwell　STM Collection	Wiley Blackwell	計850タイトル

【資料12】

情報公開・開示規程

平成23年４月１日
規程

（目的）

第１条　この規程は、学校法人名城大学又は名城大学若しくは名城大学附属高等学校（以下「本法人」という。）の社会的説明責任を果たすため、保有する情報の公開と開示に関する必要な事項を定めることを目的とする。

なお、保有する情報のうち個人情報の取り扱いに関する事項については、別に定める「個人情報の適正な取り扱いに関する規程」に基づくものとする。

（定義）

第２条　この規程において、「情報」とは、本法人の役員又は職員（以下「職員等」という。）が職務上作成した文書、図画及び電磁的記録であって、本法人の職員等が組織的に用いるものとして、本法人が保有しているものをいう。

（情報公開の範囲）

第３条　本法人は、次の各号に掲げる情報を閲覧に供する方法及びホームページ等を通じて、公開するものとする。

（１）　理念・目的等に関する情報
（２）　本法人に関する基本情報
（３）　経営及び財務に関する情報
（４）　教育研究活動に関する情報
（５）　学生・生徒支援に関する情報
（６）　授業料等及び奨学金に関する情報
（７）　教育・研究環境に関する情報
（８）　社会貢献に関する情報
（９）　評価に関する情報

（開示情報の請求）

第４条　前条により公開する情報以外のものについて、開示を請求しようとする者（以下、「開示請求者」という。）は、本法人所定の様式による「情報開示請求書」を渉外部に提出しなければならない。

なお、財務資料等の閲覧に関する詳細は、別に定める「財務資料等の閲覧に関する要項」に基づくものとする。

（委員会）

第５条　本法人は、情報公開の範囲及び情報開示の請求並びに関連する事項を審議するため、情報公開・開示委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

②　委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

（１）　寄附行為第７条の３に基づき選任された理事　１名
（２）　事務局長
（３）　理事長が指名する者　若干名
（４）　学長が指名する者　若干名

③　委員会には委員長を置き、委員の互選により決定する。

④　委員長は、委員会の議長となる。

⑤　委員会は、３分の２以上の委員の出席により成立し、議事は出席委員の過半数をもって決する。可否同数の場合は、委員長の決するところによる。

（事務）

第６条　委員会の事務は、渉外部が分掌する。

（補則）

第７条　この規程に定めるもののほか、情報公開・開示に関し、必要な事項は、理事長が定める。

附　則

この規程は、平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成24年８月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和２年６月１日から施行する。

【資料 13−1】

科目名	職業指導論
担当者氏名	山口　貴士
全開講対象学科	情報工学部情報工学科
年次	３年次
クラス	
講義学期	前期
単位数	2 単位
必選区分	選択科目
部門	総合基礎部門-総合基礎科目
備考	本授業は CP1,4 および DP1 に該当する。

準備学習・事後学習	職業指導を行う上で雇用に関連した日本や海外の情勢を知ることは必要不可欠となっている。 「非正規雇用者の割合」「外国人労働者の割合」「日本、海外における年齢３区分別人口割合」などの雇用を取り巻く日本の現状を認識しておくこと。 　さらに職業選択の基本となる「『基本給』『賞与』『年間休日』などの待遇面」「高卒・大卒、職業別、企業別の年収」「年間休日」などをインターネットを利用して調査するなど、おおまかに数値を認識しておくこと。 　事後学習では「事前学習で考えたこと」や「授業で学んだこと」を参考に自分自身の考えとしてまとめる。 時には学生同士で話すことにより考えをブラッシュアップし、その後、文書やレポートにより自分の考えをまとめ記録しておくとよい。 ・各授業において予習提案および復習提案を行います。 4 時間以上は必ず取り組むこと。
履修上の留意	日本や海外の社会情勢を知ることなく、また考えることなくして、生徒への、より的確な職業指導を行うことは困難である。そのため履修時には、準備学習・事後学習に示した準備知識などについて自分で、おおまかに調査しておくこと。 大学生における就職活動は、自分自身で主体的に活動していくかと思います。その中で「求人票の見方」や「将来、想い描く収入」「企業選択」「履歴書の書き方」「面接方法」など自分自身でセルフマネジメントし、それらについて調べる場合が多いと思います。 　講義では、工業高校教員(愛知県)の生徒に対する職業指導(職業選択指導)に関わることを中心に講義しますが、受講者自身の就職活動をセルフマネジメントすることに参考となることもあるかと思います。この講義では他者(高校生)の就職を考えることで自分自身の就職活動を考える、きっかけや、具体的な参考にしてもらうことも良いと思います。 ・遅刻、居眠りなど受講にふさわしくない行為は厳禁。
授業の概要と目的	生徒の相談を聞きながらの職業指導は「給料」「年間休日」などの数値的な客観的部分と「やりがい」などの数値化が困難な感情的部分を加味しながら行っていきます。 　未成年である高校生は、保護者の想いも理解し取り込みながら教員として職業選択の援助、助言を行っていかなければなりません。 　将来みなさんが、より的確な援助、助言を行うためにも雇用を取り巻く客観的なデータを認識すること、そして感覚的な部分を親身になって相談にのれるようになってもらうために、実例からケーススタディし職業指導に対す

	る能力をつけてもらうことを目的としています。		
サブタイトル	将来、工業高校教員となり自信を持って職業指導を行うために職業指導論を学ぶ		
到達目標	将来、工業高校の教員となり、企業分析し社会情勢を鑑みながら、かつ生徒や保護者の考えなどを良く聞き、その想いを理解して、個々の生徒に合った職業や企業を提案する。そして決定までを親身になって相談にのることができる能力を養う。 　また生徒の志望動機文章、小論文などの就職活動における文章作成の援助ができるようになること、それに加え面接指導を行う能力を身に付けることで自信を持って職業指導を行える教員となることを目標としている。		
授業計画		項目欄	内容欄
	1	職業高校教員の業務と役割について(工業高校に関わる諸データから)	ガイダンス及び職業高校の業務などについて工業高校を例に説明、受講者には自分自身の指導方法や解説方法を考えてもらう。
	2	「基本給」「賞与」「年間休日」「やりがい」などについて	職業・企業選択要素の一つとなる「基本給」「賞与」「年間休日」などの数値的・客観的部分について解説、感情的な部分である「やりがい」についても紹介する。受講者には自分自身の指導方法や解説方法を考えてもらう。
	3	職業に関わるデータについて	職業に関わるデータの紹介と見方を説明、そのデータをもとに受講者には自分自身の指導方法や解説方法を考えてもらう。
	4	社会的金銭感覚を身につけてもらう生徒指導法	社会人としての金銭感覚を身につけてもらうための指導法について生活に関わる費用など、例をあげて説明、受講者には自分自身の指導方法や解説方法を考えてもらう。
	5	高卒求人票の見方①	高卒求人票の待遇における給料面を中心とした各項目について受講者には自分自身の指導方法や解説方法を考えてもらう。
	6	高卒求人票の見方②	求人票から知ることのできる待遇と各項目について受講者には自分自身の指導方法や解説方法を考えてもらう。
	7	生徒への職業・企業選択指導法について	生徒への職業・企業選択指導を行うための基礎知識から指導を行う方法を説明、受講者には自分自身の指導方法や解説方法を考えてもらう。
	8	高卒履歴書の書き方と留意点について	高卒履歴書の書き方における留意点の解説、受講者が将来、指導者となり、どのような指導や解説をするか考えてもらう。
	9	志望動機文章と履歴書の書き方における指導法	それぞれの指導法を説明、受講者が将来、指導者となり、どのように、そのスキルを身に付けるか考えてもらう。
	10	就職試験対策指導法と小論文等の文章作成指導について	それぞれの指導法を説明、受講者が将来、指導者となり、どのように、そのスキルを身に付けるか考えてもらう。
	11	面接指導法について　①(アクティブ・ラーニング含)	面接指導法について例をあげて説明、受講者が将来、指導者となり、どのように、そのスキルを身に付けるか考えてもらう。講義内の一部でアクティブ・ラーニング（模擬面接指導グループワーク）を行う予定。
	12	面接指導法について　②(アクテ	アクティブ・ラーニングを活用した生徒への面接指導法について紹

		ィブ・ラーニング含)	介。 受講者には将来、指導者となったら、どのように生徒に指導するかを考えてもらう。講義内の一部でアクティブ・ラーニング（模擬面接指導グループワーク）を行う予定。
	13	高校の就職活動ルール、学校ルール、就職斡旋スケジュール	就職ルール、学校ルール、就職斡旋スケジュールの説明と、それぞれの関連について説明、受講者に、それぞれの関係について自分自身の考えを持ってもらう。
	14	非正規雇用、外国人労働者雇用など就業形態について	非正規雇用、外国人労働者雇用など多様化する就業形態について説明、受講者には自分自身の考えを持ってもらう。
	15	キャリア教育、労働基準法、職業安定法などについて	職業指導上に必要となるキャリア教育や各種法律について説明、受講者に自分自身の考えを持ってもらう。

テキスト		書籍名	著者	出版社
	1	なし(必要時に資料を配付)		
	2			
	3			
	4			
	5			
参考文献		書籍名	著者	出版社
	1	高校生の就職活動オールガイド’21 年版	加藤 敏明 (監修)	成美堂出版
	2	高校生のための進路プラン四訂版	実教出版編修部	実教出版
	3	高校生 就職面接の受け方答え方	成美堂出版編集部	成美堂出版
	4	高校生の【就職】面接試験合格ノート	萩原信一、本間啓二	一ツ橋書店
	5	15 歳のワークルール	道幸哲也	旬報社

授業方法の形式	講義と演習、一部でアクティブ・ラーニングを予定
成績評価方法及び評価基準	各レポート課題 100%として 100 点満点で評価し，60 点以上を合格とする。 授業回数の２／３以上の出席に満たない場合は欠格とする。 レポート課題については、ほとんどの時間毎に出題予定。
受講生へのメッセージ	「基本給」「賞与」「年間休日」や「やりがい」など、まずは自分の将来について職業指導すると仮定して考えることで「より深い学び」になるかと思います。この講義では高卒の生徒に対する職業指導論でもありますが、大学３年生、４年生における自分自身の就職活動にも役立つかもしれません。また「将来、自分の子供に職業指導するなら」と「より身近なこと」「自分のこと」から考え始め、興味関心を持ちながら基礎的知識を身に付けることも良いかと思います。そして教員にならなくても学んだことを将来、生かせてもらえ

	たらと思います。教員となったら価値観の異なる生徒や、その保護者の想いを考えることのできる職業指導、個々の生徒に合った援助や助言を考える職業指導を行える教員になってもらえたらと思います。 また、学生同士のアクティブラーニングを予定しています。積極的に取り組んでもらえたらと思います。

		表示名	URL	説明
参考URL	1	https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00037.html	https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00037.html	文部科学省における新規高等学校卒業予定者に関する調査結果
	2	https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/hitoridachi/edu/	https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/hitoridachi/edu/	日本銀行に関係する金融広報中央委員会による金銭的自立支援に関する資料
	3	https://heikinnenshu.jp/	https://heikinnenshu.jp/	厚生労働省や国税庁のデータから考察されたもの

更新日時	2020/12/21 17:23:46

【資料13-2】

科目名	インターンシップ
担当者氏名	田中　敏光
全開講対象学科	情報工学部情報工学科
年次	３年次
クラス	
講義学期	後期集中
単位数	１単位
必選区分	選択
部門	専門教育部門-情報工学専門科目
備考	この講義は CP２,４及び DP２,３に該当します.

準備学習・事後学習	準備学習：履修状況および希望するプログラムとの関連性を熟慮して，十分な時間（1 日以上）をかけて実習先の企業を選んでください．また，その企業の概要や業務内容などの調査を１日以上かけて行ってください. 事後学習：実習内容を振り返り，報告書とプレゼンテーション原稿を作成してください．この作業には３日程度の時間をかけ，内容を充実したものにししてください.		
履修上の留意	インターンシップは，授業料を払って受講する講義とは違い，受け入れ先企業の無償協力のもとに成り立っています．インターンシップでは，学生ではなく「社会人」としての資質が求められます．さらに，企業がインターンシップを使って受け入れ学生および大学を評価するという側面もあります．以上を念頭に，名城大学の学生として恥ずかしくない行動をするように心掛けてください. インターンシップ終了後は，受入先の事業所等が発行する「インターンシップ証明書」と自らが作成する「インターンシップ報告書」を提出する必要があります．また，報告会（日時は別途調整）にてプレゼンテーションを行う必要があります．詳細については，キャリアセンターの説明・指示に従ってください. 【注意！！】 単位認定には，原則としてキャリアセンターを通してインターンシップに参加することが必要となります．個人的に申込んで参加したインターンシップは単位認定の対象外です．また，インターンシップに行っても履修登録をしなければ単位は認定されません.		
授業の概要と目的	インターンシップは，実社会での就業体験を通して社会人・技術者としての資質を養うことを主たる目的としています．たとえば，将来の就職先の候補となるような企業等において職業体験を行い，社会人として要求される能力や技術者としての基本的な心構え，ならびに社会人としてのマナーなどを体得します．また，企業等で実践的指導を受けることも目的です.		
サブタイトル	学外職業実習を通して，情報技術者としての資質を養成する.		
到達目標	受け入れ先での業務内容を体験することにより，情報技術者としての資質について体得できる.		
授業計画		項目欄	内容欄
	1	インターンシップのガイダンス	インターンシップ実施方法の説明と受け入れ先の希望調査.
	2	２～１４　インターンシップ	社会人として要求される基礎的な能力，技術者としての基本的な心構え，ならびに関連する分野で必要とされる基本的知識を，実

		実施方法は受け入れ先の企業等に委任	際の業務を通して理解・体得する. 【到達レベル】 関連分野で必要とされる基本的な知識，および社会人としての資質や技術者としての心構えを理解できる.
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15	インターンシップ成果報告	研修の内容や研修の成果をインターンシップ報告会（日時は別途調整）で発表し，質疑応答を行う.

テキスト		書籍名	著者	出版社
	1	特になし		
	2			
	3			
	4			
	5			
参考文献		書籍名	著者	出版社
	1	特になし		
	2			
	3			
	4			
	5			

授業方法の形式	実習（対面授業）
成績評価方法及び評価基準	受け入れ先からの報告書が３０％，レポートおよびインターンシップ成果報告でのプレゼンテーションが７０％の重みをつけて評価し，１００点満点中の６０点以上で合格とする. 【注意！！】 単位認定には，原則としてキャリアセンターを通してインターンシップに参加することが必要となります．個人的に申込んで参加したインターンシップは単位認定の対象外です．必ず，キャリアセンターに相談の

	上，参加してください.
受講生へのメッセージ	実社会での体験学習であるため，健康に留意し，かつ，本学情報工学科の学生として恥ずかしくないよう，常に心がけてください.

参考 URL		表示名	URL	説明
	1	1.名城大学キャリアセンター	https://www.meijo-u.ac.jp/career/center.html	インターンシップはもとより，さまざまな就職支援活動が行われています.
	2	Meijo キャリアナビ	https://www.meijo-u.ac.jp/career/m_career.html#navi	キャリアセンターのページから，「Meijo キャリアナビ（名城大学求人検索システム）」をクリック．大学に来ている求人情報が検索できる.
	3			

更新日時	2020/12/22 15:16:04

科目名	グローバルゼミナール
担当者氏名	川澄未来子
全開講対象学科	情報工学部情報工学科
年次	１年次
クラス	
講義学期	後期集中
単位数	１単位
必選区分	選択
部門	専門教育部門-情報工学専門科目
備考	本授業は CP1・2・3・4 および DP1 に該当する。

準備学習・事後学習	（準備学習）世界情勢に関心をもち，英語の情報に触れ続ける （事後学習）新しい人間関係や交流を大切にし，繋がり続ける		
履修上の留意	好奇心，チャレンジマインド，敬意や感謝の気持ちを大切にすること		
授業の概要と目的	国際的に活躍するグローバルエンジニアに必要な知識や経験を，研修を通じて身につける．特に，海外の学生・研究者との学術交流により，将来の協同作業に必要となる多様な習慣・価値観・考え方を実体験する．また，スタートアップ企業を含む情報産業系企業の現場を視察し，グローバリズムの重要性を学び，将来の就業に向けて視野を広げる．		
サブタイトル	国際社会で活躍できる情報エンジニアの育成		
到達目標	グローバルエンジニアに必要な教養と姿勢を学び，将来に向けて自己形成計画を立てる．		
授業計画		項目欄	内容欄
	1	オリエンテーション	研修概要説明，自己紹介
	2	目的と計画の理解	研修計画，課題説明，語学学習のポイント
	3	現地の理解 1	現地情報（地理・歴史・政情・宗教・言語など）の調査と共有
	4	現地の理解 2	現地情報（産業・経済・教育・文化・習慣など）の調査と共有
	5	現地の理解 3	現地情報（訪問先・交流相手など）の調査と事前交流
	6	渡航の準備	渡航マニュアル詳読，安全学習，手土産，費用，役割分担
	7	プレゼンの準備 1	プレゼンの基本，テーマ設定，グループ分け
	8	プレゼンの準備 2	プレゼンの練習（日本語または英語）
	9	プレゼンの準備 3	プレゼンの練習（英語）
	10	研修 a：異文化・多様性	現地での生活体験，習慣の実践，外国人との交流
	11	研修 b：英語での学び	大学の講義の受講，自己紹介やプレゼンの体験
	12	研修 c：グローバリズム	現地企業・機関の視察，就業体験
	13	研修 d：テクノロジー	MaaS，Grab，AI ベンチャー展開などの学びと体感
	14	報告とまとめ	レポート作成，報告プレゼン，今後の課題の整理
	15	自己形成計画	次の目標設定，進路や将来の設計

テキスト		書籍名	著者	出版社
	1			

	2			
	3			
	4			
	5			
参考文献		書籍名	著者	出版社
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			

授業方法の形式	ディスカッション，グループワーク，フィールドワーク
成績評価方法及び評価基準	レポート（50%）、発表の内容（50%）で評価
受講生へのメッセージ	

参考 URL		表示名	URL	説明
	1			
	2			
	3			

更新日時	2021/1/29 15:00:00

【資料13-4】

科目名	キャリアゼミナール
担当者氏名	全専任教員
全開講対象学科	情報工学部情報工学科
年次	3 年次
クラス	
講義学期	後期
単位数	2 単位
必選区分	選択必修
部門	専門教育部門-情報工学専門科目
備考	本授業は CP2,4 および DP2,3 に該当する。

準備学習・事後学習	（準備学習）自己分析を行い，大学指定の履歴書を完成させる。 （事後学習）準備学習で用意した履歴書と，本講義の受講後に作成した履歴書との差異を確認し，どのような点が準備学習で不十分であったかを精査する。		
履修上の留意	価値観や環境は十人十色なので，キャリアプランは熟考して決める。		
授業の概要と目的	卒業研究・就職活動・大学院進学を控えた学生に対し，卒業後の進路を考える上で必要となる情報の提供および心構えの啓蒙を行う。自己分析法，就職支援サイトの利用法，求人票の見方、インターンシップに対する心構え，エントリーシートの相互レビュー，Web 面接の対処法などについて学び，綿密な自己分析を行うことを目的とする。		
サブタイトル	社会人になるための準備について		
到達目標	綿密な自己分析に基づき，適切なキャリアプランを設定できる。		
授業計画		項目欄	内容欄
	1	キャリアガイダンス	授業の構成と受け方について解説する。 （担当　吉川雅弥）
	2	フィジカルコンピューティング（１）	ヒューマンインタフェースとキャリアについて解説する。 （担当　中野倫明）
	3	フィジカルコンピューティング（２）	ロボットとキャリアについて解説する。 （担当　向井利春）
	4	データエンジニア（１）	AI とキャリアについて解説する。 （担当　山田啓一）
	5	データエンジニア（２）	アルゴリズムとキャリアについて解説する。 （担当　山本修身）
	6	ヒューマンメディア（１）	CG とキャリアについて解説する。 （担当　田中敏光）
	7	ヒューマンメディア（２）	自然言語処理とキャリアについて解説する。 （担当　佐川雄二）
	8	ネットワークシステム（１）	通信システムとキャリアについて解説する。

			（担当　宇佐見庄五）
	9	ネットワークシステム（２）	セキュリティとキャリアについて解説する。 （担当　鈴木秀和）
	10	就職活動の進め方（１）	インターンシップの利用法について解説する。 （担当　柳田康幸）
	11	就職活動の進め方（２）	求人票の見方、学内求人システムの利用法について解説する。 （担当　亀谷由隆）
	12	就職活動の進め方（３）	就職支援サイトの利用法について解説する。 （担当　坂野秀樹）
	13	就職活動の進め方（４）	就職試験における CBT について解説する。 （担当　山田宗男）
	14	就職活動の進め方（５）	就職活動と SNS について解説する。 （担当　小中英嗣）
	15	エントリーシートレビュー	エントリーシートの相互レビューを行う。 （担当　川澄未来子、旭健作、米澤弘毅、野崎佑典、水沼洋人）

テキスト		書籍名	著者	出版社
	1	特になし		
	2			
	3			
	4			
	5			
参考文献		書籍名	著者	出版社
	1	特になし		
	2			
	3			
	4			
	5			

授業方法の形式	講義形式とディスカッション
成績評価方法及び評価基準	評価方法：レポート 100% 評価基準：レポートの内容を 100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。
受講生へのメッセージ	いつかは必ず社会に出る必要があります。その第一歩を踏み出す準備を行うのが，このキャリアゼミナールです。自分で満足のできるキャリアプランを設計できるように真摯に取り組んで下さい。

参考 URL		表示名	URL	説明

	1			
	2			
	3			

更新日時	2021/01/21 11:18:00

【資料13-5】

科目名	情報技術の応用と職業
担当者氏名	石原　嘉市 伊藤　将人 宇佐見　庄五 北野　克典 佐々木　裕之 塩谷　尚人 中野　倫明 平野　智裕 古橋　洋 田中　敏光
全開講対象学科	情報工学部情報工学科
年次	３年次
クラス	
講義学期	後期
単位数	2 単位
必選区分	
部門	専門教育部門-情報工学専門科目
備考	本授業は CP2・3・4 および DP3 に該当する。

準備学習・事後学習	【準備学習】各回の授業に関する情報を WEB サイトなどで収集し、予備知識を得ておくこと。 【事後学習】授業内容に関連した情報をさらに調査し、自分の考えを加えてレポートにまとめること。 毎回、上記の準備学習と事後学習をあわせて４時間程度行うことが求められる。 なお、課題（レポート等）について質問がある場合は、担当者へのメールに対して個別に対応する。 担当者は次のとおり。情報デバイス(1)(2)：中野、情報メディア(1)(2)：田中、情報処理(1)(2)：中野、情報通信(1)(2)：宇佐見、第 9 回～第 15 回（非常勤講師）：中野 また，準備学習および事後学習には、JMOOC（https://www.jmooc.jp/）で提供されている無料で視聴可能な WEB 講義（線形代数、微積分等）を利活用すると良い。
履修上の留意	各回で指定される課題（レポート等）を確実に提出すること。ただし、課題（レポート等）の提出については、授業時間内での提出、授業後の期限までの提出など個別の注意があるため、初回のガイダンスを必ず受講するとともに、学生ポータルサイトからの講義連絡や掲示には常に気をつけること。なお、各回の授業で 20 分以上の遅刻があった場合は、３回の遅刻を１回の欠席とみなします。
授業の概要と目的	情報技術が実社会でどのように応用されているか、また情報技術に関する職業がどのようなもので、その職業に携わる人がどのように仕事を行っているかを理解することは、自分の将来の仕事を考える上で大変重要である。本授業では、情報技術に関わる複数の教員が、職業や仕事をキーワードとして授業計画に示す内容を分かりやすく解説し、学生の今後の就職にも役立つ情報を提供する。
サブタイトル	情報技術の社会への貢献と仕事の意義

到達目標	情報技術の広がりとその応用分野を知り、技術者や研究者の職業観を理解できる。		
授業計画		項目欄	内容欄
	1	ガイダンス／ 情報デバイス(1)	授業の進め方と注意事項について説明する。 画像・映像技術が活用されている職業を説明し、それらに携わる研究者や技術者の姿を紹介する。 到達レベル：画像・映像技術に携わる人の仕事への取り組み方を理解できる。 （担当　中野倫明）
	2	情報デバイス(2)	画像・映像技術が我々の生活、社会やビジネスをどのように変えてきたのか、身近な事例を通して紹介する。道路環境での交通管制の事例を取り上げる。 到達レベル：画像・映像技術が社会にどのように貢献しているかを理解できる。 （担当　中野倫明）
	3	情報メディア(1)	映像メディア・エンタテイメント分野におけるコンピュータグラフィックス(CG)の利用例を示し，CG 技術が社会生活にどのように役立っているかを解説する．グラフィックハードウェアの解説と CG アニメーションの現状についても紹介する． 到達レベル：エンタテイメント分野における CG 技術の利用状況が理解できる． （担当　田中敏光）
	4	情報メディア(2)	医療，データの可視化，工業デザイン，建築・建設，シミュレータなどの分野での CG 技術の利用例を紹介し，CG 技術がどのように社会に貢献していけるかを解説する． 到達レベル：医療，気象，工業デザイン，建築の各分野における CG 技術の利用状況が理解できる． （担当　田中敏光）
	5	情報処理(1)	－情報技術の進化とものづくり－ ものづくりにおける情報技術導入の目的と課題、さらにその進化がものづくりの姿をどのように変えてきたのかを事例を交えて紹介する。 到達レベル：情報技術導入の目的、活用の概要について理解できる。 （担当　古橋　洋）
	6	情報処理(2)	－製造・工場と情報技術－ 様々な製造業での生産準備、生産における情報技術活用の実態を事例を交えて紹介する。 到達レベル：モノづくりの現場における情報技術活用の現状を理解できる。 （担当　古橋　洋）
	7	情報通信(1)	通信技術がどのように変遷してきたか、ＩＴ革命の本質は何かなどを述べ、将来の生活がどのようになるかを展望する。また、今後の情報通信の鍵を握る

			セキュリティの話題についても触れる。 到達レベル：IT 革命の本質を理解できる。 （担当　宇佐見 庄五）
	8	情報通信(2)	学生から IT ベンチャーを起業して 20 年の実例から、ベンチャー設立と運営、理念、ビジネスモデルの大切さについて学ぶ。 到達レベル：起業するということを身近に感じ、将来起業が人生の一つの選択肢となることが理解できる。 （担当　平野智裕）
	9	ベンチャー論 （１） （起業編）	起業とは何か。ベンチャー企業を起業する社会的な意義を実例をもとに分析する。また、起業支援として受けられるさまざまな制度を紹介し、スタートアップに必要な知識を学ぶ。 到達レベル：起業が果たす社会的意義を理解できる。 （担当　北野克典）
	10	ベンチャー論 （２） （実践編）	自分は何をしたいのか。戦略・ミッションの策定を通じて事業化のポイントを分析し、未来設計を考える。また、事業企画・資金調達の方法等、事業化に必要なより実践的な手法を紹介する。 到達レベル：事業化の流れが理解できる。 （担当　北野克典）
	11	知財(1)	－知的財産権の基本（特許法、意匠法編） － 知的財産権の概要についての説明後、特許法や、意匠法の概要や目的についての解説を行う。その際、特許権、意匠権の取得方法や、活用方法について事例を交えて、解説する。 到達レベル：社会人として必要な知的財産権、特許法、意匠法の基本が理解できる。 （担当　塩谷尚人）
	12	知財(2)	－知的財産権の基本（商標法、著作権法編）と社会との関わり－ 商標法や、著作権法の概要や目的についての解説を行う。その際、商標権、著作権の取得方法や、活用方法について具体例を示しながら、解説する。また、知財に係る職業など、社会との関わりについて説明する。 到達レベル：社会人として必要な商標法、著作権法の基本が理解できる。 （担当　塩谷尚人）
	13	製造業への就職活動と準備	講義内容：製造業の技術者になる就職活動をする前に必要なスキルと考え方を講義する。 到達レベル：就職活動に必要なものを理解できる。 （担当　石原嘉市）
	14	就職活動と IT 企業	働くという事を、実際のエピソード、就職情報、コミュニケーションを交えて講義する。IT 業界については、業界、系列といった切り口よりその特徴を、IT 技術職としては、技術を活用してどのように社会貢献できるか、また、業務系のキャ

			リア形成、IT 業界の「ものづくり」の起承転結やイメージについて講義する。 到達レベル：就職活動と IT 業界の概要を理解できる。 （担当　伊藤将人）
	15	自律的キャリア形成の必要性	「仕事」というものをどのように捉え、どのように職業人生を構築していくべきか？ということについて、現在の人事のトレンドを踏まえながら理解する。 到達レベル：自らキャリアを選択することの必要性を理解する。 （担当　佐々木 裕之）

テキスト		書籍名	著者	出版社
	1	特になし（必要に応じて資料を配布する）		
	2			
	3			
	4			
	5			
参考文献		書籍名	著者	出版社
	1	必要に応じて紹介する。		
	2			
	3			
	4			
	5			

授業方法の形式	講義
成績評価方法及び評価基準	各教員のレポートにより評価する。教員ごとのレポートはそれぞれ 100 点満点（未提出のレポート点は 0 点）とし、すべてのレポートの平均点が 60 点以上を合格とする。ただし、特別な事情がある場合を除き、出席数、提出レポート数のいずれかが全体の 3 分の 2 に満たない場合は欠格とする。
受講生へのメッセージ	本授業は、情報技術に関する幅広い職業とそれに携わる人の職業観を知ることにより、「何のために働き、何のためにその仕事をするのか」「将来はこうなりたい、こんな働き方をしたい」という仕事に対する意識や意欲を高めてもらう貴重な機会です。是非 熱意を持って受講してください。

参考 URL		表示名	URL	説明
	1	特になし		
	2			
	3			

更新日時	2020/12/22 11:49:28

キャリア支援プログラム

キャリアセンターの支援プログラム
https://www.meijo-u.ac.jp/career/m_career.html

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

１　学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 2

２　人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 9

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

①定員設定の考え方

令和4年4月開設予定である情報工学部情報工学科は、現在の理工学部情報工学科を基礎とし、様々な分野の人々と協調して問題を解決することのできる人材を育成し、またPBL(Project-Based Learning)教育の充実により、他者との協働による問題解決能力の育成や企業との交流によるキャリア意識の醸成を図ることで、人材養成目的に則った情報技術者の養成をより一層進めるものである。

定員設定については、理工学部情報工学科で設定する現行定員に加え、近年の IT 人材不足と企業等社会のニーズ、そしてこれまでの理工学部情報工学科の志願実績を鑑み、入学定員を 30 人増とし、入学定員180人、収容定員720人とした（令和3年3月、別途収容定員変更認可申請)。

②定員充足の見込み

理学系学科（「学士（理学)」の学位を授与する学科）である数学科を除く本学理工学部全体の直近5年間の志願倍率（入学定員に対する志願者数の割合）を見ると、安定的に志願者を確保している。

その中で、理工学部情報工学科の志願倍率数は約23倍、志願者数は約3,400人であり、志願倍率では同学部応用化学科に次いで高く、志願者数では本学理工学部の中で最も多くなっている。

理工学部情報工学科としてのこれまでの志願実績に加え、昨今の IT 人材育成に対する社会からの強い要請を背景に、定員充足は十分に見込めるものと判断している。【資料1】

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

①理工学部情報工学科の学生募集状況（平成29年度～令和3年度）

情報工学部情報工学科の基礎である理工学部情報工学科は直近5年間、毎年度3,000人を超える志願者数を確保している。前述②に記載の通り、理工学部の全学科の中で屈指の志願者数、志願倍率であることから、長期的に学生を確保し、安定的に入学定員180人を充足できる見通しである。

情報工学科における5年間の学生募集状況は以下の通りである。【表1】

表1　理工学部情報工学科の学生募集状況（平成29年度～令和3年度）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入学定員（A)	150人	150人	150人	150人	150人
志願者数（B)	3,334人	3,365人	3,452人	3,276人	3,688人
受験者数	3,241人	3,262人	3,360人	3,156人	3,619人
合格者数	812人	726人	787人	1,114人	1,118人
入学者数（C)	181人	138人	131人	170人	154人
志願倍率（B/A)	22.2倍	22.4倍	23.0倍	21.8倍	24.6倍
定員充足率（C/A)	1.20倍	0.92倍	0.87倍	1.13倍	1.02倍

※「令和3年度」の数値は令和3年4月7日時点。(以下同様)

※「志願倍率」は小数第2位を四捨五入。「定員充足率」は小数第3位以下を切り捨て。(以下同様)

②理工学部工学系他学科の学生募集状況（平成 29 年度～令和 3 年度）

本学理工学部では、情報工学科のほかに、工学系学科（「学士（工学）」の学位を授与する学科）を 9 学科設置しており、各学科とも安定的に志願者を確保している。

各学科における 5 年間の学生募集状況は以下の通りである。【表 2～表 10】

表 2　電気電子工学科の学生募集状況（平成 29 年度～令和 3 年度）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入学定員（A）	150 人	150 人	150 人	150 人	150 人
志願者数（B）	2,497 人	2,459 人	2,379 人	3,272 人	3,236 人
受験者数	2,421 人	2,389 人	2,308 人	3,150 人	3,165 人
合格者数	841 人	862 人	906 人	1,170 人	976 人
入学者数（C）	167 人	137 人	141 人	179 人	153 人
志願倍率（B/A）	16.6 倍	16.4 倍	15.9 倍	21.8 倍	21.6 倍
定員充足率（C/A）	1.11 倍	0.91 倍	0.94 倍	1.19 倍	1.02 倍

表 3　材料機能工学科の学生募集状況（平成 29 年度～令和 3 年度）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入学定員（A）	80 人	80 人	80 人	80 人	80 人
志願者数（B）	1,174 人	1,135 人	1,167 人	1,034 人	858 人
受験者数	1,135 人	1,103 人	1,132 人	985 人	843 人
合格者数	437 人	376 人	501 人	433 人	472 人
入学者数（C）	109 人	78 人	73 人	78 人	81 人
志願倍率（B/A）	14.7 倍	14.2 倍	14.6 倍	12.9 倍	10.7 倍
定員充足率（C/A）	1.36 倍	0.97 倍	0.91 倍	0.97 倍	1.01 倍

表 4　応用化学科の学生募集状況（平成 29 年度～令和 3 年度）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入学定員（A）	70 人	70 人	70 人	70 人	70 人
志願者数（B）	1,678 人	1,763 人	1,903 人	2,101 人	1,867 人
受験者数	1,632 人	1,712 人	1,844 人	2,050 人	1,832 人
合格者数	546 人	632 人	797 人	758 人	956 人
入学者数（C）	52 人	70 人	66 人	66 人	69 人
志願倍率（B/A）	24.0 倍	25.2 倍	27.2 倍	30.0 倍	26.7 倍
定員充足率（C/A）	0.74 倍	1.00 倍	0.94 倍	0.94 倍	0.98 倍

表 5　機械工学科の学生募集状況（平成 29 年度～令和 3 年度）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入学定員（A）	125 人	125 人	125 人	125 人	125 人
志願者数（B）	2,712 人	2,675 人	2,768 人	2,486 人	2,414 人
受験者数	2,629 人	2,599 人	2,709 人	2,400 人	2,384 人
合格者数	863 人	867 人	809 人	933 人	1,002 人
入学者数（C）	132 人	110 人	109 人	127 人	133 人
志願倍率（B/A）	21.7 倍	21.4 倍	22.1 倍	19.9 倍	19.3 倍
定員充足率（C/A）	1.05 倍	0.88 倍	0.87 倍	1.01 倍	1.06 倍

表 6　交通機械工学科の学生募集状況（平成 29 年度～令和 3 年度）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入学定員（A）	125 人	125 人	125 人	125 人	125 人
志願者数（B）	1,362 人	1,256 人	1,401 人	1,415 人	1,218 人
受験者数	1,334 人	1,226 人	1,367 人	1,347 人	1,196 人
合格者数	351 人	352 人	438 人	502 人	496 人
入学者数（C）	111 人	123 人	124 人	130 人	130 人
志願倍率（B/A）	10.9 倍	10.0 倍	11.2 倍	11.3 倍	9.7 倍
定員充足率（C/A）	0.88 倍	0.98 倍	0.99 倍	1.04 倍	1.04 倍

表 7　メカトロニクス工学科の学生募集状況（平成 29 年度～令和 3 年度）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入学定員（A）	80 人	80 人	80 人	80 人	80 人
志願者数（B）	1,068 人	1,204 人	1,242 人	1,239 人	1,062 人
受験者数	1,034 人	1,161 人	1,210 人	1,192 人	1,040 人
合格者数	286 人	357 人	351 人	411 人	371 人
入学者数（C）	77 人	85 人	79 人	85 人	92 人
志願倍率（B/A）	13.4 倍	15.1 倍	15.5 倍	15.5 倍	13.3 倍
定員充足率（C/A）	0.96 倍	1.06 倍	0.98 倍	1.06 倍	1.15 倍

表 8　社会基盤デザイン工学科の学生募集状況（平成 29 年度～令和 3 年度）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入学定員（A）	90 人	90 人	90 人	90 人	90 人
志願者数（B）	1,131 人	924 人	992 人	941 人	940 人
受験者数	1,109 人	900 人	959 人	905 人	925 人
合格者数	264 人	322 人	312 人	376 人	480 人
入学者数（C）	91 人	82 人	90 人	84 人	93 人
志願倍率（B/A）	12.6 倍	10.3 倍	11.0 倍	10.5 倍	10.4 倍
定員充足率（C/A）	1.01 倍	0.91 倍	1.00 倍	0.93 倍	1.03 倍

表 9　環境創造工学科（※）の学生募集状況（平成 29 年度～令和 3 年度）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入学定員（A）	80 人	80 人	80 人	80 人	80 人
志願者数（B）	1,042 人	1,027 人	829 人	723 人	631 人
受験者数	1,005 人	1,005 人	806 人	707 人	618 人
合格者数	321 人	244 人	243 人	274 人	255 人
入学者数（C）	101 人	77 人	79 人	79 人	80 人
志願倍率（B/A）	13.0 倍	12.8 倍	10.4 倍	9.0 倍	7.9 倍
定員充足率（C/A）	1.26 倍	0.96 倍	0.98 倍	0.98 倍	1.00 倍

※令和元年度までは環境創造学科。

表 10　建築学科の学生募集状況（平成 29 年度～令和 3 年度）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入学定員（A）	145 人	145 人	145 人	145 人	145 人
志願者数（B）	2,601 人	2,217 人	2,262 人	2,420 人	2,219 人
受験者数	2,542 人	2,174 人	2,205 人	2,343 人	2,178 人
合格者数	501 人	577 人	583 人	699 人	645 人
入学者数（C）	139 人	150 人	147 人	141 人	157 人
志願倍率（B/A）	17.9 倍	15.3 倍	15.6 倍	16.9 倍	15.3 倍
定員充足率（C/A）	0.95 倍	1.03 倍	1.01 倍	0.97 倍	1.08 倍

③進学ブランド力調査 2020

リクルート進学総研が実施した「進学ブランド力調査 2020」における、東海地方（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）の高校生の分野別志願度ランキングのうち、「工学（電気・電子・情報）」分野で本学は 3 位（2 年連続／私立大学の中では 2 年連続 1 位）となった。【資料 2】

このことから、同分野に含まれる理工学部情報工学科への志願意向は高水準で推移しており、今回設置する情報工学部情報工学科においても安定的に学生を確保できる見込みがあると言える。

④高校生への進学意向アンケート

情報工学部情報工学科への進学ニーズの把握等を目的に実施した、高校生への進学意向アンケート調査を実施した。【資料 3】

本アンケートにより、令和 3 年 4 月に高校 1・2・3 年次生となる者を対象に①進学したいと考えている学問分野、②本学情報工学部情報工学科に対する進学希望の有無を調査した。基盤である東海地方から多くの志願者の獲得を目指すことを前提としつつ、全国的な情報系学部への進学ニーズや傾向を併せて確認することで、今後の学生募集戦略を形成するための一助とすること等を目的に、調査対象エリアを東海地方に加え、関東・近畿圏にも拡大した。

調査結果は次の通りである。有効回答数 1,237 件中、大学・短大・専門学校等への「進学を希望する」と回答した者は全学年合計 1,043 人であり、このうち、本学の情報工学部情報工学科への「進学を希望する」又は「進学先の候補の一つとして検討する」のいずれかで回答した者は全学年合計 317 人であっ

た。この学年別の内訳は 3 年生が 157 人中 33 人（21%）、2 年生が 430 人中 115 人（27%）、1 年生が 456 人中 169 人（37%）であった。本アンケート調査は情報工学部設置基本構想を説明し、実施したものであるが、各学年において情報系学部への進学意向を持つ者が一定割合存在することが明らかになった。

今後、本学情報工学部情報工学科が「進学先の候補の一つ」となるよう、情報系学部進学を検討する高校生をはじめとする幅広い層に対して、詳細な教育研究内容を伝えるとともに、「興味・関心のある層」は「進学を希望する層」へと発展するよう、戦略的な理解・広報活動を積極的に展開することによって、より多くの志願者確保に努めていく。

以上のように、これまでの理工学部情報工学科等の学生募集状況、並びに高校生の情報系学部への進学意向を踏まえると、情報工学部を進路選択肢に含む受験者が潜在的に多く存在していると言うことができる。したがって、本学の情報発信・広報活動によって安定的に志願者を確保し、定員を充足させることが十分に可能であると考えられる。

ウ　学生納付金の設定の考え方

情報工学部情報工学科の学生納付金は以下の通り、4 年間総額で 5,180,000 円に設定している。【表 11】この金額は、現行の理工学部情報工学科と同額である。

この学生納付金の設定を東海地区の競合大学や、関東・関西地方の他大学同系統学科と比較すると、概ね同水準に設定されており【表 12】、これまでの学生募集状況等に鑑みれば、本学が提供する教育内容並びに学修環境等に対して妥当な金額として社会から理解を得られていると考える。

表 11　名城大学情報工学部情報工学科の学生納付金

（単位：円）

大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	実験実習費 施設費等	年間総額	4 年間総額
名城大学 情報工学部 情報工学科	1	200,000	935,000	310,000	1,445,000	5,180,000
	2	－	935,000	310,000	1,245,000	
	3	－	935,000	310,000	1,245,000	
	4	－	935,000	310,000	1,245,000	

諸会費等は含まず。（以下同様）

表 12　他大学の情報系学部における学生納付金（令和 3 年度入学生）

（単位：円）

大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	実験実習費 施設費等	年間総額	4 年間総額
大同大学 情報学部 情報システム学科	1	300,000	890,000	315,000	1,505,000	5,300,000
	2	－	910,000	325,000	1,235,000	
	3	－	930,000	335,000	1,265,000	
	4	－	950,000	345,000	1,295,000	
大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	実験実習費 施設費等	年間総額	4 年間総額
中京大学 工学部 情報工学科	1	200,000	935,000	445,000	1,580,000	5,720,000
	2	－	935,000	445,000	1,380,000	
	3	－	935,000	445,000	1,380,000	
	4	－	935,000	445,000	1,380,000	
大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	実験実習費 施設費等	年間総額	4 年間総額
東京理科大学 工学部 情報工学科	1	300,000	1,030,000	330,000	1,660,000	5,740,000
	2	－	1,030,000	330,000	1,360,000	
	3	－	1,030,000	330,000	1,360,000	
	4	－	1,030,000	330,000	1,360,000	
大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	実験実習費 施設費等	年間総額	4 年間総額
東京電機大学 システムデザイン工学部 情報システム工学科	1	250,000	907,000	494,000	1,651,000	6,058,000
	2	－	931,000	494,000	1,425,000	
	3	－	955,000	524,000	1,479,000	
	4	－	979,000	524,000	1,503,000	
大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	実験実習費 施設費等	年間総額	4 年間総額
京都産業大学 情報理工学部 情報理工学科	1	200,000	1,008,000	296,000	1,504,000	6,010,000
	2	－	1,009,000	493,000	1,502,000	
	3	－	1,009,000	493,000	1,502,000	
	4	－	1,009,000	493,000	1,502,000	
大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	実験実習費 施設費等	年間総額	4 年間総額
立命館大学 情報理工学部 情報理工学科	1	200,000	1,566,200	0	1,766,200	6,464,800
	2	－	1,566,200	0	1,566,200	
	3	－	1,566,200	0	1,566,200	
	4	－	1,566,200	0	1,566,200	

各大学ホームページ等による公表情報を基に集計。

（2）学生確保に向けた具体的な取組状況

①多様な入試方式の実施

本学では、「一般選抜」及び「総合型選抜」等により、多様な観点から受験者の評価に努めている。「一般選抜」では、本学キャンパス以外に北海道から沖縄県まで全国 16 地区に試験会場を設定し、受験者の負担軽減、並びに多様な学生の確保を図っている。また、情報工学部では、「総合型選抜」の１つとして「プログラミング実績評価入試」を導入する。「プログラミング実績評価入試」はプログラミングを含む情報工学部の学びに関わる各種コンテスト等における実績又はソフトウェアの開発実績等に基づき、評価する。

②広報活動について

本学では、学生確保や社会への理解活動のため、入学センター及び渉外部広報課を中心に、積極的に広報活動を展開している。情報工学部情報工学科の設置については、文部科学省が示す PR 活動及び学生募集に係るルールを遵守した上で、本学ウェブサイト等の広報媒体、オープンキャンパスをはじめとする各種説明会等を通し、学生確保に向け組織的な取り組みを展開していく。【資料 4】

新型コロナウイルス感染症発生後は従来の対面形式での広報活動が困難となったが、オンライン形式での実施が可能な活動は実施方法を変更し、本学の特色や入試に関する情報提供を行い、受験生、保護者、高校関係者等の本学に対する理解を促進するとともに、志願者の確保に努めている。各活動の概要は次のとおりである。

オープンキャンパス

例年は各キャンパスにおいて、学部紹介・入試相談会・キャンパスツアー等の企画を行い、平成 28 年度以降は毎年 17,000 人を超える来場者数であった。

令和 2 年度は対面実施を中止し、「WEB OPEN CAMPUS」と題し、特設ページ上でのコンテンツ配信により、対面形式と同等の企画を実施した（令和 2 年 7 月 31 日～一般選抜実施時期までの常時公開）。【資料 5】

進学懇談会

高等学校の進路担当教員等と本学教職員との意見交換、及び本学の特色や入試に関する情報提供を内容とする進学懇談会を実施している。

高校訪問

高等学校と本学との相互理解の促進を目的に、本学の入試広報担当職員が主に中部地区の高等学校を訪問し、進路担当教員に対して本学の特色や入試に関する情報提供を行っている。

キャンパス見学会

進路検討の一環として、本学キャンパスの見学を希望する高等学校を対象に、大学紹介・施設見学等を内容とするキャンパス見学会を実施している。

進学相談会

高校生の進学意欲醸成を目的に、本学の入試広報担当職員が高等学校等を訪問し、本学への進学希望者に本学の特色や入試に関する説明・質疑応答を行う進学相談会を実施している。

本学ホームページへの情報掲載

入試特別ページ「Meijo Navi」を開設し、本学の入試に関する情報や、教育研究・学生生活・就職支援等の受験者が求める情報を本ページに一元化している。【資料 6】

情報工学部については、特設サイトを開設し、学部の特色等をわかりやすく、かつ具体的に伝えるように掲載していく（https://www.ie.meijo-u.ac.jp/）。

出前講義

本学の知的財産を地域社会に還元し社会貢献に寄与することを目的に、学校及び自治体等からの依頼に基づき、本学教職員を派遣している。高校生には大学の模擬授業を通じた「学び」への関心の高まりによる進学意欲の醸成・向上が期待できる。

③本学独自の給付型奨学金制度による経済的支援について

本学では、学部生等を対象とした独自の給付型奨学金制度を設けており、経済的理由により修学が困難な学生や学業優秀学生に対し、経済的支援を行っている。【資料 7】

また、本学は「高等教育の修学支援新制度」の対象機関に認定されており、支援要件に該当する学生は本制度による支援を受けられる。

2. 人材需要の動向等社会の要請

（1）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

情報工学部情報工学科が目指す人材養成は、教育・研究両面における理工学部をはじめとする他学部との連携を進め、様々な分野の人々と協調して問題を解決することのできる人材である。すなわち、情報技術という自分の強みを持ちながらも、他分野の人と協働することで、自分一人の手に負えないほどの大きな課題を解決していける人材を養成したいと考えている。

また、情報工学部情報工学科は情報分野の中でも「工」にこだわる。今後社会の課題に取り組むときに重要視されるのは、アイデアを単にアイデアでなく、きちんと「カタチにする」ことであると考え、モノづくりに源流を持つ工学のマインドを持った情報技術者を育てる。

（2）上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①AI 等人材に関する社会的、地域的な人材需要動向

内閣に設置されている「統合イノベーション戦略推進会議」が令和元年 6 月に決定した「AI 戦略 2019」においては、Society 5.0 の実現を通じた世界規模の課題解決への貢献、並びに我が国自身の社会課題も克服するための基盤作りの一つとして、「教育改革と研究開発体制の再構築」の必要性が示された。令和 7 年までの具体的目標として、「データサイエンス・AI を理解し、各専門分野で応用できる人材を育成（約 25 万人/年）」等が掲げられ、教育機関には当該知識・技術を有する人材を養成することが求められている。【資料 8】

また、愛知県が ICT 利活用・DX 推進の今後の展開を示すため、令和 2 年 12 月に策定した「あいち DX 推進プラン 2025」（計画期間：令和 3 年度～令和 7 年度）においては、同県の行政及び社会全体のデジタル化を推進するとともに、そのためには、数理、データサイエンス、AI、ICT 等の知識・技術を有するデジタル人材の育成・確保に取り組む必要があることが示されている。取り組みの一例として、モノ

づくりが盛んな当地域における IoT 人材の需要拡大を見込み、県内の情報系学部・学科を有する大学や県内経済団体と連携した PBL（課題解決型学習）の実施も想定されている。【資料 9】

以上を踏まえ、数理、データサイエンス、AI 等教育の更なる充実の必要性、重要性から、社会的、地域的な人材需要があると言える。

②理工学部情報工学科卒業生の就職状況（平成 28 年度～令和 2 年度卒業生）

理工学部情報工学科卒業生の過去 5 年間における就職状況は、「就職率」が 97.4%～100.0%、「実就職率」が 91.9%～99.1%と高水準を維持している。これは、文部科学省及び厚生労働省から毎年 5 月頃に公表される「大学等卒業予定者及び高校卒業者の就職状況調査」における対象大学全体の就職率（令和元年度：98.0%、平成 30 年度：97.6%、平成 29 年度：98.0%、平成 28 年度：97.6%）と比較しても優れた水準であることから、同学科が輩出する人材への社会的な需要がある。加えて、受入求人者数は近年 14,000 社程（令和 2 年度のみ約 13,000 社）で推移していることから、情報工学部情報工学科においても安定的な人材需要を見込むことができる。【表 13】

また、就職者のうちおよそ半数が、本学が位置する愛知県名古屋市を含む東海三県の企業等に就職しており、地域的な人材需要があると言える。

表 13　理工学部情報工学科卒業生の就職状況（平成 28 年度～令和 2 年度卒業生）

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
卒業生数（A）	135 人	134 人	138 人	138 人	152 人
就職希望者数（B）	107 人	111 人	113 人	115 人	117 人
進学者数（D）	23 人	22 人	22 人	16 人	28 人
受付求人社数	15,215 社	14,834 社	14,137 社	14,019 社	12,946 社
就職者数（C）	107 人	111 人	112 人	114 人	114 人
東海三県への就職者数	69 人	74 人	72 人	62 人	73 人
就職率（C / B）	100.0%	100.0%	99.1%	99.1%	97.4%
実就職率（C /（A－D））	95.5%	99.1%	96.6%	93.4%	91.9%

※「令和 2 年度」の数値は、令和 3 年 4 月 7 日時点。

※「就職率」「実就職率」は小数第 2 位を四捨五入。

以　上

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

【資料 1】独立行政法人情報処理推進機構「IT 人材白書 2020」（抜粋）・・・・・・・P. 2

【資料 2】リクルート進学総研「進学ブランド力調査 2020」（抜粋）・・・・・・・・P. 3

【資料 3】高校生向けアンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 4

【資料 4】学生確保に向けた広報活動の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 13

【資料 5】名城大学 WEB OPEN CAMPUS（イメージ）・・・・・・・・・・・・・・・・P. 14

【資料 6】受験生応援サイト「Meijo Navi」（イメージ）・・・・・・・・・・・・・・P. 15

【資料 7】名城大学　学内奨学金制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 16

【資料 8】AI 戦略 2019（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 18

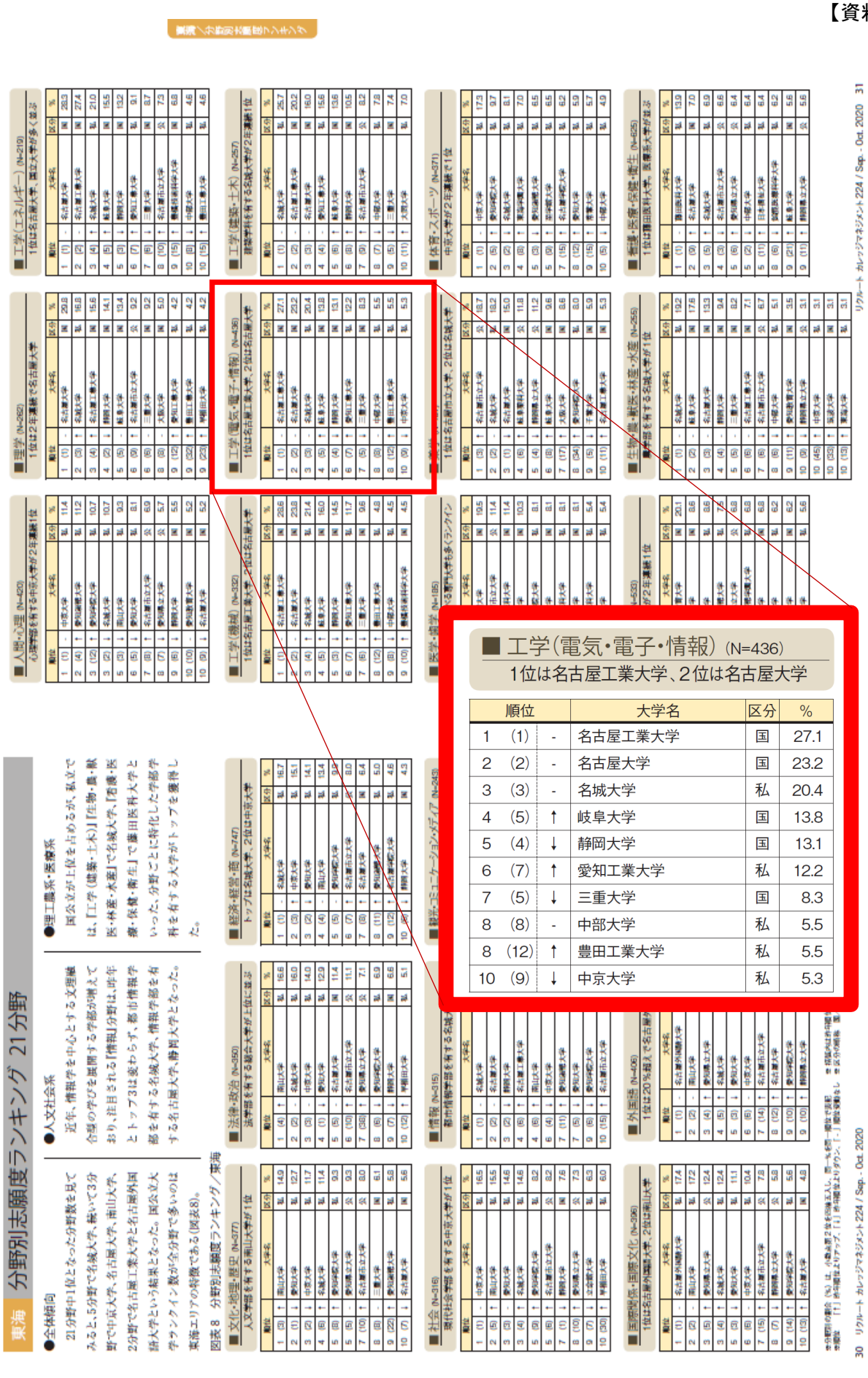
【資料 9】あいち DX 推進プラン 2025（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 19

【資料 1】

独立行政法人情報処理推進機構「IT 人材白書 2020」概要　18 ページ

IT 企業における IT 人材の“量”に対する過不足感

https://www.ipa.go.jp/files/000085256.pdf



■ 工学（電気・電子・情報）（N=436）
1位は名古屋工業大学、2位は名古屋大学

順位			大学名	区分	%
1	(1)	-	名古屋工業大学	国	27.1
2	(2)	-	名古屋大学	国	23.2
3	(3)	-	名城大学	私	20.4
4	(5)	↑	岐阜大学	国	13.8
5	(4)	↓	静岡大学	国	13.1
6	(7)	↑	愛知工業大学	私	12.2
7	(5)	↓	三重大学	国	8.3
8	(8)	-	中部大学	私	5.5
8	(12)	↑	豊田工業大学	私	5.5
10	(9)	↓	中京大学	私	5.3

リクルート進学総研「進学ブランド力調査 2020」（リクルートカレッジマネジメント 224　31 ページ）

http://souken.shingakunet.com/college_m/2020_RCM224_04.pdf　（一部加工）

名城大学 情報工学部情報工学科（仮称）の設置に関するアンケート調査結果

1．調査目的　：　2022（令和 4）年度の設置を構想している本学情報工学部情報工学科（仮称）について、高校生からの進学ニーズを把握する。これまでの本学への入学実績を考慮し、調査対象エリアを関東圏、中部圏、近畿圏に在住する高校生とした。

2．調査概要　：

調査対象	2021（令和 3）年 4月以降高校 1、2、3 年生となる者
調査エリア	関東圏（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川） 中部圏（富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重） 近畿圏（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）
調査方法	ウェブ調査
調査実施期間	2021（令和 3）年 3 月 8 日から 3 月 16 日
有効回答数	1,237 件
調査委託先	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

3．調査項目　：　別紙「調査票」参照

4．調査結果　：

各選択肢の％は小数点第 2 位以下を四捨五入しており、合計が 100.0%とならない場合がある。

1）回答者属性

①性別

		n	%
	全体	(1,237)	
1	男性	366	29.6
2	女性	871	70.4

②学年

		n	%
	全体	(1,237)	
1	高校 1 年生	527	42.6
2	高校 2 年生	516	41.7
3	高校 3 年生	194	15.7

③地域

		n	%
	全体	(1.237)	
1	関東圏	618	50.0
2	中部圏	310	25.1
3	近畿圏	309	25.0

2）調査結果

Q1 あなたの進路についておたずねします。

あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。

次の中から 1 つ選んでください。

		n	%
	全体	(1,237)	
1	大学進学	821	66.4
2	短期大学進学	35	2.8
3	専門学校進学	187	15.1
4	就職	163	13.2
5	その他	31	2.5

Q2 あなたが進学したいと考えている分野はどれですか。

次の中から第 2 希望まで選んでください。

※Q1 で 4.5 を選択した者は除外し、 1～3 を選択した N＝1,043 を対象とする。

		n	%
	全体	(1,043)	
1	理学・工学（数学、物理学、化学、生物学、情報学、機械工学、電気電子工学、建築学など）	244	23.4
2	社会科学（法学・政治学、商学・経営学、経済学、社会学など）	281	26.9
3	人文科学（文学、史学、哲学、心理学、外国語など）	247	23.7
4	農学（農学、農業経済学、林学、水産学など）	53	5.1
5	医学・歯学・薬学	136	13.0
6	保健衛生学（リハビリテーション学、看護学、臨床検査学、放射線など）	116	11.1
7	教育学・教員養成（幼稚園・小学校・中学校・高等学校等の教員養成、保育士など）	117	11.2
8	家政学（生活科学、食物学、住居学、被服学など）	70	6.7
9	芸術学（音楽、デザイン、美術など）	130	12.5
10	その他	86	8.2

Q3 名城大学では、2022 年 4月に既存の理工学部情報工学科を発展させた「情報工学部 情報工学科」設置を検討しています。あなたはこの「情報工学部」に進学したいと思いますか。

次の中から 1 つ選んでください。

※Q1 で 4.5 を選択した者は除外し、 1～3 を選択した N＝1,043 を対象とする。

		n	%
	全体	(1,043)	
1	進学を希望する	36	3.5
2	進学先の候補の一つとして検討する	281	26.9
3	進学を希望しない	726	69.6

学年別内訳

		高校 1 年生		高校 2 年生		高校 3 年生	
		n	%	n	%	n	%
	全体	(456)		(430)		(157)	
1	進学を希望する	22	4.8	12	2.8	2	1.3
2	進学先の候補の一つとして検討する	147	32.2	103	32.7	31	19.7
3	進学を希望しない	287	62.9	315	73.3	124	79.0

以上

あなたご自身に関するアンケート

下記アンケートにご協力お願いいたします。

「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。決して第三者に口外しないよう、ご協力お願いします。

アンケート中は、ブラウザの「戻る」ボタンは押さぬようご注意ください。

戻る

回答をやめる　次へ

(戻るボタンは回答者には表示されません)

© Macromill,Inc. All Rights Reserved.

Q1 50%

あなたの現住所についておたずねします。
次の中から1つ選んでください。

単一回答 ★ 必須回答 ▲ とじる

【関東】

1. 茨城県
2. 栃木県
3. 群馬県
4. 埼玉県
5. 千葉県
6. 東京都
7. 神奈川県

【中部】

8. 富山県
9. 石川県
10. 福井県
11. 山梨県
12. 長野県
13. 岐阜県
14. 静岡県
15. 愛知県
16. 三重県

【近畿】

17. 滋賀県
18. 京都府
19. 大阪府
20. 兵庫県
21. 奈良県
22. 和歌山県

23. その他

戻る 次へ

Q2

100%

2021年4月からのあなたの学年についておたずねします。
次の中から1つ選んでください。

単一回答　必須回答

▲ とじる

1 高校1年生

2 高校2年生

3 高校3年生

4 その他／高校生ではない

アンケートは以上で終わりです。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

戻る

送　信

大学に関するアンケート

下記アンケートにご協力お願いいたします。

・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー

このアンケート調査は、2021年4月以降に高校1～3年生となる皆さんの進路についてお聞きし、2022年4月設置を構想している名城大学情報工学部の基礎資料にするものです。
なお、このアンケート調査の結果は、統計資料としてのみ用い、その他の用途に使用することはありません。
ご協力をお願いします。

・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー

「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。決して第三者に口外しないよう、ご協力お願いします。

アンケート中は、ブラウザの「戻る」ボタンは押さぬようご注意ください。

戻る

回答をやめる　次へ

(戻るボタンは回答者には表示されません)

© Macromill,Inc. All Rights Reserved.

Q1

33%

あなたの進路についておたずねします。
あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。
次の中から1つ選んでください。

単一回答　必須回答　▲ とじる

1. 大学進学
2. 短期大学進学
3. 専門学校進学
4. 就職
5. その他 (必須入力)

戻る　次へ

Q2

66%

あなたが進学したいと考えている分野はどれですか。
次の中から第2希望まで選んでください。

✔ 複数回答（2個まで選択）　★ 必須回答　▲ とじる

1	理学・工学（数学、物理学、化学、生物学、情報学、機械工学、電気電子工学、建築学など）
2	社会科学（法学・政治学、商学・経営学、経済学、社会学など）
3	人文科学（文学、史学、哲学、心理学、外国語など）
4	農学（農学、農業経済学、林学、水産学など）
5	医学・歯学・薬学
6	保健衛生学（リハビリテーション学、看護学、臨床検査学、放射線など）
7	教育学・教員養成（幼稚園・小学校・中学校・高等学校等の教員養成、保育士など）
8	家政学（生活科学、食物学、住居学、被服学など）
9	芸術学（音楽、デザイン、美術など）
10	その他 (必須入力)

戻る　次へ

100%

情報工学部　情報工学科　の特色

【興味と適性に応じて選べる2つのコース】
総合コース：
情報工学の異なる4つの領域から自らが選んだプログラムを中心に、情報工学の考え方や技術を深く体系的に学びます。
先進プロジェクトコース：
PBL（Project　Based　Learning）教育を導入し、実社会で利用されている情報工学を実践的・体験的に学びます。

【情報工学を広くカバーする4つのプログラム】
　情報処理技術の基礎を学んだうえで、卒業までに1つ以上のプログラムを修得します。意欲次第で全プログラムを修了することも可能です。

(1) フィジカルコンピューティングプログラム：
情報を実体化する分野を扱います。情報を取得するためのハードウェアとそれを利用するためのソフトウェア、その両方のしくみを理解します。
(2) データエンジニアリングプログラム：
情報を処理する分野を扱います。基本ソフトウェアをはじめとするソフトウェアの原理や、情報管理、アルゴリズム、知識情報処理の方法論を理解します。
(3) ヒューマン・メディアプログラム：
情報を表現する分野を扱います。画像・音・言語などのメディアから情報を抽出するしくみや、それらを加工して利用する方法を理解します。
(4) ネットワークシステムプログラム：
情報を交換する分野を扱います。伝送路を介して情報を高速に伝える方法や、ネットワークを介して情報を確実かつ安全に交換するしくみを理解します。

詳細は【https://www.meijo-u.ac.jp/】をご覧ください。

Q3
名城大学では、2022年4月に既存の理工学部情報工学科を発展させた「情報工学部　情報工学科」設置を検討しています。
あなたはこの「情報工学部」に進学したいと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

単一回答　★ 必須回答　とじる

1　進学を希望する
2　進学先の候補の一つとして検討する
3　進学を希望しない

アンケートは以上で終わりです。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

戻る　送　信

学生確保に向けた広報活動の取組状況（予定）

【刊行物・広告等】

No.	発行・掲載	媒体	刊行物・広告掲載誌名
1	2021年6月	WEB	進研模試デジタルサービスPR企画
2	2021年6月	DM	マナビジョンEXPRESS
3	2021年6月	進学雑誌	SELFBRAND
4	2021年9月	進学雑誌	栄冠を目指してvol.2
5	2021年11月	WEB	進研模試デジタルサービスPR企画
6	2022年1月	進学雑誌	進学事典1月
7	2022年2月	進学雑誌	大学発見ナビ
8	2022年2月	進学雑誌	君はどの大学を選ぶべきか
9	2022年3月	進学雑誌	栄冠を目指してvol.1

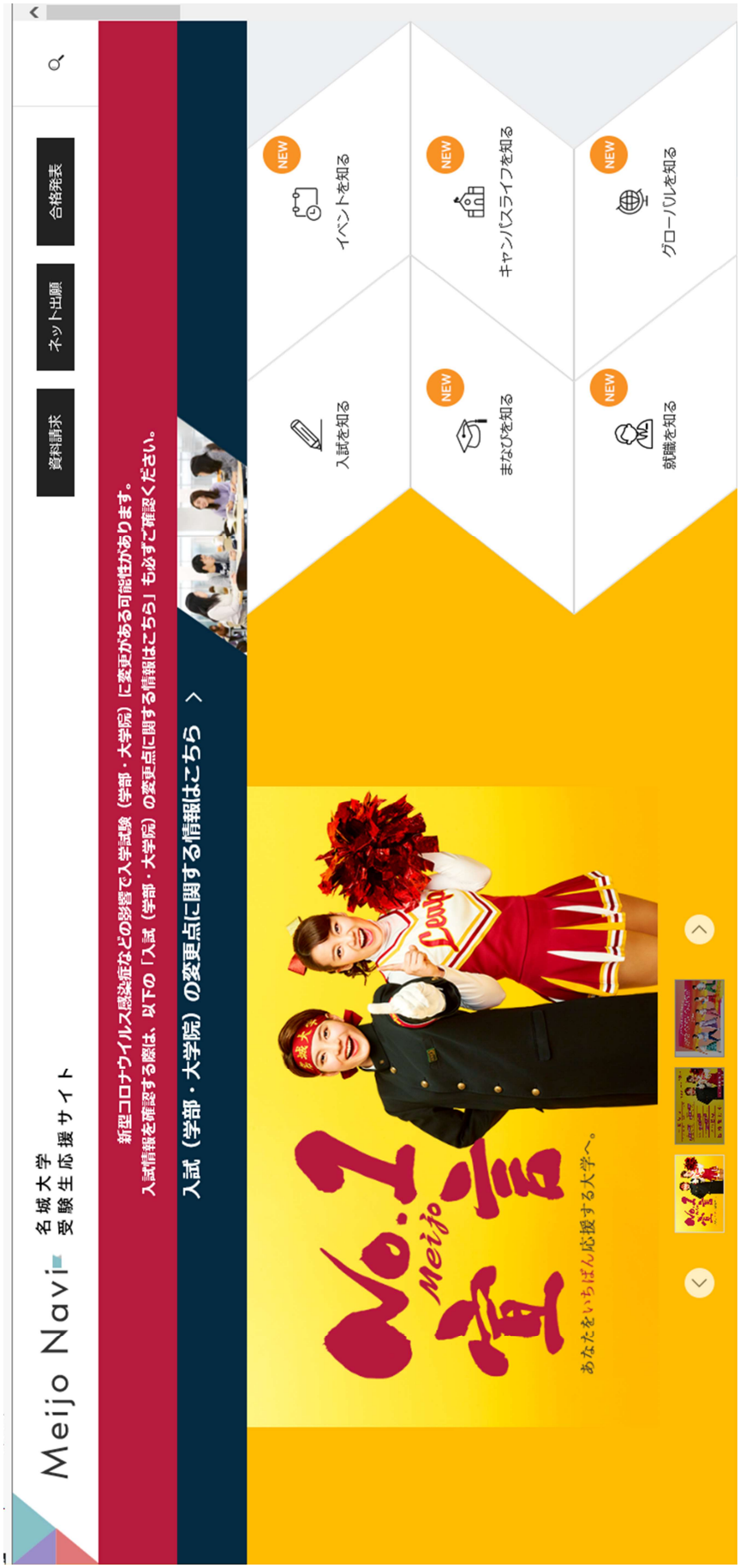
【入試説明会等】

No.	開催	区分	開催地	会場	主催者
1	2021年5月頃	相談会	岐阜	じゅうろくプラザ	私大広報委員会
2	2021年5月頃	相談会	静岡	ツインメッセ静岡	私大広報委員会
3	2021年5月頃	相談会	名古屋	ウインクあいち　7・8階展示場	私大広報委員会
4	2021年5月頃	相談会	名古屋	ウインクあいち　7・8階展示場	私大広報委員会
5	2021年6月頃	相談会	浜松	アクトシティ浜松	私大広報委員会
6	2021年6月頃	相談会	豊橋	ロワジールホテル豊橋	私大広報委員会
7	2021年6月頃	進学懇談会	名古屋	天白・ナゴヤドーム前キャンパス	名城大学入学センター
8	2021年6月頃	相談会	四日市	じばさん三重	私大広報委員会
9	2021年8月頃	相談会	豊橋	ロワジールホテル豊橋	私大広報委員会
10	2021年8月	オープンキャンパス	名古屋	天白キャンパス	名城大学入学センター
11	2021年9月頃	相談会	岐阜	じゅうろくプラザ	私大広報委員会
12	2021年9月頃	相談会	浜松	アクトシティ浜松	私大広報委員会
13	2021年9月頃	相談会	四日市	じばさん三重	私大広報委員会
14	2021年9月頃	相談会	名古屋	ウインクあいち　7・8階展示場	私大広報委員会
15	2021年9月頃	相談会	名古屋	ウインクあいち　7・8階展示場	私大広報委員会
16	随時	見学会	名古屋	天白キャンパス	名城大学入学センター
17	随時	相談会	主に愛知・岐阜・三重		各業者
18	随時	高校説明会	主に愛知・岐阜・三重		各業者

【資料 5】

名城大学 WEB　OPEN　CAMPUS　イメージ

https://www.meijo-u.ac.jp/admissions/event/web_open_campus/（期間限定公開）



受験生応援サイト「Meijo Navi」　イメージ

https://www.meijo-u.ac.jp/admissions/

名城大学　学内奨学金制度

(1) 学業優秀に関する奨学金

種類	資格	人数	給付額
入試成績優秀奨学生	一般入学試験（A 方式）において、各学部成績上位の合格者（対象者約 400 名）の内、入学した者	対象者全員	授業料年額の 1/2 （入学年度のみ対象）
学業優秀奨励制度	新 3 年次生で、2 年次までの学業成績および人物優秀者（薬学科は新 5 年次生で、4 年次までの学業成績および人物優秀者）	260 人	3 万円相当の 金品
学業優秀奨学生	新 4 年次生で、3 年次までの学業成績および人物優秀者	各学科で 1 人（薬学科は 2 人）	授業料年額の 1/2

(2) 修学援助に関する奨学金

種類	資格	人数	給付額
修学援助 A 奨学生	学部生（1 年次を除く）で修学の意思があるにもかかわらず、経済的理由により修学が困難な者。	90 人以内	年額一律 30 万円
修学援助 B 奨学生	学部生、大学院生で主たる家計支持者（学費負担者）の死亡、疾病、失業（自己都合を除く）、または、火災、風水害等の被害により家計が急変し、修学の意思があるにもかかわらず、経済的に著しく困難となった者。	該当者	年額一律 30 万円
利子補給奨学生	経済的な理由により、本学と提携する銀行の教育ローンを利用した者	該当者	当該年度までの学費を限度とする借入額の支払利子に、教育ローン利用者の年収に応じた給付率（50%または 100%）を乗じた額
大規模自然災害経済支援奨学生	災害救助法が適用された（または外務省による国際緊急援助が行われた）大規模自然災害により家計が急変し、修学が困難になった学生および入学試験出願者。	該当者	授業料・実験実習費・施設費の年額、または年額の 1/2。 入学試験出願者については、加えて入学検定料、入学金の全額

(3) その他の奨学金

種類	資格	人数	給付額
社会人学生奨学生	社会人入学試験により入学した学部生	該当者	授業料および 実験実習費年額の 1/2

種類	資格	人数	給付額
私費外国人留学生A奨学生	在留資格が「留学」の私費外国人留学生で、経済的に就学困難であると認められる者	該当者	授業料年額の3/10
派遣交換留学奨学生	交換留学制度に基づく留学を認められた者で人物･学業成績優秀者、または各該当語学の語学能力検定試験高得点取得者。	30人以内	［アジアへの交換留学］ 月額：4万円 ［アジア以外への交換留学］ 月額：6万円
海外研修奨学生	本大学の大学間学術交流協定（条件を満たす学部または研究科間を含む）に基づく海外研修者で、研修期間が7日以上の者。ただし、人間学部の海外研修は除く。	該当者	5万円
海外英語研修派遣支援A奨学生	国際化推進センターが募集する海外英語研修プログラムまたは学部等と国際化推進センターによる連携海外英語研修プログラムに参加する者で、学部等の国際委員会が実施する選考により採用された者 ※海外英語研修プログラムとは、外国における本大学の大学間学術交流協定校（条件を満たす学部または研究科間を含む。）または国際化推進センターによる認定校で、主として英語能力の向上を目的とした学習を行うものを指す。	毎年180人以内	20万円または研修費用総額の1/2のいずれか少ない額
海外英語研修派遣支援B奨学生	国際化推進センターが募集する海外英語研修プログラムまたは学部等と国際化推進センターによる連携海外英語研修プログラムに参加する者 ※海外英語研修プログラムとは、外国における本大学の大学間学術交流協定校（条件を満たす学部または研究科間を含む。）または国際化推進センターによる認定校で、主として英語能力の向上を目的とした学習を行うものを指す。	該当者	5万円
本学卒業等補助奨学生	(1)本学卒で研究科、他の学部へ入学する者 (2)本学に籍を置いた者で退学ののち、再度入学する者	該当者	入学金の額
校友会奨学生	人物優秀者で学業成績または体育技能優秀者	校友会が指定	校友会が決定

各種奨学制度は、授業料・実験実習費・施設費の年額を超えない範囲で重複可能。ただし、本学卒業等補助奨学生と校友会奨学生の特別奨学生は、授業料・実験実習費・施設費の年額の範囲を超えて重複可能。

「AI 戦略 2019」概要版　3 ページ

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/tizai/brand/attach/pdf/ai-15.pdf

あいちＤＸ推進プラン 2025

～デジタルで生まれ変わる愛知～

2020 年 12 月

愛知県

あいち DX 推進プラン 2025　45 ページ

Ⅲ　主要取組事項　6　デジタル人材の育成＜産業人材育成＞

https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/320854_1249228_misc.pdf　（一部加工）

＜産業人材育成＞

◆　中小企業におけるデジタル技術の利活用を促進するため、デジタル技術を活用した経営改善の意識向上を目的とした経営層向けのセミナーや、現場でデジタル技術を導入、利活用していくための研修会等を実施する。

◆　高等技術専門校での IoT 技術者になるための職業訓練の実施などを通じ、ICT スキルを高めたモノづくり人材を育成する。

◆　農業現場で導入が進みつつあるスマート農業に対応し、更に普及していくため、愛知県立農業大学校において ICT 等を活用したスマート農業技術に関する教育を行うことで、次世代の農業を担う人材育成を図る。

◆　農業高校において、最先端の IoT、ICT を活用したスマート農林業設備を導入し、次世代の農林業人材を育成する「先端農業技術者育成事業」「スマート林業担い手育成事業」を新たに実施する。

◆　森林・林業分野への ICT の導入を推進するため、航空レーザ計測データの活用方法やドローンの操作など、ICT を活用する新たな技術の習得を目的とした各種研修を実施する。

◆　農業大学校の研修を受講している就農希望者にデジタルコンテンツによる遠隔授業（オンライン研修）を行うことで、次世代の農業を担う人材育成を図る。

◆　新たなロボット競技会の実施により、ロボット産業を支える人材の創出を促進する。

◆　IoT 技術の著しい進展に鑑み、モノづくりが盛んな当地域において今後ますます地元での IoT 人材の育成が必要になることから、IoT 人材の確保・育成を図るため、大学生等が IT 関連の新たな製品・サービスを開発するハッカソンを開催する。

◆　県内産業の維持・発展に不可欠な IoT 人材を育成するため、県内の情報系学部・学科を有する大学や県内経済団体と連携し、企業への長期インターンシップや、企業と連携した PBL（課題解決型学習）の実施を調整する。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ｵﾊﾗ ｱｷﾋﾛ 小原　章裕 ＜平成31年4月＞		学術博士		名城大学学長 （平成31.4～令和5.3）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（情報工学部情報工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ﾅｶﾉ ﾄﾓｱｷ 中野　倫明 〈令和4年4月〉		工学博士		情報工学の世界※ 電気電子回路Ⅰ コンピュータビジョン 離散数学 キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 情報技術の応用と職業※ 卒業研究	1前 2前 3後 1前 3後 3後 3前 3後 4通	0.4 6 4 6 0.1 1 0.1 0.5 4	2 3 2 3 1 1 1 2 1	名城大学 理工学部 教授 (平成16年4月)	5日
2	専	教授 (学部長)	ｻｶﾞﾜ ﾕｳｼﾞ 佐川　雄二 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ コンパイラ 言語情報処理 キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 卒業研究	1前 3前 4前 3後 3後 3前 4通	0.4 4 2 0.1 1 0.1 4	2 2 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成20年4月)	5日
3	専	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾐﾂ 田中　敏光 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ マルチメディア基礎 コンピュータグラフィックス 情報工学実験Ⅱ※ インターンシップ キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 情報技術の応用と職業※ 先進プロジェクト実験Ⅰ※ 卒業研究	1前 1前 3前 2後 3後 3後 3後 3前 3後 3前 4通	0.4 6 4 2 1 0.1 1 0.1 0.5 2 4	2 3 2 2 1 1 1 1 2 2 1	名城大学 理工学部 教授 (平成12年4月)	5日
4	専	教授	ﾑｶｲ ﾄｼﾊﾙ 向井　利春 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 情報工学の世界※ システム制御 フィジカルコンピューティング センサ工学 電磁気学 キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 先進プロジェクト実験Ⅱ※ 卒業研究	1前 1後 1前 3前 3後 4前 2前 3後 3後 3前 3後 4通	1 1 1.2 4 2 2 2 0.1 1 0.1 2 4	1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 2 1	名城大学 理工学部 教授 (平成27年4月)	5日
5	専	教授	ﾔﾅｷﾞﾀﾞ ﾔｽﾕｷ 柳田　康幸 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ 電気電子回路Ⅱ ディジタル信号処理Ⅰ バーチャルリアリティ キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ アプリケーション開発 卒業研究	1前 3前 2前 4前 3後 3後 3前 2後 4通	1.2 4 6 2 0.1 1 0.1 4 4	2 2 3 1 1 1 1 2 1	名城大学 理工学部 教授 (平成17年4月)	5日
6	専	教授	ﾔﾏﾀﾞ ｹｲｲﾁ 山田　啓一 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ ディジタル回路Ⅱ 人工知能 パターン認識 キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 先進プロジェクト実験Ⅱ※ 卒業研究	1前 2後 3前 3後 3後 3後 3前 3後 4通	0.9 6 6 2 0.1 1 0.1 2 4	2 3 3 1 1 1 1 2 1	名城大学 理工学部 教授 (平成19年4月)	5日
7	専	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾑﾈｵ 山田　宗男 〈令和4年4月〉		博士 (情報科学)		理工学概論※ 情報工学の世界※ ディジタル回路Ⅰ 画像処理 情報工学実験Ⅱ※ キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 卒業研究	1前 1前 2前 2後 2後 3後 3後 3前 4通	0.1 0.4 6 6 2 0.1 1 0.1 4	1 2 3 3 2 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成25年4月)	5日
8	専	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｵｻﾐ 山本　修身 〈令和4年4月〉		工学博士		理工学概論※ 情報工学の世界※ アルゴリズム・データ構造 数値解析 プログラミング言語論 応用アルゴリズム キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 先進プロジェクトゼミナール 卒業研究	1前 1前 2前 3前 3後 4前 3後 3後 3前 3前 4通	0.1 0.4 6 2 2 2 0.1 1 0.1 1 4	1 2 3 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成20年4月)	5日

9	専	教授	ﾖｼｶﾜ ﾏｻﾔ 吉川　雅弥 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		理工学概論※ 情報工学の世界※ コンピュータアーキテクチャⅠ コンピュータアーキテクチャⅡ 集積回路設計 キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 卒業研究	1前 1前 1後 3前 4前 3後 3後 3前 4通	0.1 0.4 6 4 2 0.1 1 0.1 4	1 2 3 2 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成24年4月)	5日
10	専	准教授	ｱｻﾋ ｹﾝｻｸ 旭　健作 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ プラクティカルICT 信号伝送論 プログラミング演習Ⅰ 情報工学実験Ⅱ※ キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 卒業研究	1前 1後 3後 1前 2後 3後 3後 3前 4通	1.2 2 2 3 2 0.1 1 0.1 4	2 2 1 3 2 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成28年4月)	5日
11	専	准教授	ｳｻﾐ ｼｮｳｺﾞ 宇佐見　庄五 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ 情報工学基礎演習 情報理論 符号理論 キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 情報技術の応用と職業※ 先進プロジェクト実験Ⅰ※ 卒業研究	1前 1前 2後 4前 3後 3後 3前 3後 3前 4通	0.4 2 6 2 0.1 1 0.1 0.3 2 4	2 2 3 1 1 1 1 2 2 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成20年4月)	5日
12	専	准教授	ｶﾒﾔ ﾖｼﾀｶ 亀谷　由隆 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ オペレーティングシステム データベース 情報工学実験Ⅱ※ キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 先進プロジェクト実験Ⅱ※ PBL概論 卒業研究	1前 2前 2前 2後 3後 3後 3前 3後 2後 4通	0.4 4 4 2 0.1 1 0.1 2 4 4	2 2 2 2 1 1 1 2 2 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成24年4月)	5日
13	専	准教授	ｶﾜｽﾐ ﾐｷｺ 川澄　未来子 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ 感性情報処理 プログラミング演習Ⅱ 情報工学実験Ⅰ※ グローバルゼミナール キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 卒業研究	1前 3後 1後 2前 1後 3後 3後 3前 4通	0.4 2 3 2 1 0.1 1 0.1 4	2 1 3 2 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成23年4月)	5日
14	専	准教授	ｺﾅｶ ｴｲｼﾞ 小中　英嗣 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ 応用解析 情報工学実験Ⅰ※ キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 創造的思考法 先進プロジェクト実験Ⅱ※ 卒業研究	1前 2後 2前 3後 3後 3前 1後 3後 4通	0.4 4 2 0.1 1 0.1 6 2 4	2 2 2 1 1 1 3 2 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成21年4月)	5日
15	専	准教授	ｽｽﾞｷ ﾋﾃﾞｶｽﾞ 鈴木　秀和 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ 情報通信ネットワーク 情報通信システム ワイヤレス通信 情報工学実験Ⅰ※ キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 先進プロジェクト実験Ⅱ※ 卒業研究	1前 1後 3後 4前 2前 3後 3後 3前 3後 4通	0.4 6 2 2 2 0.1 1 0.1 2 4	2 3 1 1 2 1 1 1 2 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成27年4月)	5日
16	専	准教授	ﾊﾞﾝﾉ ﾋﾃﾞｷ 坂野　秀樹 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ テクニカルリテラシー ディジタル信号処理Ⅱ 音声・音響信号処理 データサイエンス基礎 キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 卒業研究	1前 1後 2後 3後 2前 3後 3後 3前 4通	0.4 4 4 2 6 0.1 1 0.1 4	2 2 2 1 3 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成20年4月)	5日
17	専	准教授	ﾖﾈｻﾞﾜ ｺｳｷ 米澤　弘毅 〈令和4年4月〉		博士 (情報学)		理工学概論※ 情報工学の世界※ ソフトウェア工学 言語・オートマトン キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 研究開発リテラシー 先進プロジェクト実験Ⅰ※ 卒業研究	1前 1前 2後 2後 3後 3後 3前 2前 3前 4通	0.1 0.4 6 6 0.1 1 0.1 4 2 4	1 2 3 3 1 1 1 2 2 1	名城大学 理工学部 准教授 (令和2年4月)	5日
18	専	助教	ﾉｻﾞｷ ﾕｳｽｹ 野崎　佑典 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ 情報セキュリティ ハードウェア記述言語 プログラミング演習Ⅲ プログラミング演習Ⅳ キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 先進プロジェクト実験Ⅰ※ 卒業研究	1前 3前 3後 2前 2後 3後 3後 3前 3前 4通	0.4 4 2 2 2 0.1 1 0.1 2 4	2 2 1 2 2 1 1 1 2 1	名城大学 理工学部 助教 (令和2年4月)	5日

19	専	助教	ﾐｽﾞﾇﾏ ﾋﾛﾄ 水沼　洋人 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		情報工学の世界※ 数理計画法 確率・統計 情報工学実験Ⅰ※ キャリアゼミナール※ 研究ゼミナール 情報工学総合ゼミナール※ 先進プロジェクト実験Ⅰ※ 卒業研究	1前 4前 1後 2前 3後 3後 3前 3前 4通	0.4 2 4 2 0.1 1 0.1 2 4	2 1 2 2 1 1 1 2 1	名城大学 理工学部 助教 (平成19年4月)	5日
20	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ﾏｻﾉﾘ 松村　昌紀 〈令和4年4月〉		教育学 修士		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成22年4月)	
21	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ｴｲｿﾞｳ 中村　栄造 〈令和4年4月〉		文学 修士		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ 欧米文化論Ⅰ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	2前 2後 2前 1前 1後	1 1 2 1 1	1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成6年4月)	
22	兼担	教授	ﾐﾔｷﾀ ｹｲｺ 宮北　惠子 〈令和4年4月〉		文学 修士		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	2前 2後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成元年4月)	
23	兼担	教授	ﾅｶﾞｻﾜ ﾀｶｵ 長澤　崇雄 〈令和4年4月〉		文学 修士		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 欧米文化論Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	1前 1後 2後 1前 1後	1 1 2 1 1	1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成3年4月)	
24	兼担	教授	ｶﾄｳ ﾕｷﾋｻ 加藤　幸久 〈令和4年4月〉		体育学 修士		体育科学Ⅰ 体育科学Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成3年4月)	
25	兼担	教授	ｽｽﾞｷ　ｼｹﾞﾋﾛ 鈴木　茂廣 〈令和4年4月〉		体育学 修士		体育科学Ⅰ 体育科学Ⅱ 体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成5年4月)	
26	兼担	准教授	ｳﾁﾀﾞ ﾕｳｽｹ 内田　雄介 〈令和4年4月〉		博士 (医学)		体育科学Ⅰ 体育科学Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成25年4月)	
27	兼担	助教	ﾓﾘｸﾞﾁ　ﾏｲ 森口　舞 〈令和4年4月〉		博士 (政治学)		社会科学基礎Ⅰ 社会科学基礎Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 助教 (令和2年4月)	
28	兼担	准教授	ｵｵﾁ ｾｲｺ 大知　聖子 〈令和4年4月〉		博士 (文学)		アジア文化論Ⅰ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	2前 1前 1後	2 1 1	1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成30年4月)	
29	兼担	准教授	ﾅﾜ ﾋﾛﾋﾄ 名和 洋人 〈令和6年4月〉		博士 (経済学)		国際経済論	3前	2	1	名城大学 経済学部 准教授 (平成21年4月)	
30	兼担	教授	ｶｹﾞﾔﾏ ﾊｸﾄ 景山　伯春 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 化学Ⅰ 化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ 理工学概論※	1前 1後 1前 1前 1後 1前	1 1 4 2 2 0.1	1 1 2 2 2 1	名城大学 理工学部 教授 (平成22年4月)	
31	兼担	教授	ｿｳﾏ ﾋﾄｼ 相馬　仁 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成21年4月)	
32	兼担	教授	ﾏｴｶﾜ ｱｷﾋﾛ 前川　明寛 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成21年4月)	
33	兼担	教授	ﾅｶｼﾞﾏ ｺｳﾍｲ 中島　公平 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 理工学概論※	1前 1後 1前	1 1 0.1	1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成15年4月)	
34	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾏｻﾋﾛ 鈴木　昌弘 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミナールⅠ	1前	1	1	名城大学 理工学部 教授 (平成23年4月)	
35	兼担	教授	ﾆｼﾑﾗ ﾅｵﾔ 西村　尚哉 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成20年4月)	
36	兼担	教授	ﾔﾝ　ﾁｪﾝﾐﾝ 楊　劍鳴 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成12年4月)	
37	兼担	教授	ﾖｼﾋｻ　ｺｳｲﾁ 吉久　光一 〈令和4年4月〉		工学 博士		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (昭和59年4月)	
38	兼担	准教授	ｴﾉﾓﾄ ｱｷﾗ 榎本　暁 〈令和4年4月〉		文学 修士		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 英語基礎演習Ⅰ 英語基礎演習Ⅱ	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成16年10月)	
39	兼担	准教授	ﾐﾔﾀ ｷｸｺ 宮田 喜久子 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (令和2年4月)	
40	兼担	准教授	ｵｵｸﾗ ﾉﾌﾞﾕｷ 大藏　信之 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成15年4月)	

41	兼担	准教授	ｶﾀｷﾞﾘ　ﾉﾌﾞﾕｷ 片桐　誠之 〈令和4年4月〉		博士 (農学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (令和2年4月)	
42	兼担	講師	ﾊﾔﾌｼﾞ　ﾋﾃﾞﾄｼ 早藤　英俊 〈令和4年4月〉		工学士		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 講師 (昭和54年4月)	
43	兼担	教授	ﾂﾁﾀﾞ　ﾃﾂｵ 土田　哲生 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 数学基礎演習Ⅰ 数学基礎演習Ⅱ	1前 1後 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成26年4月)	
44	兼担	教授	ｽｽﾞｷ　ﾉﾘｱｷ 鈴木　紀明 〈令和4年4月〉		理学 博士		微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 教授 (令和2年4月)	
45	兼担	准教授	ｼﾊﾞﾀ　ﾏｻﾀｶ 柴田　将敬 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ 数学基礎演習Ⅰ 数学基礎演習Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (令和3年4月)	
46	兼担	准教授	ﾐﾏﾁ　ﾕｳｺ 三町　祐子 〈令和4年4月〉		博士 (情報科学)		微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成2年4月)	
47	兼担	准教授	ｶｼﾞ　ｼｭﾝｽｹ 鍛治　俊輔 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成29年4月)	
48	兼担	教授	ﾅｶﾞｻﾄ　ﾌﾐｶｽﾞ 長郷　文和 〈令和4年4月〉		博士 (数理学)		線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成20年4月)	
49	兼担	准教授	ｺﾉﾐ　ﾕﾀｶ 許斐　豊 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成29年4月)	
50	兼担	教授	ﾂﾁﾔ　ﾌﾞﾝ 土屋　文 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 物理学実験Ⅰ 物理学実験Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成22年4月)	
51	兼担	教授	ﾊﾞﾝﾄﾞｳ　ｼｭﾝｼﾞ 坂東　俊治 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成13年4月)	
52	兼担	准教授	ｵｻﾞﾜ　ﾏｻｷ 小澤　理樹 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成21年4月)	
53	兼担	助教	ｵｵｸﾎﾞ　ﾄｼﾕｷ 大久保 敏之 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 助教 (平成19年4月)	
54	兼担	准教授	ﾀﾅｶ　ﾀｶﾕｷ 田中　崇之 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		物理学実験Ⅰ 物理学実験Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成26年4月)	
55	兼担	准教授	ｼﾞﾝﾄﾞｳ　ｻﾀﾞﾅﾘ 神藤 定生 〈令和4年4月〉		博士 (学術)		化学Ⅱ	1後	4	2	名城大学 理工学部 准教授 (平成22年4月)	
56	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ　ﾀｹｼ 齊藤　毅 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		地学実験Ⅰ 地学実験Ⅱ	3前 3後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平成5年4月)	
57	兼担	教授	ｶﾄﾘ　ﾋﾛｱｷ 加島　裕明 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		理工学概論※	1前	0.1	1	名城大学 理工学部 教授 (平成2年4月)	
58	兼担	教授	ﾋﾗﾏﾂ　ﾐﾈｵ 平松　美根男 〈令和4年4月〉		工学 博士		理工学概論※	1前	0.1	1	名城大学 理工学部 教授 (昭和62年4月)	
59	兼担	教授	ﾀｹｳﾁ　ﾃﾂﾔ 竹内　哲也 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		理工学概論※	1前	0.1	1	名城大学 理工学部 教授 (平成22年4月)	
60	兼担	准教授	ﾀﾅｶ　ﾏｻﾖｼ 田中　正剛 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		理工学概論※	1前	0.1	1	名城大学 理工学部 准教授 (平成26年4月)	
61	兼担	教授	ｼﾐｽﾞ　ｹﾝｲﾁ 清水　憲一 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		理工学概論※	1前	0.1	1	名城大学 理工学部 教授 (平成26年4月)	
62	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ﾏｽﾐ 井上　真澄 〈令和4年4月〉		工学 博士		理工学概論※	1前	0.1	1	名城大学 理工学部 教授 (平成25年4月)	
63	兼担	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ　ｺｳｲﾁ 渡辺　孝一 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		理工学概論※	1前	0.1	1	名城大学 理工学部 教授 (平成16年4月)	

64	兼担	准教授	ﾑﾄｳ ﾏｻﾔ 武藤　昌也 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		理工学概論※	1前	0.1	1	名城大学 理工学部 准教授 (平成30年4月)	
65	兼担	教授	ﾀｶｲ ﾋﾛﾕｷ 高井　宏之 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		理工学概論※	1前	0.1	1	名城大学 理工学部 教授 (平成20年4月)	
66	兼担	教授	ｵｻﾞﾜ　ﾃﾂﾔ 小澤　哲也 〈令和4年4月〉		Doctorat de 3ème Cycle (仏国)		数学基礎演習Ⅰ	1前	1	1	名城大学 理工学部 教授 (平成7年4月)	
67	兼担	准教授	ﾋﾋﾞﾉ ﾏｻｷ 日比野　正樹 〈令和4年4月〉		博士 (数理学)		数学基礎演習Ⅱ	1後	1	1	名城大学 理工学部 准教授 (平成23年4月)	
68	兼担	助教	ｳﾁﾑﾗ ﾖｼﾉﾘ 内村 佳典 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		数学基礎演習Ⅰ 数学基礎演習Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 助教 (平成29年4月)	
69	兼担	助教	ｻﾄｳ ｺｳｷ 佐藤　光樹 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		数学基礎演習Ⅰ 数学基礎演習Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 助教 (令和3年4月)	
70	兼担	教授	ﾅｶﾔﾏ ｱｷﾋﾛ 中山　章宏 〈令和4年4月〉		理学 博士		物理学基礎演習Ⅰ 物理学基礎演習Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平成19年4月)	
71	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾋﾛﾉﾘ 中村　寛則 〈令和4年4月〉		博士 (学術)		プログラミング演習Ⅰ プログラミング演習Ⅱ	1前 1後	2 2	2 2	株式会社 バイオモデリングリサーチ 代表取締役 (平成24年4月)	
72	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾀｸﾏ 山口　拓真 〈令和5年4月〉		博士 (工学)		情報工学実験Ⅰ※	2前	3.2	2	名古屋大学 工学研究科 特任助教 (平成31年4月)	
73	兼任	講師	ﾌｼﾞｲ ﾄｼｱｷ 藤井　俊明 〈令和5年4月〉		博士 (工学)		情報工学実験Ⅰ※ 情報工学実験Ⅱ※	2前 2後	3.2 3.5	2 2	名城大学 非常勤講師 (平成9年4月)	
74	兼任	講師	ｼﾞﾝﾄﾞｳ ｹｲｿﾞｳ 神道　圭造 〈令和5年4月〉		修士 (工学)		情報工学実験Ⅱ※	2後	4	2	中菱エンジニアリング 株式会社 (平成23年4月)	
75	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾕｳｲﾁ 中村　友一 〈令和5年4月〉		修士 (政策・メディア)		モバイルアプリ開発A	2後	1	1	ヤフー株式会社CTO室 Developer Relations Hack U プロデューサー (平成31年4月)	
76	兼任	講師	ﾊｷﾞﾉ ﾀｲｼﾞ 萩野　泰士 〈令和5年4月〉		専門学校卒		モバイルアプリ開発B	2後	1	1	日本アイ・ビー・エム株式会社 カスタマーサクセスマネージャー (平成29年4月)	
77	兼任	講師	ｷﾀﾉ ｶﾂﾉﾘ 北野　克典 〈令和6年4月〉		社会科学士		情報技術の応用と職業※	3後	0.5	2	株式会社イーブレイン (平成16年1月)	
78	兼任	講師	ﾌﾙﾊｼ ﾋﾛｼ 古橋　洋 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		情報技術の応用と職業※	3後	0.5	2	浜名湖電装(株) (平成26年7月)	
79	兼任	講師	ｼｵﾀﾆ ﾅｵﾄ 塩谷　尚人 〈令和6年4月〉		学士 (工学)		情報技術の応用と職業※	3後	0.5	2	あいぎ特許事務所 (平成27年7月)	
80	兼任	講師	ｲｼﾊﾗ ﾖｼｲﾁ 石原　嘉市 〈令和6年4月〉		工学士		情報技術の応用と職業※	3後	0.3	2	村田機械株式会社 (平成元年4月)	
81	兼任	講師	ｲﾄｳ ﾏｻﾄ 伊藤　将人 〈令和6年4月〉		専門学校卒		情報技術の応用と職業※	3後	0.3	2	(株) エンベックスエデュケーション (平成29年2月)	
82	兼任	講師	ｻｻｷ ﾋﾛﾕｷ 佐々木　裕之 〈令和6年4月〉		修士 (経営学)		情報技術の応用と職業※	3後	0.3	2	株式会社ベリサーブ (平成6年4月)	
83	兼任	講師	ﾋﾗﾉ ﾄﾓﾋﾛ 平野　智裕 〈令和6年4月〉		学士 (工学)		情報技術の応用と職業※	3後	0.3	2	株式会社コネクティボ (平成20年4月)	
84	兼任	講師	ﾃﾗﾆｼ ﾉﾘﾔｽ 寺西　範恭 〈令和4年4月〉		文学 修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (令和2年4月)	
85	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ｼｹﾞﾐ 山本　茂美 〈令和4年4月〉		修士 (文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成21年4月)	
86	兼任	講師	ﾑﾄｳ ﾐﾖｺ 武藤　美代子 〈令和4年4月〉		文学 博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成20年4月)	
87	兼任	講師	ﾊｷﾞ ﾐｴ 萩　三恵 〈令和4年4月〉		修士 (文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成16年4月)	
88	兼任	講師	ｲﾜｽﾞﾐ ｻﾄﾐ 岩住　里美 〈令和4年4月〉		修士 (文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (令和元年9月)	
89	兼任	講師	ｸﾒ ｶｽﾞﾖ 久米　和代 〈令和5年4月〉		文学 修士		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成15年4月)	

90	兼任	講師	ﾏｲｹﾙ ﾏｰｼｬﾙ Michael Marshall 〈令和6年4月〉		文学 士		プラクティカル・イングリッシュⅠ プラクティカル・イングリッシュⅡ	3前 3後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成9年4月)	
91	兼任	講師	ｼﾞｮｰｼﾞ ｳﾞｧﾝ ﾎｰﾝ Geroge Van Horn 〈令和6年4月〉		政治学 修士		プラクティカル・イングリッシュⅠ プラクティカル・イングリッシュⅡ	3前 3後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (令和2年4月)	
92	兼任	講師	ﾑﾗﾓﾄ ﾏｲ 村元　麻衣 〈令和5年4月〉		修士 (人間文化)		ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ	2前 2後	1 1	1 1	名古屋大学 非常勤講師 (平成27年4月)	
93	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾉﾘｵ 山口　憲男 〈令和4年4月〉		文学 修士		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成5年4月)	
94	兼任	講師	ｶﾜﾜｷ ｻﾄﾐ 河脇　都美 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成19年9月)	
95	兼任	講師	ﾘｭｳｼﾞﾝ ｸﾆｵ 龍神　邦男 〈令和4年4月〉		修士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成9年4月)	
96	兼任	講師	ﾀｹﾀﾞ ﾐﾕｷ 武田　みゆき 〈令和4年4月〉		修士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成16年4月)	
97	兼任	講師	ｸﾏｶﾞｲ ｱｷｺ 熊谷　暁子 〈令和5年4月〉		文学 修士		中国語Ⅲ 中国語Ⅳ	2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成14年4月)	
98	兼任	講師	ﾃﾗｻﾜ ﾄﾓﾐ 寺澤　知美 〈令和5年4月〉		博士 (文学)		中国語Ⅲ 中国語Ⅳ	2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成26年4月)	
99	兼任	講師	ﾀｶﾔﾏ ｼﾝﾔ 高山　伸也 〈令和4年4月〉		修士 (体育学)		体育科学Ⅰ 体育科学Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成15年4月)	
100	兼任	講師	ｳﾁﾔﾏ ｱｷﾗ 内山　明 〈令和4年4月〉		修士 (体育学)		体育科学Ⅰ 体育科学Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成26年4月)	
101	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾔｽﾋﾛ 鈴木　康博 〈令和4年4月〉		修士 (体育学)		体育科学Ⅰ 体育科学Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	Life is motion 代表 (平成17年4月)	
102	兼任	講師	ｶﾄﾞﾏ ﾋﾛｼ 門間　博 〈令和5年4月〉		修士 (体育学)		体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ	2前 2後	1 1	1 1	愛知淑徳大学 健康スポーツ教育センター　准教授 (平成24年4月)	
103	兼任	講師	ｼｵﾐ ﾃﾂﾋﾛ 塩見　哲大 〈令和5年4月〉		修士 (体育学)		体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ	2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成17年4月)	
104	兼任	講師	ﾅｶﾞﾀ ｴﾘ 永田　恵理 〈令和5年4月〉		修士 (体育学)		体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ	2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成15年4月)	
105	兼任	講師	ｱｵﾔﾏ ｹﾝﾀ 青山　健太 〈令和5年4月〉		修士 (体育科学)		体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ	2前 2後	1 1	1 1	愛知学院大学 講師 (平成25年4月)	
106	兼任	講師	ﾎｼ ﾖｳｲﾁﾛｳ 星　揚一郎 〈令和4年4月〉		文学 修士		人文科学基礎Ⅰ 人文科学基礎Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成9年4月)	
107	兼任	講師	ｶﾜﾂ ｸﾆｷ 河津　邦喜 〈令和4年4月〉		文学 修士		人文科学基礎Ⅰ 人文科学基礎Ⅱ	1前 1後	4 4	2 2	愛知工業大学 非常勤講師 (平成12年4月)	
108	兼任	講師	ﾊﾔｻｶ ﾋﾛﾕｷ 早坂　泰行 〈令和4年4月〉		修士 (歴史学)		社会科学基礎Ⅰ 社会科学基礎Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名古屋学芸大学 非常勤講師 (平成23年4月)	
109	兼任	講師	ｻｲﾄｳ ｼｹﾞﾙ 齋藤　滋 〈令和5年4月〉		博士 (文学)		アジア文化論Ⅰ アジア文化論Ⅱ	2前 2後	2 2	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成16年4月)	
110	兼任	講師	ｽｶﾞﾇﾏ ｱﾔﾉ 菅沼　文乃 〈令和5年4月〉		博士 (人類学)		アジア文化論Ⅱ	2後	2	1	南山大学 非常勤研究員 (平成26年4月)	
111	兼任	講師	ｵﾉ ﾔｽｺ 小野　康子 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		欧米文化論Ⅰ 欧米文化論Ⅱ	2前 2後	2 2	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成25年9月)	
112	兼任	講師	ｶﾓ ﾐﾁｺ 賀茂　道子 〈令和6年4月〉		博士 (法学)		国際関係論	3後	2	1	名古屋大学 大学院環境学研究科 特任准教授 (平成31年2月)	
113	兼任	講師	ﾏﾂｳﾗ ﾕﾐｺ 松浦　由美子 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		文学	3後	2	1	名城大学 非常勤講師 (平成21年4月)	
114	兼任	講師	ﾋﾋﾞ ﾀｸﾔ 日比　拓也 〈令和6年4月〉		修士 (法学)		日本国憲法	3後	2	1	名城大学 非常勤講師 (平成19年4月)	
115	兼任	講師	ｶﾜﾅｶ ﾀﾂｼﾞ 川中　達治 〈令和6年4月〉		法学 修士		日本国憲法	3後	2	1	名城大学 非常勤講師 (平成11年4月)	
116	兼任	講師	ﾖｼﾓﾄ ﾅｵﾐ 吉本　直美 〈令和5年4月〉		博士 (人間科学)		心理学 技術者倫理	3前 2後	4 4	2 2	名城大学理工学部後援会 会計幹事 (平成6年4月)	
117	兼任	講師	ｵｶﾀﾞ ｼﾞｭﾝｽｹ 岡田　順介 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		心理学	3前	2	1	名城大学 非常勤講師 (平成20年9月)	
118	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾀｶｼ 山口　貴士 〈令和6年4月〉		修士 (工学)		職業指導論	3前	2	1	愛知県立半田工業高等学校 教諭 (平成17年4月)	
119	兼任	講師	ﾊｯﾄﾘ ｱﾂｼ 服部　淳 〈令和4年4月〉		修士 (工学)		日本語Ⅰ 日本語Ⅳ	1通 1通	2 2	1 1	名古屋大学 非常勤講師 (平成8年10月)	

120	兼任	講師	ｵｵﾊﾞ ｶｵﾘ 大羽　かおり 〈令和4年4月〉		修士 (学術)		日本語Ⅱ 日本語Ⅴ	1通 1通	2 2	1 1	名古屋大学 非常勤講師 (平成12年10月)	
121	兼任	講師	ﾑｶｲ ﾖｼｺ 向井　淑子 〈令和4年4月〉		学士 (文学)		日本語Ⅲ	1通	2	1	愛知学院大学 非常勤講師 (平成21年4月)	
122	兼任	講師	ｶﾀｵｶ ﾉﾘｻﾄ 片岡　紀智 〈令和4年4月〉		博士 (数理学)		線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 数学基礎演習Ⅰ 数学基礎演習Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1 1	愛知教育大学 非常勤講師 (平成18年10月)	
123	兼任	講師	ｵｶﾞﾜ ﾂｶﾈ 小川　束 〈令和4年4月〉		博士 (学術)		線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	四日市大学研究機構 関孝和数学研究所 副所長 (平成21年4月)	
124	兼任	講師	ｷﾀｶﾞﾜ ｲｯｾｲ 北河　一生 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 数学基礎演習Ⅰ 数学基礎演習Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1 1	四日市大学研究機構 関孝和数学研究所 研究員 (平成22年4月)	
125	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾁﾀｵ 鈴木　知多男 〈令和4年4月〉		修士 (理学)		物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成7年4月)	
126	兼任	講師	ｶﾀｵｶ ｹｲｽｹ 片岡　啓介 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 物理学実験Ⅰ 物理学実験Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1 1	名城大学 非常勤講師 (平成27年9月)	
127	兼任	講師	ｲｼﾀﾞ ｱｷﾗ 石田　明 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		物理学演習	1後	1	1	名城大学 非常勤講師 (平成25年4月)	
128	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾄﾓｺ 鈴木　智子 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		物理学演習	1後	1	1	名城大学 非常勤講師 (平成21年4月)	
129	兼任	講師	ｼﾞﾝﾉ ﾏｺﾄ 神野　誠 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		物理学実験Ⅰ 物理学実験Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成25年4月)	
130	兼任	講師	ﾅｶﾉ ﾀｸﾔ 中野　拓哉 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		物理学実験Ⅰ 物理学実験Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成30年4月)	
131	兼任	講師	ﾑﾗﾃ ﾋﾛﾀｶ 村手　宏隆 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ 化学基礎演習Ⅰ 化学基礎演習Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	2 2 1 1	名城大学 非常勤講師 (平成20年5月)	
132	兼任	講師	ﾂｶｺﾞｼ ﾐﾉﾙ 塚腰　実 〈令和5年4月〉		理学 修士		地学Ⅰ 地学Ⅱ 地学実験Ⅰ	2前 2後 3前	2 2 1	1 1 1	大阪市立大学 非常勤講師 (平成15年9月)	
133	兼任	講師	ｲﾁﾊﾗ ﾀｶｼ 市原　俊 〈令和6年4月〉		修士 (学術)		地学実験Ⅱ	3後	1	1	名古屋文理大学 短期大学部　助教 (平成26年4月)	
134	兼任	講師	ﾃﾗﾉ ﾋﾛﾐ 寺野　ひろ実 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		生物学 生物学実験	1後 2前	2 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成27年4月)	
135	兼任	講師	ﾌｸﾏ ｺｵｼ 福間　功史 〈令和4年4月〉		工学士		コンピューターリテラシー	1前	4	2	株式会社トラフィック・シム 代表取締役 (平成8年3月)	
136	兼任	講師	ｵｶ ｻﾄﾐ 岡　智美 〈令和4年4月〉		博士 (理学)		微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ 数学基礎演習Ⅰ 数学基礎演習Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1 1	名城大学 非常勤講師 (平成19年4月)	
137	兼任	講師	ｶﾆｴ ﾋﾛｺ 蟹江　弘子 〈令和4年4月〉		修士 (文学)		英語基礎演習Ⅰ 英語基礎演習Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平成15年4月)	

(注)

1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	2人	5人	2人	人	9人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	4人	3人	1人	人	人	8人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	1人	人	1人	人	人	人	2人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	1人	4人	6人	6人	2人	人	19人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第3号（その3）別添資料

定年規程で定める退職年齢を超える専任教員

（情報工学部情報工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	採用根拠等
1	専	教授	ナカノトモアキ 中野　倫明 〈令和4年4月〉		学校法人名城大学職員規則附則 大学協議会(R3.6.25開催)にて承認 常勤理事会(R3.6.29開催)にて承認